

T・ルーフ ヴェルウッド 施工マニュアル



目次

1. はじめに	4
1-1. 安全上の注意事項	4
1-2. 設置基準	8
1-3. 必要な機材、工具	9
2. 梱包部品一覧	12
2-1. 部材一覧	12
3. 取付けの前に	18
3-1. 工法概要図	18
3-2. 施工部位の名称	19
3-3. 施工フロー	21
3-4. 下葎き材の敷き込み	22
4. 切妻、片流れ屋根の場合	23
4-1. 高さ調整用棧木の取付	23
4-2. 軒先部の納まり	24
4-3. ケラバ部の納まり	
通しケラバ包み／片流れ用棟包みを使用する場合①	26
角型ケラバ／棟包みを使用する場合①	30
4-4. 屋根本体の取付	31
4-5. ケラバ部の納まり	
通しケラバ包み/片流れ用棟包みⅡを使用する場合②	37
角型ケラバ/棟包みを使用する場合②	40
4-6. 本棟部の納まり	
切妻屋根の場合	41
角型ケラバ/棟包みで納まる場合	43
4-7. 片流れ棟部の納まり(片流れ屋根の場合)	47
4-8. 化粧処理	50
5. 寄棟屋根の場合	51
5-1. 軒先部の納まり	51
5-2. 屋根本体の取付	54
5-3. 隅棟部の納まり	56
5-4. 本棟部の納まり	62
5-5. 化粧処理	64
6. 棟換気がある場合	65
6-1. 棟換気部の納まり	
<通し棟包み(通し棟用水切)仕様の場合>	65
6-2. 棟換気部の納まり	
<角型ケラバ／棟包み(棟用水切)仕様の場合>	69

目次

7. 壁取り合いがある場合	73
7-1. 壁桁部の納まり	73
7-2. 壁桁部とケラバ部の納まり	77
7-3. 壁流れ部の納まり	82
7-4. 壁流れ部と本棟部の納まり	89
7-5. 壁出隅部の納まり	95
7-6. 壁入隅部の納まり	99
8. その他の納まり	104
8-1. 谷部の納まり	104
8-2. 谷部とケラバ部の納まり	109
8-3. 肘棟部の納まり	113
8-4. ドーマー部の納まり	117
8-5. 棟欠け部の納まり	124
8-6. 棟違い部の納まり	131
8-7. 隅棟部とケラバ部と軒先部の合掌部の納まり	135
8-8. 軒欠け部の納まり	139
8-9. トップライトの納まり	147
8-10. 雪止め金具の納まり	149
9. 参考納まり図	151
9-1. 軒先部	151
9-2. ケラバ部	
通しケラバ包み／片流れ用棟包み仕様	153
角型ケラバ包み／棟包み仕様	155
9-3. 本棟部	
通し棟包み仕様	156
角型ケラバ／棟包み仕様	158
9-4. 棟換気部	
通し棟包み仕様	160
角型ケラバ／棟包み仕様	162
9-5. 片流れ棟部	
通しケラバ包み／片流れ用棟包み仕様	164
角型ケラバ／棟包み仕様	166
9-6. 隅棟部	
通し棟用水切仕様	167
棟用水切仕様	168
9-7. 壁桁部	169
9-8. 壁流れ部	171
9-9. 谷部	173
■ カバー工法 施工時の注意	174

お願い

この施工マニュアルは、屋根材T・ルーフ ヴェルウッドの基本的な施工方法について説明しています。
特殊な条件やリフォーム物件の場合は本マニュアルの施工方法はあくまでも目安として頂き、
現場状況に応じた雨仕舞いを最優先した施工を実施してください。

1. はじめに

この施工マニュアルはあくまで標準的な施工方法になります。地域や住宅仕様によって、弊社の役物製品を使用しない場合もございます。

1-1. 安全上の注意事項

■ 取付けされる方へのお願い

- ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ※ここに示した注意事項は、その危険の程度から「警告」「注意」および「お願い」の3つに分けて示しています。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲ 警告	取付けを誤った場合、使用者などが死亡または重傷を負う危険が想定されます。
▲ 注意	取付けを誤った場合、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。
お願い	特に注意を促す情報で、使用者などが思わぬケガをするおそれや、機器の損傷・故障などにつながる場合があります。

▲ 警告

- 2 m以上の高所作業を行う施工現場では、有資格者が作業床(足場)を設置し、転落や落下の危険性を十分に排除した上での施工をしてください。死亡または重傷のおそれがあります。
- 雨や雨が予想される場合や霧、雪で屋根面および足場が濡れている場合は施工しないでください。転落するおそれがあります。
- 工事着手前に作業員の健康状態を確認してください。貧血などで転落・落下するおそれがあります。
- 1階の屋根から2階にはしごをかけるのは、おやめください。転落・落下するおそれがあります。
- 親綱をはる場合は、所定の位置に強固に固定してください。転落・落下するおそれがあります。
- 作業場に近接して電線がある場合には、電力会社に依頼し感電防止の措置をしてください。電線に触れると感電し、死亡または重傷のおそれがあります。
- ルーフィングの上に屋根材本体などを置くときは、滑り落ちないように固定してください。物が屋根上から落下し、死亡または重傷のおそれがあります。

▲ 注意

- 水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りにつながるおそれがあります。
- ケラバ部や棟部の役物設置後は役物の上に乗らないでください。水切の機能を失い、雨漏りにつながるおそれがあります。



- 下地が湿潤している時や雨天時の敷込みはさけてください。屋根の下地が濡れたままルーフィングを敷込むと、野地板が傷み(カビの発生等)、そのままにしておくと腐ってしまいます。
- 屋根材を取扱いの際には必ず手袋を着用してください。切創等のケガにつながるおそれがあります。
- 強風時に万が一、施工する場合は屋根材及び工具等を落下させないように十分に注意してください。屋根下の人や付近の建物などに当たり、大けがや大きな損傷につながるおそれがあります。
- 工具や材料などは、ロープで固定するか袋などで落下防止措置をしてください。屋根から落下し、ケガまたは器物損傷のおそれがあります。
- ルーフィング面は傷つけないよう注意してください。雨漏りの原因となります。
- 使用する栈木は樹脂製又は防腐処理を施した栈木且つ水抜き加工されている物(軒先部のみ)をご使用ください。遵守しないと栈木が腐食して屋根材の強度を失うおそれがあります。
- 本施工マニュアルでは、LIXIL製の樹脂栈木を使用する事を想定した記述をしております。栈木を現地手配する際は、材料サイズの範囲内で最も大きくなる材料をご使用ください。経年劣化による屋根材の強度不足につながるおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違ってしまうと屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 補修材を塗布した後、完全に乾くまでは手足で触れないようにしてください。屋根材やその他の部位を汚してしまうおそれがあります。
- 棟換気部材を設置の際は、棟換気部材と平行する箇所の屋根本体水上端部を立ち上げてください。屋根本体を立ち上げないと、雨水が伝わって雨漏りにつながるおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

1. はじめに

1-1. 安全上の事項 つづき

▲ 注意

- 通しケラバ包みを縦使いする場合は、ケラバ包み下端で波打ちが出ることもあるので、取付前に取付面の状態を確認してください。
- カバー工法の場合、既存板金の下地に取付ビスが効き、ケラバ包みを引き寄せ、波打ちが出るおそれがあります。

お願い

- いかなる場合でも、安全を最優先し、労働安全衛生規則にしたがって施工してください。
- 屋根材の切断工具は金切ハサミ、押切、専用電動カッターを使用してください。屋根本体の切断に関しては押切と専用電動カッターを推奨しております。

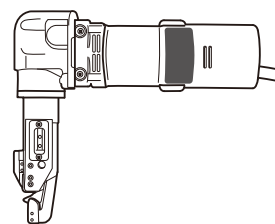
金切ハサミ



押切

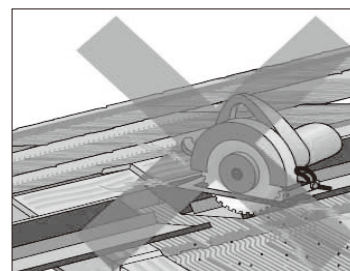


専用電動カッター



※上記の工具は現地手配品です。

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



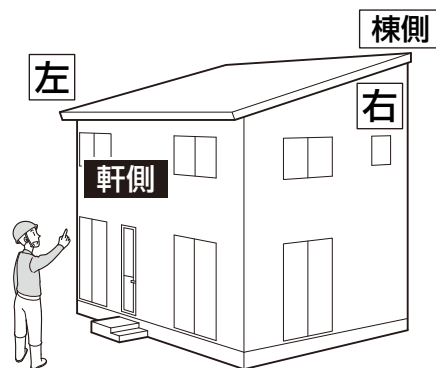
- 屋根材の保管に際しては雨水等があたらないように養生してください。表面のストーンチップが剥がれ、修復が困難になるおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態ですら強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。



お願い

- 補修キットのベースコートの使用環境温度は5℃以上でご使用ください。ベースコートの成分が分離してしまうことがあります。
- 桟木を固定するビスの先端が破風下地や化粧破風板の取付に支障がないか確認してください。桟木を固定したビス先端が後施工の破風板と干渉して設置できなくなるおそれがあります
- 壁用雨押えの取付け位置は、屋根材と壁面の通りを確認してから取付けてください。通りを確認しないで施工すると外壁、壁用雨押え、屋根本体のそれぞれのすき間が揃わず、意匠性が低下するおそれがあります。

屋根本体の葺き方向は下記の図のような方向を基準として右、左を定義しております。



1. はじめに

1-2. 設置基準

■設計・施工基準

対象物件	一般住宅、店舗、公共施設
野地板(材質・厚み)	構造用合板：12mm以上、OSB合板(JAS3級)：11mm以上 ※1※2
下葺き材	JIS A 6005適合品のアスファルトルーフィング940同等性能以上 ※3
基準風速	40m/s以下 ※4
特定行政庁の定める垂直積雪量	200cm以下(雪の単位質量 30N/m ² ・cm)※5
設置高さ	13m以下
地表面粗度区分	ⅢまたはⅣ
施工可能勾配	2.5寸以上(垂直積雪量100cm以上は4寸以上)※5※6
使用する栈木	防腐処理を施した栈木又は樹脂製栈木
不燃認定番号	NM-4739

※1 構造用合板とOSB合板で取付ビスの間隔が異なりますので詳細は施工マニュアルを参照してください。

※2 鉄骨構造やRC構造の場合は屋根下地が木造物件と異なる為、耐風性を考慮して対応願います。

※3 既存屋根にカバー工法で納める場合は片面粘着ルーフィングを推奨します。

※4 基準風速はあくまでも目安です。状況によってビス固定点数を増やすなどを施し耐風性を考慮して対応願います。

※5 積雪環境に応じたスガ漏り対策を推奨しております。

※6 太陽光発電システムを屋根上に設置する場合は各太陽光メーカーの屋根勾配条件に準じてください。

■屋根勾配と最大流れ長さの基準

屋根勾配(寸)	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5~
流れ長(m)	11	13	16	19	21	23	26	28	30

■物件仕様による部材の使い分け条件

【取付ビスの長さ】

●新築時及び葺き替えの物件

屋根下地に対してのビス：取付ビス25mm

その他：施工手順の記載通り

●カバー工法の物件

屋根下地側へのビス：取付ビス38mm

既存屋根材が固く取付ビス38mmではねじが効かない場合：取付ビス55mm

※スレートの種類や打ち込み箇所によっては小石等が混ざっており他社のスレート改修用ビスと同様にビスを打ち込めない場合があります。その場合には一旦ねじ打ちを止めて、新しいビスで再度打ち直して頂くか、φ3.5のコンクリートドリルで下穴をあけてから打ち直してください。

その他：施工手順の記載通り

【軒先用水切の仕様】

●屋根勾配が4寸未満で新築及び葺き替えの物件

軒先用水切90を使用

●屋根勾配が4寸超えて新築及び葺き替えの物件

軒先用水切120を使用

●カバー工法の物件

屋根勾配に関わらず、軒先用水切120を使用

※状況に応じてケラバ用水切を軒先部に使用する場合があります。

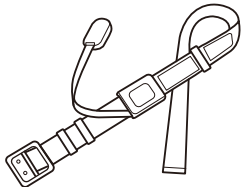

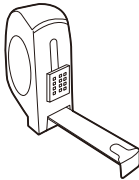
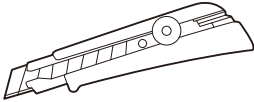
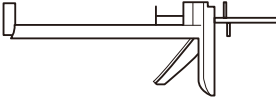
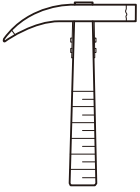

その際は、高さ調整栈木は不要です。

■棟換気部材について

下記を目安に算出してください。1対2本で不足する場合は大棟部に2箇所を追加又は開口を長くして納めてください。
参考例)

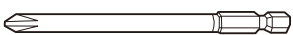
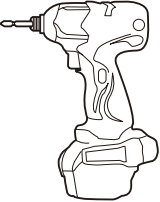
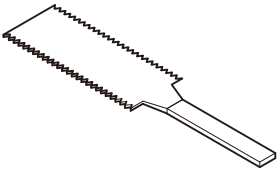
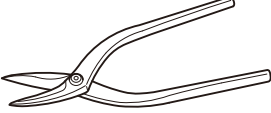
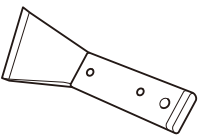
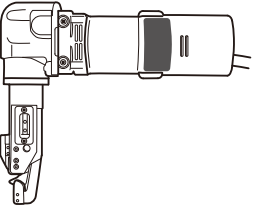
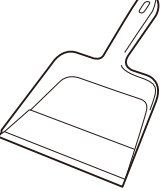
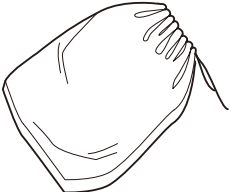
本製品1対2本当たりで天井面積80㎡までカバーできます。※1開口部に両側で2本(長さ1.82m/本)使用します。

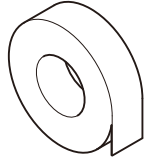
1-3. 必要な機材、工具

安全保護具	名称	軍手	ヘルメット	墜落制止用器具
	姿図			
	名称	たび靴		
	姿図			
屋根設置	名称	赤鉛筆	スケール	差し金
	姿図			
	名称	カッター	シリコンガン	ハンマー
	姿図			
	名称	荷揚げ機	墨壺	タッカー
	姿図			

1. はじめに

1-3. 必要な機材、工具 つづき

屋根設置	名称	プラスビット	ビス用ソケット	インパクトドライバー
	姿図		6.35  ※取付ビスの留付け時に必ず使用する部材です。 ※LIXIL製	
	名称	のこぎり	金切ハサミ	つかみ
	姿図			
	名称	ヘラ	押切	電動カッター
姿図			 ※LIXIL推奨品	
清掃用具	名称	ほうき	ちりとり	集塵機
	姿図			
	名称	ガラ袋		
姿図				

現地調達資材	名称	ルーフィング	木ビス38mm	木ビス75mm
	姿図	 ※JIS A 6005に適合するアスファルトルーフィング940又は改質アスファルトルーフィングを使用してください。	 ステンレス製推奨	 ステンレス製推奨
	名称	釘	変成シリコン(シーリング)	栈木
	姿図			 【推奨寸法】 厚み：17mm～20mm 幅：30mm～90mm ※軒先部に使用する栈木は水抜き溝がある物を手配してください。
	名称	防水テープ		
	姿図			

2. 梱包部品一覧

2-1. 部材一覧

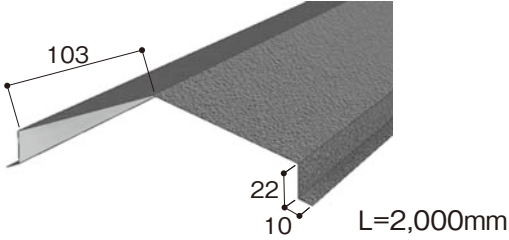
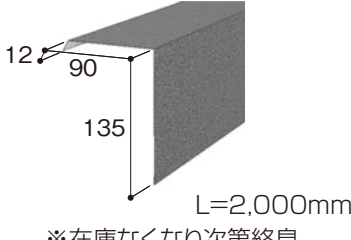
名称	ヴェルウッド屋根本体
使用する部位	屋根平部
姿図	
商品コード	RT□○701
材質	ガルバリウム鋼板
重量/枚(kg)	2.9kg
入数	1

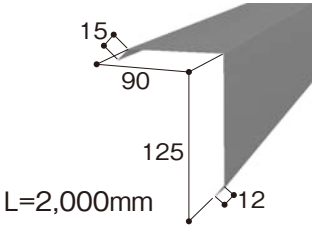
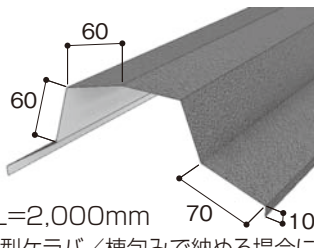
名称	軒先用水切90	軒先用水切120
使用する部位	軒先部	軒先部
姿図		
商品コード	RT□○101	RT□○111
材質	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板
重量/本(kg)	1.2kg	1.2kg
入数	1	1

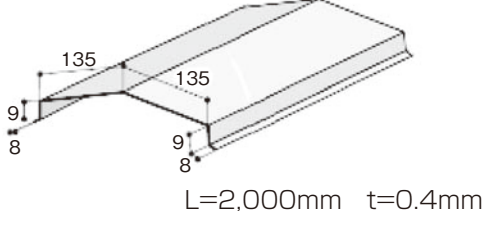
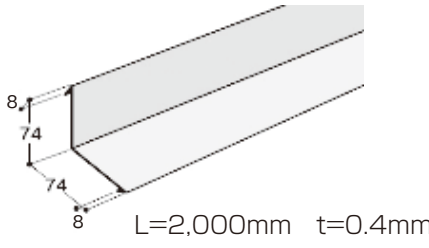
名称	角型ケラバ/棟包み	角型エンドキャップ
使用する部位	ケラバ部、大棟部、隅棟部	ケラバ部、大棟部、隅棟部
姿図		
商品コード	RTGO102	RTGO103
材質	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板
重量/本(kg)	0.5kg	0.075kg
入数	1	1

※□○△◇=色コード
(コード表参照)

色コード	チャコール	ブラウン	色コード	チャコール	ブラウン
□	V	V	△	A	E
○	A	E	◇	A	D

名称	通し棟包み	通しケラバ包み／片流れ用棟包み
使用する部位	大棟部、隅棟部	ケラバ部、片流れ棟部
姿図		
商品コード	RT□○112	RTGO104
材質	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板
重量/本(kg)	2.4kg	1.5kg
入数	1	1

名称	通しケラバ包み/片流れ用棟包みⅡ	角型ケラバ/棟包み用棟換気カバー
使用する部位	ケラバ部、片流れ棟部	角型ケラバ/棟包みを使用する棟換気部
姿図		
商品コード	RTG□105	RTGO106
材質	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板
重量/本(kg)	1.5kg	3.8kg
入数	1	1

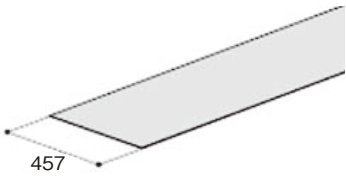
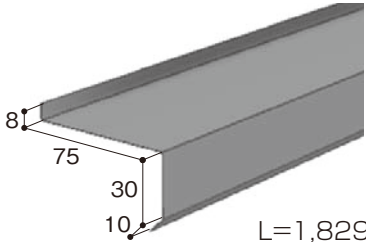
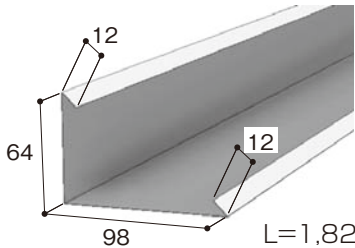
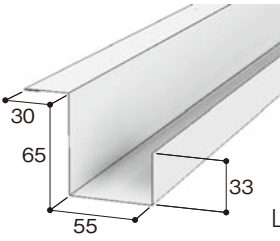
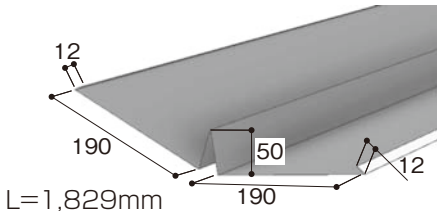
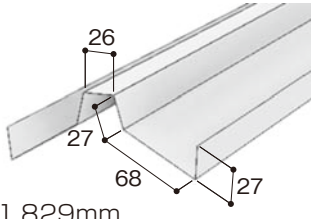
名称	棟換気カバー	壁用雨押え
使用する部位	通し棟包みを使用する棟換気部	壁流れ部、壁桁部
姿図		
商品コード	RT□○106	RT□○108
材質	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板
重量/本(kg)	2.7kg	1.5kg
入数	1	1

※□○△◇=色コード
(コード表参照)

色コード	チャコール	ブラウン	色コード	チャコール	ブラウン
□	V	V	△	A	E
○	A	E	◇	A	D

2. 梱包部品一覧

2-1. 部材一覧 つづき

名称	平板	ケラバ用水切
使用する部位	ドーマー部の壁面、その他	通しケラバ包みを使用するケラバ部、片流れ棟部
姿図	 L=2,000mm t=0.4mm	 L=1,829mm
商品コード	RT□○107	RTGZ206
材質	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板
重量/本(kg)	4.0kg	0.7kg
入数	1	1
名称	ケラバスペーサー用水切	ケラバスペーサー
使用する部位	角型ケラバ/棟包みを使用するケラバ部	角型ケラバ/棟包みを使用するケラバ部
姿図	 L=1,829mm	 L=1,829mm
商品コード	RTGZ203	RTGZ204
材質	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板
重量/本(kg)	1.1kg	0.7kg
入数	1	1
名称	谷用水切	棟用水切
使用する部位	谷部	角型ケラバ/棟包みを使用する大棟部、隅棟部
姿図	 L=1,829mm	 L=1,829mm
商品コード	RTGZ202	RTGZ205
材質	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板
重量/本(kg)	2.8kg	1.5kg
入数	1	1

※□○△◇=色コード
(コード表参照)

色コード	チャコール	ブラウン	色コード	チャコール	ブラウン
□	V	V	△	A	E
○	A	E	◇	A	D

名称	通し棟用水切	通し吊り子
使用する部位	通し棟包みを使用する大棟部、隅棟部	谷部
姿図		
商品コード	RTGZ215	RTGZ216
材質	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板
重量/本(kg)	1.5kg	0.4kg
入数	1	1

名称	壁用水切	壁止まりR
使用する部位	壁部	壁止まり部
姿図		
商品コード	RTGZ208	RTGZ217
材質	-	ガルバリウム鋼板
重量/本(kg)	1.3kg	0.4kg
入数	1	1

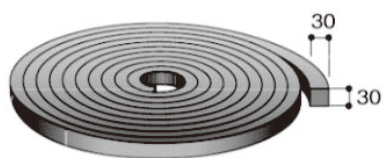
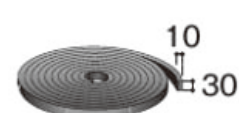
名称	壁止まりL	棟換気
使用する部位	壁止まり部	棟換気部
姿図		
商品コード	RTGZ218	RTGZ210
材質	ガルバリウム鋼板	樹脂
重量/本(kg)	0.4kg	0.3kg
入数	1	1

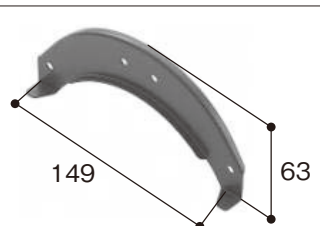

※□○△◇=色コード
(コード表参照)



色コード	チャコール	ブラウン	色コード	チャコール	ブラウン
□	V	V	△	A	E
○	A	E	◇	A	D

2. 梱包部品一覧

2-1. 部材一覧 つづき

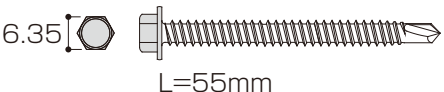
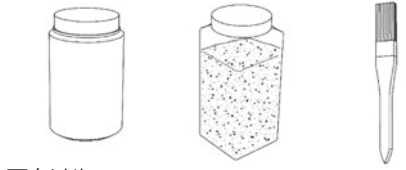
名称	シールテープ	シールテープ10
使用する部位	隅棟部	片流れ棟部、大棟部、棟換気部、壁桁部、すがる部
姿図	 <p>T×W=30×30mm L=2,000mm</p>	 <p>T×W=10×30mm L=2,000mm</p>
商品コード	RTTZ301	RTTZ311
材質	EPDM	EPDM
重量/本(kg)	0.2kg	0.1kg
入数	1	1

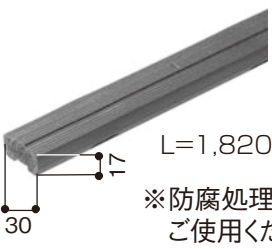
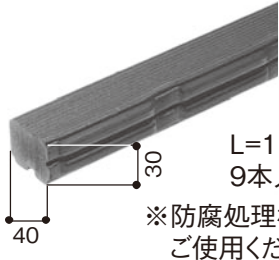
名称	雪止め金具	ビス用ソケット
使用する部位	屋根本体に取付	取付ビスを固定する際に使用
姿図	 <p>(ブラック・ブラウン)</p>	
商品コード	RTT◇311	RTGZ401
材質	ステンレス	鉄
重量/本(kg)	0.1kg	0.1kg
入数	1	1

名称	取付ビス25mm	取付ビス38mm
使用する部位	屋根本体と役物の固定に使用	屋根本体と役物の固定に使用
姿図	<p>亜鉛メッキ+塗装(ビス頭)</p>  <p>L=25mm</p>	<p>亜鉛メッキ+塗装(ビス頭)</p>  <p>L=38mm</p>
商品コード	RTG△303(チャコール・ブラウン)	RTG△304(チャコール・ブラウン)
材質	鉄	鉄
重量/本(kg)	2.0kg	2.2kg
入数	500	500

※□○△◇=色コード
(コード表参照)

色コード	チャコール	ブラウン	色コード	チャコール	ブラウン
□	V	V	△	A	E
○	A	E	◇	A	D

名称	ドリリング取付ビス55mm (チャコール)	補修キット
使用する部位	屋根本体や役物の固定に使用	屋根本体と役物の化粧処理で使用
姿図	<p>亜鉛メッキ+塗装 (ビス頭)</p>  <p>6.35 L=55mm</p> <p>※本ビスはカバー工法で硬い屋根材に施工する時にご使用ください。</p>	 <p>アクリル樹脂チューブ ストーンチップ 刷毛</p>
商品コード	RTGA305	RT□○302
材質	鉄	アクリル樹脂、石
重量/本(kg)	3.0kg	1.1kg
入数	500	各1

名称	樹脂製瓦棧木	樹脂製鼻棧木
使用する部位	屋根本体と役物の固定に使用	役物固定に使用
姿図	 <p>L=1,820mm 30</p> <p>※防腐処理棧木の代わりにご使用ください。</p>	 <p>L=1,820mm 40 9本入</p> <p>※防腐処理棧木の代わりにご使用ください。</p>
商品コード	RTTZ602	RTTZ601
材質	樹脂	樹脂
重量/本(kg)	0.5kg	1.1kg
入数	20	9

※□○△◇=色コード
(コード表参照)

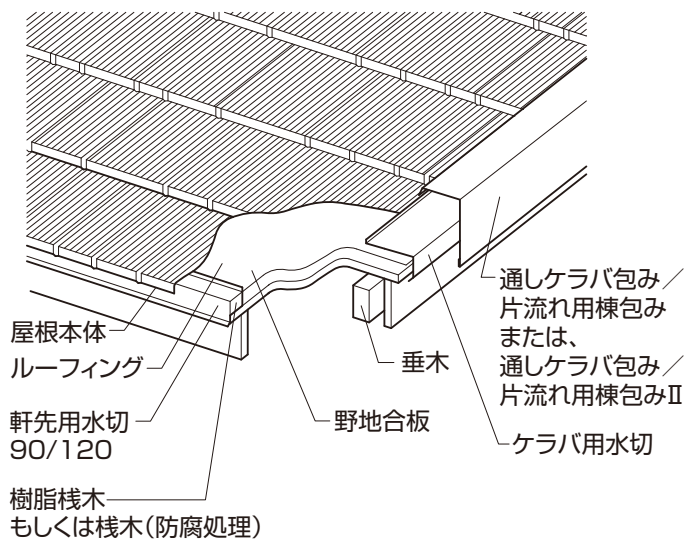
色コード	チャコール	ブラウン	色コード	チャコール	ブラウン
□	V	V	△	A	E
○	A	E	◇	A	D

3. 取付けの前に

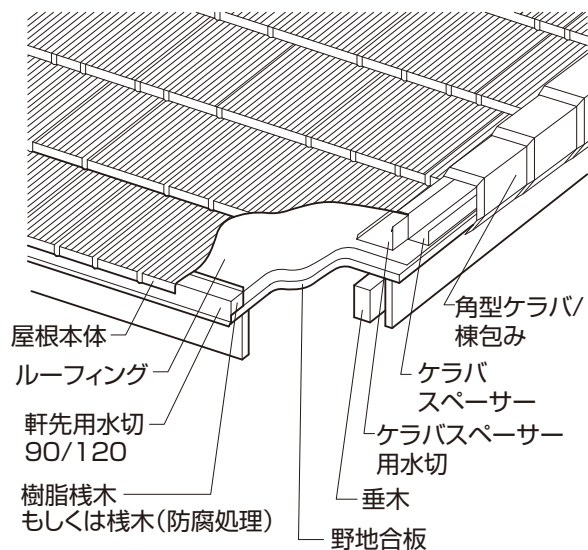
3-1. 工法概要図

■ 新設および葺き替えの場合

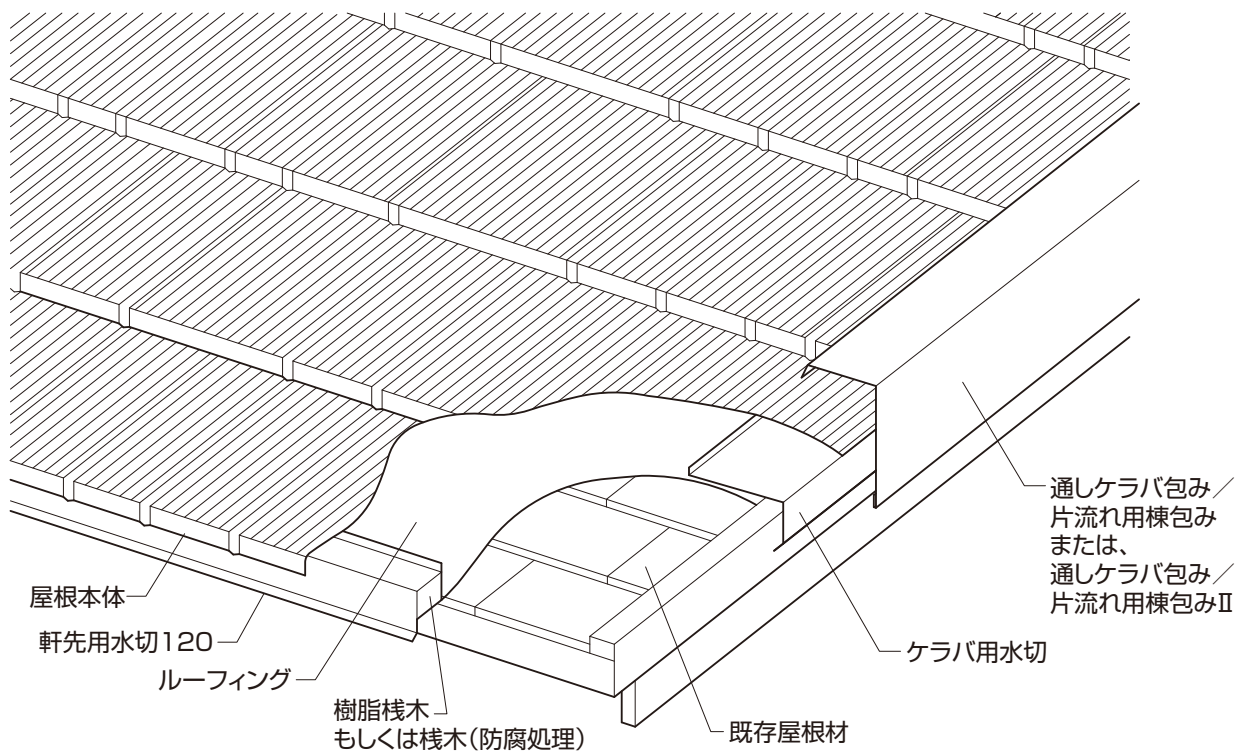
通し仕様



角型仕様

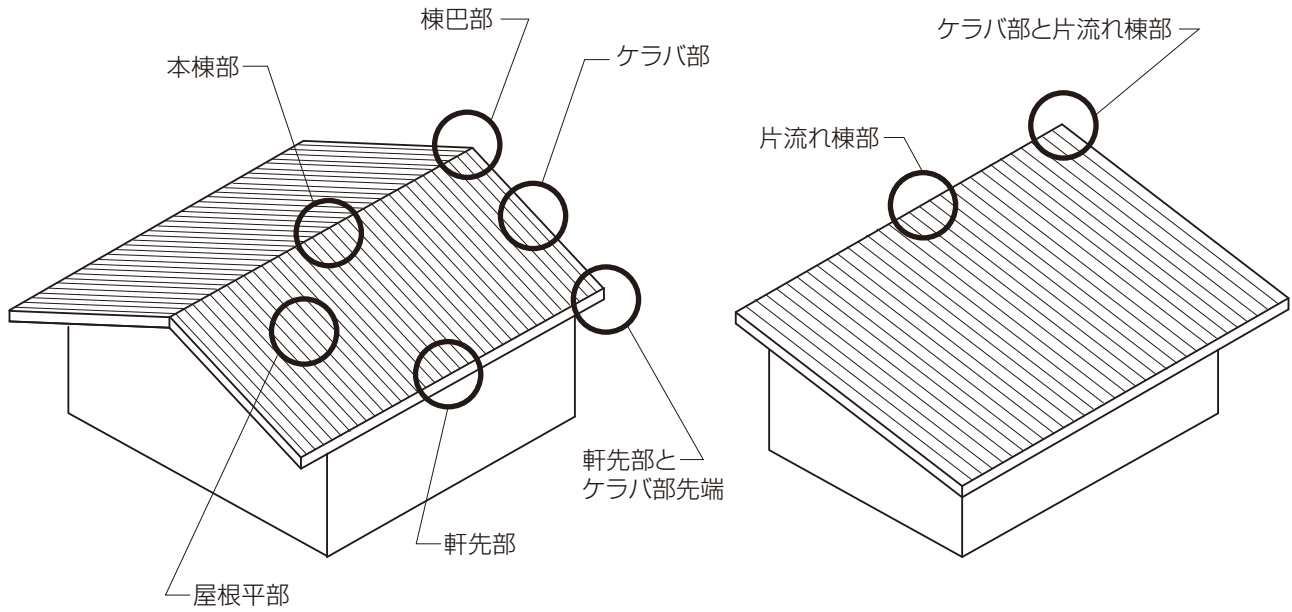


■ カバー工法の場合

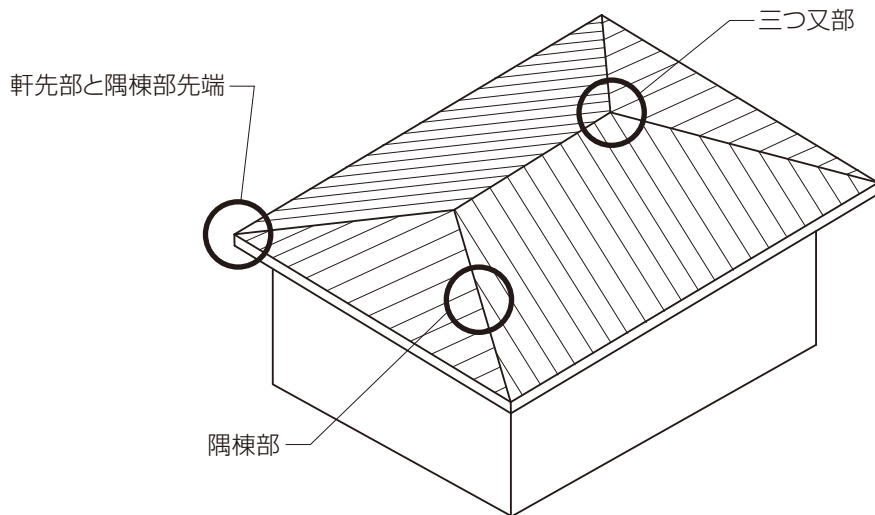


3-2. 施工部位の名称

■ 切妻屋根、片流れ屋根の場合



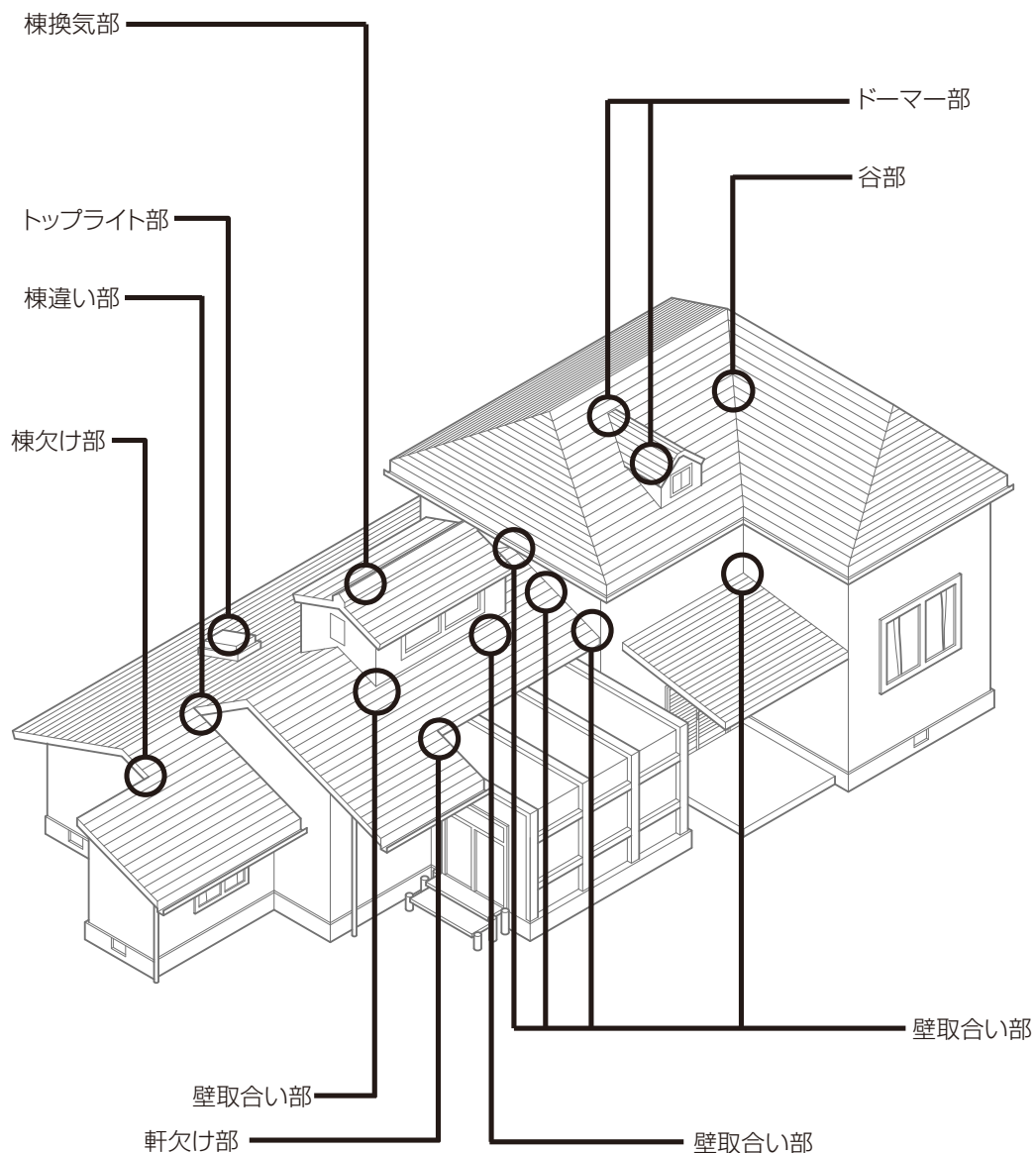
■ 寄棟屋根の場合



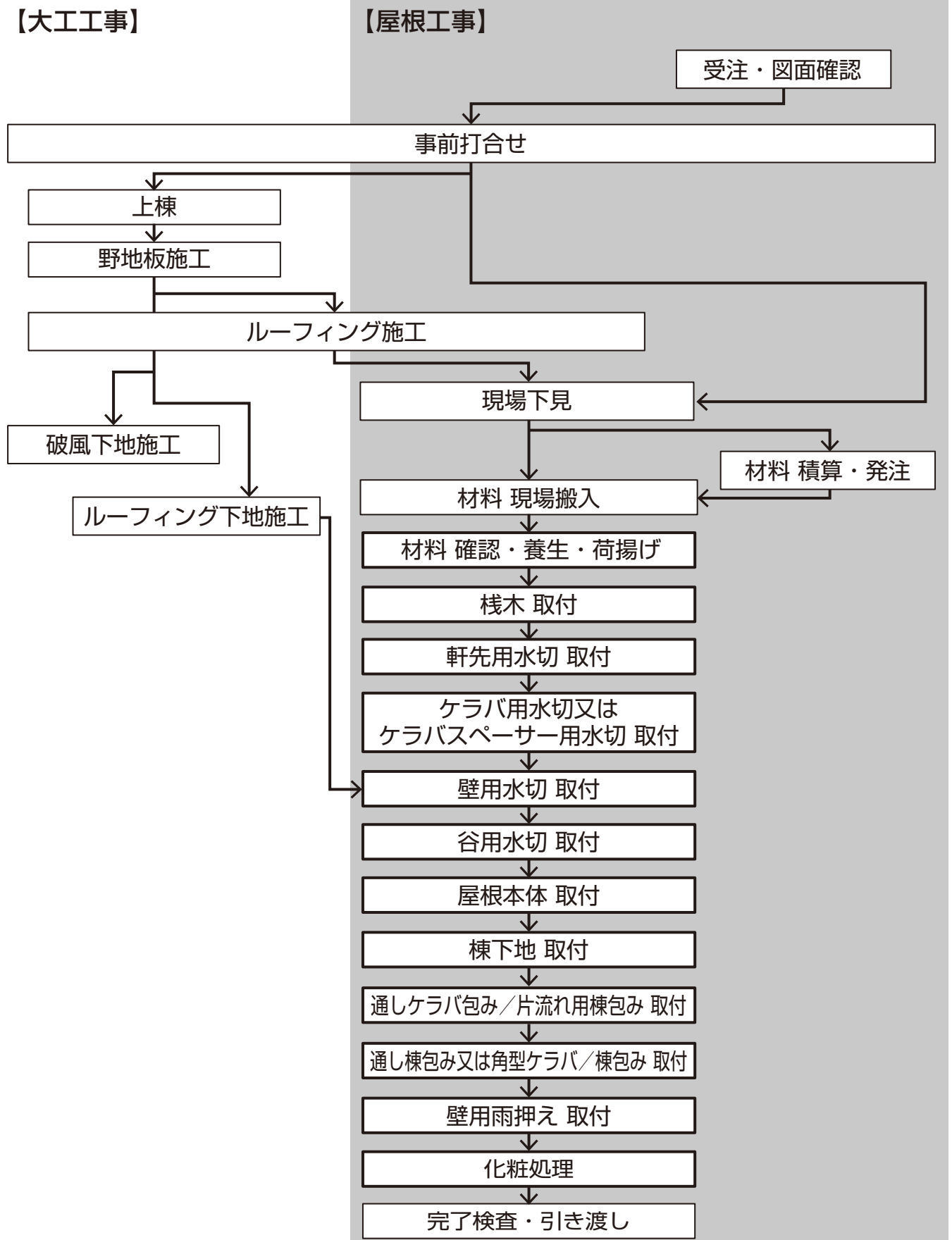
3. 取付けの前に

3-2. 施工部位の名称 つづき

■ その他の部位



3-3. 施工フロー

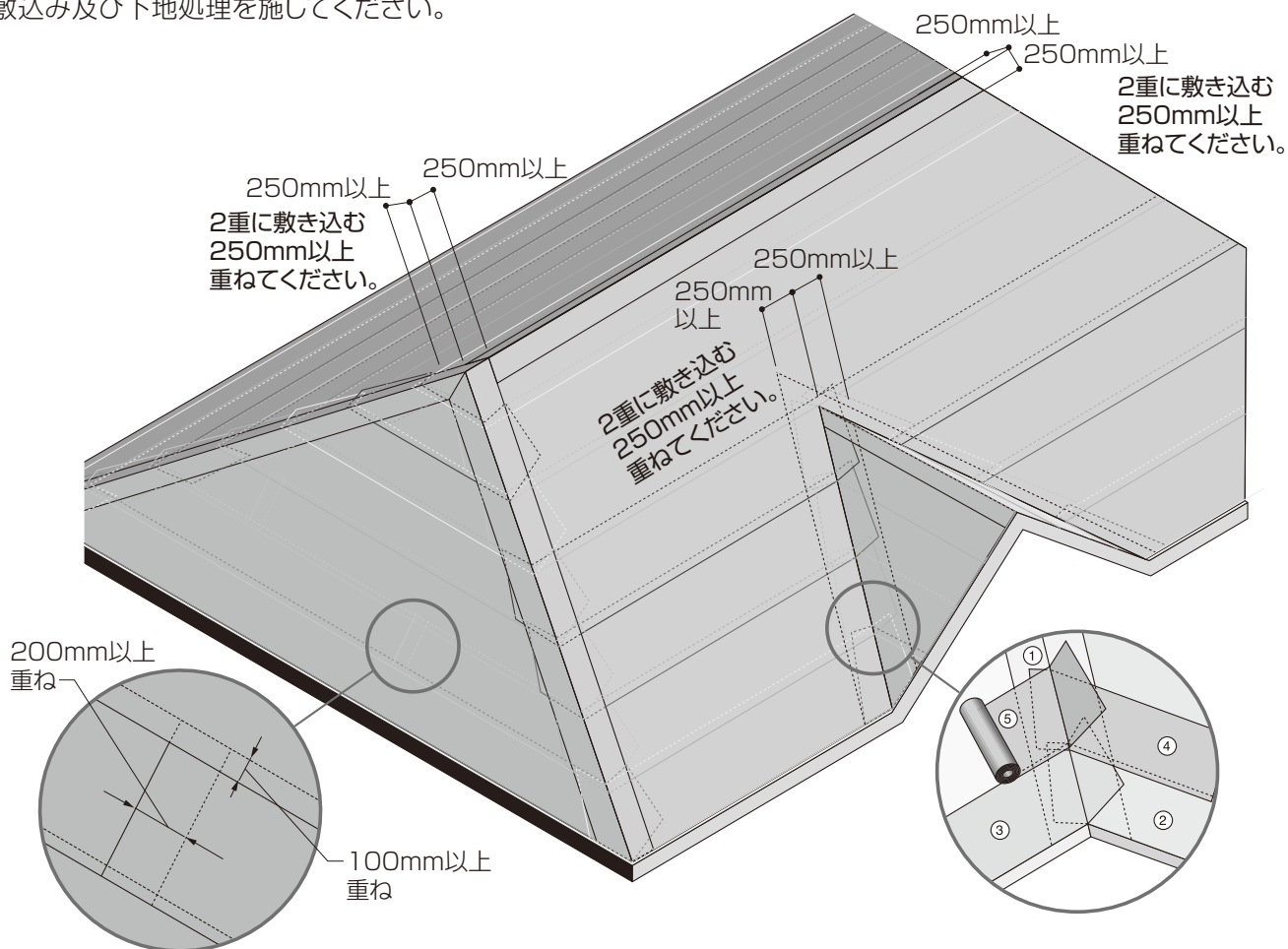


3. 取付けの前に

3-4. 下葺き材の敷き込み

●下葺材は、JIS A 6005に適合するアスファルトルーフィング940又は改質アスファルトルーフィングをご使用ください。

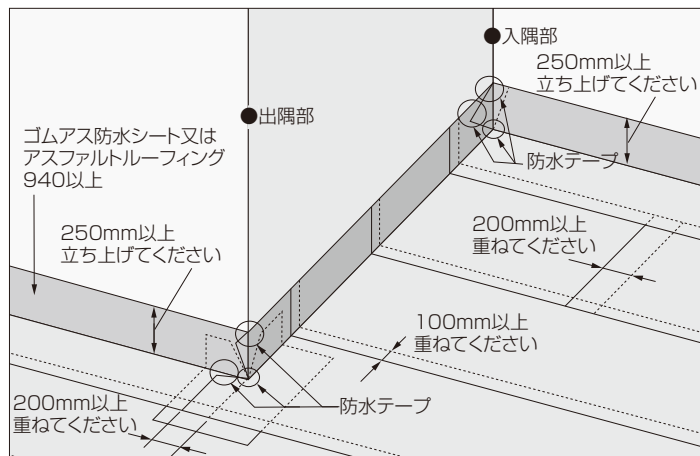
※敷込み方法の詳細は住宅金融公庫仕様書、各住宅メーカーの仕様書に従い、敷込み及び下地処理を施してください。



■ 重ね要領(寸法)

- 流れ方向 — 100mm以上
- 桁行方向 — 200mm以上
- 棟部 — 2重に敷き込む
- 下り棟部 — 多重に敷き込む
- 谷部 — 多重に敷き込む

■ 出隅部・入隅部



▲ 注意

下地が湿潤している時や雨天時の敷込みはさけてください。屋根の下地が濡れたままルーフィングを敷込むと、野地板が痛み（カビの発生等）、そのままにしておくと腐ってしまいます。

■ リフォームの場合の下葺材の敷込み

使用するルーフィングは片面粘着ルーフィング又は改質アスファルトルーフィングをご使用ください。リフォームの場合、現場の状況に応じた敷き込みを実施して雨仕舞いを最優先してください。

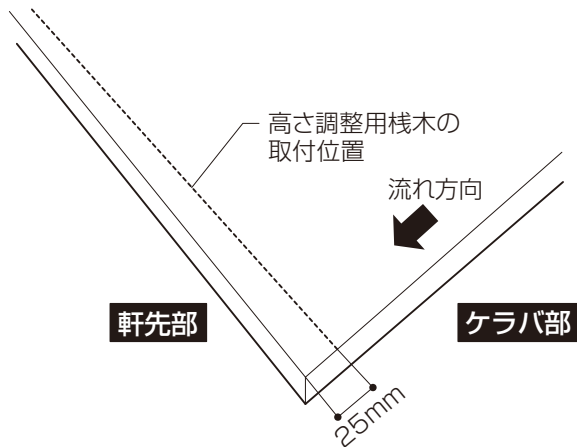
※出隅、入隅部はピンホールが生じやすい為、下葺き材や防水テープで念入りに防水補強を施してください。

4. 切妻、片流れ屋根の場合

4-1. 高さ調整用栈木の取付

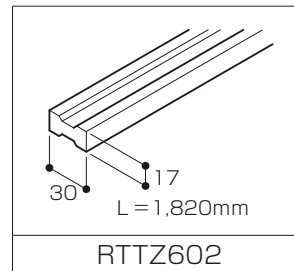
1. 高さ調整用栈木の取付位置の墨出し

①軒先部先端から棟側25mmの位置に墨出しをしてください。

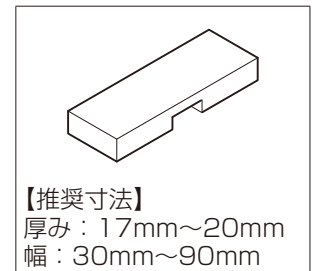


高さ調整用栈木については下記のいずれかの仕様の物をご使用ください。

●LIXIL支給品の場合



●現地手配の場合

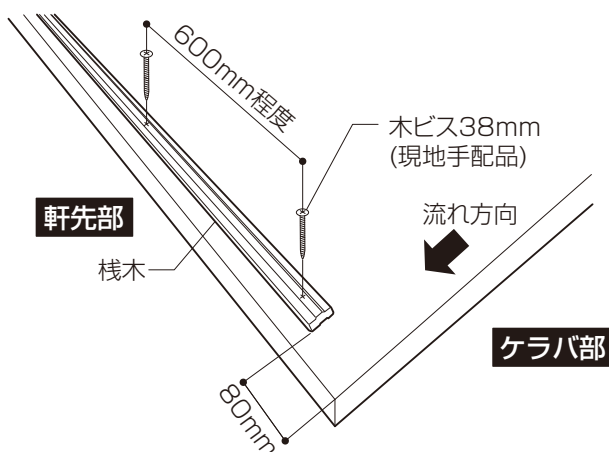


※水抜き溝がある物を手配してください。

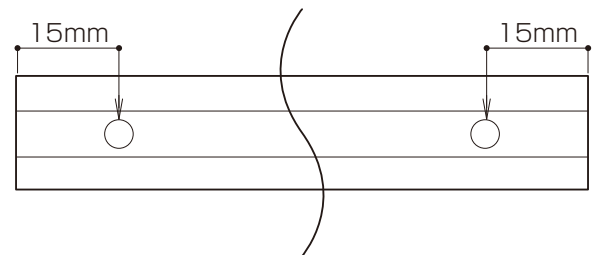
▲ 注意

- 使用する栈木は樹脂製又は防腐処理を施した栈木且つ水抜き加工されている物(軒先部のみ)をご使用ください。遵守しないと栈木が腐食して屋根材の強度を失うおそれがあります。

②高さ調整用栈木の水下部を取付位置とケラバ端部から80mm離れた位置に合わせて木ビス38mm(現地手配品)で600mm程度の間隔で取付けてください。



高さ調整用栈木の両端部は15mm離れた位置で固定



お願い

- 栈木を固定するビスの先端が破風下地や化粧破風板の取付に支障がないか確認してください。栈木を固定したビス先端が後施工の破風板と干渉して設置できなくなるおそれがあります。

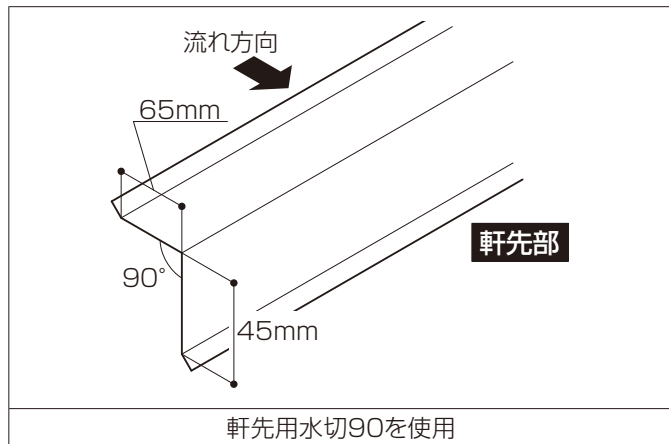
4. 切妻、片流れ屋根の場合

4-2. 軒先部の納まり

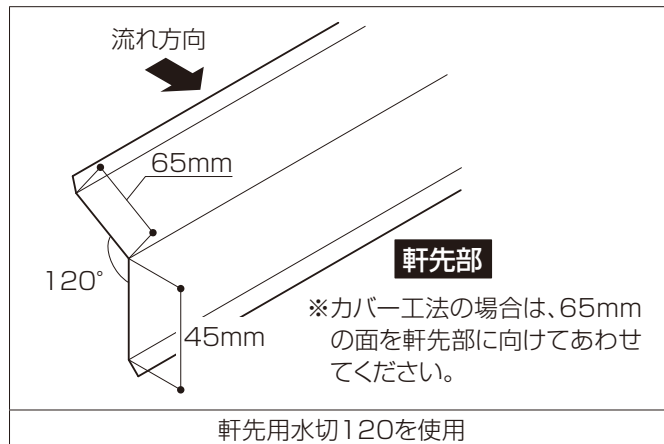
1. 軒先部材の仕様

屋根勾配によって使用する部材が変わります。

●屋根勾配が2.5寸～3.5寸の場合

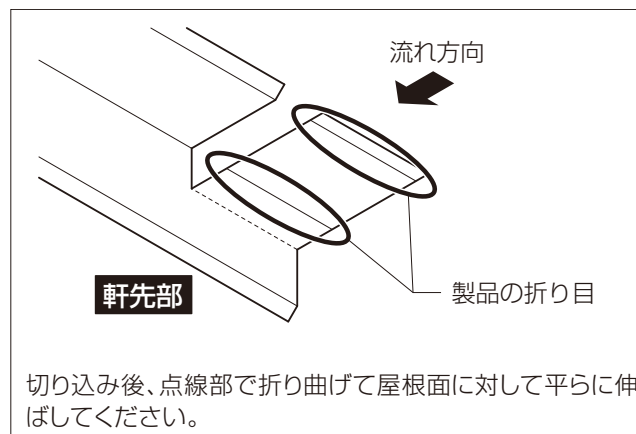
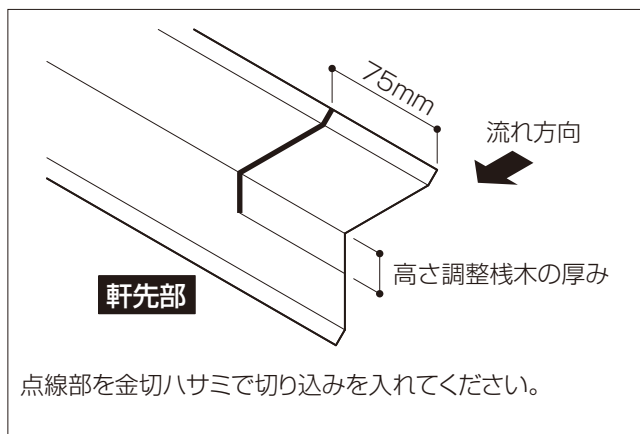


●屋根勾配が4寸～10寸の場合



2. 軒先用水切90/120の加工

①高さ調整用栈木の段差に合わせて下図のように軒先用水切90/120を加工してください。

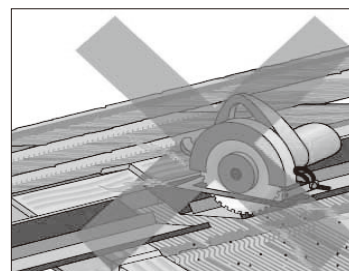


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

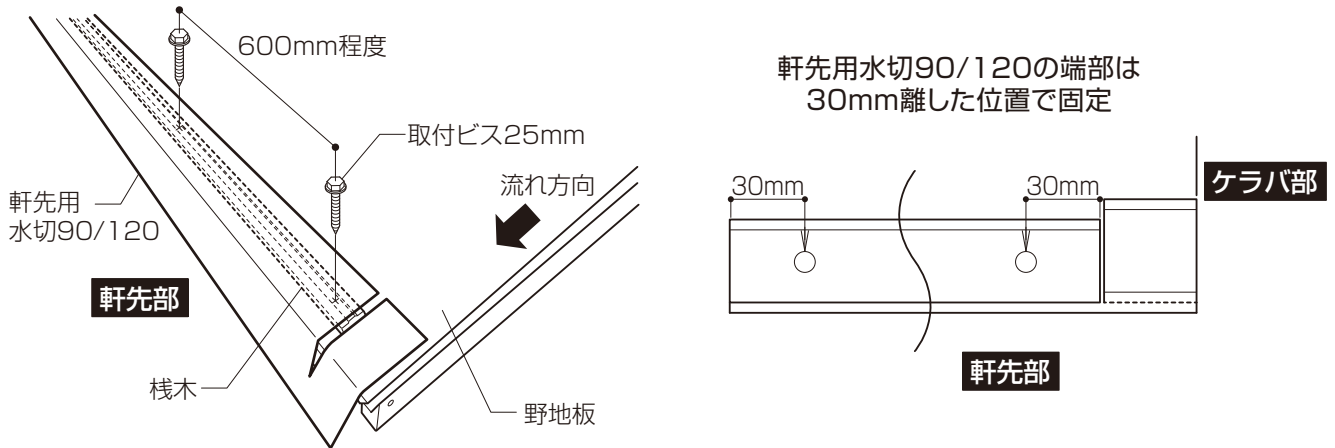
お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



3. 軒先用水切90/120の取付

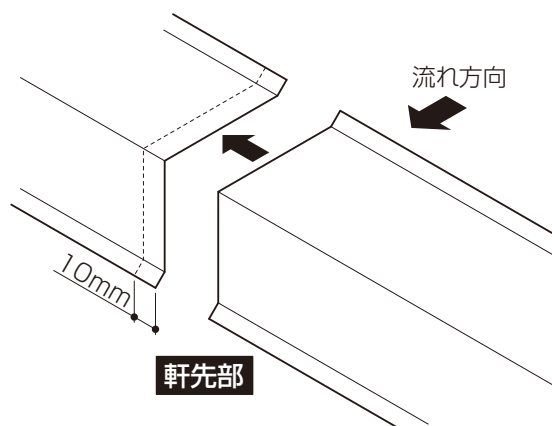
①高さ調整用栈木に対して取付ビス25mmで600mm程度の間隔で取付けてください。



▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

②軒先用水切90/120のジョイント部は10mm重ねてください。

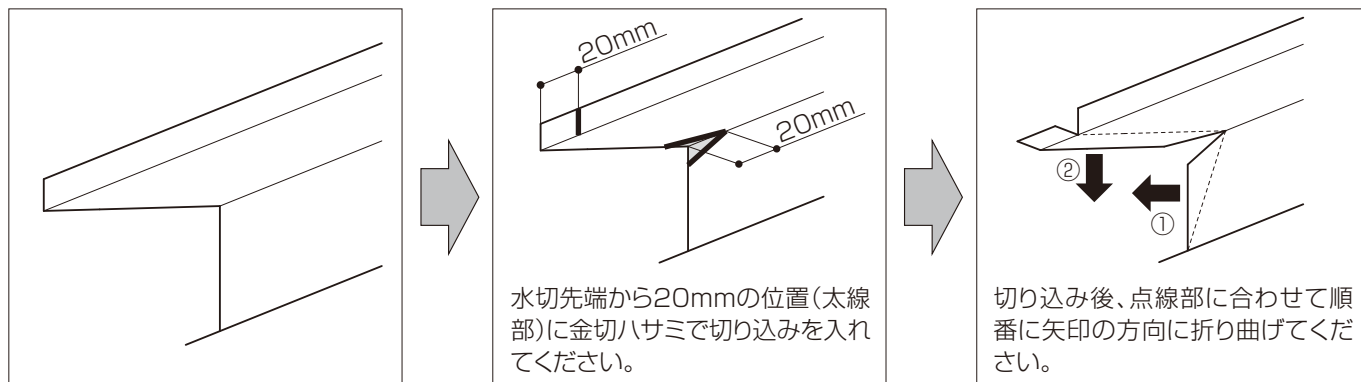


4. 切妻、片流れ屋根の場合

4-3. ケラバ部の納まり(通しケラバ包み／片流れ用棟包みを使用する場合)①

1. ケラバ用水切軒先端部先端の加工

①下図のようにケラバ用水切の先端を加工してください。

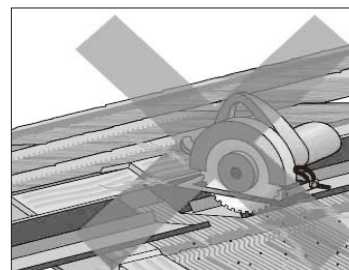


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

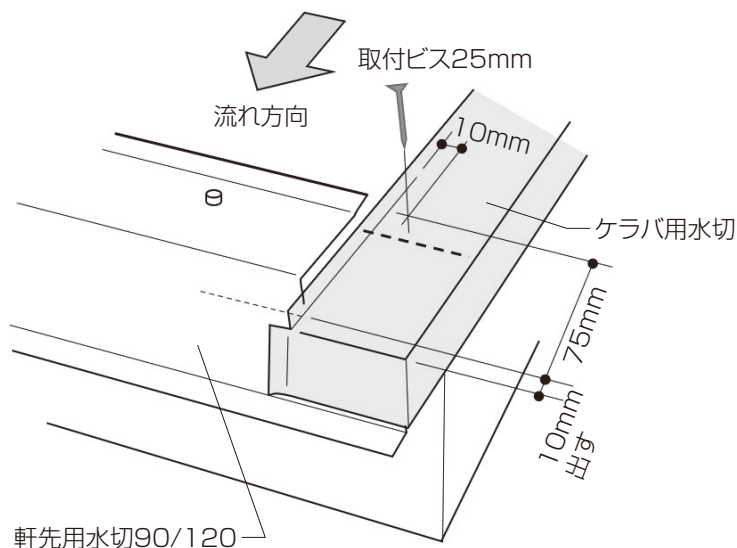
お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



2. ケラバ用水切の取付

①ケラバ用水切を軒先端部から10mm出した位置に合わせ、取付ビス25mmで軒先端部から棟側65mmの位置に固定してください。

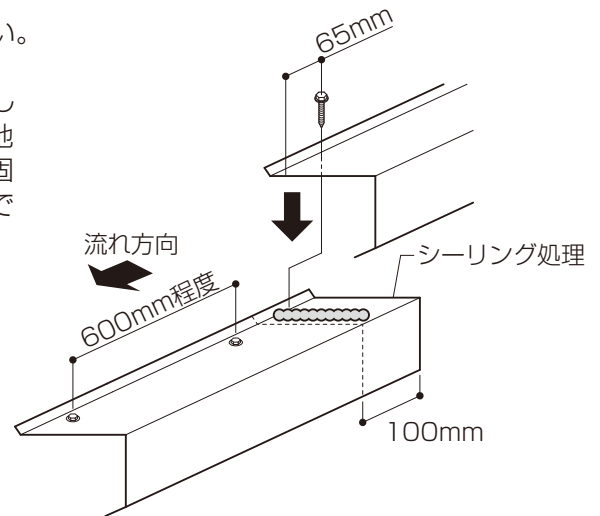


▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

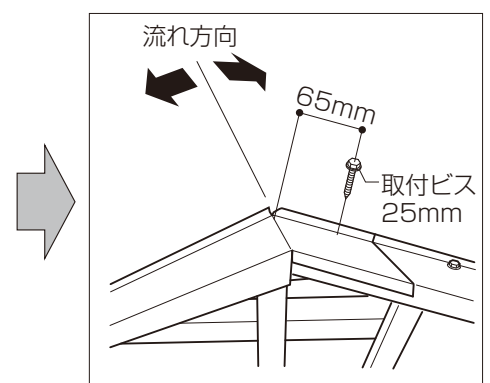
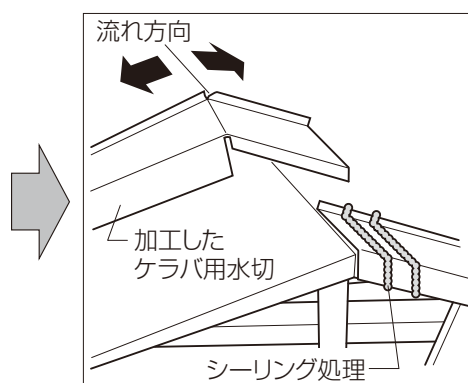
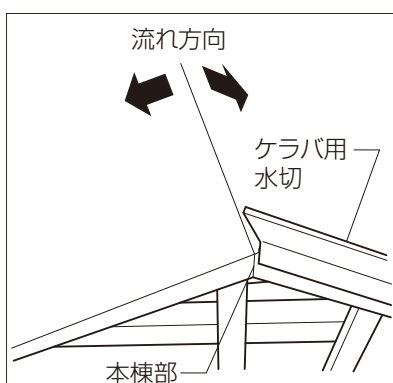
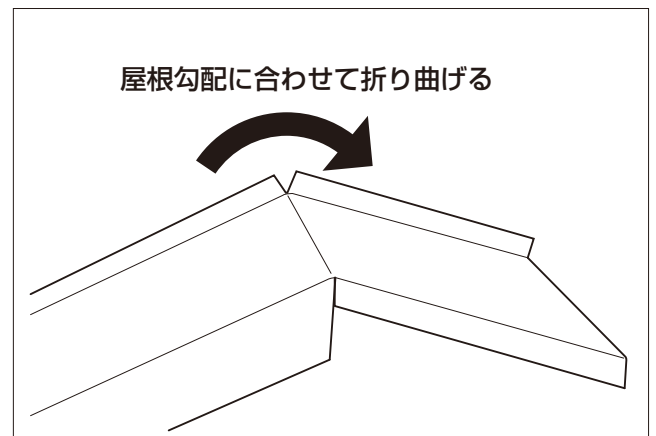
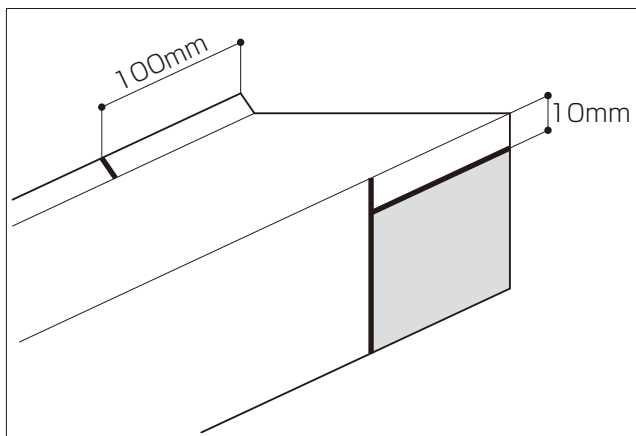
②ケラバ用水切の棟側先端は屋根勾配に合わせて加工してください。

③ケラバ用水切は取付ビス25mmで600mm程度の間隔で固定して、水切同士のジョイント部は100mm重ねて変成シリコン(現地手配品)でシーリング処理をしてください。ジョイント部のビス固定位置は重ねる側のケラバ用水切水下端部から65mmの位置で固定してください。



【切妻屋根の場合】

片側のケラバ用水切を本棟部まで設置して変成シリコンでシーリング処理をしてください。もう一方のケラバ用水切は反対側に100mm重なり代が確保できる様に加工して本棟部から65mmの位置に取付ビス25mmで固定してください。

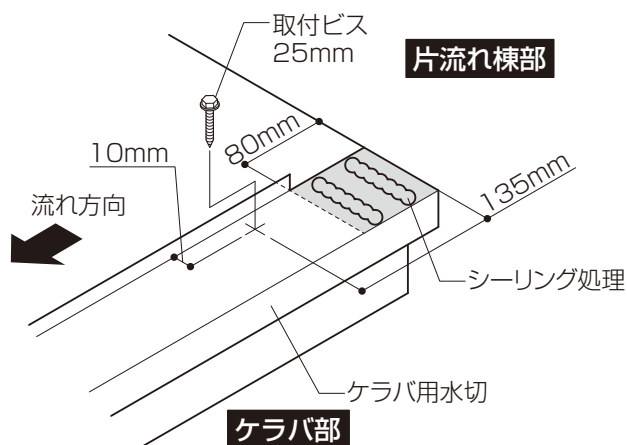


4. 切妻、片流れ屋根の場合

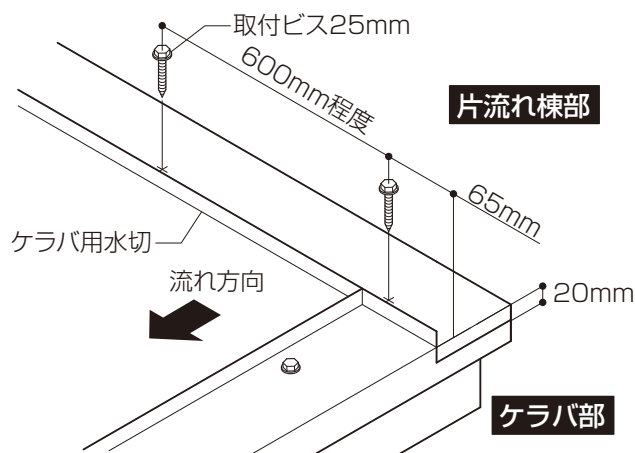
4-3. ケラバ部の納まり(通しケラバ包み／片流れ用棟包みを使用する場合)① つづき

【片流れ屋根の場合】

ケラバ用水切は片流れ棟部先端に合わせて屋根勾配に対して垂直になるように加工し、片流れ用棟部先端から加工した部分に片流れ棟部のケラバ水切が重なりますので変成シリコンでシーリング処理をしてください。



④ケラバ用水切を片流れ棟部に当てて取付ビス25mmで600mm程度の間隔で取付けてください。

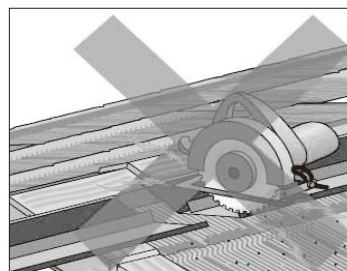


▲ 注意

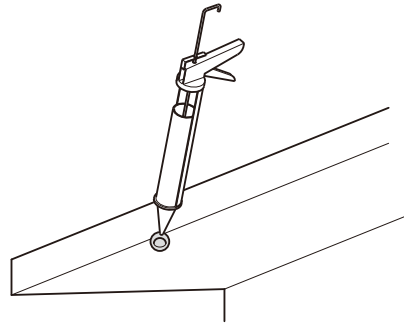
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



- ⑤ケラバ用水切を固定した取付ビス25mmすべてのビス頭に対して変成シリコンでシーリング処理をしてください。



▲ 注意

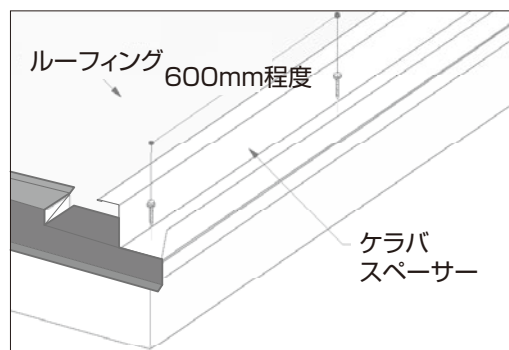
- 水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りにつながるおそれがあります。

4. 切妻、片流れ屋根の場合

4-3. ケラバ部の納まり(角型ケラバ／棟包みを使用する場合)①

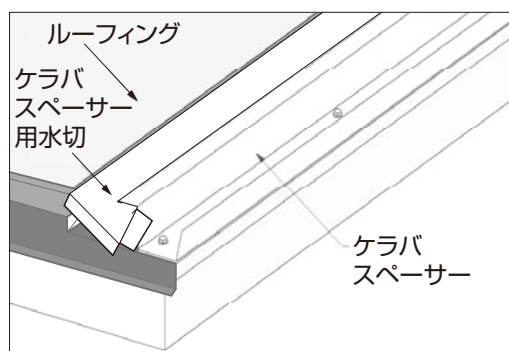
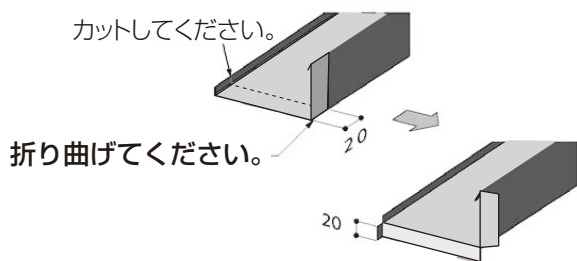
■ケラバスペーサーの取付

- ①ケラバスペーサーをケラバ端部に合わせて取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。
- ②ケラバスペーサーのジョイントは100mm以上重ねてください。

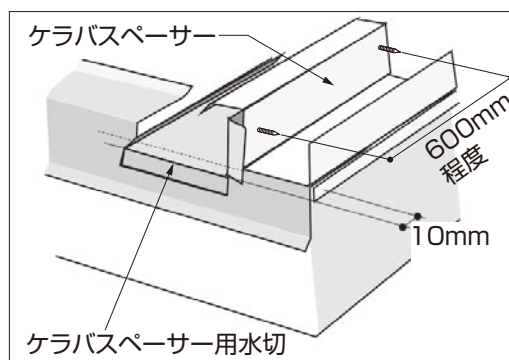


■ケラバスペーサー用水切の取付

- ①ケラバスペーサー用水切の先端部を加工してください。



- ②ケラバスペーサー用水切を軒先先端部から10mm軒側に出して、軒先先端部から10mm軒側に出してケラバスペーサーに対して取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けしてください。

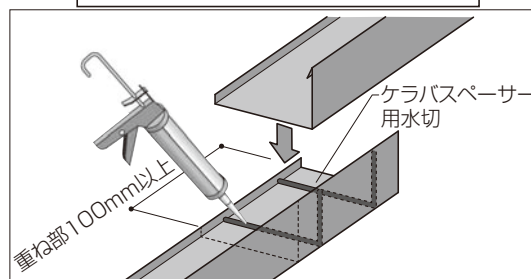


▲ 注意

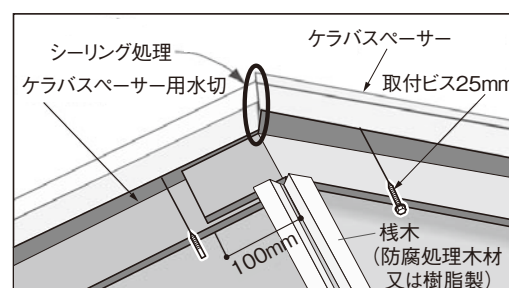
- ケラバスペーサー用水切平部にはビスを打たないでください。雨漏りの原因になります。

- ③ケラバスペーサー用水切のジョイント部はシーリング処理をして100mm以上重ねてください。

ケラバスペーサー用水切のジョイント



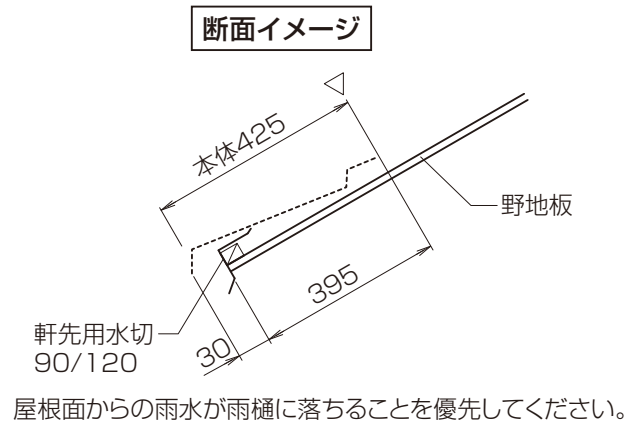
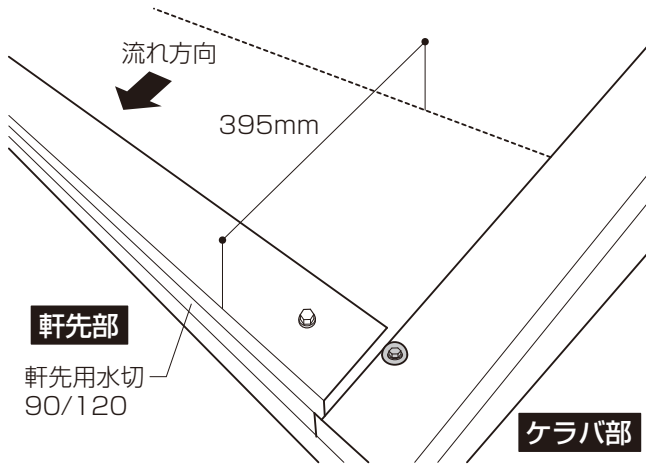
- ④ケラバスペーサー用水切は棟芯部でどちらかが重なるようにし、一方を100mm以上重ねて折り曲げてください。



4-4. 屋根本体の取付

1. 屋根本体設置位置の墨出し

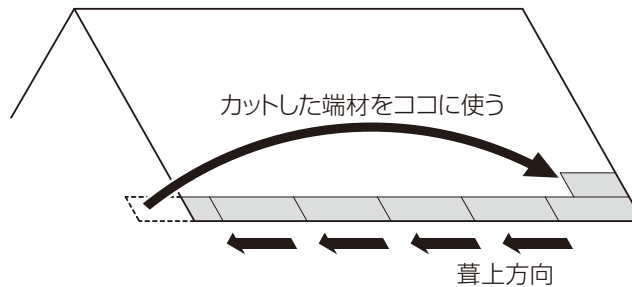
①軒先用水切90/120の軒側先端から395mmの位置に墨出ししてください。



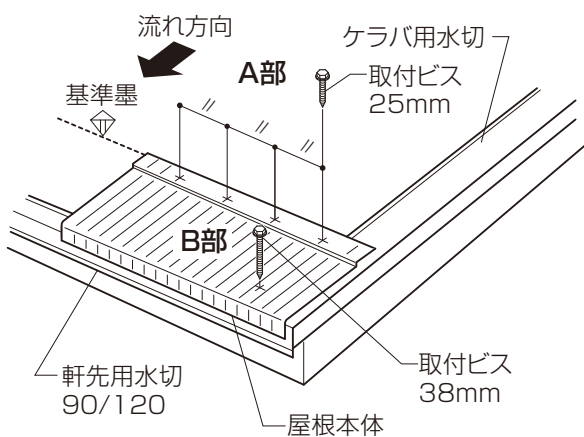
2. 屋根本体の取付

①屋根本体上端部と基準墨を合わせて下記の取付手順に従い、固定してください。

【屋根本体の葺き方】

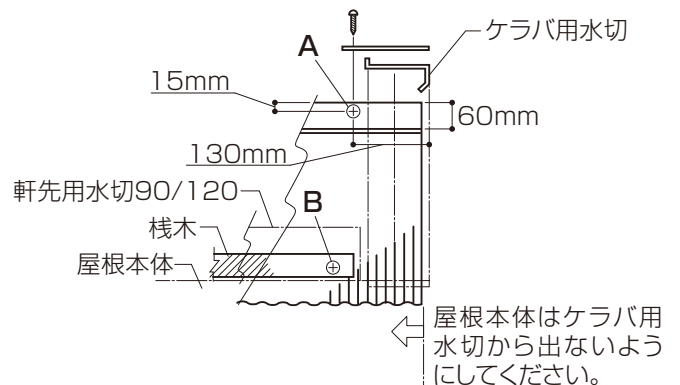


【軒先1段目の屋根本体】



■A部とB部の詳細

B部は桟木に向かって
取付ビス38mmで固定



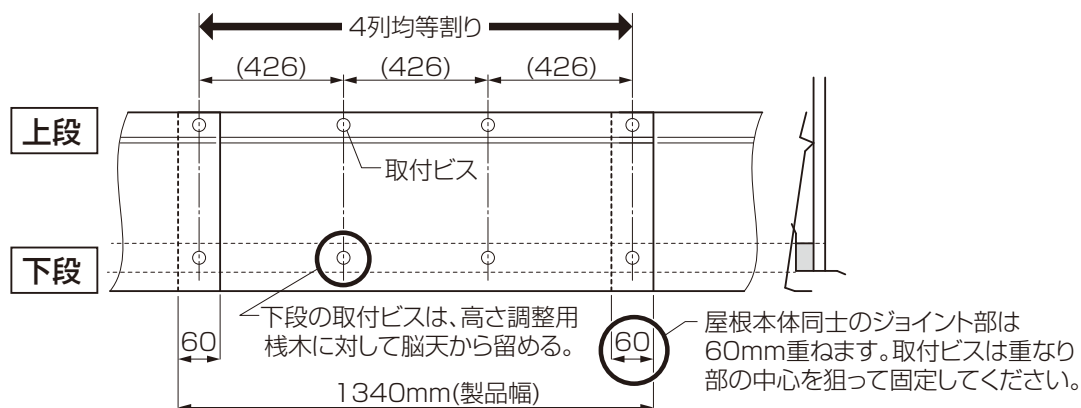
4. 切妻、片流れ屋根の場合

4-4. 屋根本体の取付 つづき

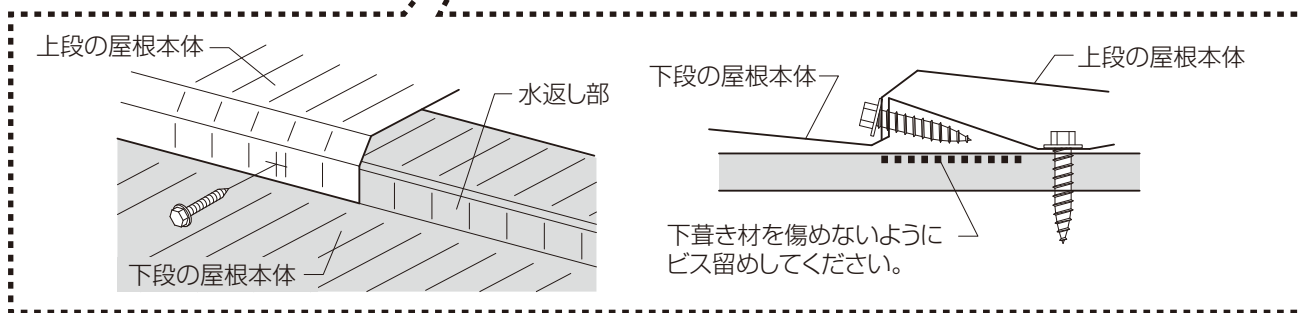
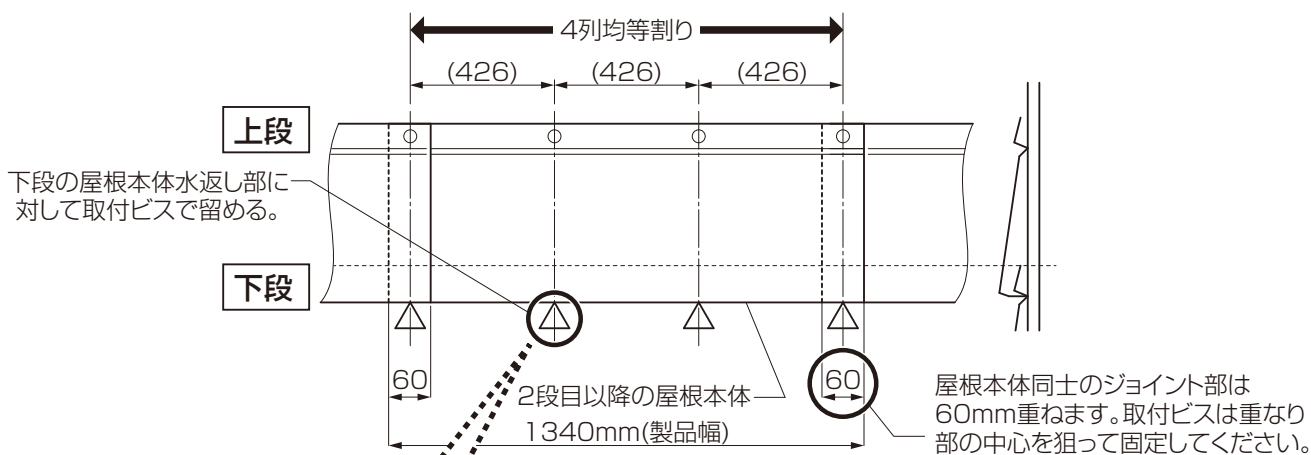
【野地板が構造用合板12mmの場合】

下図のように1段目は本体1枚当たり4列均等割り、屋根本体の上段と下段にビス留めしてください。

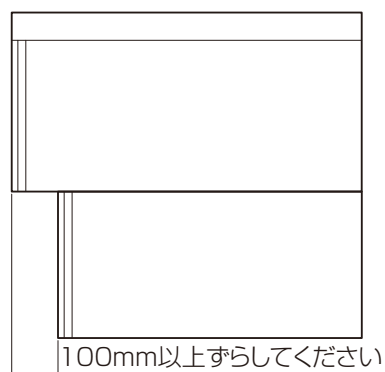
※屋根本体上段のビス留めはビスの締め付けにより、屋根本体がルーフィング面に圧着するように固定してください。



2段目以降の下段は屋根本体の水返し部に対してビス留めしてください。

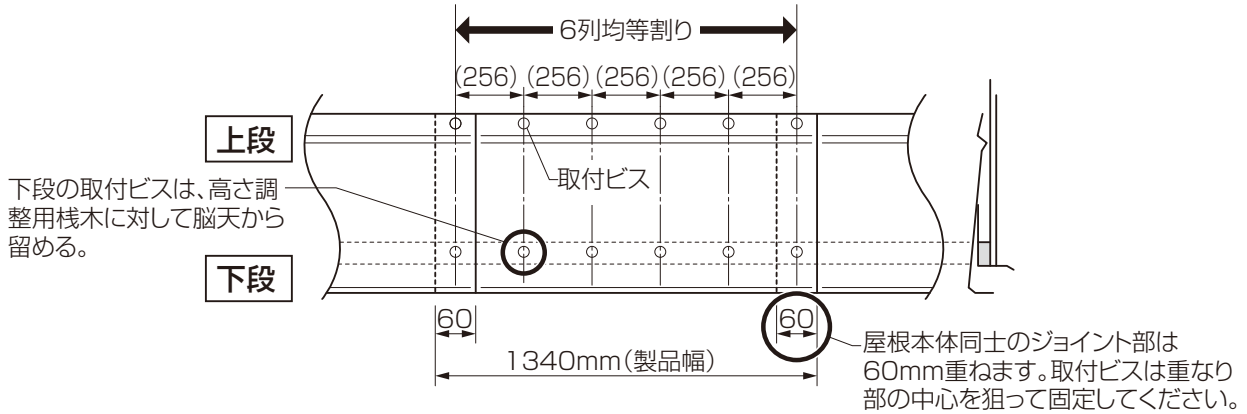


2段目以降の下段は屋根本体は下段の屋根本体とジョイント部より100mm以上ずらして取付してください。

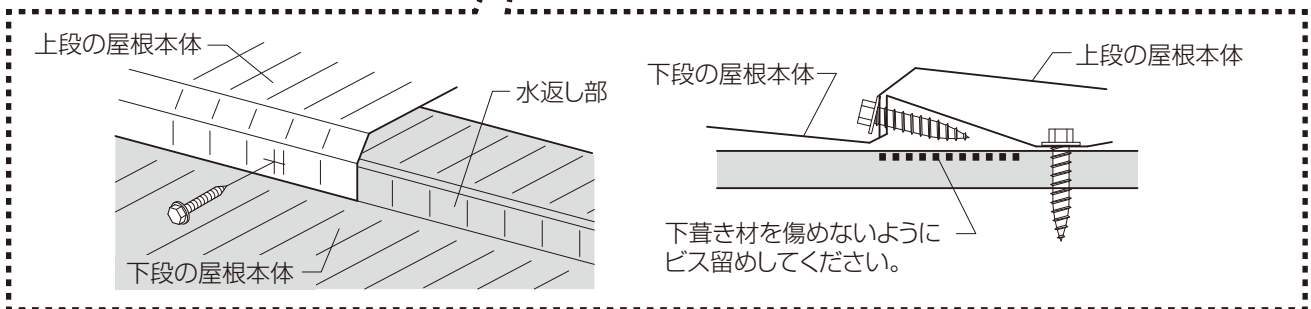
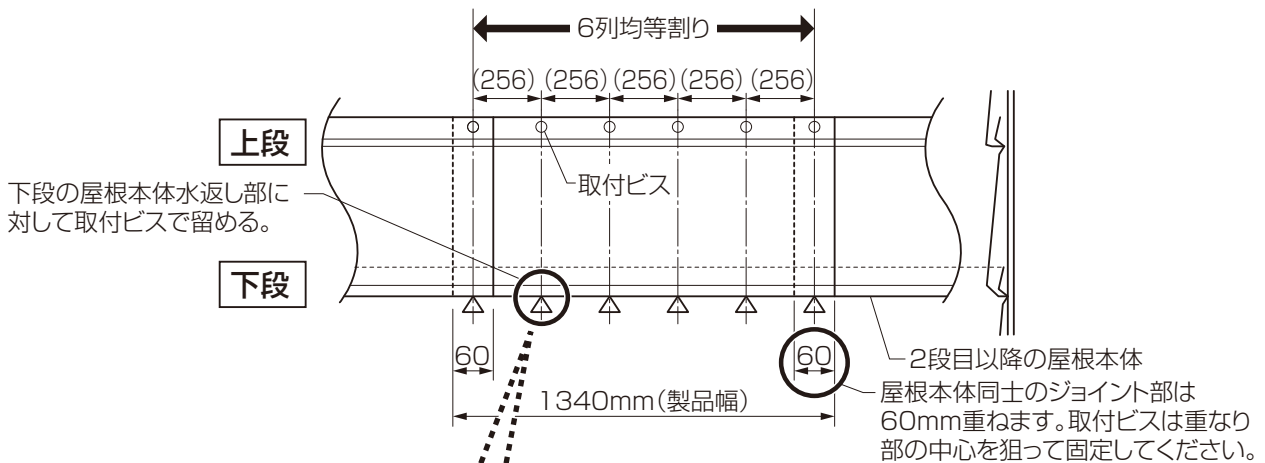


【野地板がOSB合板11mmの場合】

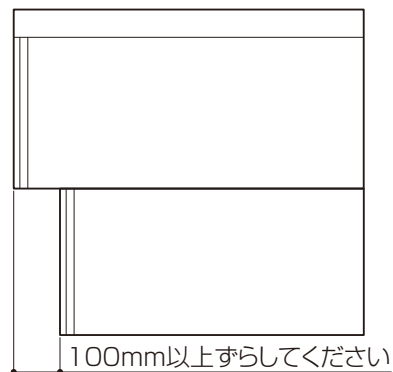
下図のように1段目は本体1枚当たり6列均等割り、屋根本体の上段と下段にビス留めしてください。
 ※屋根本体上段のビス留めはビスの締め付けにより、屋根本体がルーフィング面に圧着するように固定してください。



2段目以降の下段は屋根本体の水返し部に対してビス留めしてください。



2段目以降の下段は屋根本体は下段の屋根本体とジョイント部より100mm以上ずらして取付してください。



4. 切妻、片流れ屋根の場合

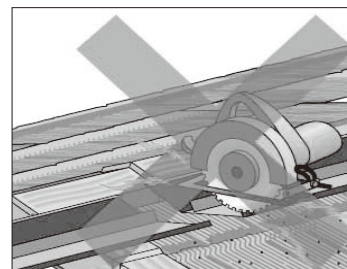
4-4. 屋根本体の取付 つづき

▲ 注意

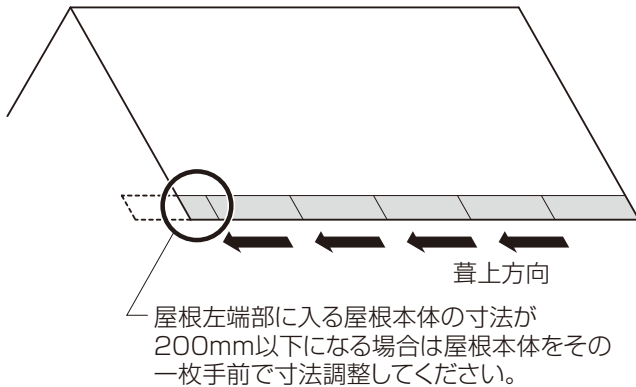
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

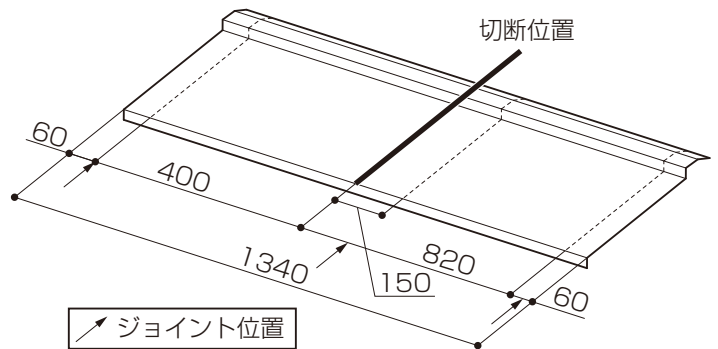
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



【屋根本体の寸法調整】



屋根本体の調整方法

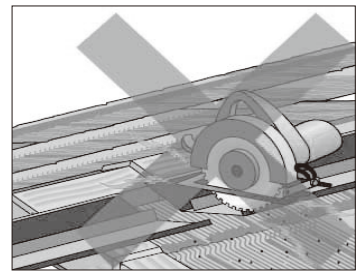


▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違えて使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。

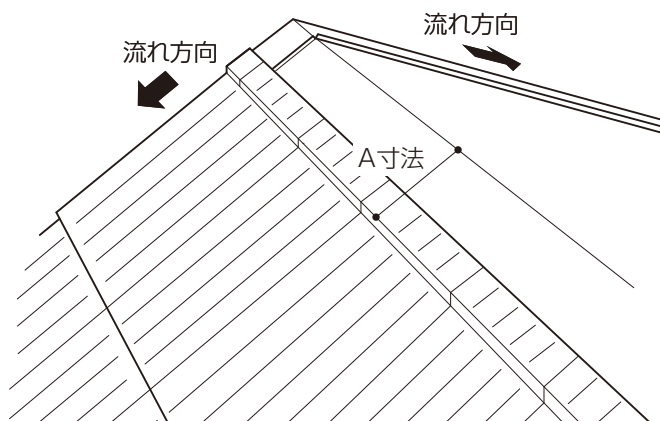


4. 切妻、片流れ屋根の場合

4-4. 屋根本体の取付 つづき

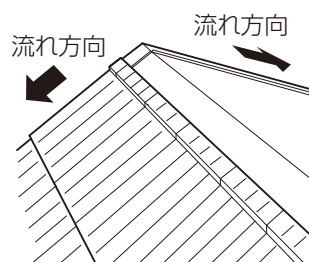
②屋根本体を棟付近まで葺き、A寸法(棟際最上段部の屋根本体寸法)を確認して、必要に応じて高さ調整用栈木を木ビス75mm(現地手配品)で取付けてください。

※高さ調整用栈木の仕様は軒先部と同様です。



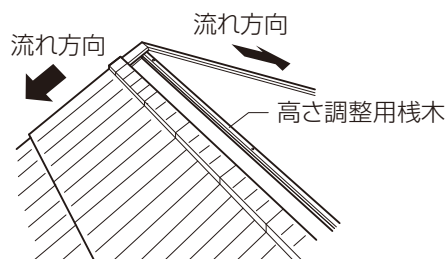
【A寸法が260mmを超える場合】

高さ調整用栈木は不要



【A寸法が260mm未満の場合】

高さ調整用栈木が必要

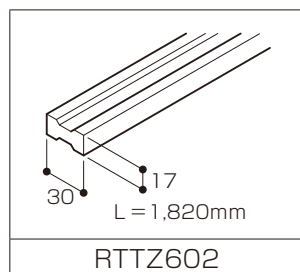


【片流れ屋根の場合】

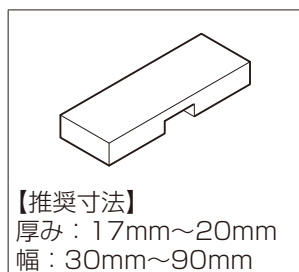
高さ調整用栈木を木ビス75mm(現地手配品)で600mm程度の間隔で取付けてください。

高さ調整用栈木については下記のいずれかの仕様の物をご使用ください。

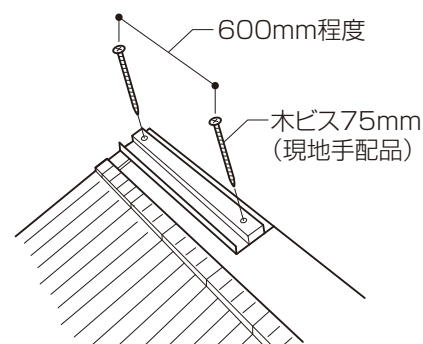
●LIXIL支給品の場合



●現地手配の場合



※水抜き溝がある物を手配してください。



▲ 注意

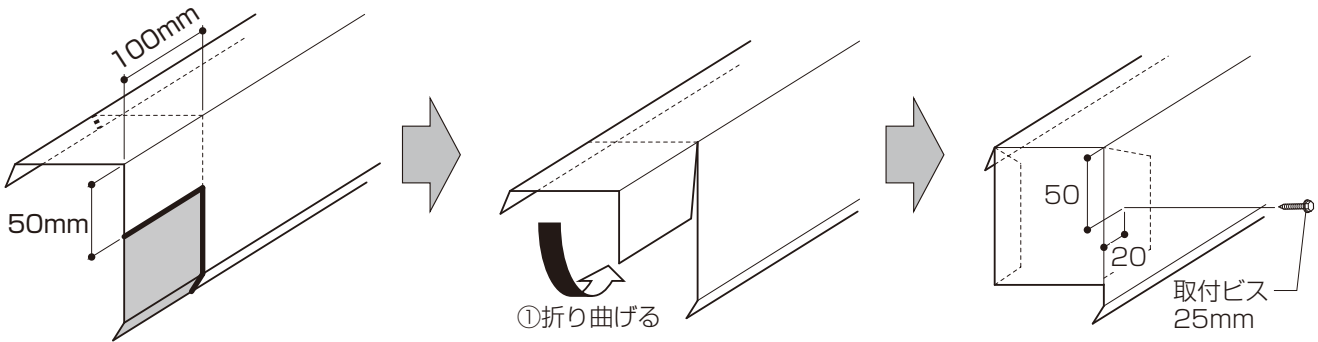
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 使用する栈木は樹脂製又は防腐処理を施した栈木且つ水抜き加工されている物(軒先部のみ)をご使用ください。遵守しないと栈木が腐食して屋根材の強度を失うおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

4-5. ケラバ部の納まり(通しケラバ包み/片流れ用棟包みⅡを使用する場合)②

※ 通しケラバ包み/片流れ用棟包みも同様の手順になります。
以下の説明は、通しケラバ包み/片流れ用棟包みⅡで説明しています。

1. 通しケラバ包みの先端加工

下図のように通しケラバ包み先端を加工してください。

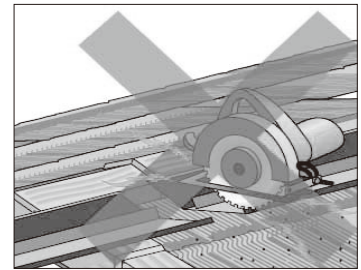


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

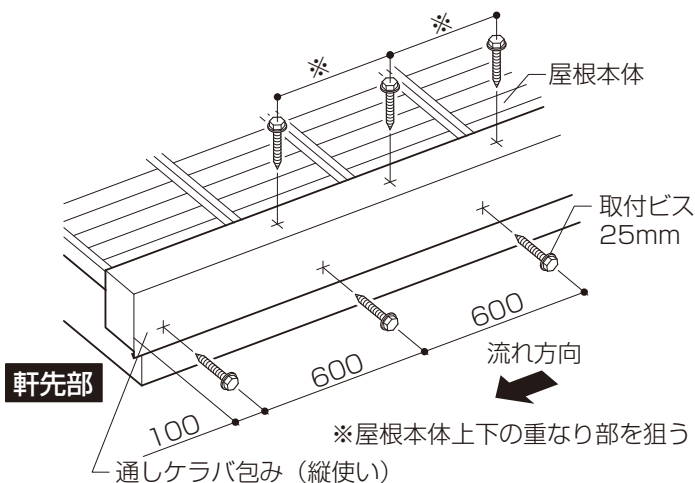
お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。

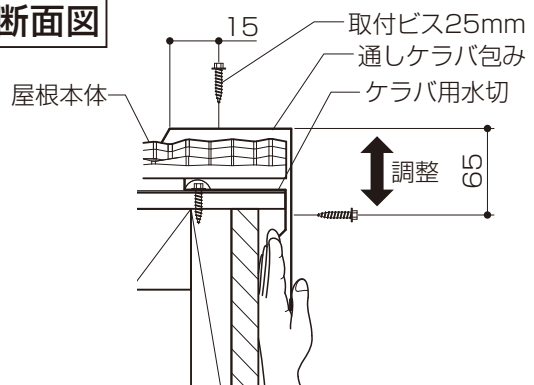


2. 通しケラバ包みの取付

①通しケラバ包みを取付ビス25mmで下記の断面図を参照して側面は600mm程度で固定し、脳天は屋根本体上下の重なり部を狙って固定してください。



断面図



通しケラバ包みを取付ける側面の取付ビスは、通しケラバ包みが歪まないように、また水平を保つように手で押さえて取付けしてください。

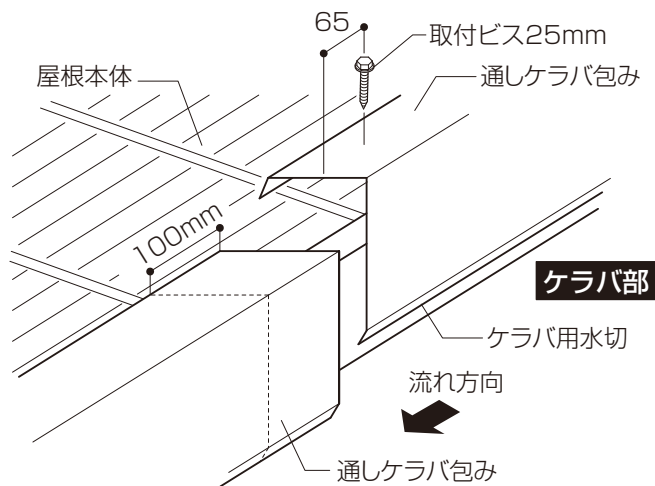
4-5. ケラバ部の納まり(通しケラバ包み/片流れ用棟包みⅡを使用する場合)② つづき

▲ 注意

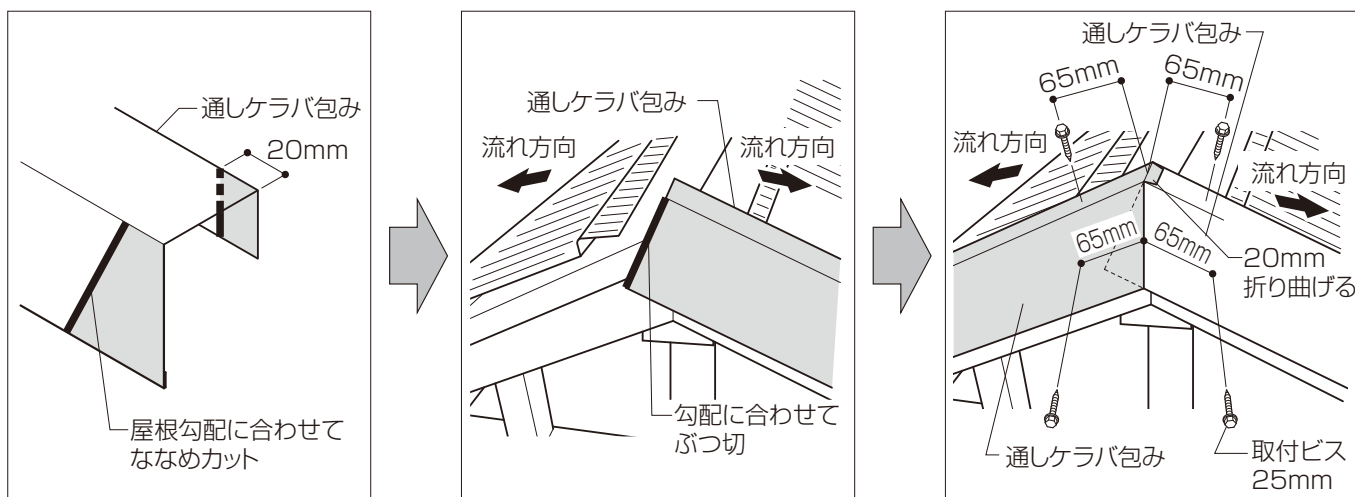
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

②通しケラバ包みのジョイントは100mm重ねて取付ビス25mmで取付けてください。

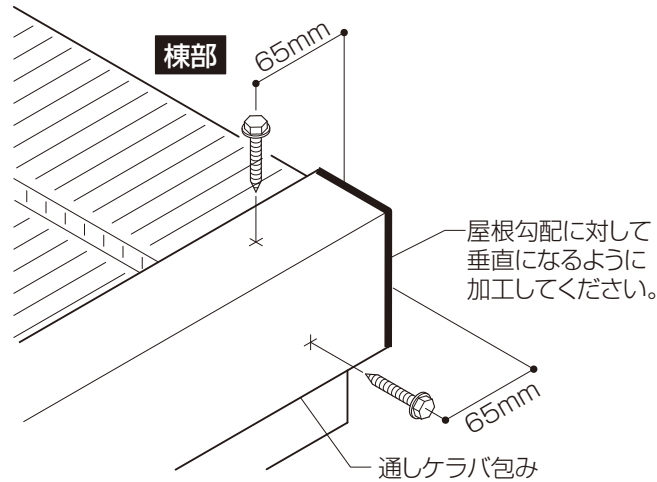
③通しケラバ包みを棟部まで取付ビス25mmで取付けてください。



【切妻屋根の場合】



【片流れ屋根の場合】

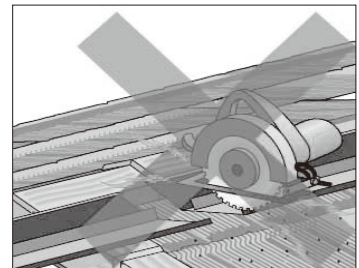


▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。

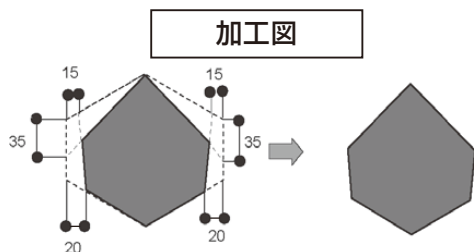


4. 切妻、片流れ屋根の場合

4-5. ケラバ部の納まり(角型ケラバ/棟包みを使用する場合)②

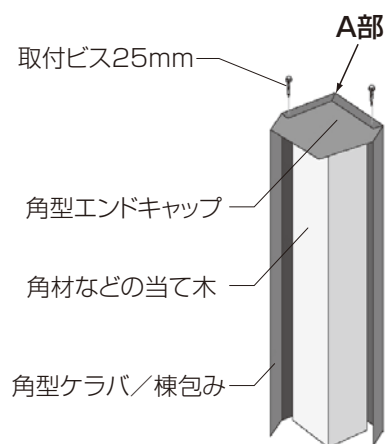
■角型エンドキャップの加工と取付

①角型エンドキャップを加工してください。



※角型エンドキャップは隅棟剣先で使用する形状になっておりますのでケラバ先端で使用する際は加工が必要となります。

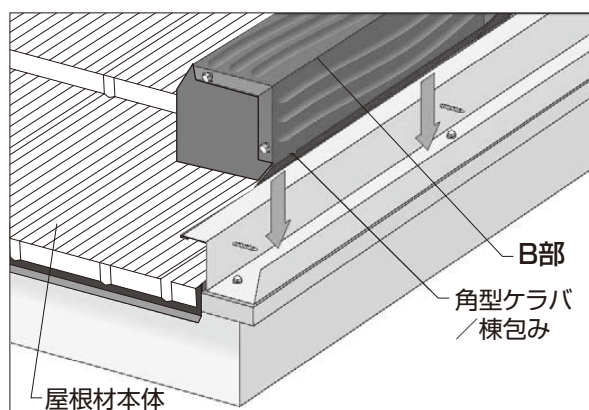
②右図のA部にハサミで切り込みを入れてから取付ビス25mmで2点固定してください。



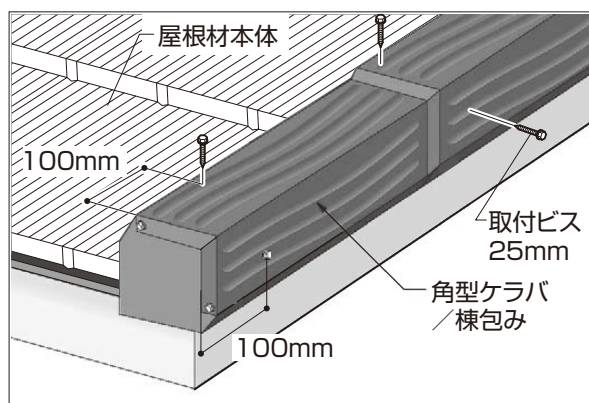
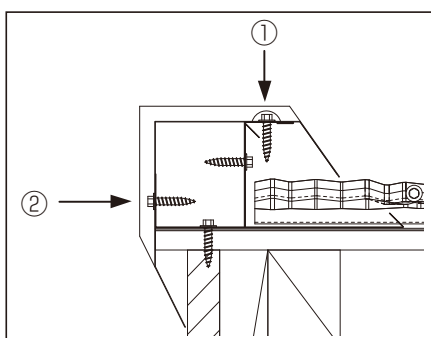
■角型ケラバ/棟包みの取付

①角型ケラバ/棟包みを軒先側から順に水平ラインが通るように取付ビス25mmで取付けしてください。

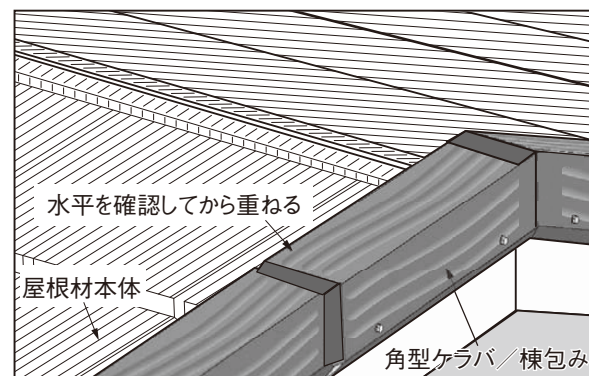
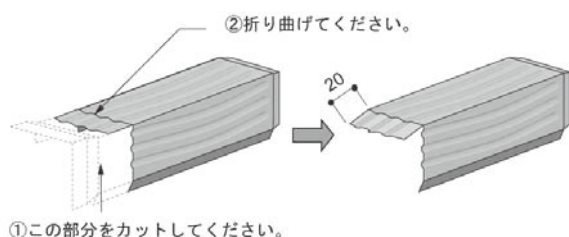
※右図のB部が直角になるよう曲げて調整してください。
 ※角型ケラバ1つあたりのビス留め箇所は
 脳天と外側側面の2か所です。
 脳天は内側1番目の溝、外側側面は
 下から2番目の溝を目安にしてください。
 (下図・右図参照)



ビス留めの手順



②角型ケラバ/棟包み同士の取合いは一方をもう一方に覆い被せてビス留めしてください。

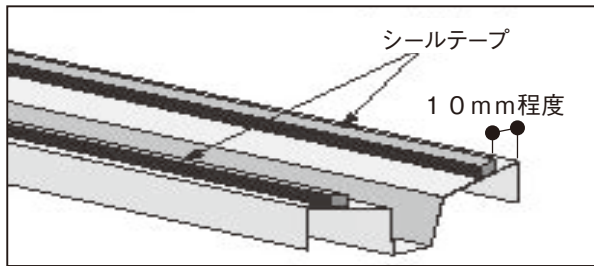


4-6. 本棟部の納まり(切妻屋根の場合)

1. 通し棟包みの下地準備

①通し棟用水切裏面にシールテープ10を貼ってください。

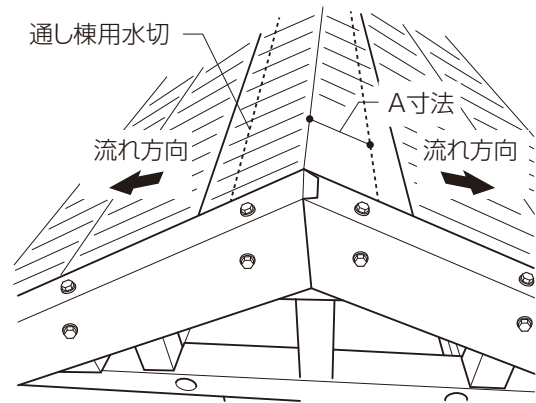
※シールテープ10は通し棟用水切裏面の端部より10mm程度離して、貼ってください。



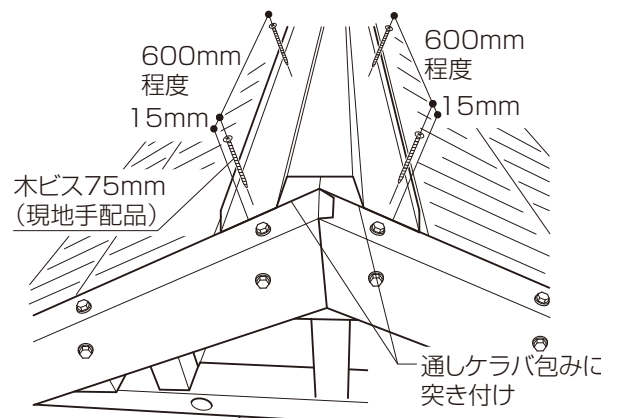
角型ケラバ／棟包みを使用する場合は棟用水切を使用してください。

納まり手順は以下同様です。

②本棟部の芯と通し棟包みの頂点部を合わせて通し棟用水切の取付位置を確認して墨出しをしてください。



③通し棟用水切を墨出し位置に合わせながら屋根本体側に当てて、木ビス75mm(現地手配品)で600mm間隔で取付けてください。



▲ 注意

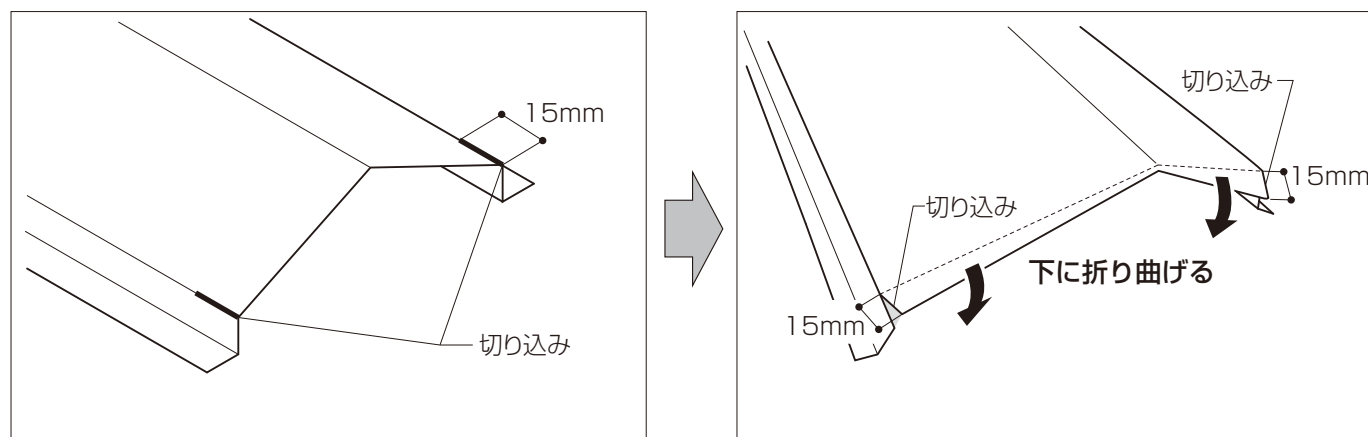
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違っていると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

4. 切妻、片流れ屋根の場合

4-6. 本棟部の納まり(切妻屋根の場合) つづき

2. 通し棟包みの取付

①下記の図のように通し棟包み先端を15mm金切ハサミで切り込みを入れて、下に折り曲げてください。

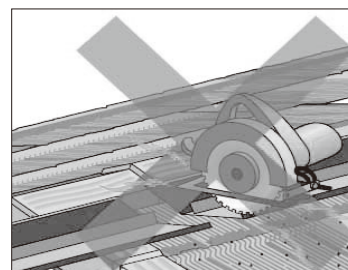


▲ 注意

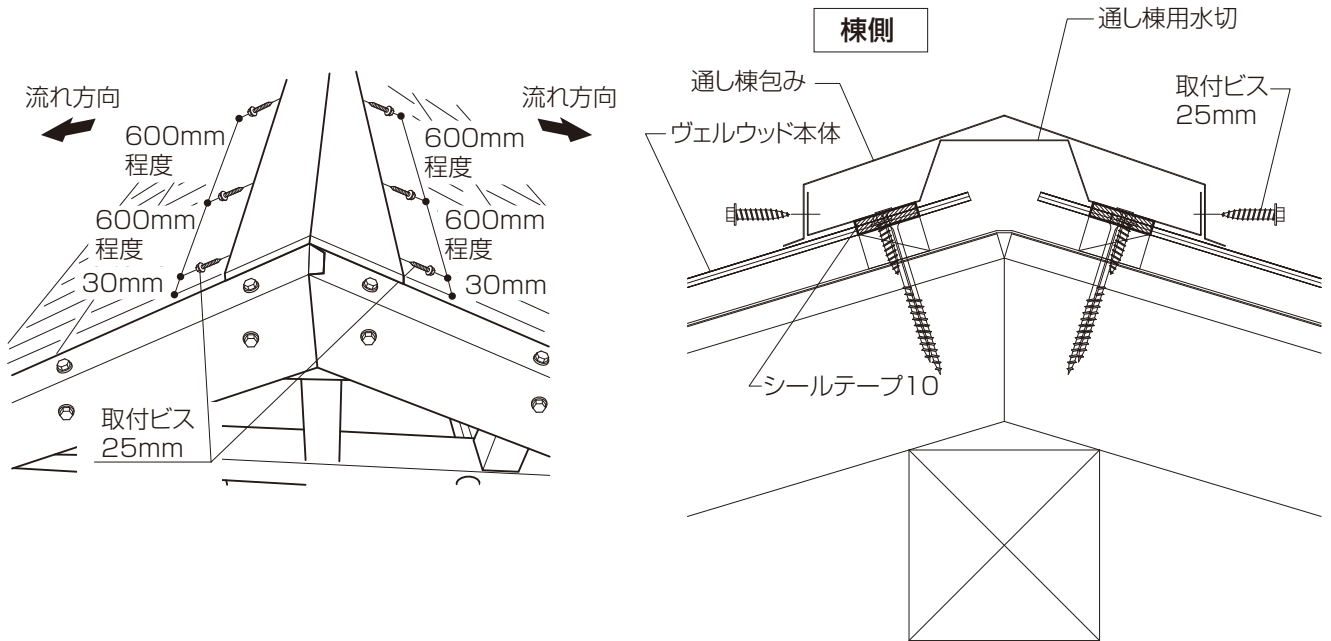
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

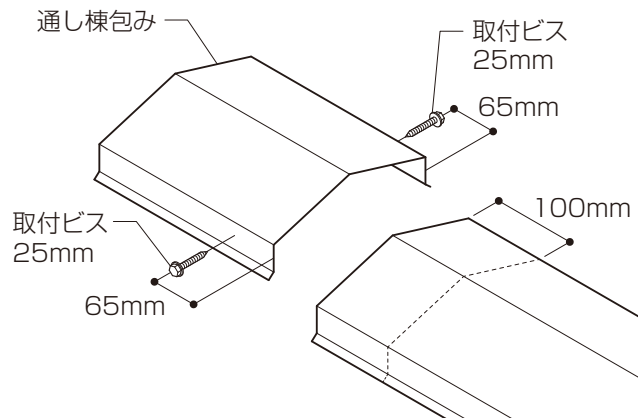
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



②通し棟包みの両側から取付ビス25mmで600mm程度の間隔で取付けてください。



③通し棟包みのジョイント部は100mm重ねて取付ビス25mmで取付けてください。



▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

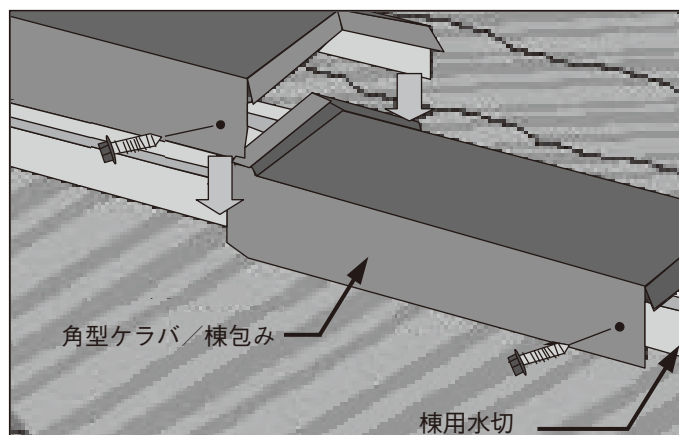
4. 切妻、片流れ屋根の場合

4-6. 本棟部の納まり(角型ケラバ/棟包みで納まる場合)

3. 角型ケラバ/棟包みの取付

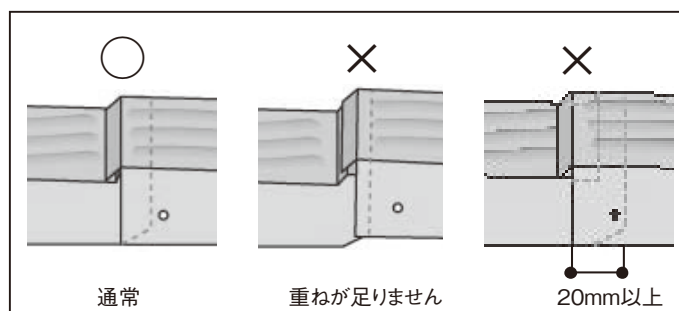
■角型ケラバ/棟包みの取付

- ①角型ケラバ/棟包みは、両サイドにあるガイド穴に取付ビス25mmで取付けてください。



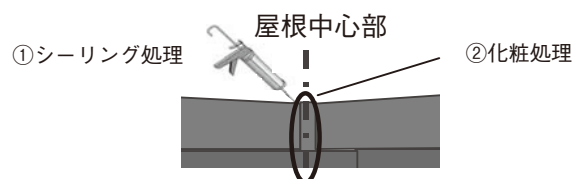
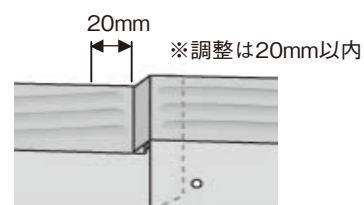
■角型ケラバ/棟包みのジョイント部

- ①角型ケラバ/棟包みのジョイント部は棟包みのつば先部と頭部がぴったり合うように取付けてください。

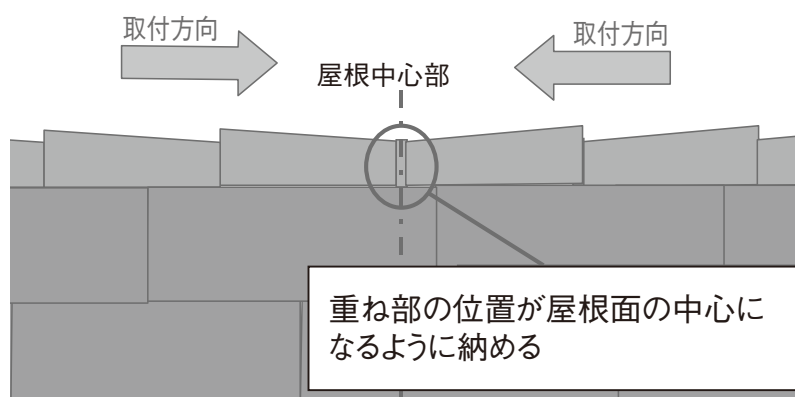


■角型ケラバ/棟包みの割付調整

- ①角型ケラバ/棟包みの割付を合わせる場合は重ねり部(20mm以内)で調整してください。
 ②角型ケラバ/棟包みの屋根芯での重ね部はシーリング処理をして補修キット(ストーンチップ)で化粧処理をしてください。



【参考】取付事例

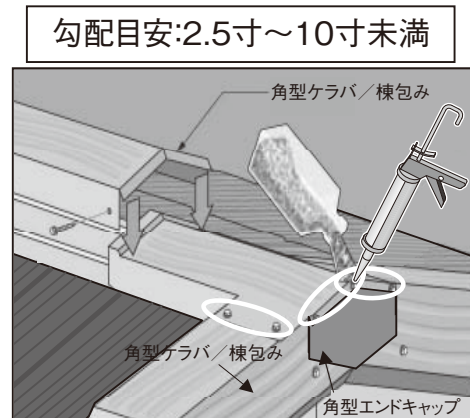
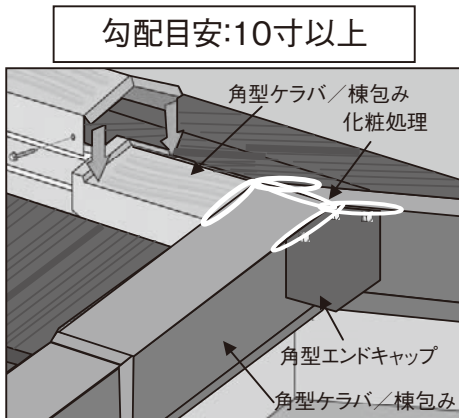
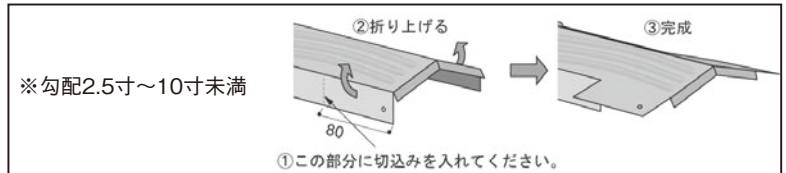


■ 角型ケラバ／棟包みの取合い

①角型ケラバ／棟包みをケラバ役物をまたがるように切り込みを入れて加工してください。

②ケラバ合掌部に角型エンドキャップを取付ビス25mmで取付けしてください。

③重なり部は変成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)で化粧処理してください。



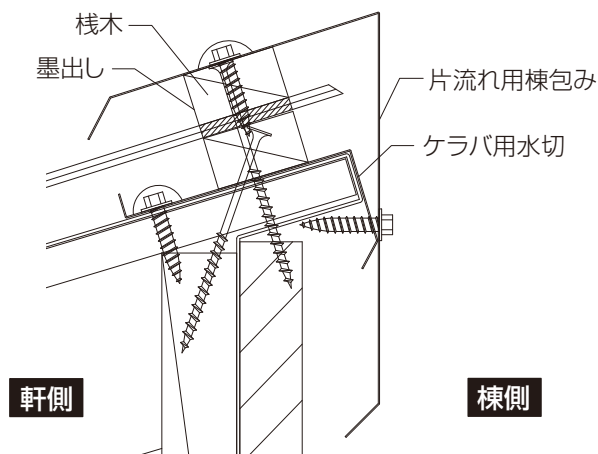
※本棟部の巴は勾配によって納まりが変わります。

4. 切妻、片流れ屋根の場合

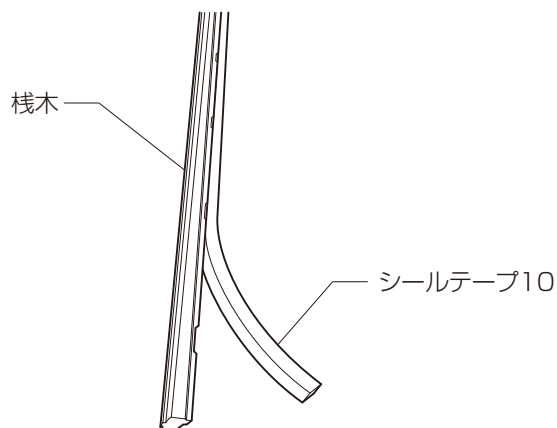
4-7. 片流れ棟部の納まり(片流れ屋根の場合)

1. 片流れ用棟包みの取付

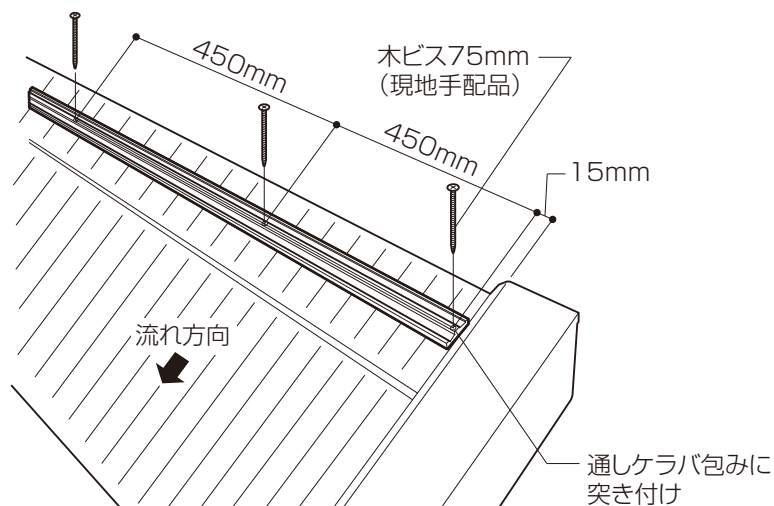
①片流れ用棟包みを片流れ棟部に当てて、棧木の位置を墨出ししてください。



②棧木の裏面にシールテープ10を貼り付けてください。



③シールテープ10を貼った棧木の面を屋根本体側に当てて墨出した位置と通しケラバ包みに突き付けした位置に合わせて木ビス75mm(現地手配品)で450mm程度の間隔で取付けてください。



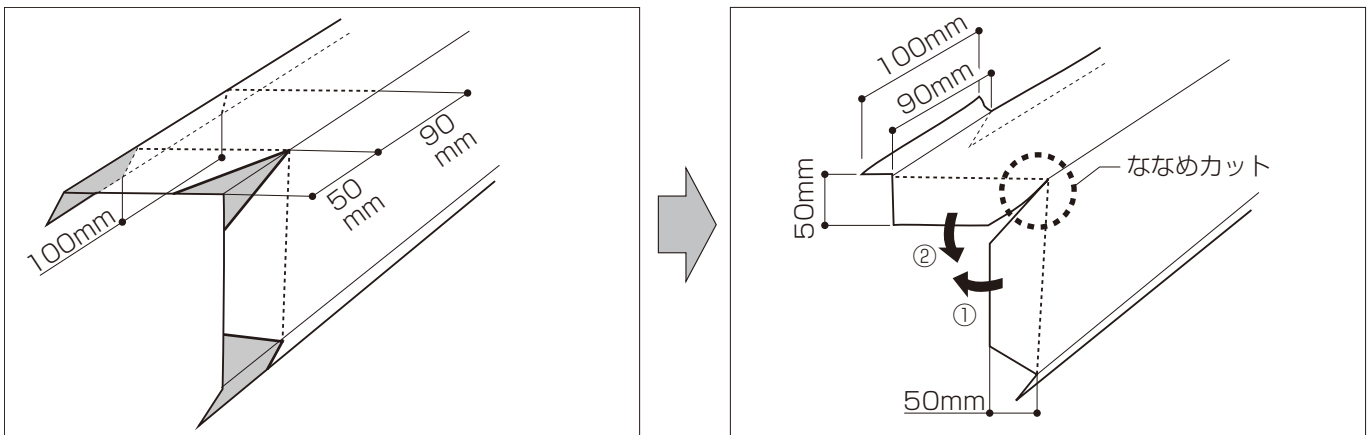
▲ 注意

- 使用する栈木は樹脂製又は防腐処理を施した栈木且つ水抜き加工されている物(軒先部のみ)をご使用ください。遵守しないと栈木が腐食して屋根材の強度を失うおそれがあります。

お願い

- 栈木を固定するビスの先端が破風下地や化粧破風板の取付に支障がないか確認してください。栈木を固定したビス先端が後施工の破風板と干渉して設置できなくなるおそれがあります。

④下記の図のように片流れ用棟包み先端を金切ハサミで切り込みを入れて、加工してください。

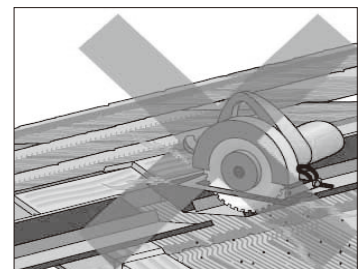


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

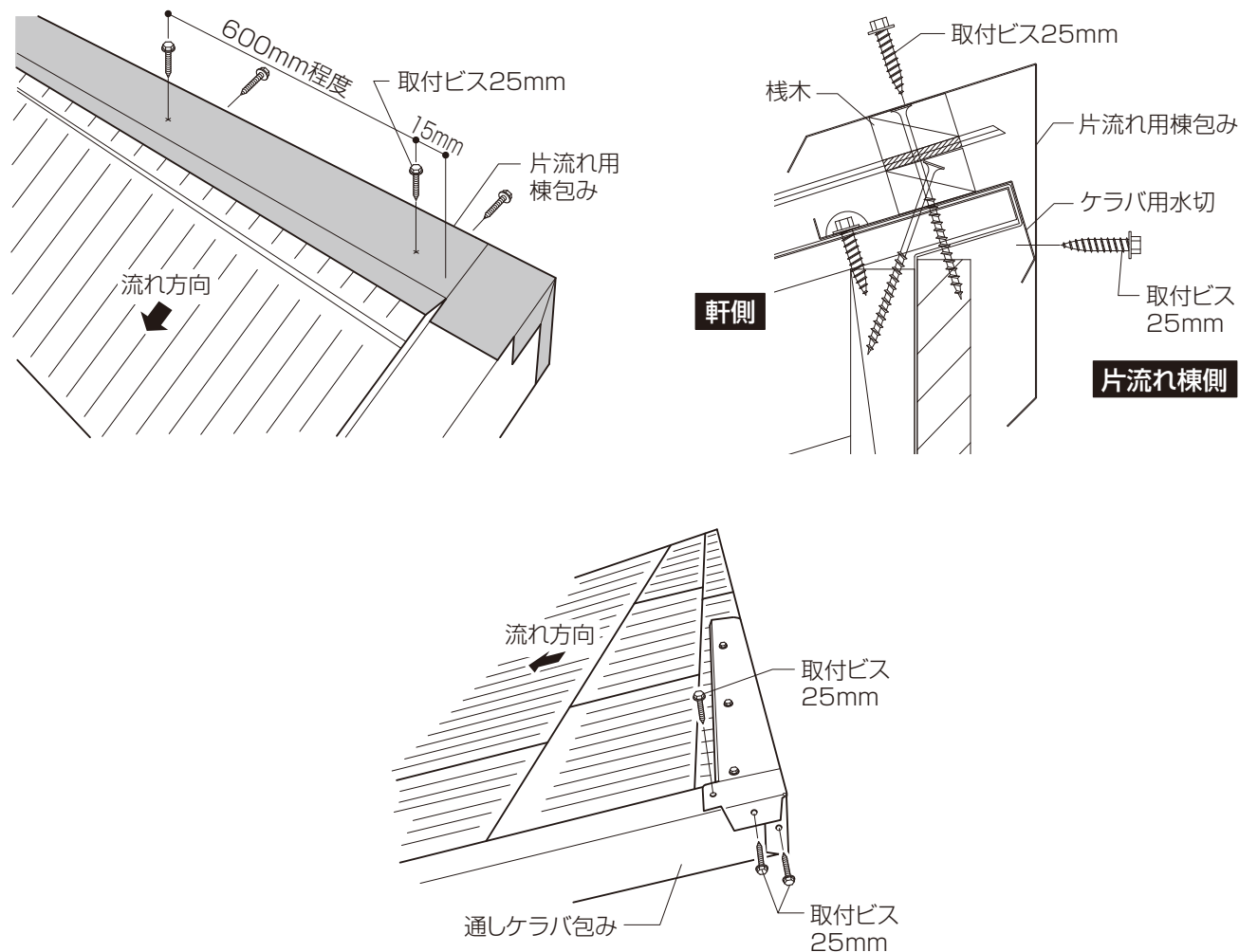
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



4. 切妻、片流れ屋根の場合

4-7. 片流れ棟部の納まり(片流れ屋根の場合) つづき

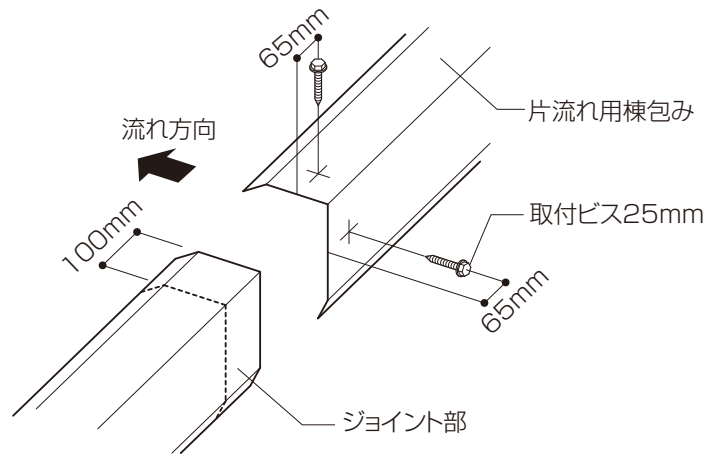
⑥片流れ用棟包みを通しケラバ包みの上に重なるように合わせて取付ビス25mmで600mm程度間隔で取付けしてください。取付ビス25mmは屋根面側の栈木に対して固定し、片流れ棟側はケラバ用水切に対して固定してください。(断面イメージを参照)



▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

⑥片流れ用棟包みのジョイント部は100mm重ねて取付ビス25mmで取付けてください。



4. 切妻、片流れ屋根の場合

4-8. 化粧処理

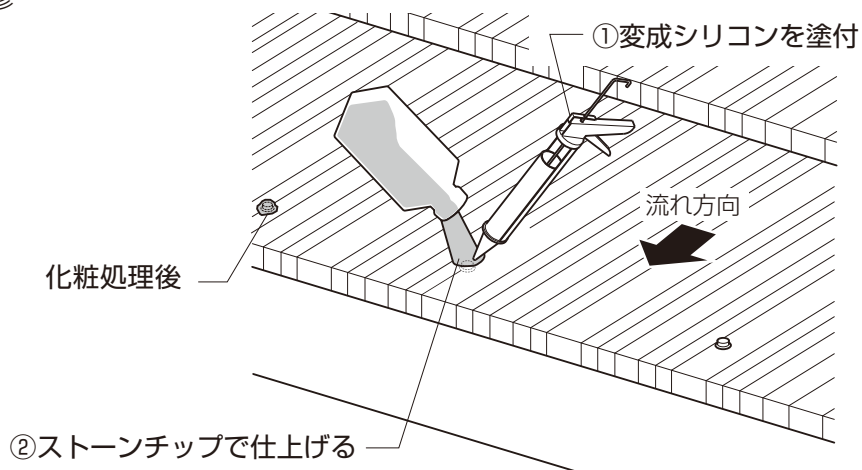
1. ビス頭と役物加工部の化粧処理

①屋根面に対して脳天に打ったビスの頭と役物加工部の意匠を整える為に変成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)を使用して化粧処理を施してください。

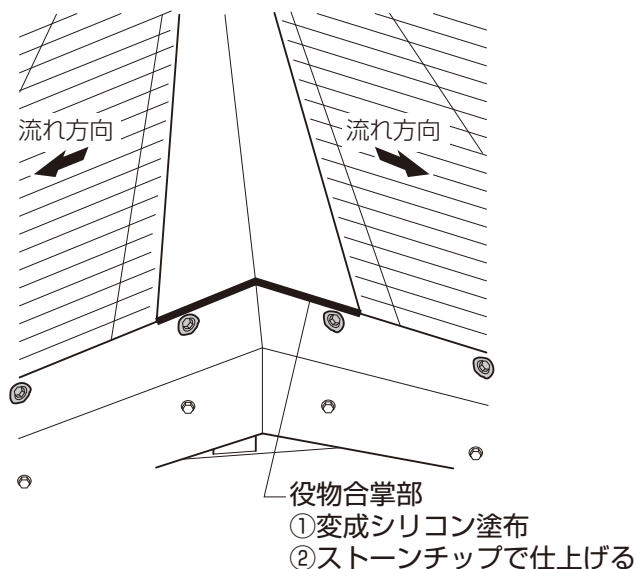
【化粧処理方法】

変成シリコン塗布+ストーンチップを仕上げるケース

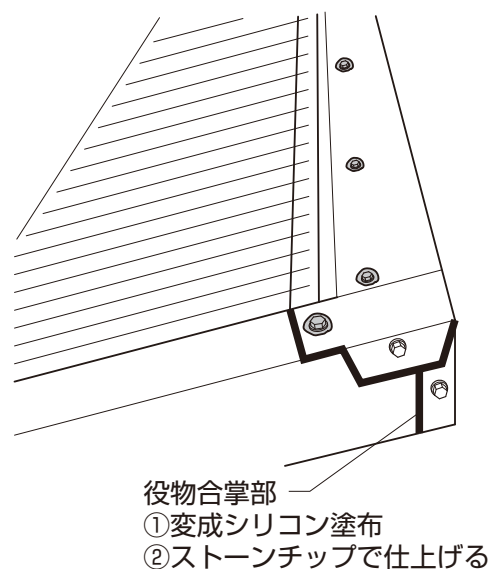
- ・屋根面に対して脳天から固定した屋根本体及び役物の取付ビスの頭部の化粧
- ・施工中に発生した屋根材表面の傷の補修
- ・各役物の合掌部の加工箇所の化粧



【切妻屋根の場合】



【片流れ屋根の場合】



▲ 注意

- 補修材を塗布した後、完全に乾くまでは手足で触れないようにしてください。屋根材やその他の部位を汚してしまうおそれがあります。

お願い

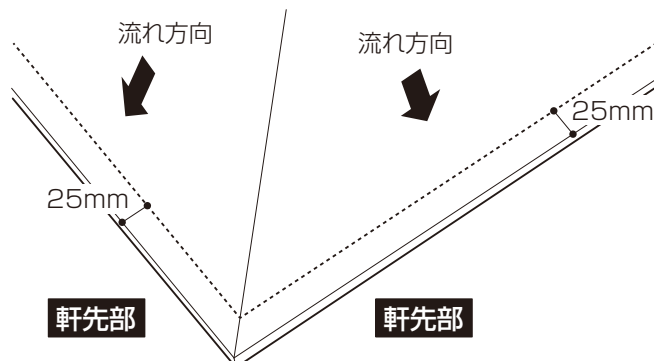
- 補修キットのベースコートの使用環境温度は5℃以上でご使用ください。ベースコートの成分が分離してしまうおそれがあります。

5. 寄棟屋根の場合

5-1. 軒先部の納まり

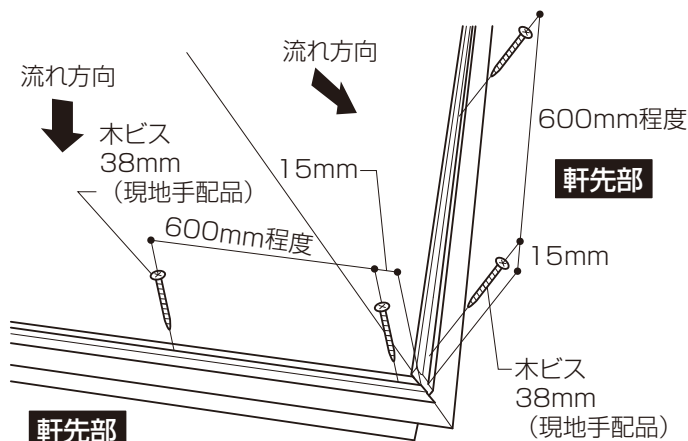
1. 高さ調整用栈木の取付

①軒先部先端から棟側25mmの位置に墨出しをしてください。

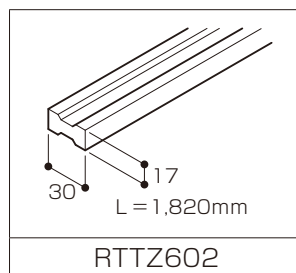


②高さ調整用栈木を隅棟部の芯に合わせてのこぎりで加工して木ビス38mm（現地手配品）で600mm程度の間隔で取付けてください。

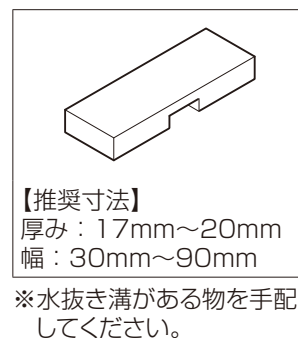
高さ調整用栈木については下記のいずれかの仕様の物をご使用ください。



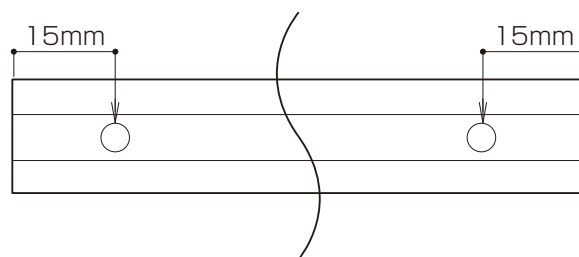
●LIXIL支給品の場合



●現地手配の場合



高さ調整用栈木の両端部は15mm離れた位置で固定



▲ 注意

- 使用する栈木は樹脂製又は防腐処理を施した栈木且つ水抜き加工されている物(軒先部のみ)をご使用ください。遵守しないと栈木が腐食して屋根材の強度を失うおそれがあります。

お願い

- 栈木を固定するビスの先端が破風下地や化粧破風板の取付に支障がないか確認してください。栈木を固定したビス先端が後施工の破風板と干渉して設置できなくなるおそれがあります。

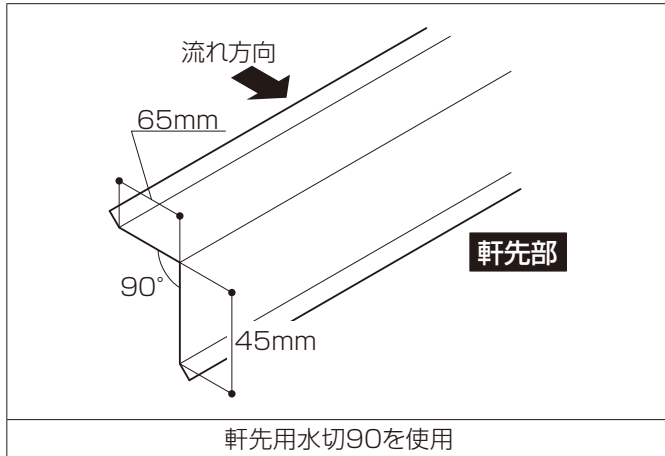
5. 寄棟屋根の場合

5-1. 軒先部の納まり つづき

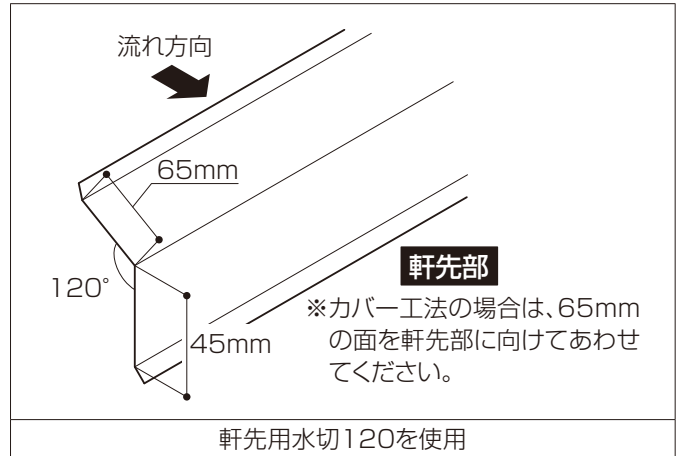
2. 軒先部材の仕様

屋根勾配によって使用する部材が変わります。

●屋根勾配が2.5寸～3.5寸の場合



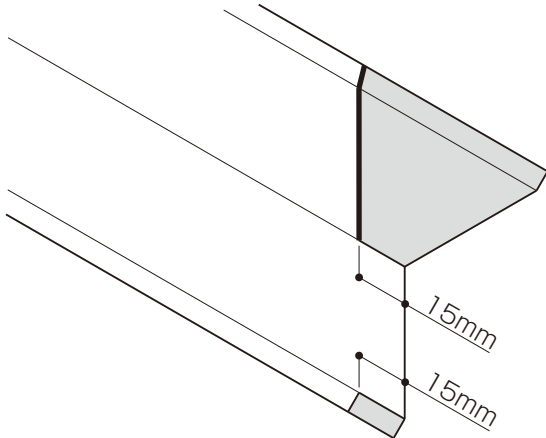
●屋根勾配が4寸～10寸の場合



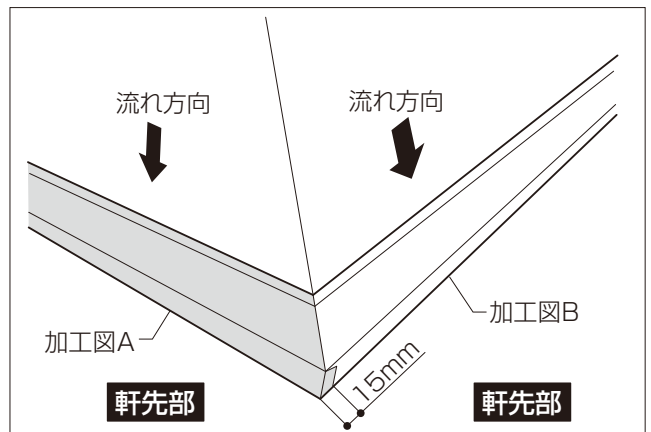
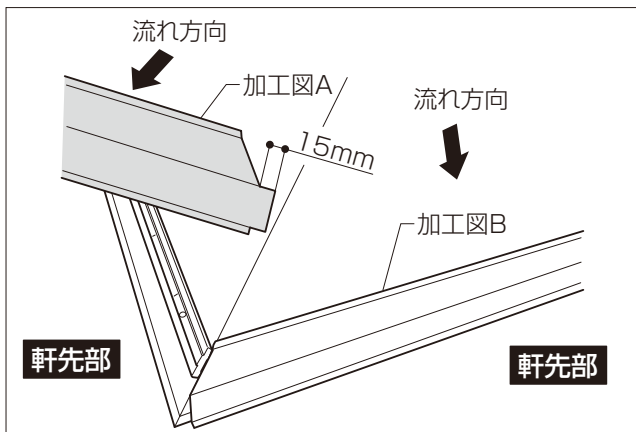
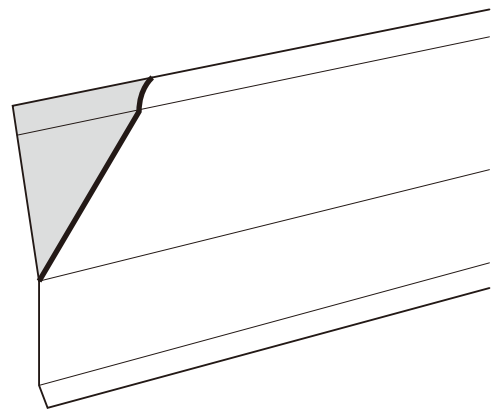
3. 軒先用水切90/120の加工

①隅棟部の形状に合わせて金切ハサミで加工してください。

【加工図A】



【加工図B】

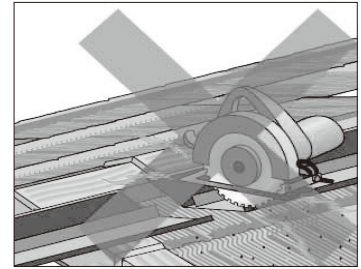


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

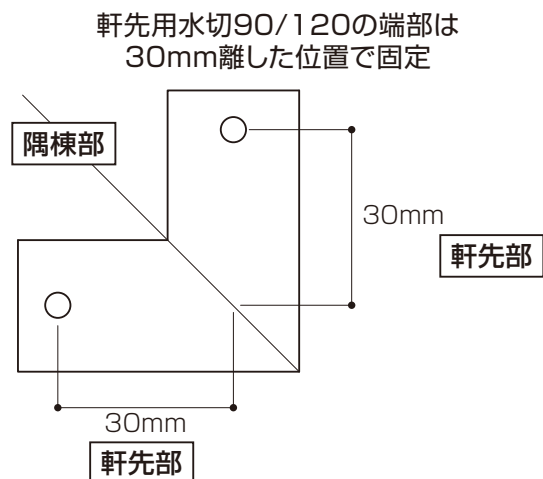
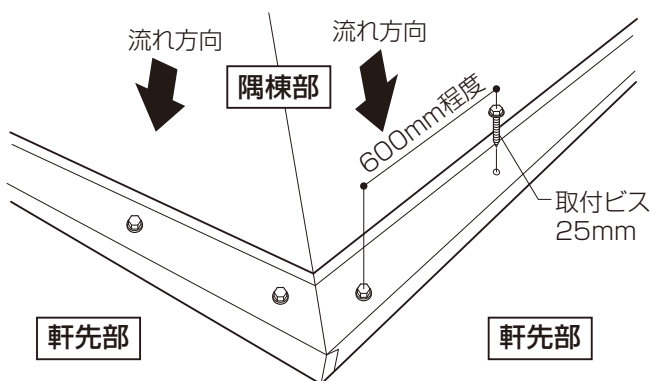
お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



4. 軒先用水切90/120の取付

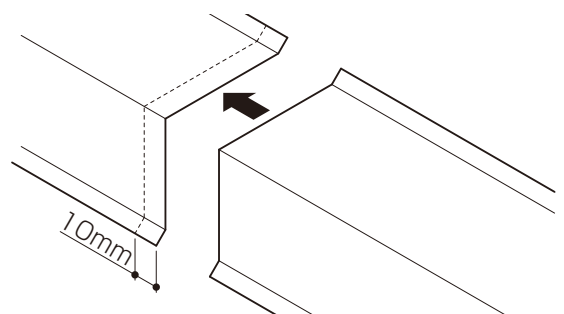
① 軒先用水切90/120を高さ調整用桝木に対して取付ビス25mmで600mm程度の間隔で取付けてください。



▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

② 軒先用水切90/120のジョイント部は10mm重ねてください。

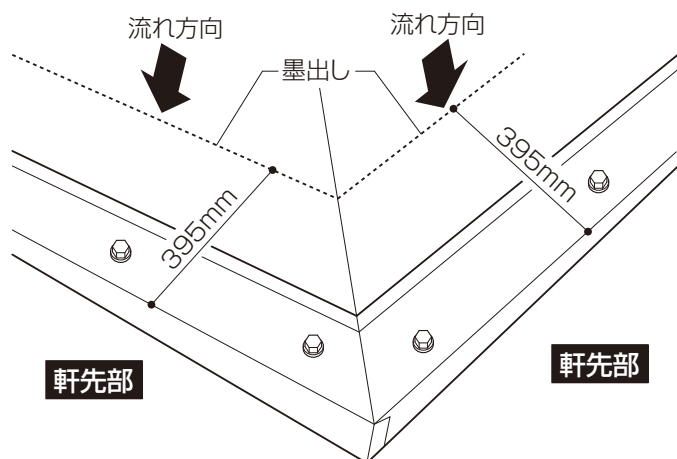


5. 寄棟屋根の場合

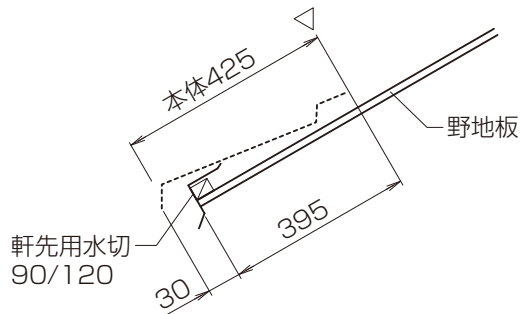
5-2. 屋根本体の取付

1. 屋根本体設置位置の墨出し

①軒先用水切90/120の軒側先端から395mmの位置に墨出ししてください。



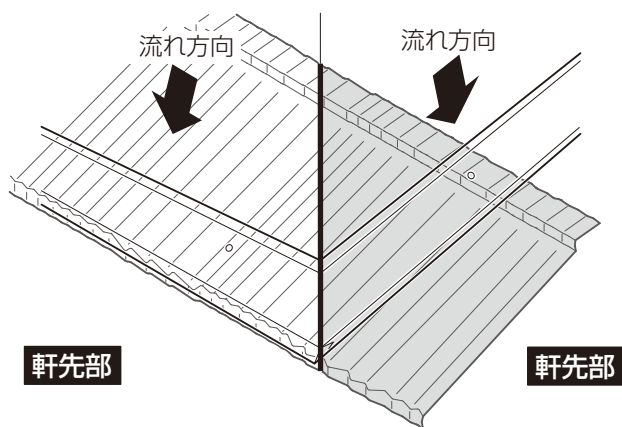
断面イメージ



屋根面からの雨水が雨樋に落ちることを優先してください。

2. 屋根本体の取付

①隅棟部の形状に合わせて屋根本体を切断加工してください。



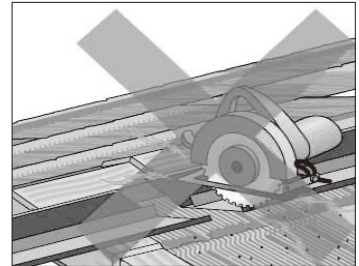
②屋根本体の取付は31ページと同様の手順で取付してください。

▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違えて使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。



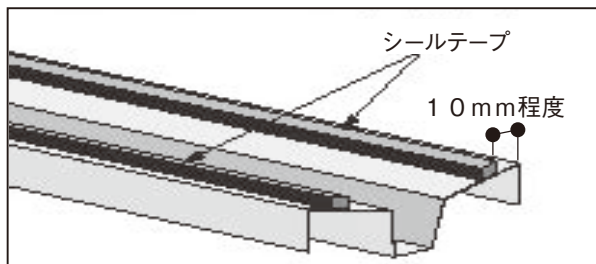
5. 寄棟屋根の場合

5-3. 隅棟部の納まり

1. 通し棟包みの下地準備

①通し棟用水切裏面にシールテープを貼ってください。

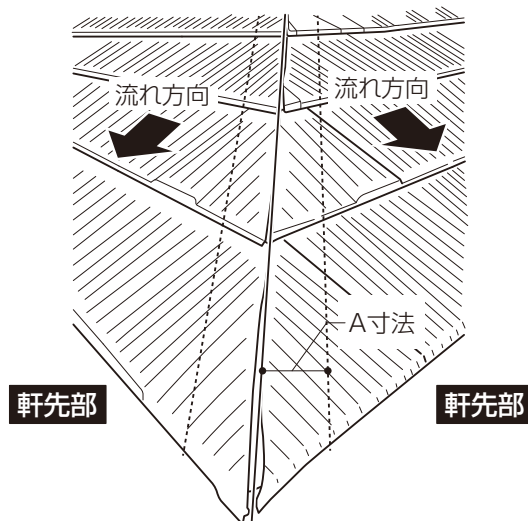
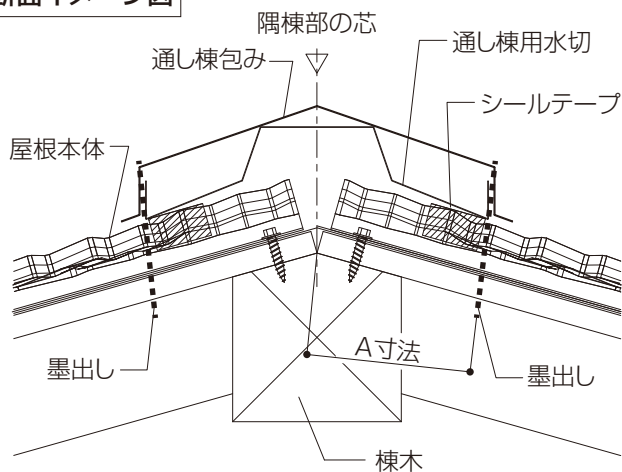
※シールテープは通し棟用水切裏面の端部より10mm程度離して、貼ってください。



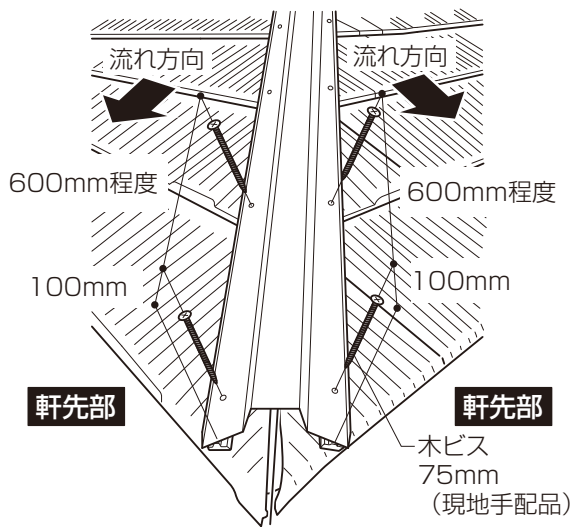
②隅棟部の芯と通し棟包みの頂点部を合わせて棟用水切の取付け位置を確認して墨出しをしてください。

※隅棟部の芯からA寸法は屋根勾配により変わりますので必ず現物を当てて位置出しをしてください。

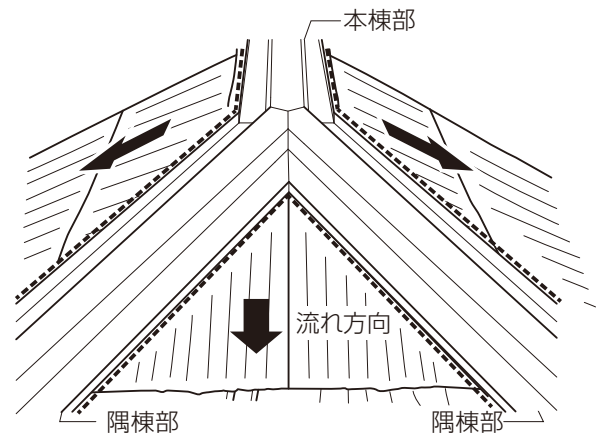
断面イメージ図



③通し棟用水切を墨出し位置に合わせながら屋根本体側に当てて、木ビス75mm(現地手配品)で600mm間隔で取付けてください。



角型ケラバ/棟包みを使用する場合は棟用水切を使用してください。
納まり手順は以下同様です。



▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違っていると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

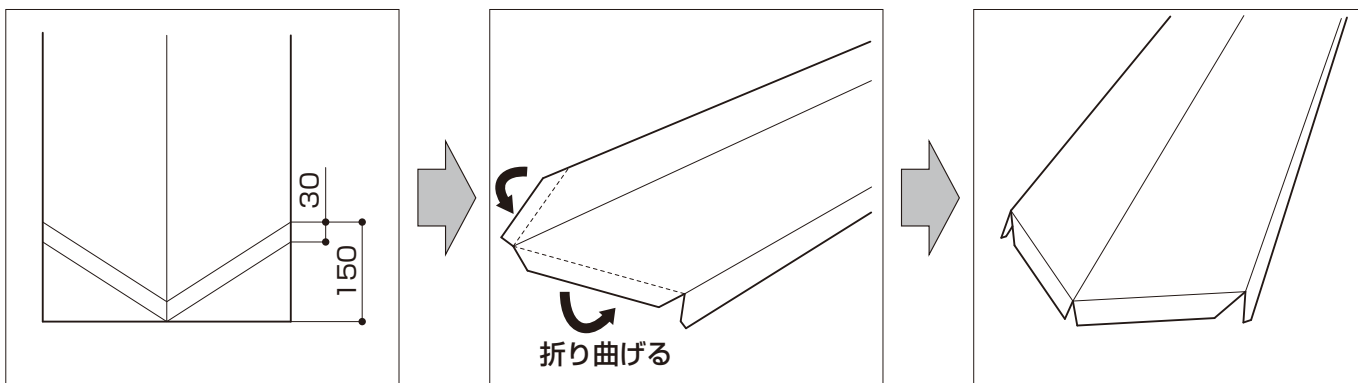
5. 寄棟屋根の場合

5-3. 隅棟部の納まり つづき

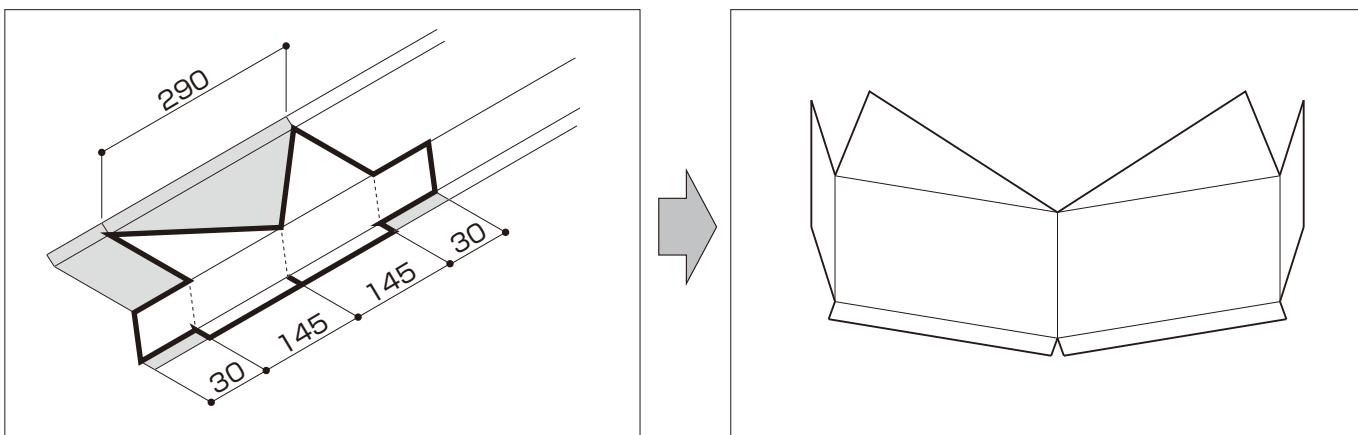
2. 通し棟包みの先端加工

- ①下記の図のように通し棟包みの先端を加工してください。
 ※加工図Bで使用する部材は軒先用水切120を使用します。

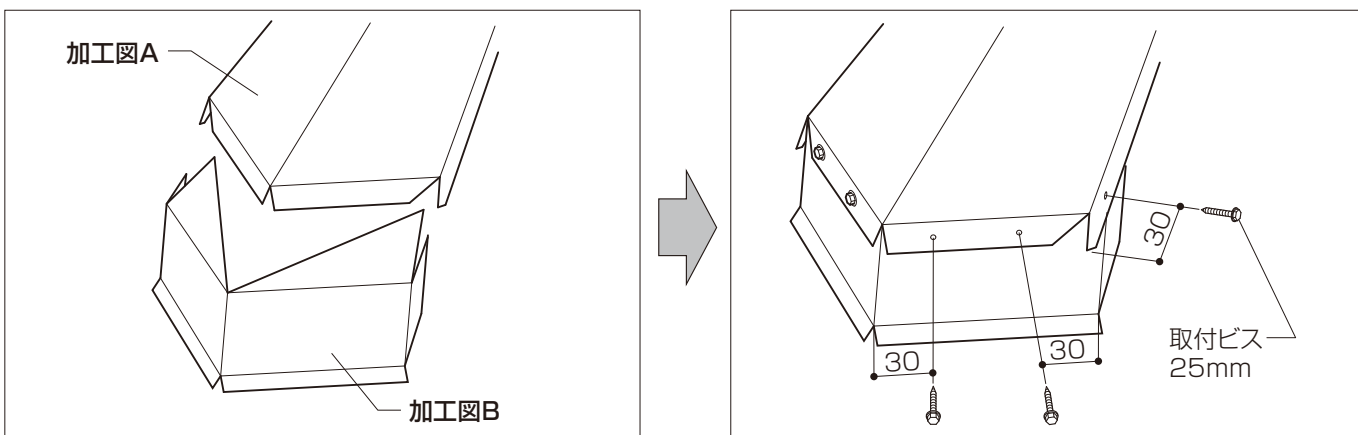
【加工図A】



【加工図B】



加工図Aと加工図Bを組み合わせて、下図のように取付けてください。

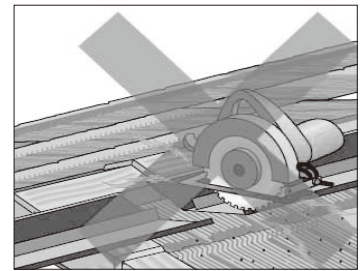


▲ 注意

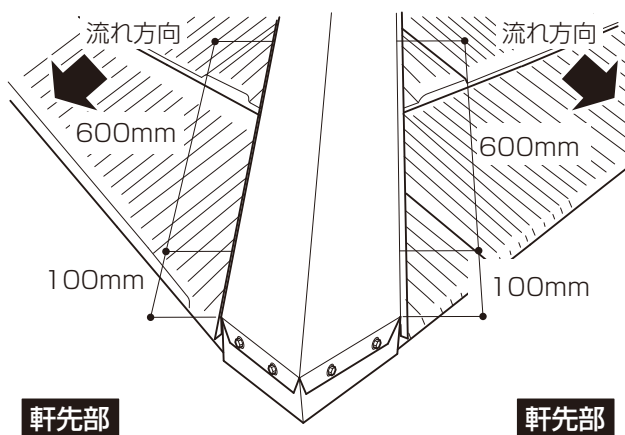
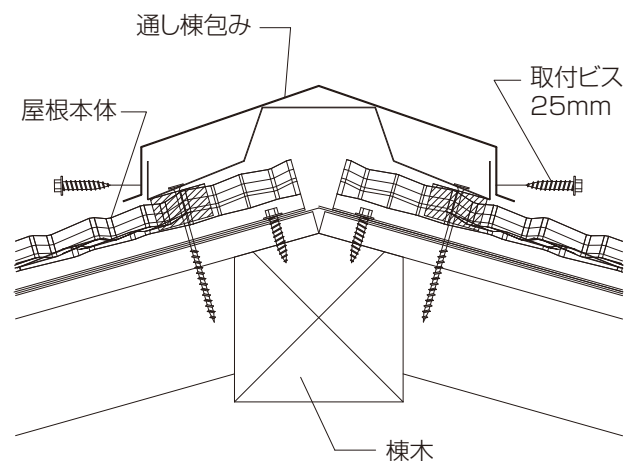
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。

**3. 通し棟包みの取付**

①通し棟包みの両側から取付ビス25mmで600mm程度の間隔で取付けてください。

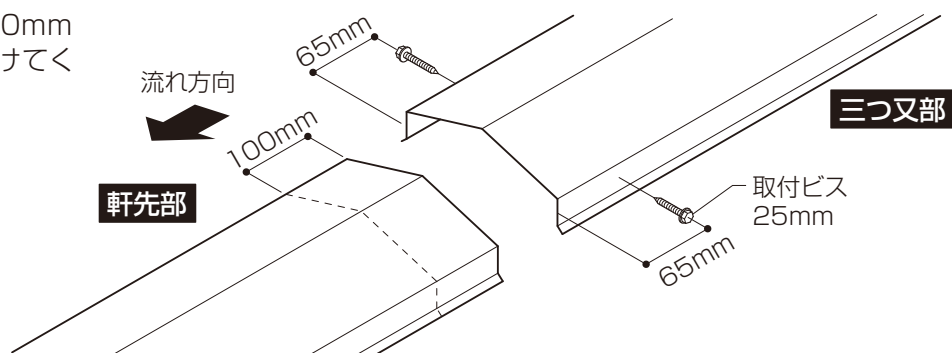
**断面イメージ図****▲ 注意**

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

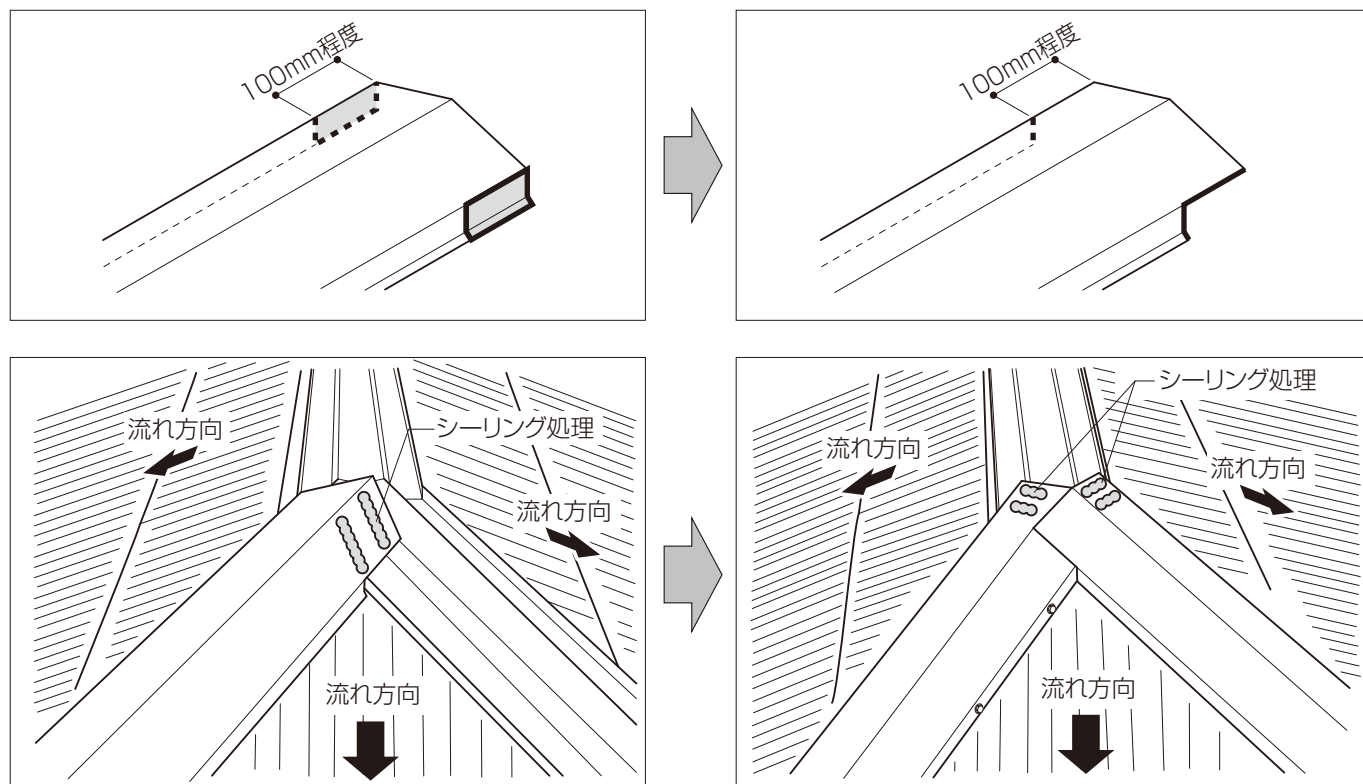
5. 寄棟屋根の場合

5-3. 隅棟部の納まり つづき

② 通し棟包みのジョイント部は100mm重ねて取付ビス25mmで取付けてください。



③ 隅棟部と本棟部の合掌部(三つ又部)は下記のように屋根勾配に合わせて加工して変成シリコンでシーリング処理をしてから取付ビス25mmで取付けてください。

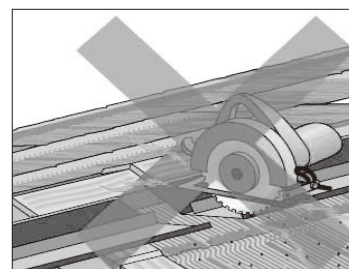


▲ 注意

● 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

● 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



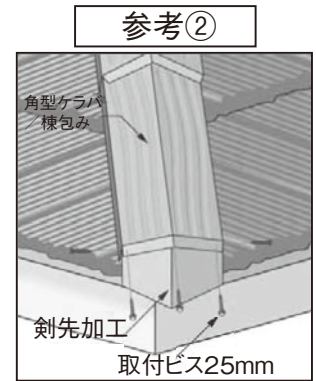
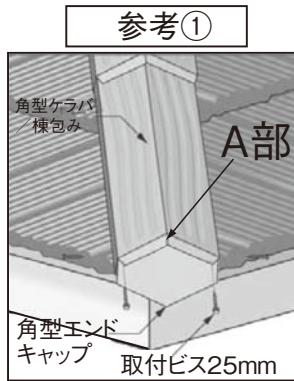
3. 角型ケラバ／棟包みの取付

■角型ケラバ／棟包みの加工と取付

【参考①】参考①のA部にハサミで切り込みを入れてから、取付ビス25mmで2点固定してください。

【参考②】角型ケラバ／棟包みを剣先加工してください。

※参考②の剣先加工した棟包みは変成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)で化粧処理してください。

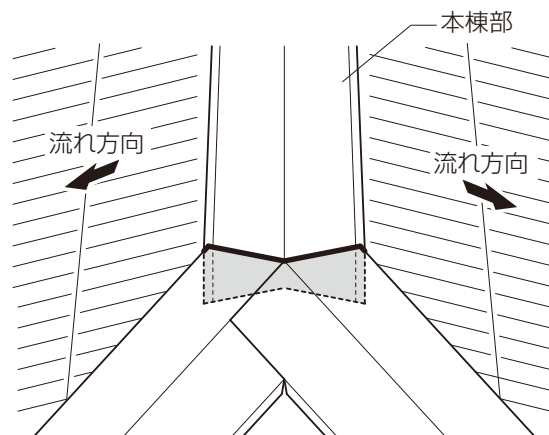


5. 寄棟屋根の場合

5-4. 本棟部の納まり

1. 通し棟包みの取付

①右図のように本棟部の通し棟包み先端を隅棟部の形状に合わせて金切ハサミで加工してください。

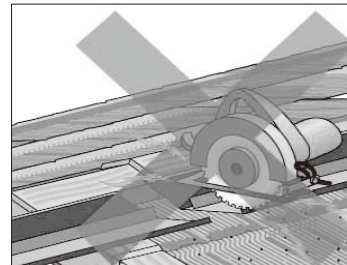


▲ 注意

●屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

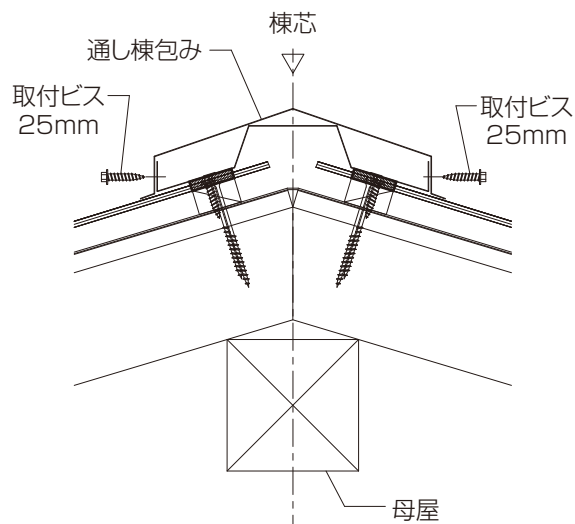
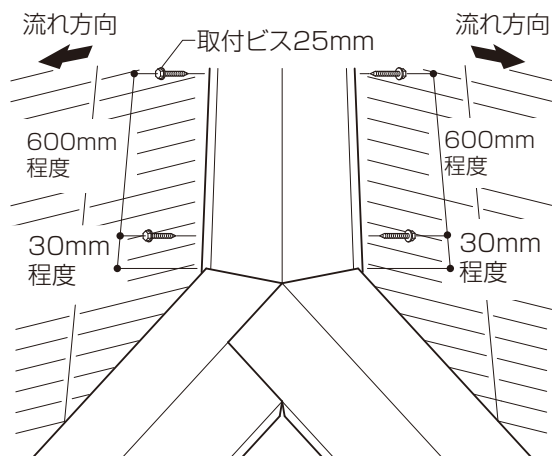
お願い

●屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



②通し棟包みの両側から取付ビス25mmで600mm程度の間隔で取付けてください。

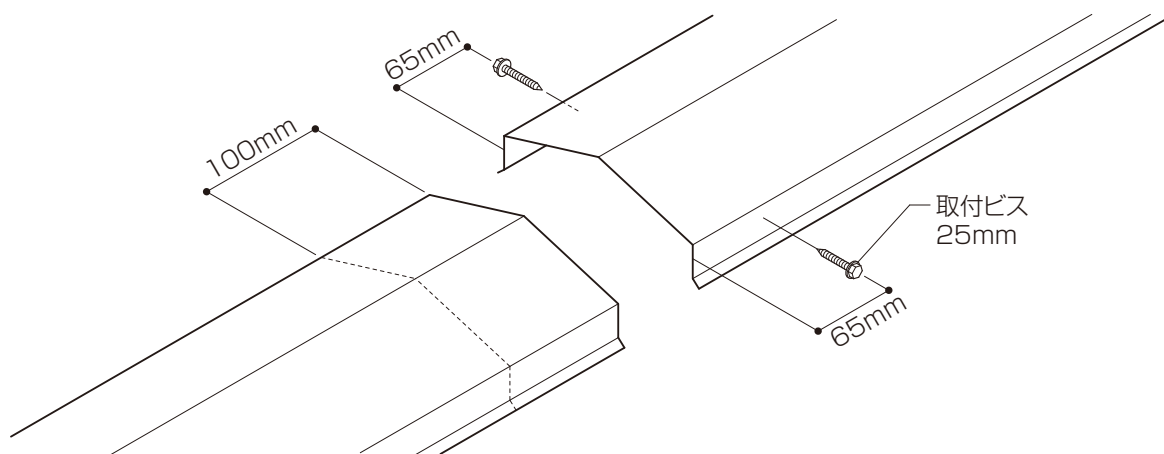
断面イメージ図



▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

③通し棟包みのジョイント部は100mm重ねて取付ビス25mmで取付けてください。

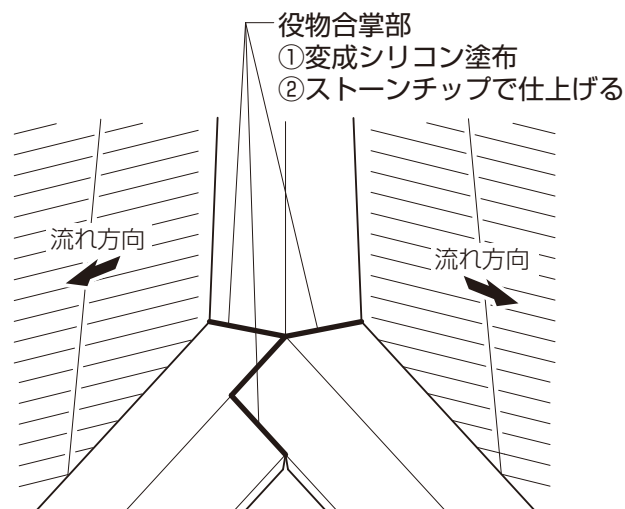
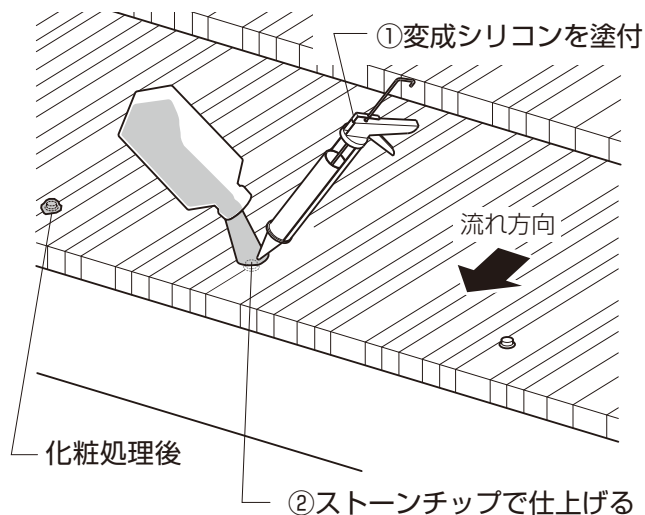


5. 寄棟屋根の場合

5-5. 化粧処理

1. ビス頭と役物加工部の化粧処理

①屋根面に対して脳天に打ったビスの頭と役物加工部の意匠を整える為に変成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)を使用して化粧処理を施してください。



▲ 注意

- 補修材を塗布した後、完全に乾くまでは手足で触れないようにしてください。屋根材やその他の部位を汚してしまうおそれがあります。

お願い

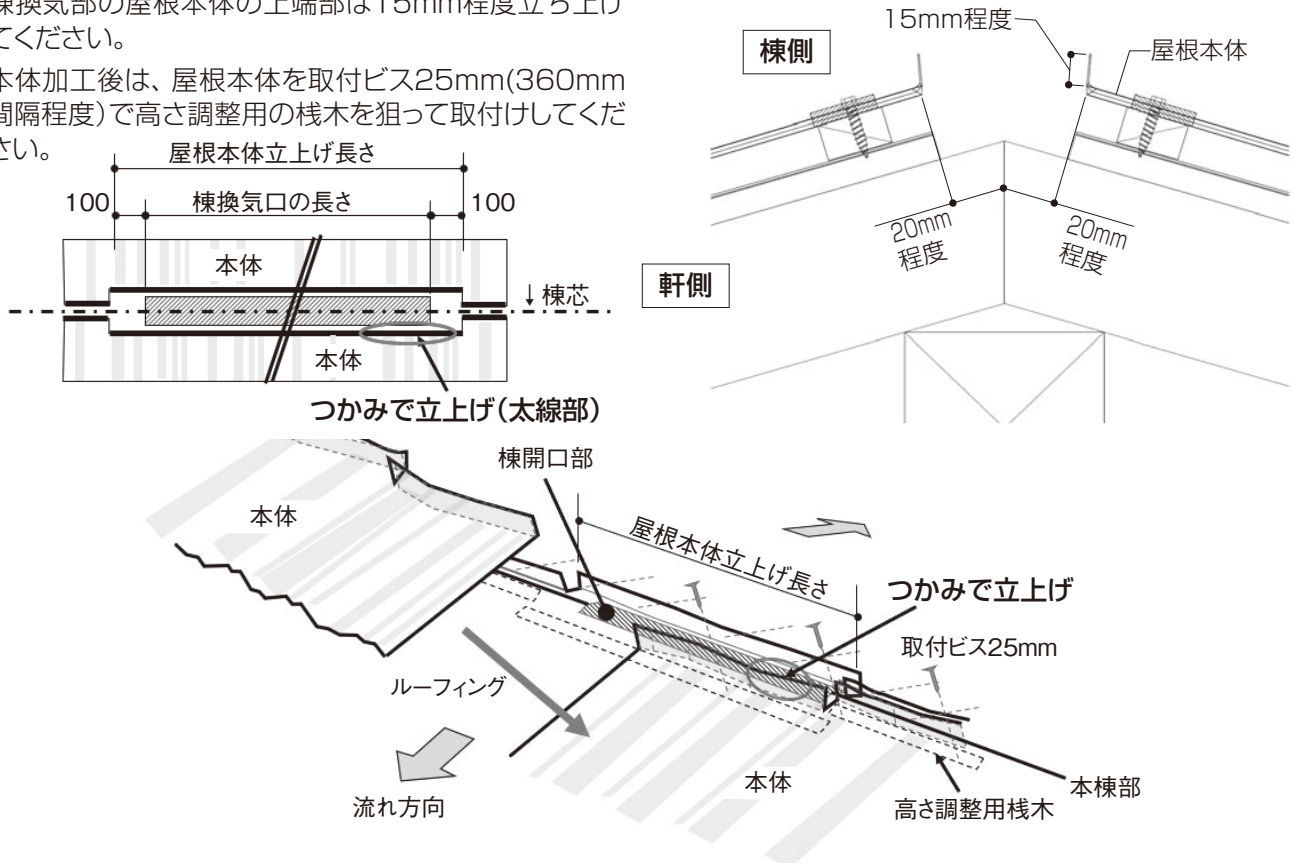
- 補修キットのベースコートの使用環境温度は5℃以上でご使用ください。ベースコートの成分が分離してしまうおそれがあります。

6. 棟換気がある場合

6-1. 棟換気部の納まり <通し棟包み(通し棟用水切)仕様の場合>

■ 棟換気部の屋根材本体の取付

- ①棟換気部の屋根本体の上端部は15mm程度立ち上げてください。
- ②本体加工後は、屋根本体を取付ビス25mm(360mm間隔程度)で高さ調整用の栈木を狙って取付けしてください。

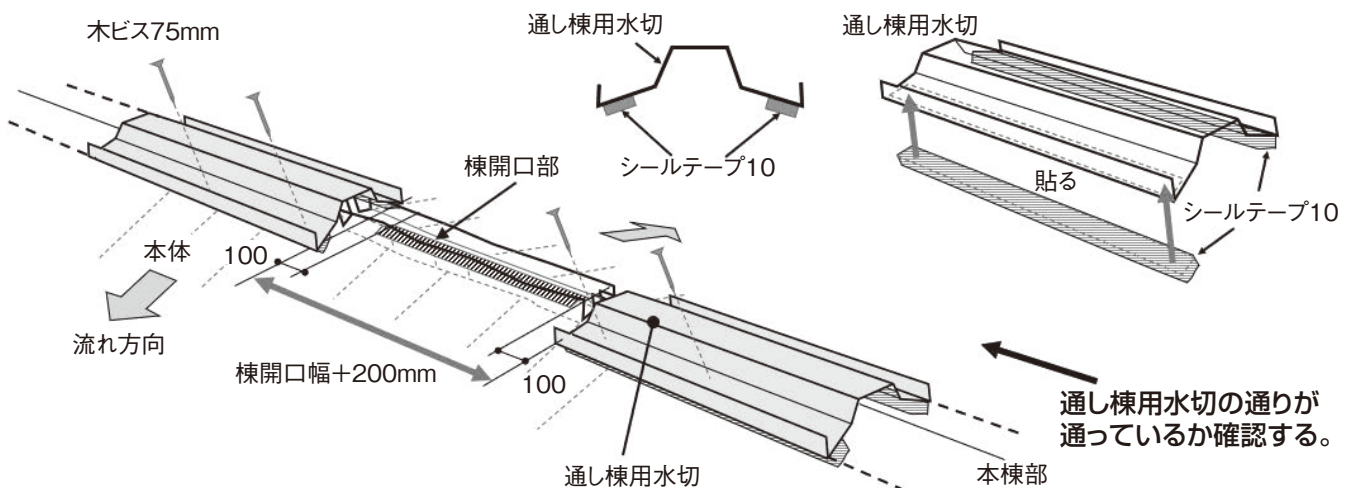


▲ 注意

- 棟換気部材を設置の際には、棟換気部材と平行する箇所の屋根本体水上端部を立ち上げてください。屋根本体を立ち上げないと、雨水が伝わって雨漏りにつながるおそれがあります。

■ 通し棟用水切の取付

- ①通し棟用水切の裏面にシールテープ10を貼ってください。
- ②棟開口部の両端部の手前100mmのところまで通し棟用水切を納めます。



6. 棟換気がある場合

6-1. 棟換気部の納まり <通し棟包み(通し棟用水切)仕様の場合> つづき

■ 棟換気と棟換気カバーの取付

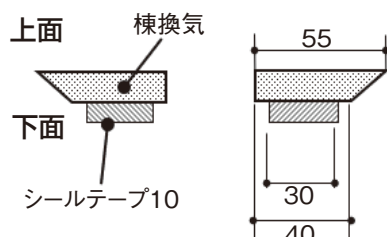
①棟換気の下面にシールテープ10を貼り、木ビス75mm(180mm間隔程度)で、換気カバーと位置を合わせて取付けてください。

②棟換気部材の裏面(幅が40mmの面)の中心に合わせてシールテープ10を貼り付けてください。

③棟換気の下面にシールテープ10を貼ったら、木ビス75mm(180mm間隔程度)で、棟換気カバーをあてがって位置を合わせて取付けてください。

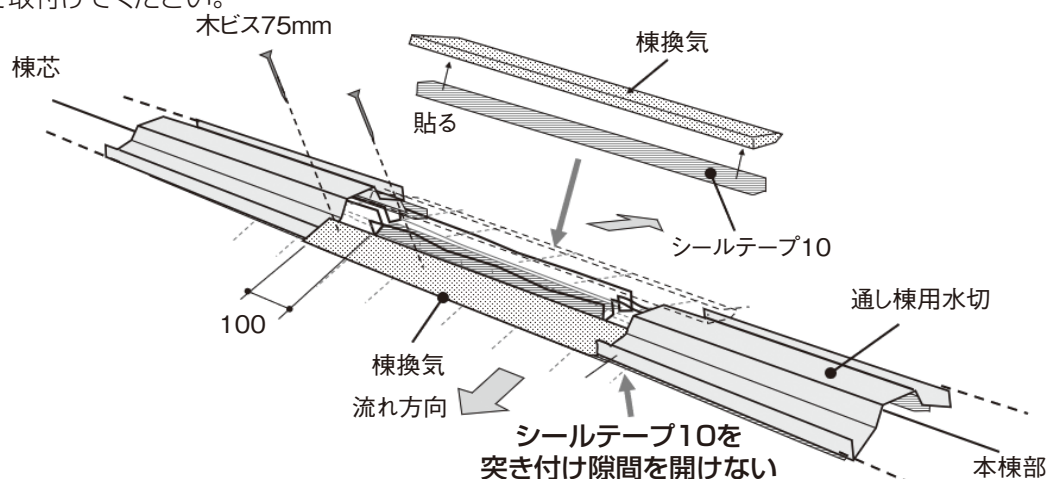
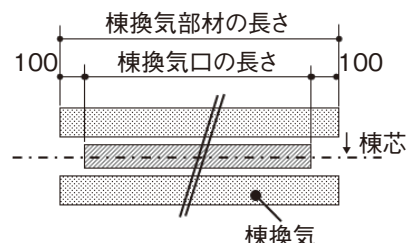
<シールテープ10貼り位置 説明図>

棟換気部材の裏面(幅が40mmの面)の中心に合わせてシールテープ10を貼り付けてください。



<棟換気部材の長さ 説明図 平面図>

棟換気部材の加工寸法=棟換気口の長さ+200mm
※棟換気部材 製品長さ:1820mm

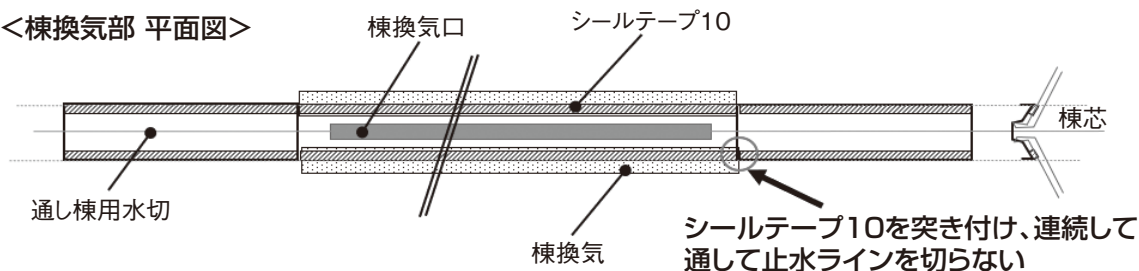


※シールテープ10は隙間ができないように貼り、ねじれないように取付けてください。

※棟水切下のシールテープ10と棟換気下のシールテープ10の間に隙間ができないようにしてください。

下図のように並べて貼る場合は100mm重ねてください。

<棟換気部 平面図>

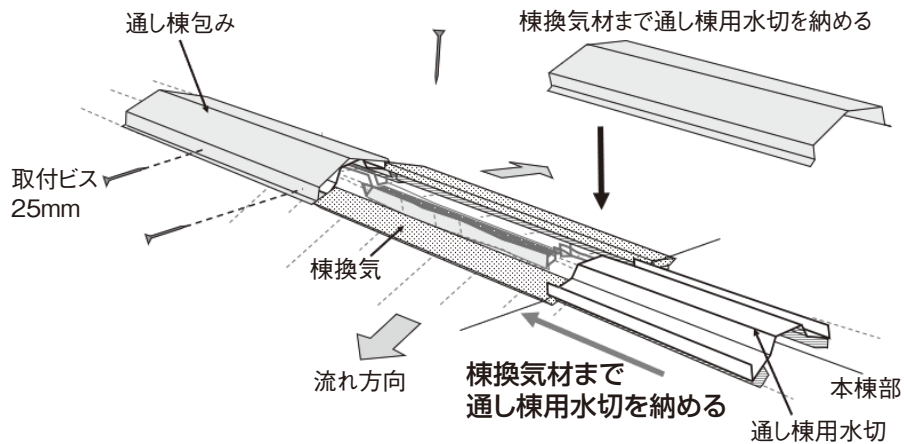


▲ 注意

- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク: 1.5N / m)
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違えて使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

■ 本棟部の納め

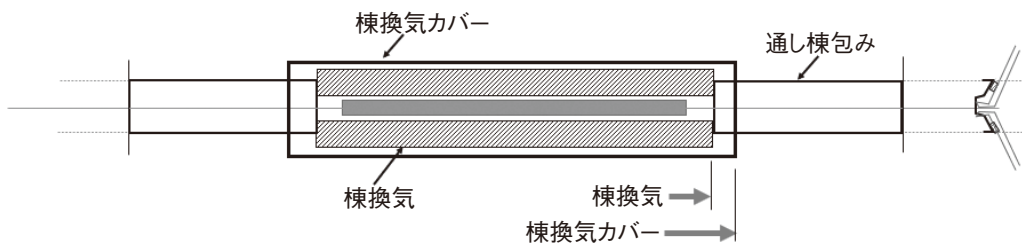
- ①棟開口部が無い部分は、通常通り通し棟包みを納めてください。
- ②棟換気材まで通し棟包み(通し棟用水切)を納めます。



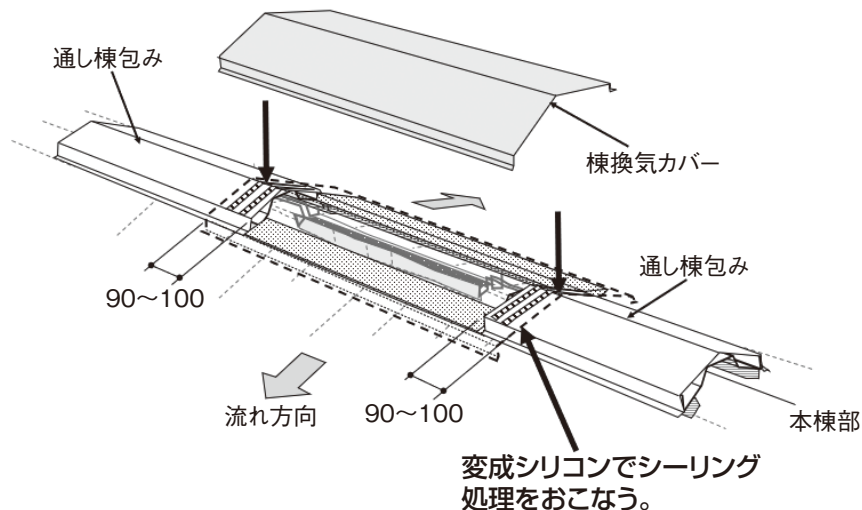
- ③棟換気カバーで棟換気をカバーします。棟換気に対して180~200mm足した長さになるように棟換気カバーを金切ハサミでカットします。

<棟換気部材の長さ 説明図 平面図>

棟換気カバーの加工寸法=棟換気の長さ+(180~200mm)
 ※角型ケラバ/棟包み用棟換気カバー 製品長さ:2000mm



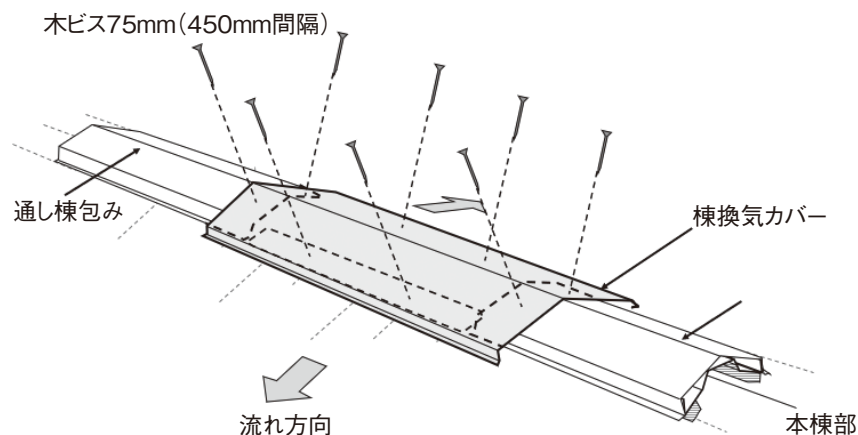
- ④重ね部には変成シリコンでシーリング処理をして棟換気カバーを棟換気上にかぶせてください。



6. 棟換気がある場合

6-1. 棟換気部の納まり <通し棟包み(通し棟用水切)仕様の場合> つづき

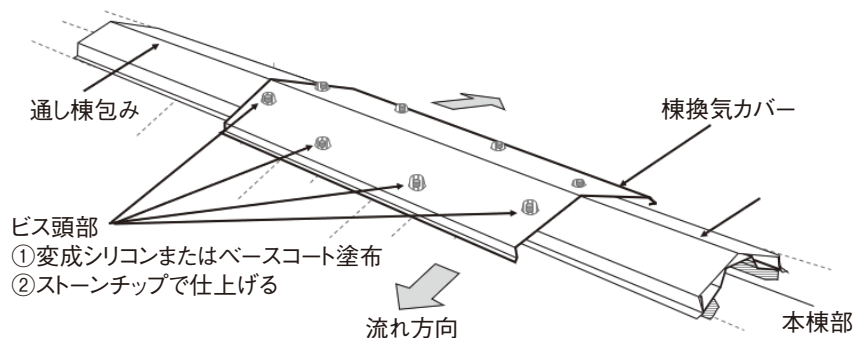
⑤木ビス75mm(現地調達品)で450mm間隔程度で取付けしてください。



▲ 注意

- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違っても使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

⑥棟換気カバーと通し棟包みに脳天からビス打ちしたビス頭には変成シリコンでシーリングして化粧処理をしてください。

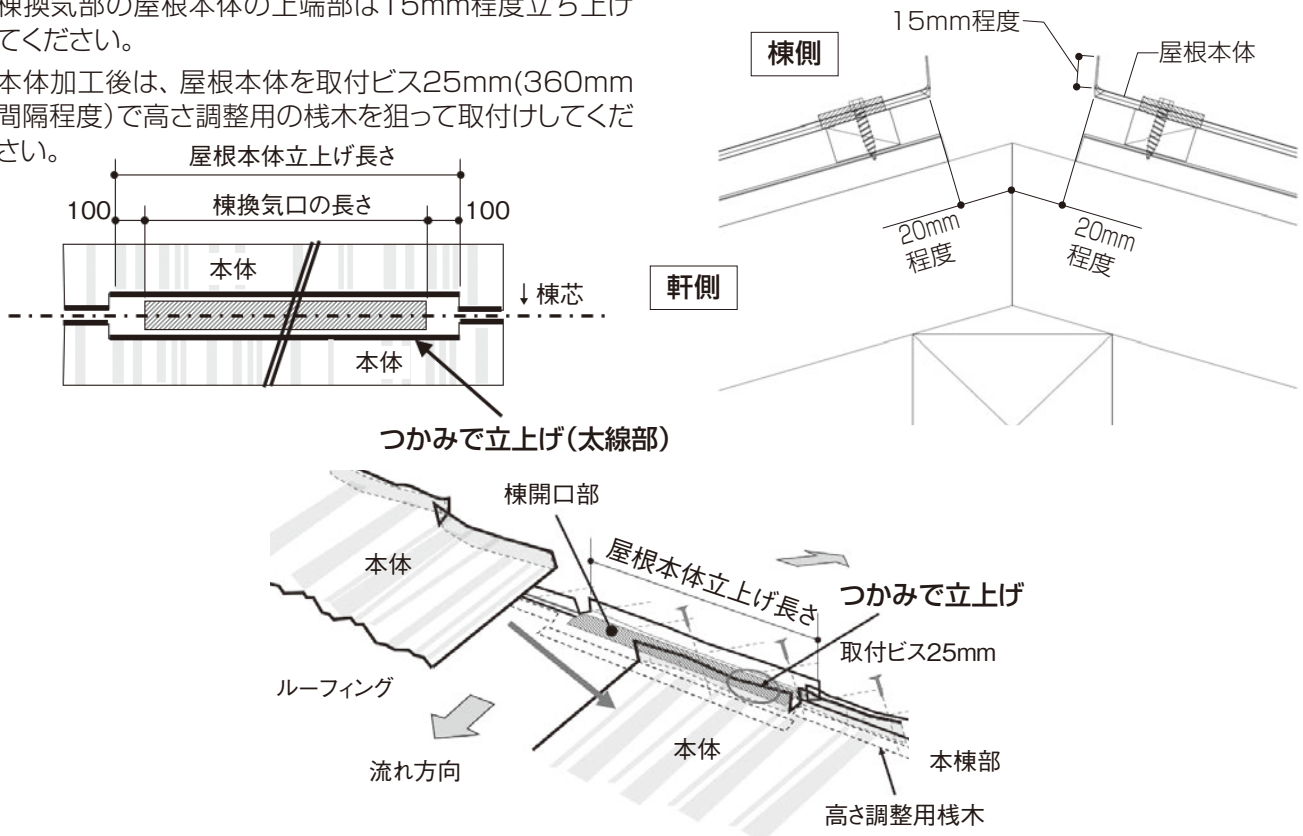


6. 棟換気がある場合

6-2. 棟換気部の納まり <角型ケラバ／棟包み(棟用水切)仕様の場合>

■ 棟換気部の屋根材本体の取付

- ① 棟換気部の屋根本体の上端部は15mm程度立ち上げてください。
- ② 本体加工後は、屋根本体を取付ビス25mm(360mm間隔程度)で高さ調整用の栈木を狙って取付けしてください。

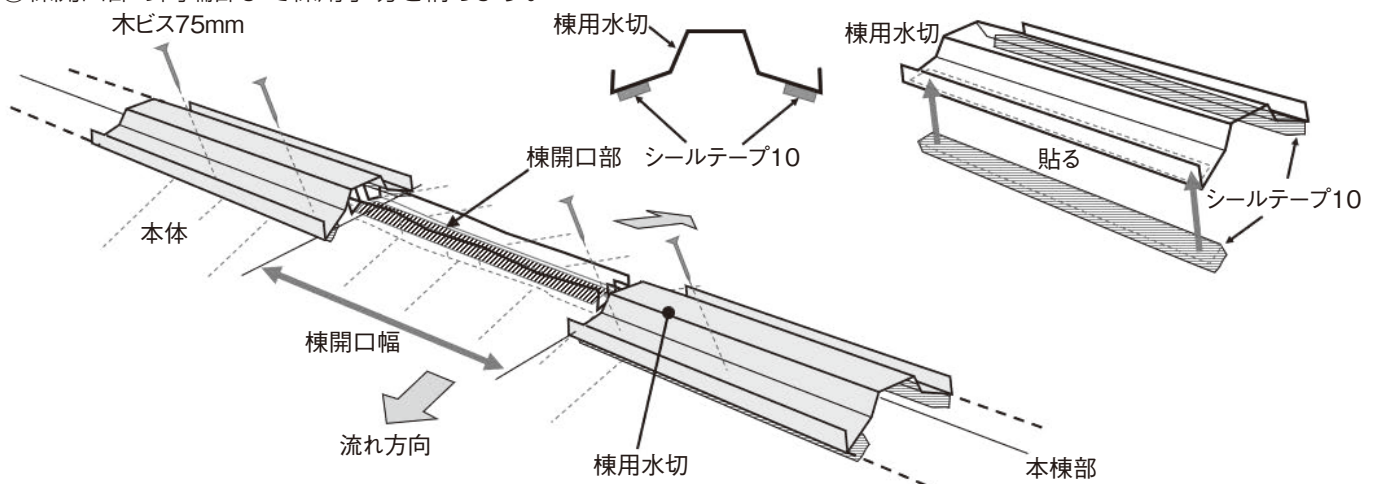


▲ 注意

- 棟換気部材を設置の際には、棟換気部材と平行する箇所の屋根本体水上端部を立ち上げてください。屋根本体を立ち上げないと、雨水が伝わって雨漏りにつながるおそれがあります。

■ 棟用水切の取付

- ① 棟用水切の裏面にシールテープ10を貼ってください。
- ② 棟開口部の両端部まで棟用水切を納めます。



6. 棟換気がある場合

6-2. 棟換気部の納まり <角型ケラバ／棟包み(棟用水切)仕様の場合> つづき

■ 棟換気と棟換気カバーの取付

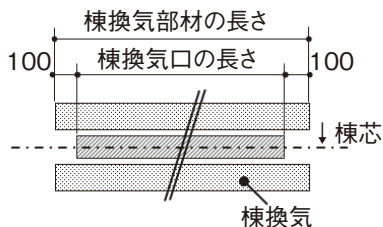
①棟換気口の長さに応じて棟換気部材を
カッターでカットしてください。
棟換気部材のカット寸法は右図に従って
ください。

②棟換気部材の裏面(幅が40mmの面)の
中心に合わせてシールテープ10を張り
付けてください。

③棟換気の下面にシールテープ10を貼ったら、木ビス75mm(180mm間隔程度)で、角型ケラバ／棟包み用棟換気
カバーをあてがって位置を合わせて取付けてください。

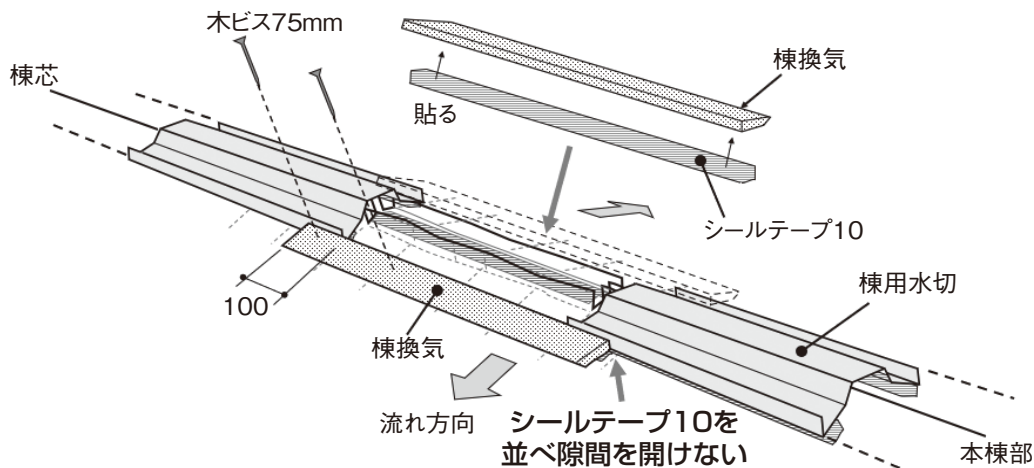
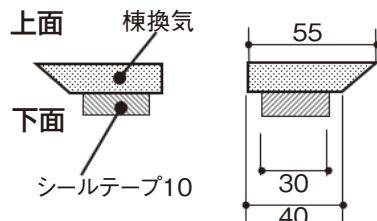
<棟換気部材の長さ 説明図 平面図>

棟換気部材の加工寸法=棟換気口
の長さ+200mm
※棟換気部材 製品長さ:1820mm



<シールテープ10貼り位置 説明図>

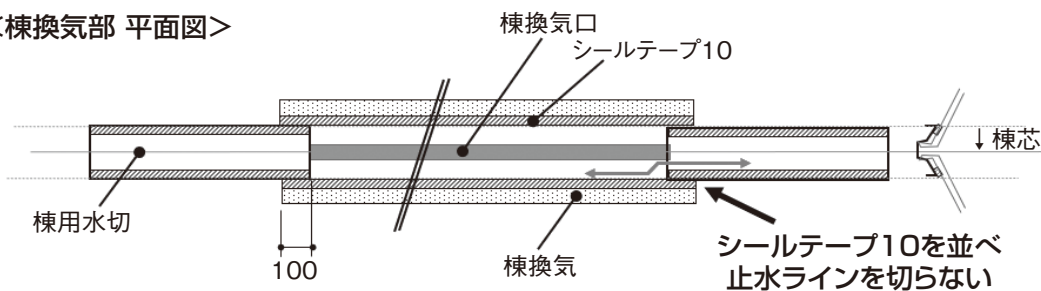
棟換気部材の裏面(幅が40mmの
面)の中心に合わせてシールテープ
10を貼り付けてください。



※シールテープ10は隙間ができないように貼り、ねじれないように取付けてください。

※棟水切下のシールテープ10と棟換気下のシールテープ10の間に隙間ができないようにしてください。
下図のように並べて貼る場合は100mm重ねてください。

<棟換気部 平面図>

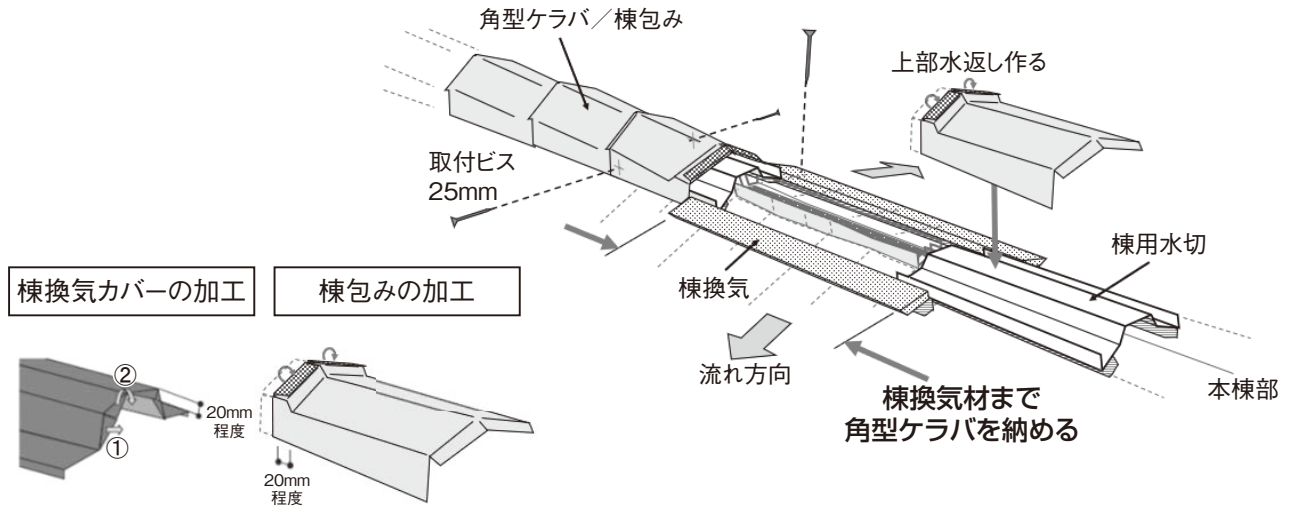


▲ 注意

- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違っていると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

■ 本棟部の納め

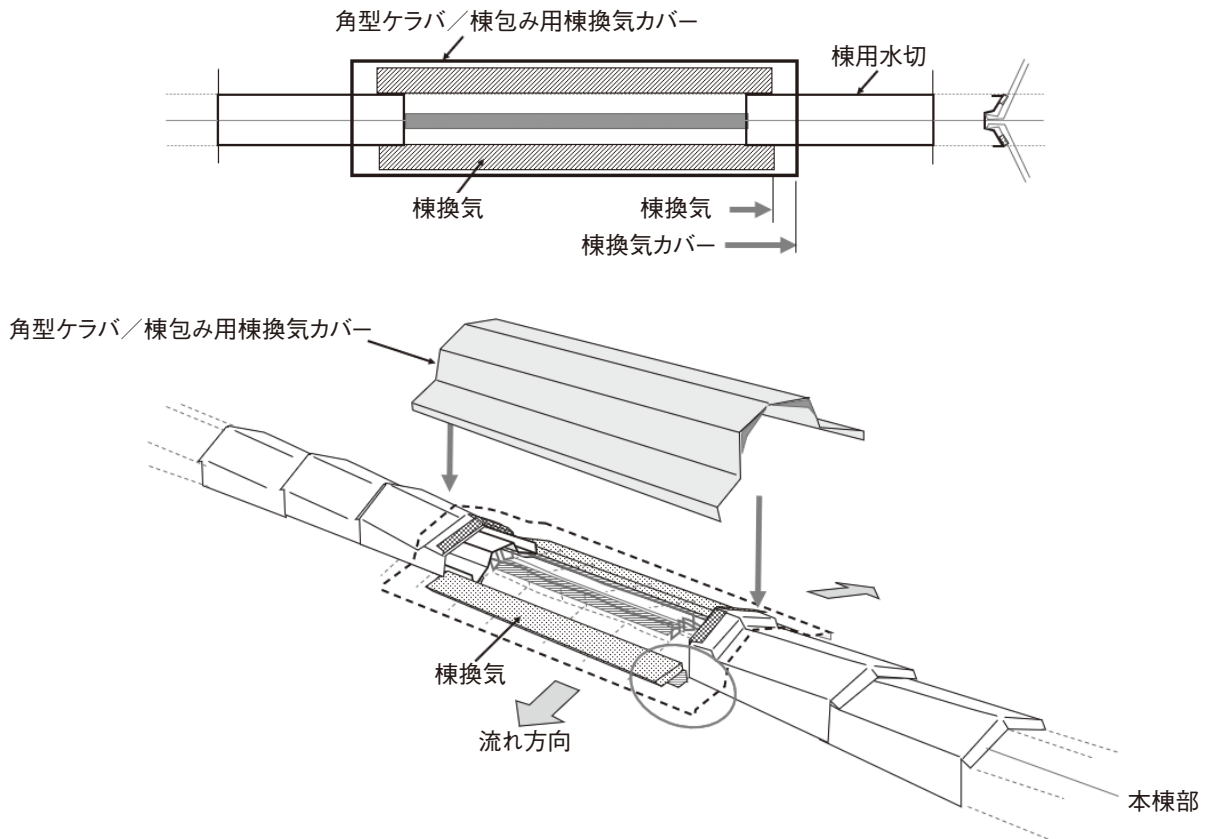
- ①棟開口部が無い部分は通常通り納めてください。(詳細は34ページ参照)
- ②棟換気カバーを棟包みに合わせて下図のように加工してください。



- ③角型ケラバ/棟包み用棟換気カバーで棟換気部材をカバーします。
棟換気材に対して180~200mm足した長さになるように棟換気カバーを金切ハサミでカットします。

<棟換気部材の長さ 説明図 平面図>

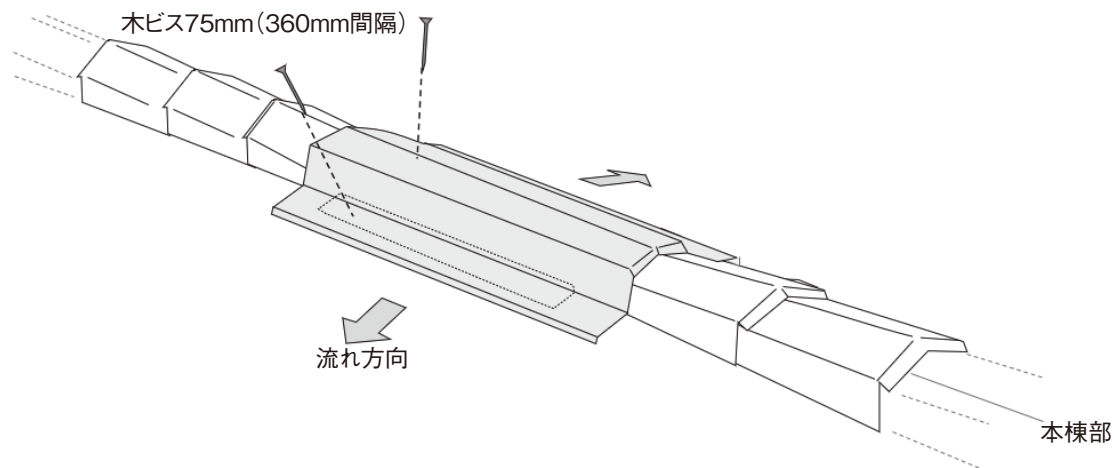
角型ケラバ/棟包み用棟換気カバーの加工寸法=棟換気材の長さ+(180~200mm)
※角型ケラバ/棟包み用棟換気カバー 製品長さ:2000mm



6. 棟換気がある場合

6-2. 棟換気部の納まり <角型ケラバ／棟包み(棟用水切)仕様の場合> つづき

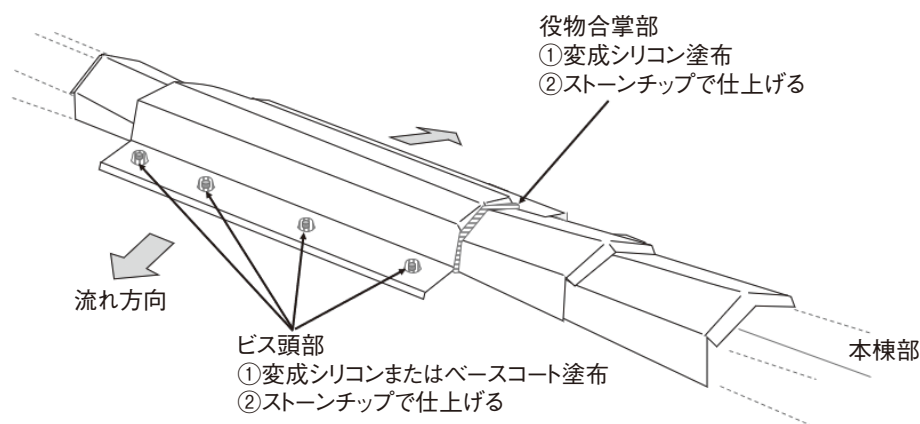
④角型ケラバ／棟包み用棟換気カバーを木ビス75mm(360mm間隔)で取付けてください。



▲ 注意

- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違っていると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

⑤角型ケラバ／棟包み用棟換気カバーと角型ケラバ／棟包みに脳天からビス打ちしたビス頭には、変成シリコンでシーリングして化粧処理をしてください。

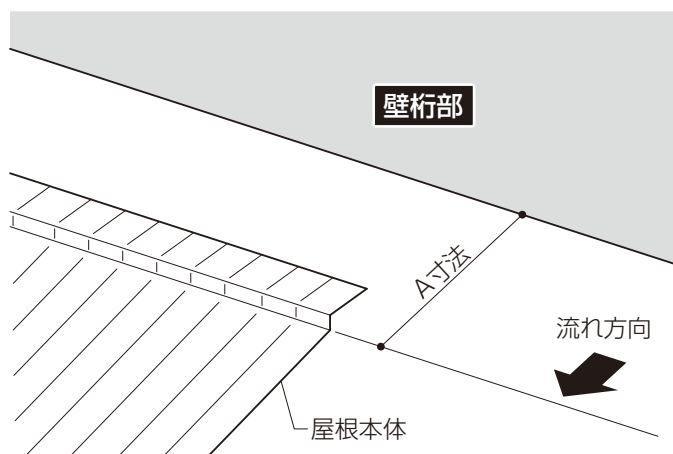


7. 壁取り合いがある場合

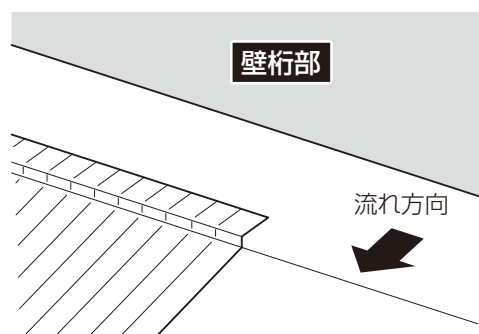
7-1. 壁桁部の納まり

1. 屋根本体の取付

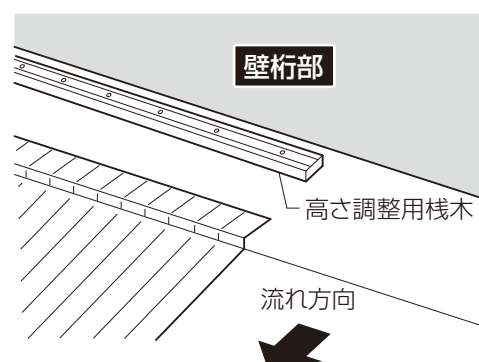
①壁桁部まで屋根本体を葺いてください。一番最上段の屋根本体は寸法により高さ調整用栈木を取付けてから施工してください。(高さ調整用栈木の仕様は軒先部と同様です)



【A寸法が260mmを超える場合】
高さ調整用栈木は不要です。



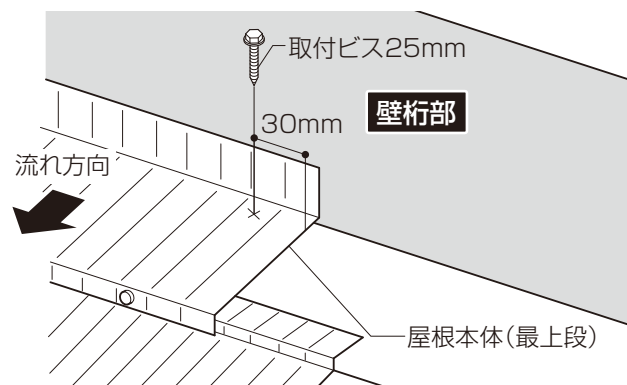
【A寸法が260mm未満の場合】
高さ調整用栈木が必要です。



7. 壁取り合いがある場合

7-1. 壁桁部の納まり つづき

②一番最上段の屋根本体は図のように30mm立ち上げて取付してください。

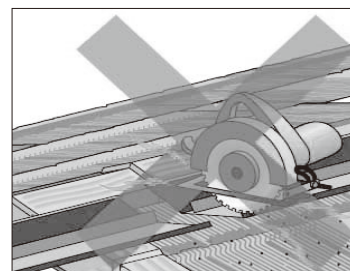


▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

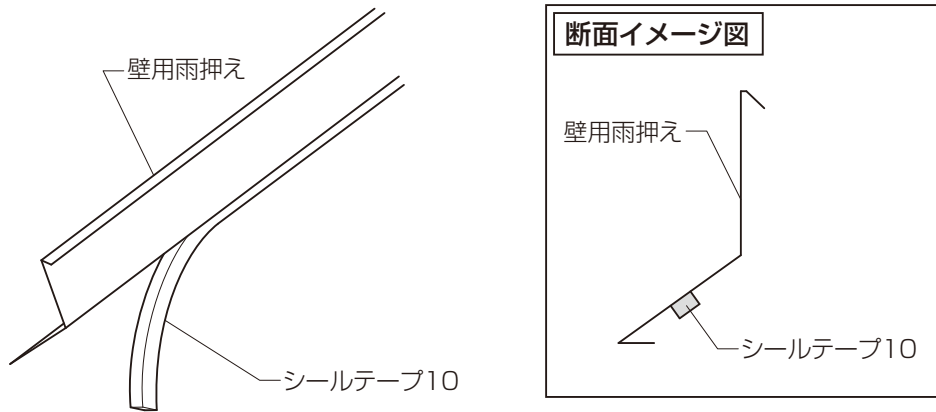
お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。

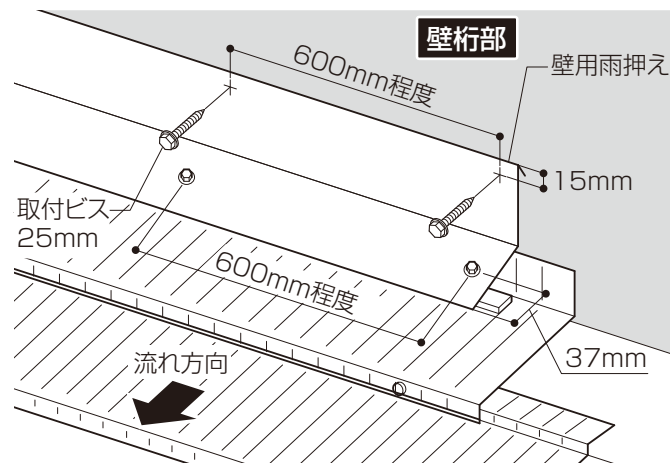


2. 壁用雨押えの取付

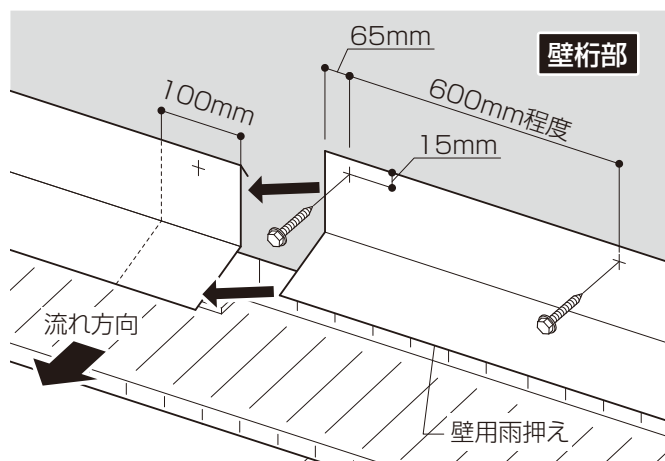
①壁用雨押えの裏面(貼り付ける面の中心)にシールテープ10を貼り付けてください。



②壁用雨押えを屋根本体と壁面に当てて、取付ビス25mmで600mm程度の間隔で取付けてください。



③壁用雨押えのジョイント部は100mm重ねてください。



7. 壁取り合いがある場合

7-1. 壁桁部の納まり つづき

▲ 注意

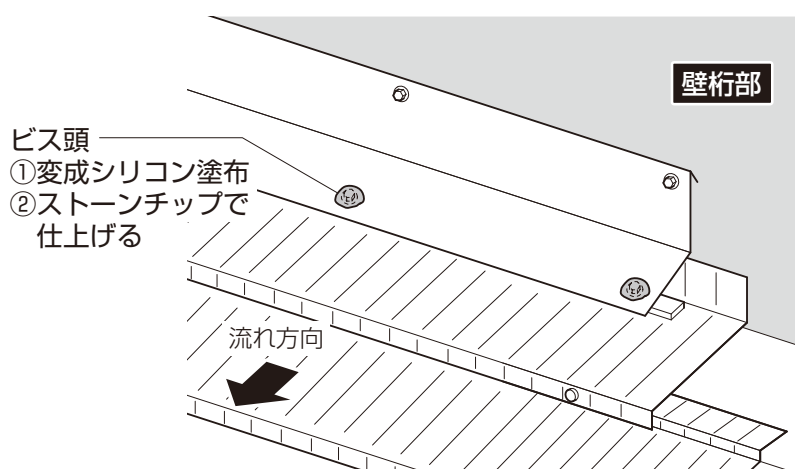
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違えて使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

- 壁用雨押えの取付け位置は、屋根材と壁面の通りを確認してから取付けてください。通りを確認しないで施工すると外壁、壁用雨押え、屋根本体のそれぞれのすき間が揃わず、意匠性が低下するおそれがあります。

3. 化粧処理

①壁用雨押えの屋根面に対して脳天から打ったビス頭を变成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)で化粧処理をしてください。



▲ 注意

- 補修材を塗布した後、完全に乾くまでは手足で触れないようにしてください。屋根材やその他の部位を汚してしまうおそれがあります。

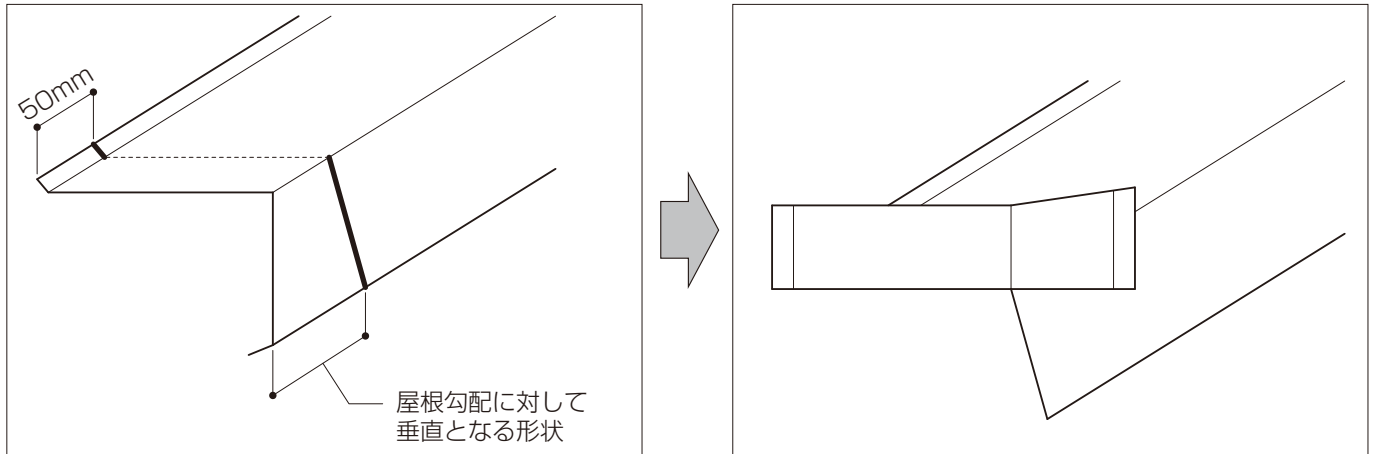
お願い

- 補修キットのベースコートの使用環境温度は5℃以上でご使用ください。ベースコートの成分が分離してしまうおそれがあります。

7-2. 壁桁部とケラバ部の納まり

1. ケラバ用水切の加工

①壁桁部と合掌するケラバ用水切の先端を金切ハサミで加工して50mm壁桁部に面するように立ち上げてください。

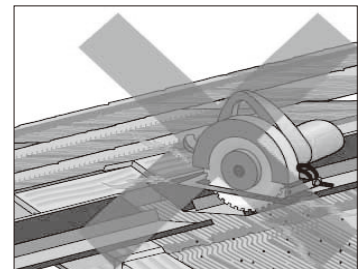


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

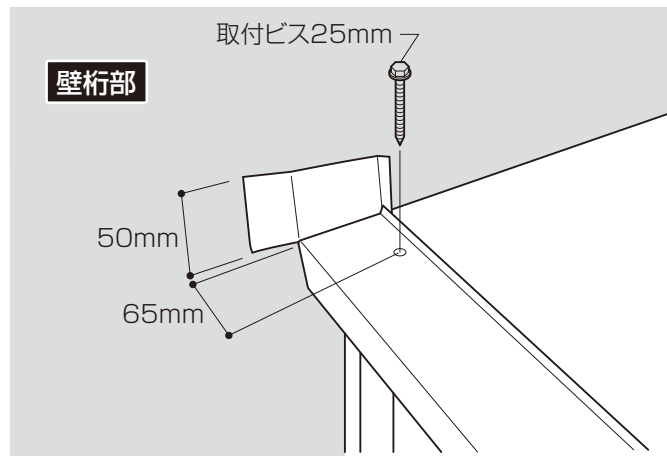
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



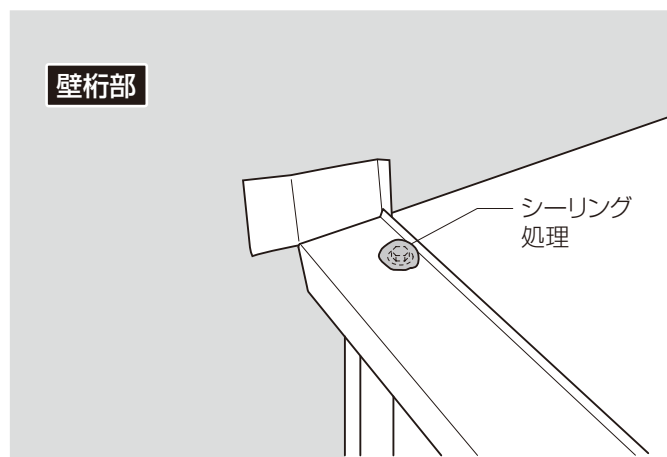
7. 壁取り合いがある場合

7-2. 壁桁部とケラバ部の納まり つづき

②加工したケラバ用水切を取付ビス25mmで取付けてください。



③ケラバ用水切を固定したビス頭を変成シリコンでシーリング処理をしてください。



▲ 注意

- 水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りにつながるおそれがあります。

2. 屋根本体の取付

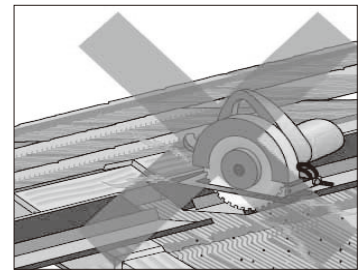
①31～36ページと同様の手順で施工してください。

▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態ですら強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。

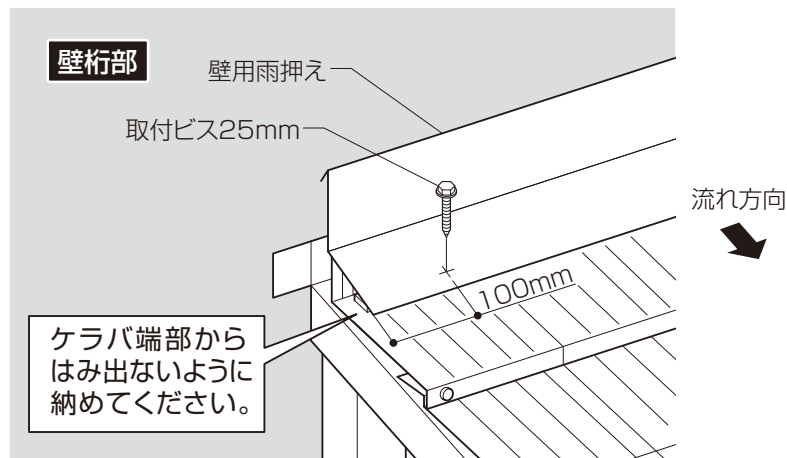


7. 壁取り合いがある場合

7-2. 壁桁部とケラバ部の納まり つづき

3. 壁用雨押えの取付

①75ページと同様の手順で壁用雨押えを取付けてください。



▲ 注意

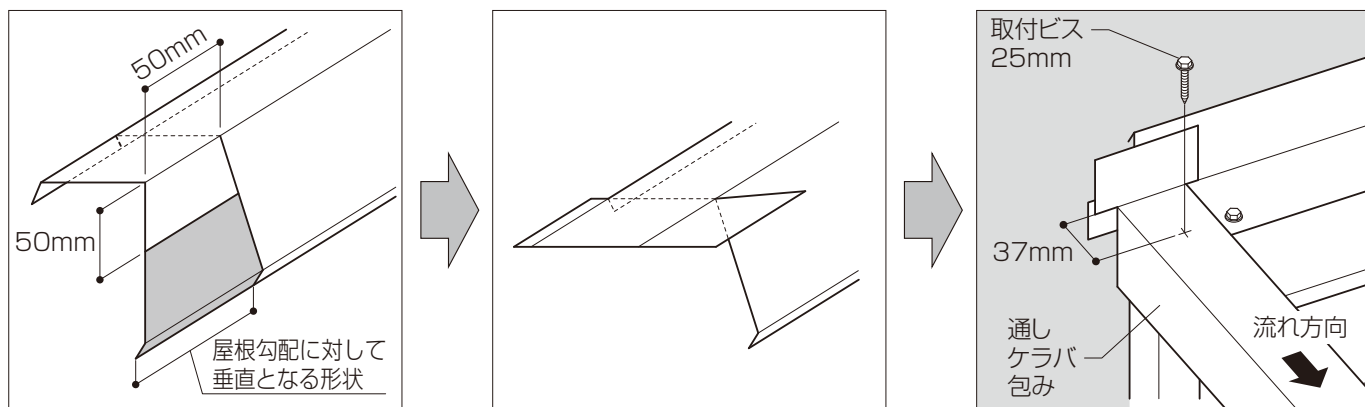
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

- 壁用雨押えの取付け位置は、屋根材と壁面の通りを確認してから取付けてください。通りを確認しないで施工すると外壁、壁用雨押え、屋根本体のそれぞれのすき間が揃わず、意匠性が低下するおそれがあります。

4. 通しケラバ包みの取付

①壁桁部と合掌する通しケラバ包みの先端を金切ハサミで加工して50mm立ち上げてください。



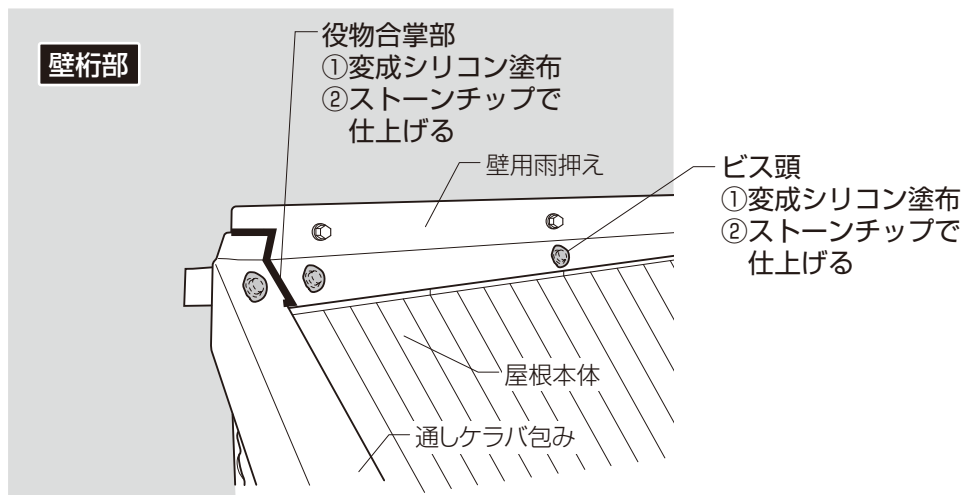
②通しケラバ包みを37～38ページの手順に従い、取付けてください。

▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違ってしまうと屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

5. 化粧処理

①通しケラバ包みと壁用雨押えの合掌部と固定したビス頭を变成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)で化粧処理を施してください。

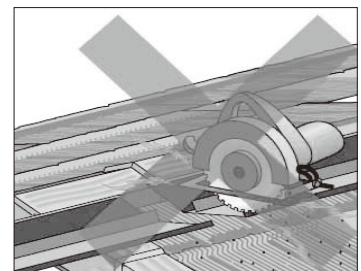


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



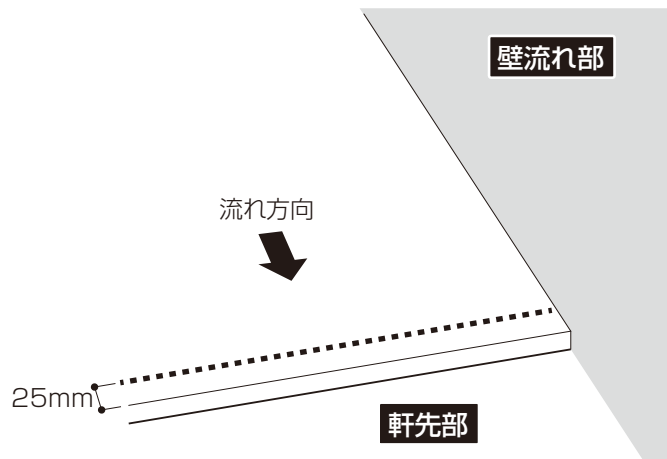
7. 壁取り合いがある場合

7-3. 壁流れ部の納まり

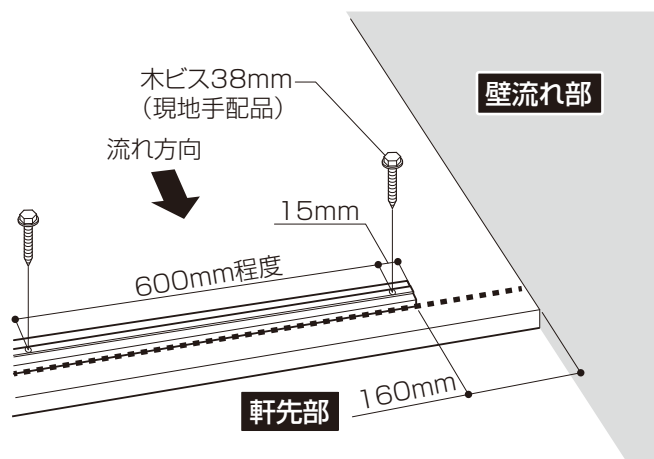
1. 高さ調整用棧木の取付

①軒先部先端から棟側25mmの位置に墨出しをしてください。

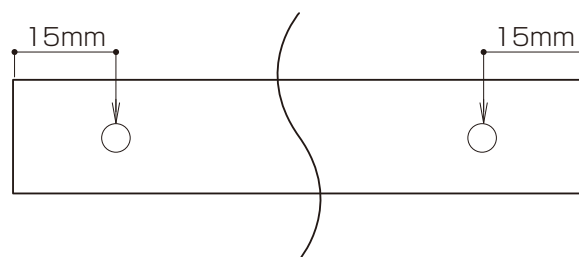
※高さ調整用棧木の仕様は23ページを参照



②高さ調整用棧木の水下部を取付位置と壁流れ端部から120mm離れた位置に合わせて、木ビス38mm (現地手配品)で600mm程度の間隔で取付けてください。



高さ調整用棧木の両端部は
15mm離れた位置で固定



▲ 注意

- 使用する棧木は樹脂製又は防腐処理を施した棧木且つ水抜き加工されている物(軒先部のみ)をご使用ください。遵守しないと棧木が腐食して屋根材の強度を失うおそれがあります。

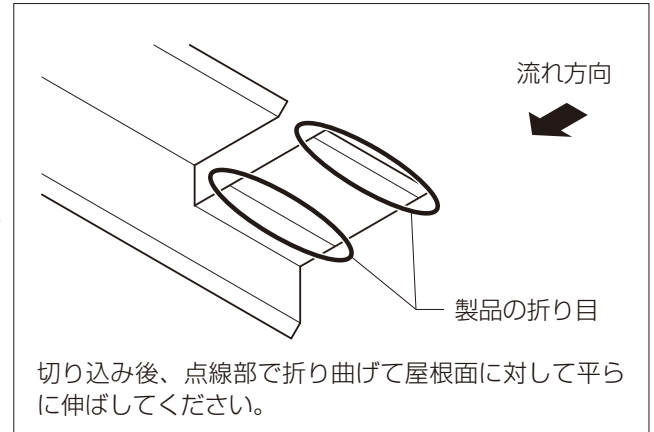
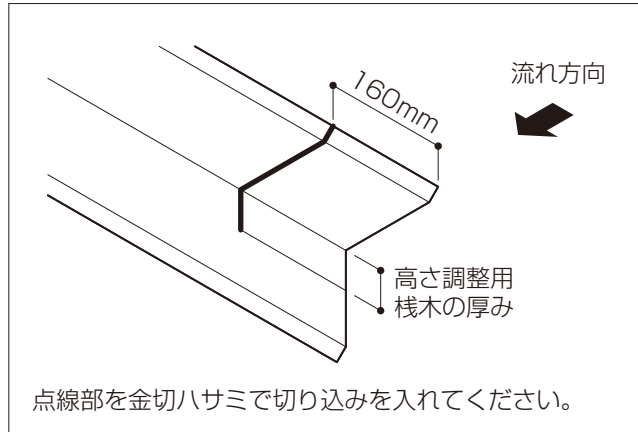
お願い

- 棧木を固定するビスの先端が破風下地や化粧破風板の取付に支障がないか確認してください。棧木を固定したビス先端が後施工の破風板と干渉して設置できなくなるおそれがあります。

2. 軒先用水切90/120の取付

①高さ調整用栈木の段差に合わせて下図のように軒先用水切90/120を加工してください。

※軒先用水切90/120の仕様は24ページを参照

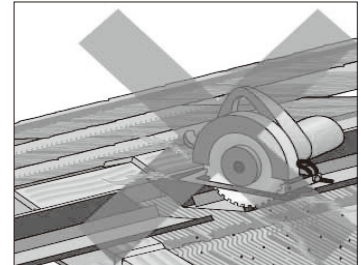


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

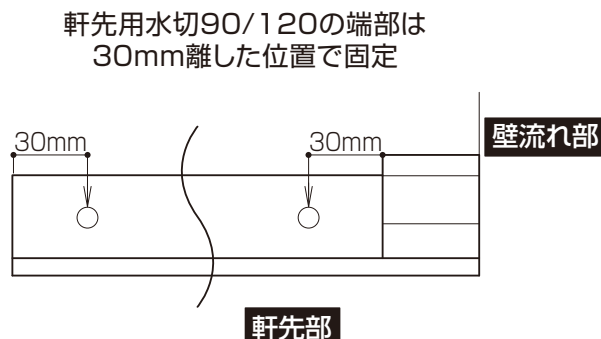
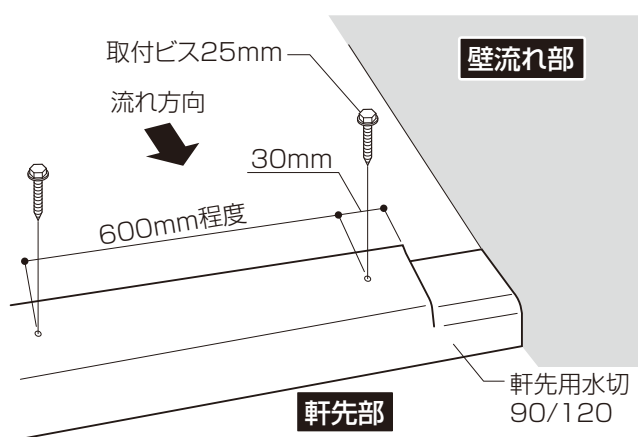
お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



7-3. 壁流れ部の納まり つづき

②軒先用水切90/120を取付ビス25mmで600mm程度の間隔で取付けてください。



▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違ってお使いすると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

3. 壁止まり役物の取付

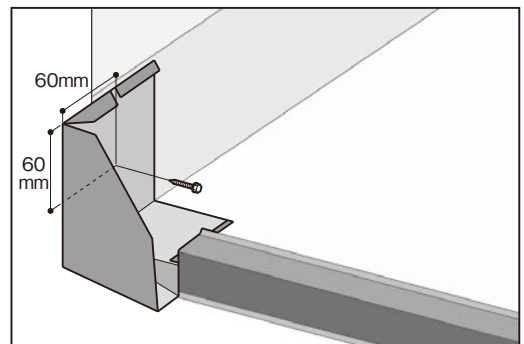
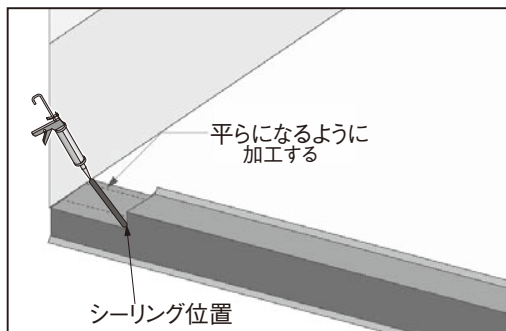
①壁止まり役物は左右それぞれ専用になりますので事前の積算時に注意してください。

壁止まりR RTGZ217	壁止まりL RTGZ218

②壁止まり役物を軒先に合わせて、軒先から60mm、上から60mmの位置に木ビス38mmで取付けてください。

※ビス頭がフラットなビスで取付けしてください。

※軒先用水切と壁止まりの間にシーリングを打つ場合は、下図の位置に打ってください。

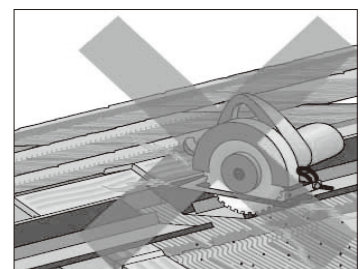


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。

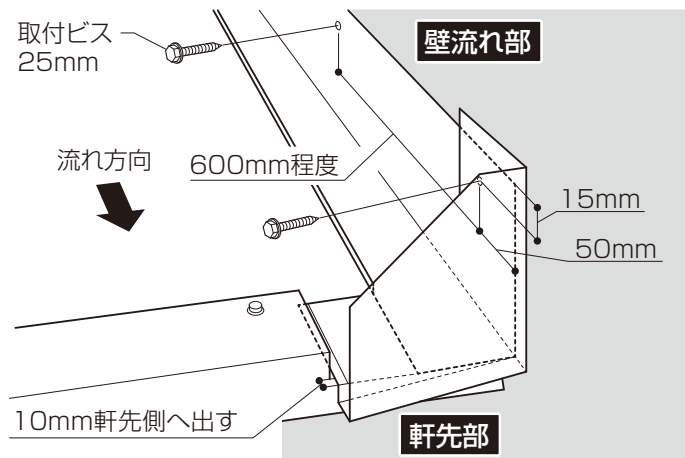


7. 壁取り合いがある場合

7-3. 壁流れ部の納まり つづき

4. 壁用水切の取付

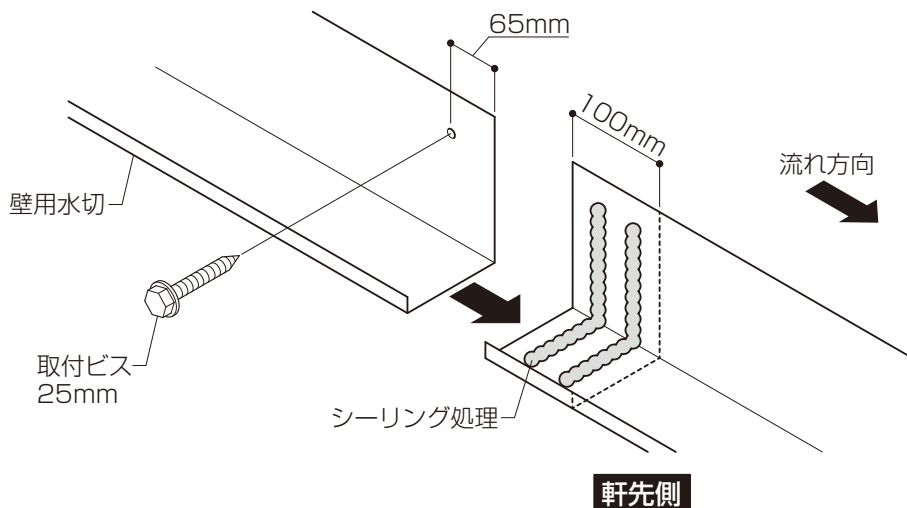
②壁用水切を軒先側へ10mm出して取付ビス25mmで600mm程度の間隔で取付けてください。



▲ 注意

●水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りにつながるおそれがあります。

③壁用水切のジョイント部は変成シリコンでシーリング処理をして100mm重ねてください。重ねた後、壁用水切端部から65mm離れた位置に取付ビス25mmで取付けてください。



5. 屋根本体の取付

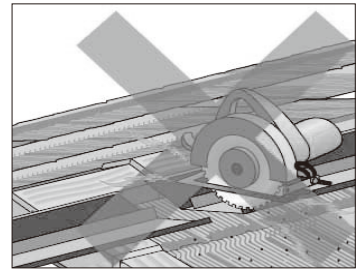
①屋根本体の取付けは31～36ページと同様の手順で取付けてください。

▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。

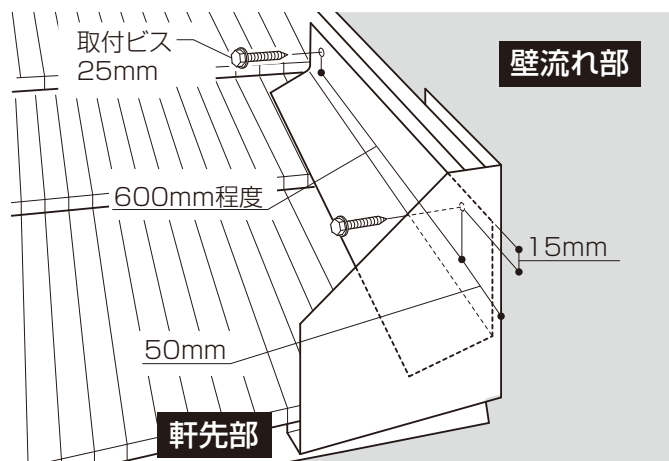


7. 壁取り合いがある場合

7-3. 壁流れ部の納まり つづき

6. 壁用雨押えの取付

①壁用雨押えを取付ビス25mmで600mm程度の間隔で取付してください。



▲ 注意

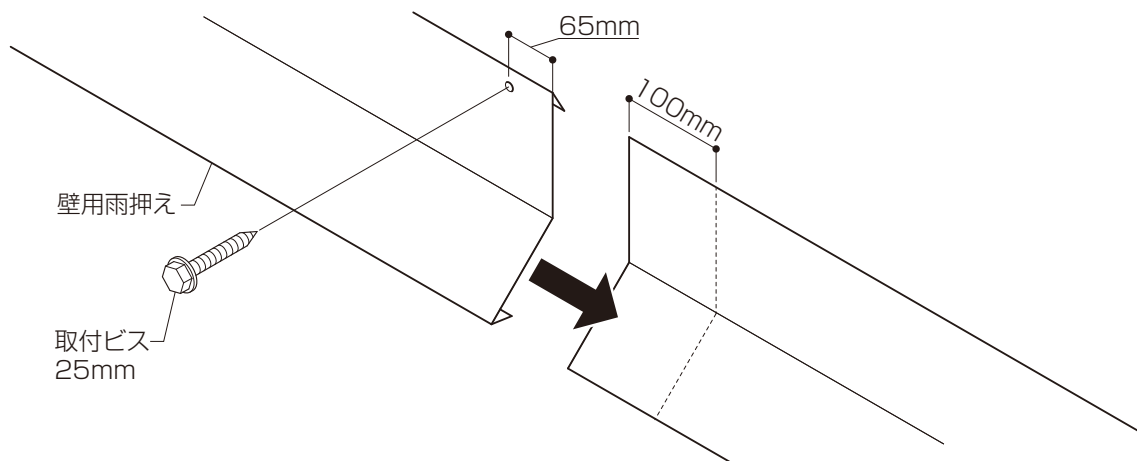
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違えて使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

- 壁用雨押えの取付け位置は、屋根材と壁面の通りを確認してから取付けてください。通りを確認しないで施工すると外壁、壁用雨押え、屋根本体のそれぞれのすき間が揃わず、意匠性が低下するおそれがあります。

②壁用雨押えのジョイント部は100mm重ねてください。

重ねた後、壁用雨押え端部から65mm離れた位置に取付ビス25mmで取付けてください。

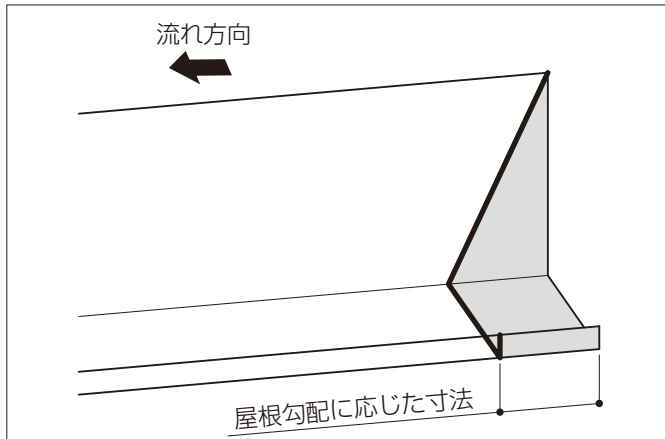


7-4. 壁流れ部と本棟部の納まり

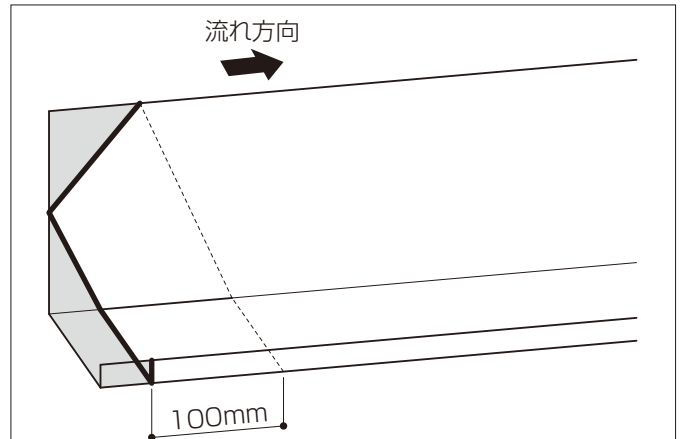
1. 壁用水切の取付

①壁流れ部と本棟部の合掌部に取付する壁用水切の先端を加工してください。

加工図A



加工図B

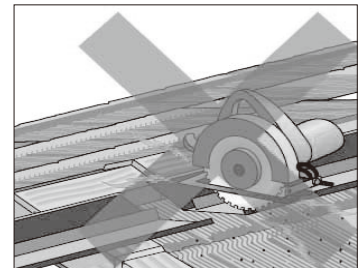


▲ 注意

- 水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りにつながるおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

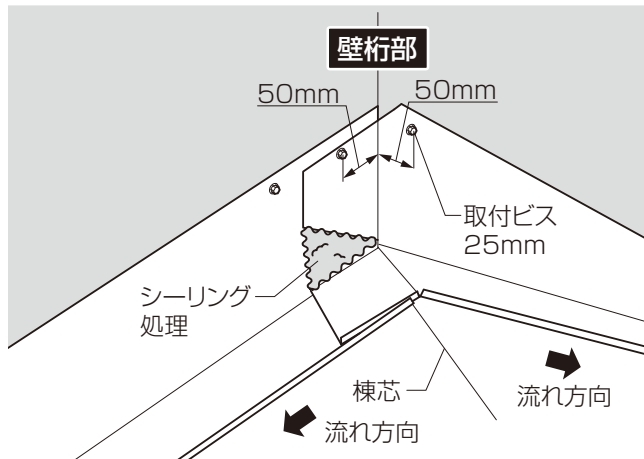
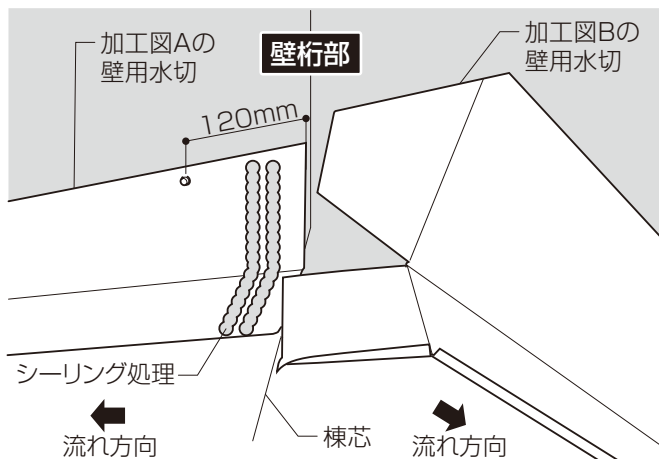
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



7. 壁取り合いがある場合

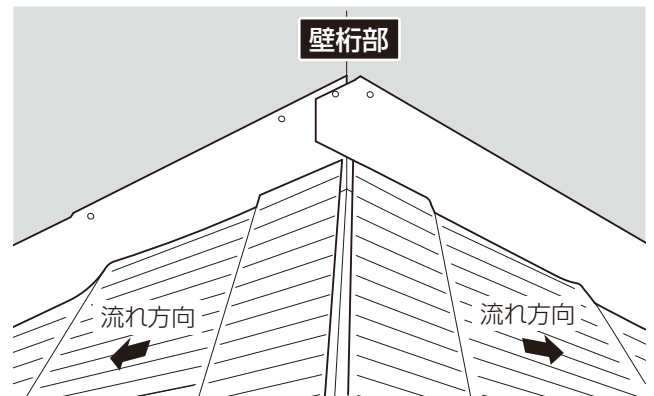
7-4. 壁流れ部と本棟部の納まり つづき

②①で加工した加工図Aの壁用水切に変成シリコンでシーリング処理をして加工図Bの壁用水切を重ねて取付ビス25mmで取付してください。



2. 屋根本体の取付

①屋根本体の取付けは31～36ページと同様の手順で取付けてください。

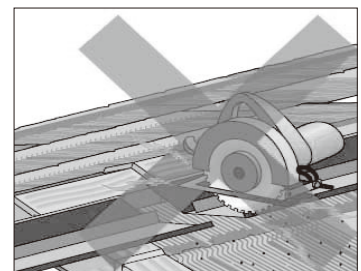


▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。



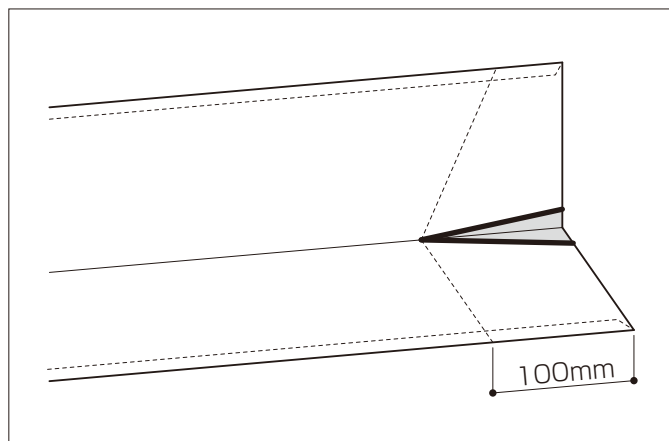
7. 壁取り合いがある場合

7-4. 壁流れ部と本棟部の納まり つづき

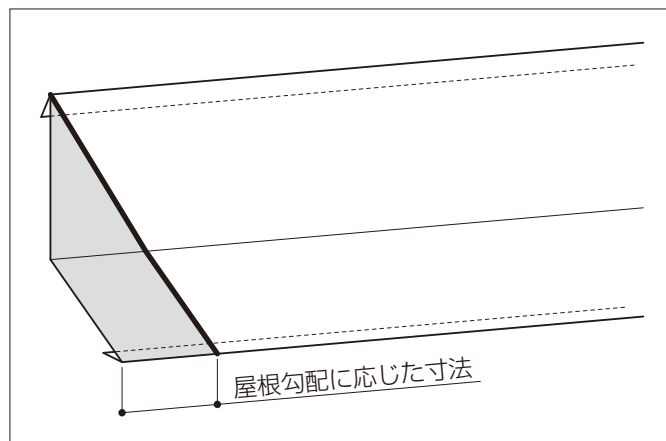
3. 壁用雨押えの取付

①壁用雨押えの先端を下図のように加工してください。

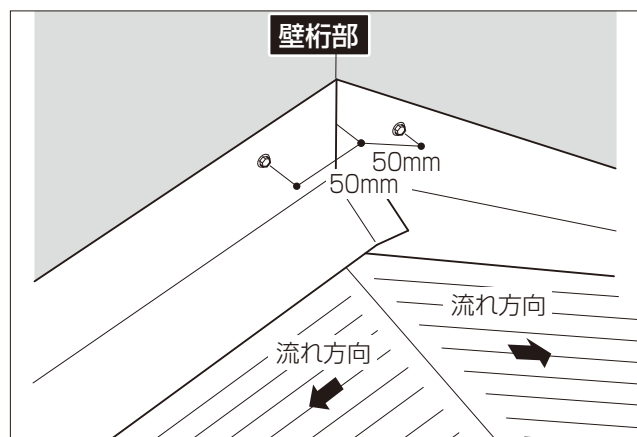
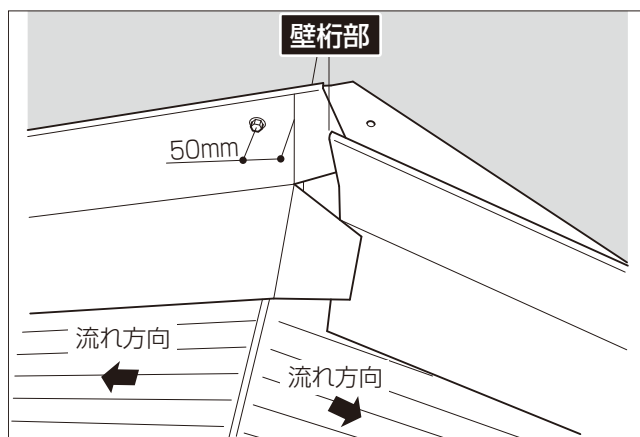
加工図A



加工図B



②壁用雨押えを取付ビス25mmで取付けてください。



▲ 注意

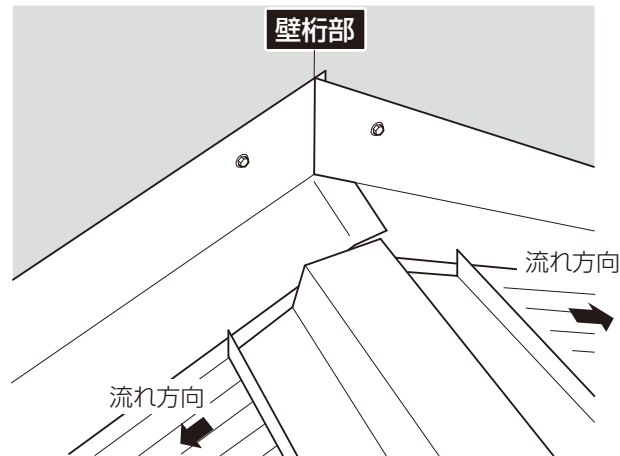
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

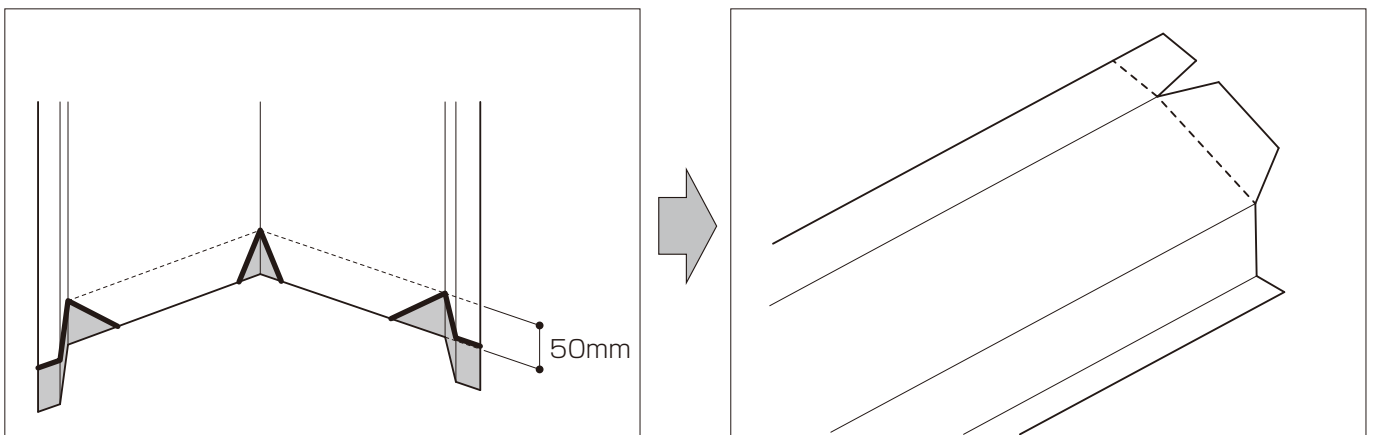
- 壁用雨押えの取付け位置は、屋根材と壁面の通りを確認してから取付けてください。通りを確認しないで施工すると外壁、壁用雨押え、屋根本体のそれぞれのすき間が揃わず、意匠性が低下するおそれがあります。

4. 通し棟包みの取付

①本棟部に通し棟用水切を取付けてください。



②壁部と本棟部が合掌する壁用雨押えに合わせて通し棟包みの先端を下図のように加工してください。

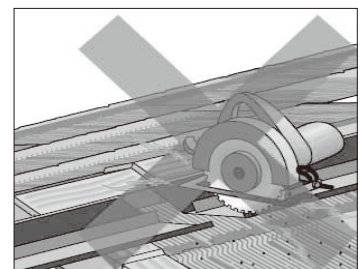


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

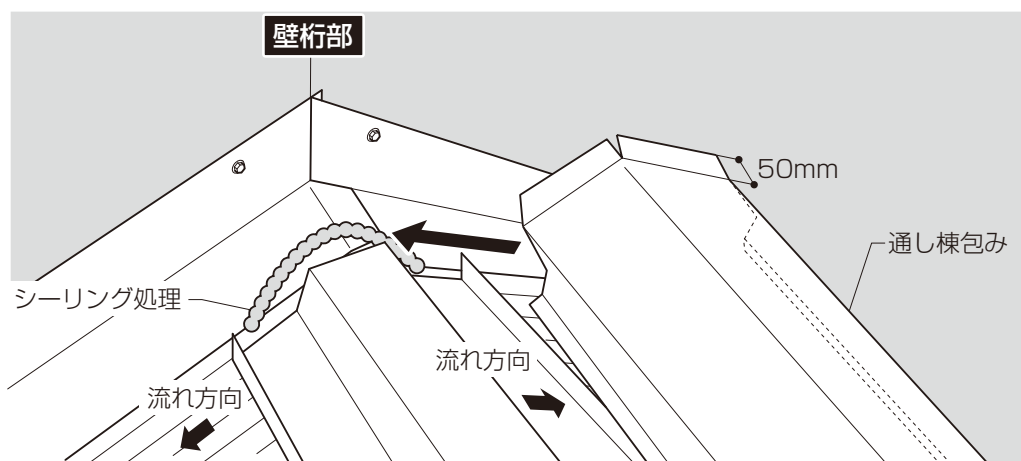
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



7. 壁取り合いがある場合

7-4. 壁流れ部と本棟部の納まり つづき

③壁用雨押えと通し棟包みの重なり部にシーリング処理をして通し棟包みを42～43ページと同様に取付けてください。

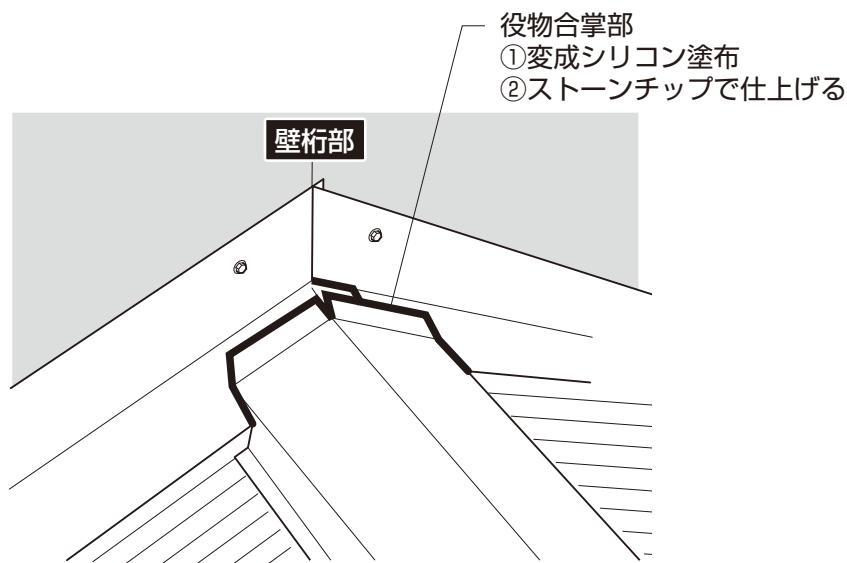


▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

5. 化粧処理

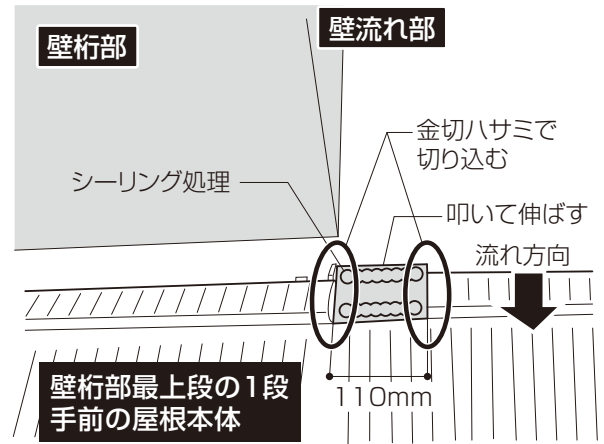
①通し棟包みと壁雨押えの合掌部を变成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)で化粧処理をしてください。



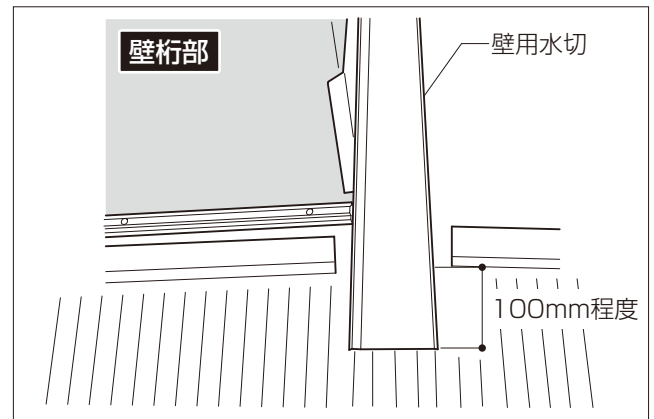
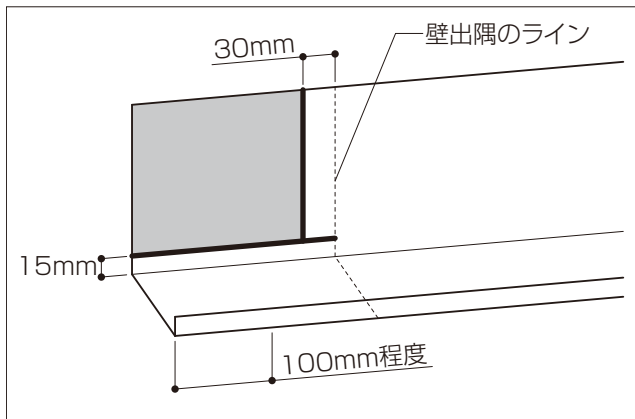
7-5. 壁出隅部の納まり

1. 壁用水切の取付

- ①屋根本体の面に壁用水切が納まるように屋根本体立ち上がり部の幅110mmを金切ハサミで切り込みを入れてハンマーで叩いて伸ばし、変成シリコンでシーリング処理をしてください。
加工する屋根本体は壁桁部の最上段の一つ軒先側の本体が対象です。



- ②壁用水切を①で加工した屋根本体の上のせて100mm程度露出するように先端を下図のように加工してください。
※壁用水切の取付は86ページを参照

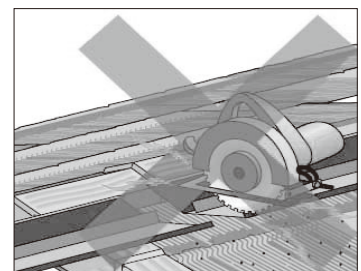


▲ 注意

- 水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りにつながるおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。

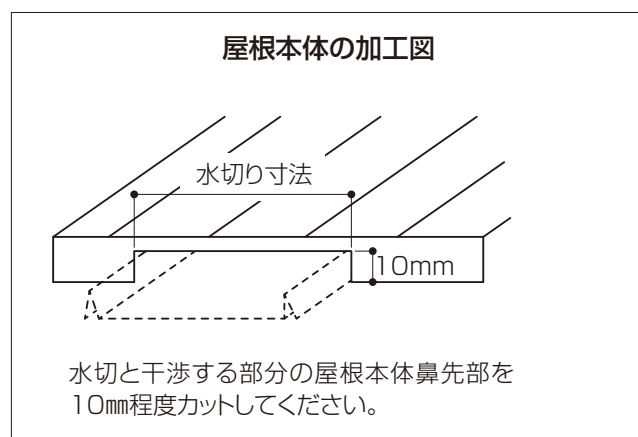
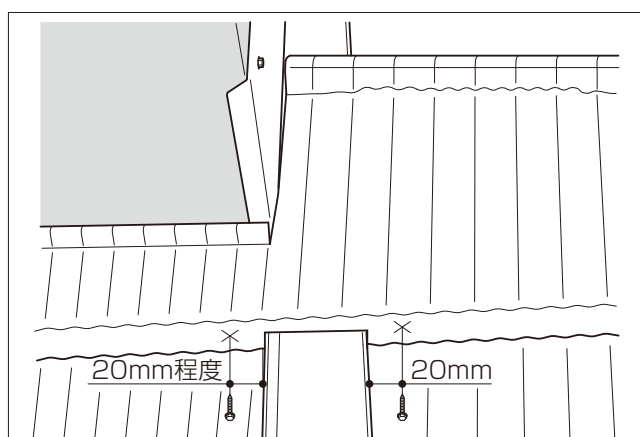


7. 壁取り合いがある場合

7-5. 壁出隅部の納まり つづき

2. 屋根本体の取付

壁桁部最上段目の屋根本体は壁用水切と干渉する部分の屋根本体鼻先部を10mm程度カットしてください。加工後は壁用水切が露出している両端からそれぞれ20mmの位置に取付ビス25mmで取付けてください。
※その他の屋根本体の取付は31～36ページと同様の手順で取付けてください。

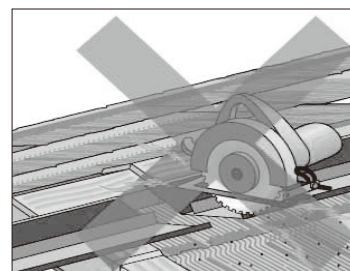


▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

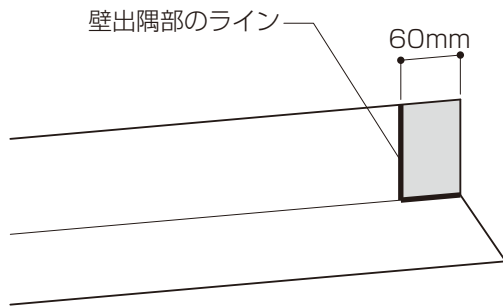
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。



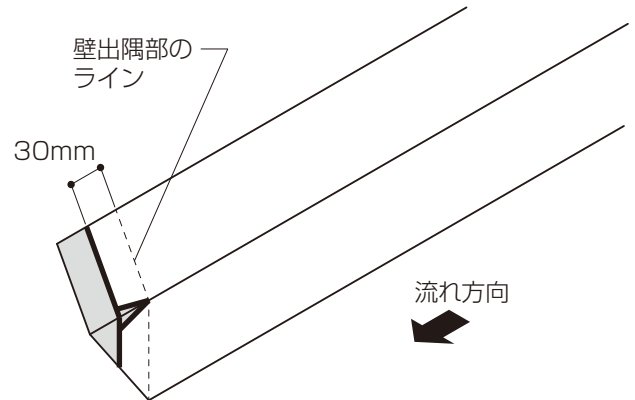
3. 壁用雨押えの取付

①壁桁部と壁流れ部のそれぞれの壁用雨押えを屋根勾配に応じて先端を加工してください。

【壁桁部の壁用雨押えの加工図A】



【壁流れ部の壁用雨押えの加工図B】

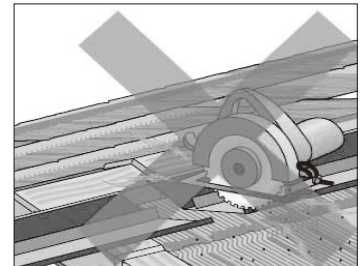


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。

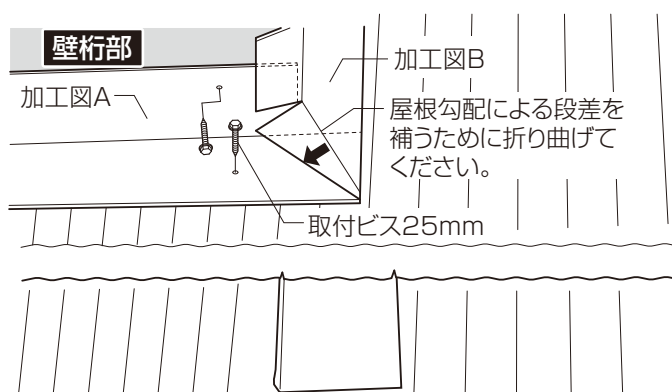


7. 壁取り合いがある場合

7-5. 壁出隅部の納まり つづき

②加工した壁用雨押えを取付ビス25mmで取付けてください。

※壁用雨押えの取付は壁桁部は75ページ、壁流れ部は88ページを参照



▲ 注意

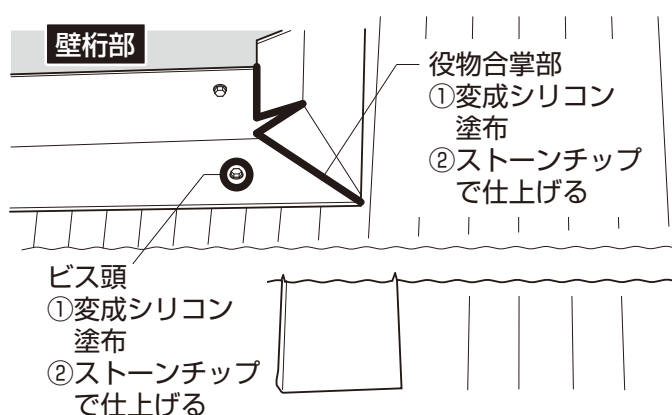
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

- 壁用雨押えの取付け位置は、屋根材と壁面の通りを確認してから取付けてください。通りを確認しないで施工すると外壁、壁用雨押え、屋根本体のそれぞれのすき間が揃わず、意匠性が低下するおそれがあります。

4. 化粧処理

壁用雨押え同士の合掌部と壁用雨押えを脳天から打ったビス頭を变成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)で化粧処理をしてください。



▲ 注意

- 補修材を塗布した後、完全に乾くまでは手足で触れないようにしてください。屋根材やその他の部位を汚してしまうおそれがあります。

お願い

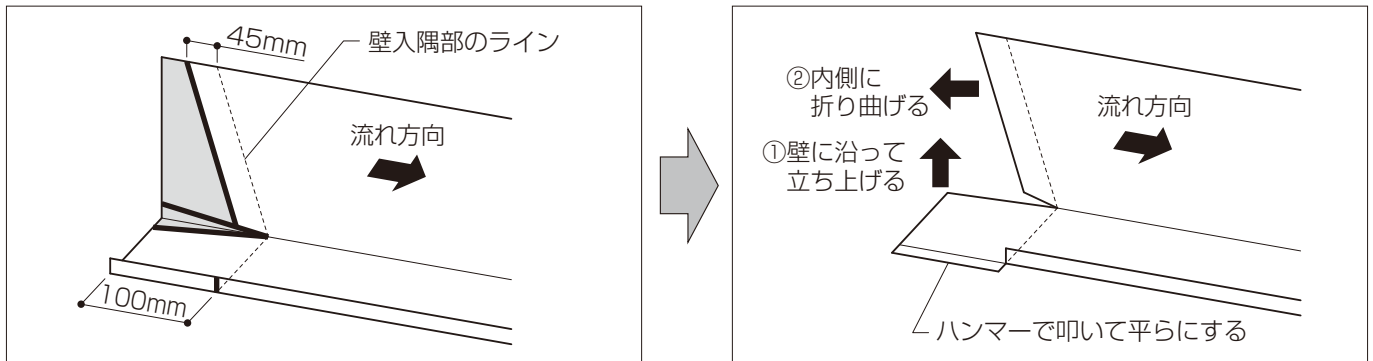
- 補修キットのベースコートの使用環境温度は5℃以上でご使用ください。ベースコートの成分が分離してしまうおそれがあります。

7-6. 壁入隅部の納まり

1. 壁用水切の取付

①壁入隅部に合わせて壁用水切を金切ハサミで加工してください。

※軒先側からの壁用水切の取付は86ページを参照

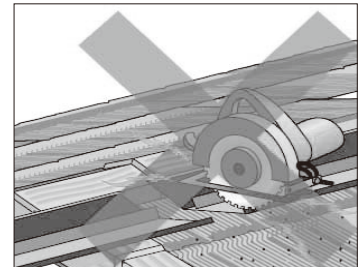


▲ 注意

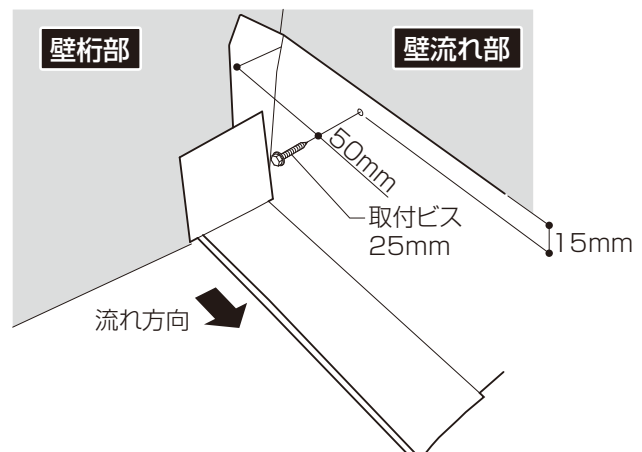
- 水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りにつながるおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



②加工した壁用水切を取付ビス25mmで取付けてください。



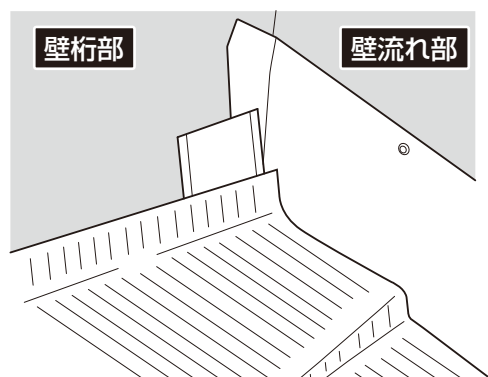
7. 壁取り合いがある場合

7-6. 壁入隅部の納まり つづき

2. 屋根本体の取付

①屋根本体を取付けてください。

※屋根本体の取付は31～36ページと同様の手順で取付けてください。

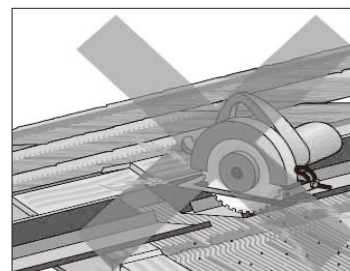


▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

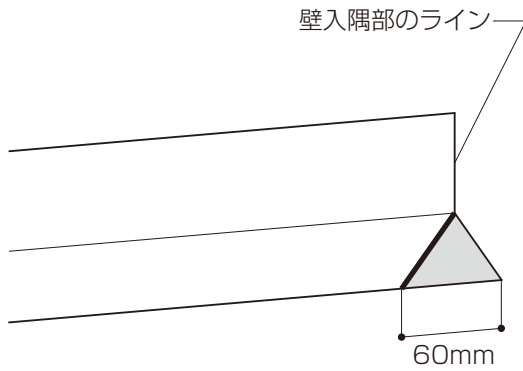
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。



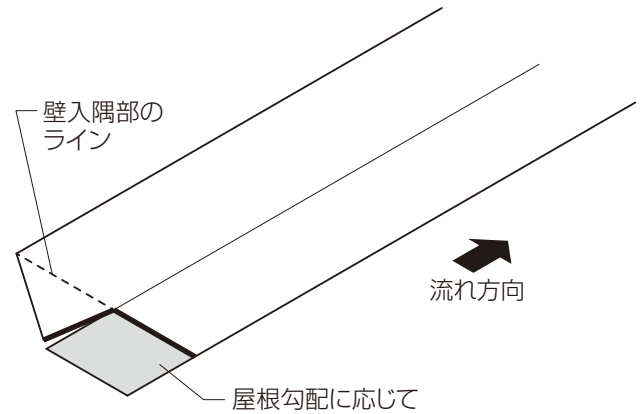
3. 壁用雨押えの取付

①壁入隅部の形状に合わせて壁用雨押えを金切ハサミで加工してください。

【壁桁部の雨押えの加工図A】



【壁流れ部の雨押えの加工図B】

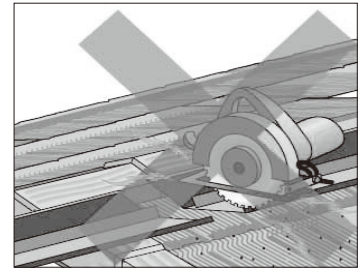


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

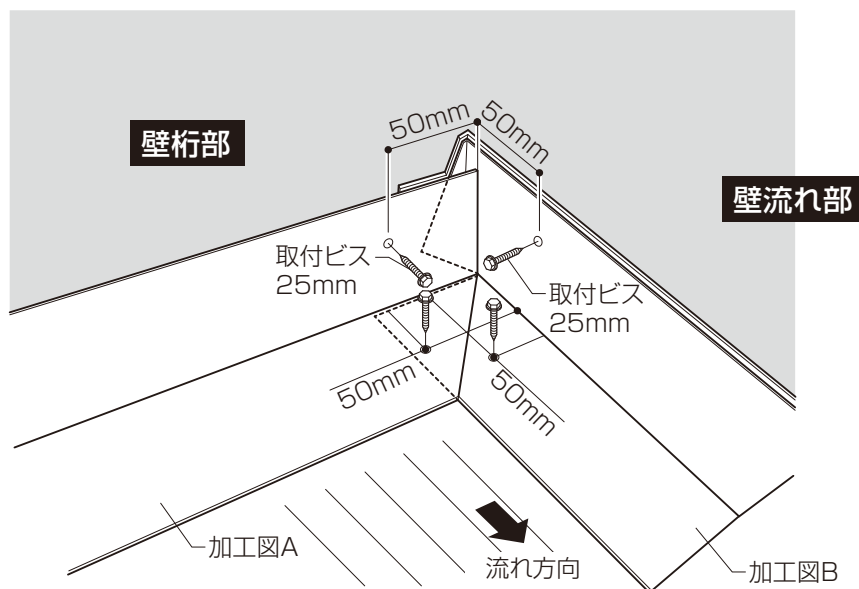
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



7. 壁取り合いがある場合

7-6. 壁入隅部の納まり つづき

②加工した壁用雨押えを壁流れ部の壁用雨押えを先に取付けて、次に壁桁部の壁用雨押えを取付ビス25mmで取付けてください。



▲ 注意

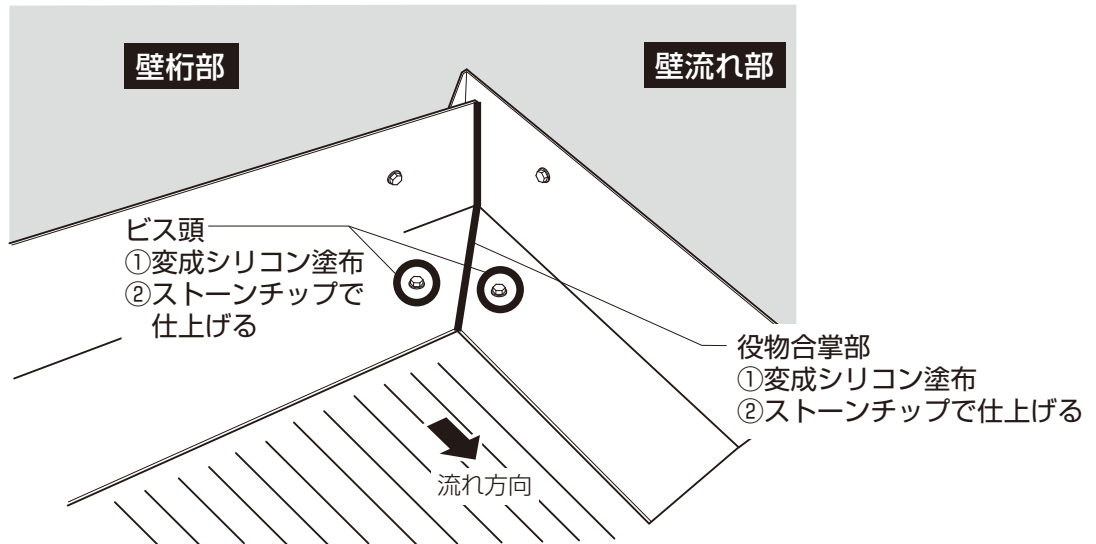
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

- 壁用雨押えの取付け位置は、屋根材と壁面の通りを確認してから取付けてください。通りを確認しないで施工すると外壁、壁用雨押え、屋根本体のそれぞれのすき間が揃わず、意匠性が低下するおそれがあります。

4. 化粧処理

壁用雨押え同士の合掌部と壁用雨押えを脳天から打ったビス頭を变成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)で化粧処理をしてください。



▲ 注意

- 補修材を塗布した後、完全に乾くまでは手足で触れないようにしてください。屋根材やその他の部位を汚してしまうおそれがあります。

お願い

- 補修キットのベースコートの使用環境温度は5℃以上でご使用ください。ベースコートの成分が分離してしまうおそれがあります。

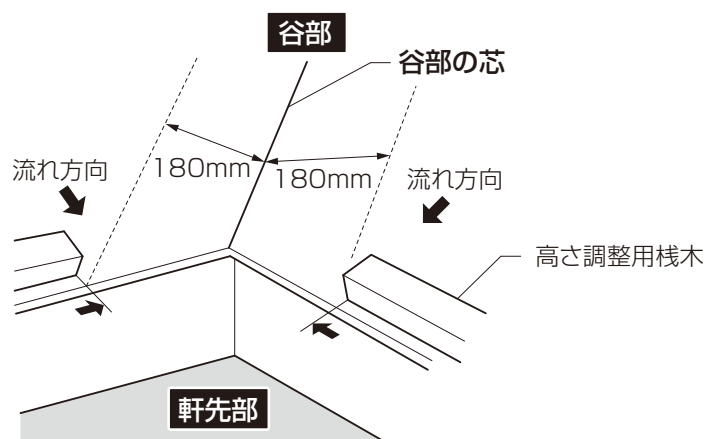
8. その他の納まり

8-1. 谷部の納まり

1. 谷部の納まり

①谷部の芯からそれぞれ180mm離れた位置まで高さ調整用栈木を取付けてください。

※高さ調整栈木の仕様と取付は23ページを参照



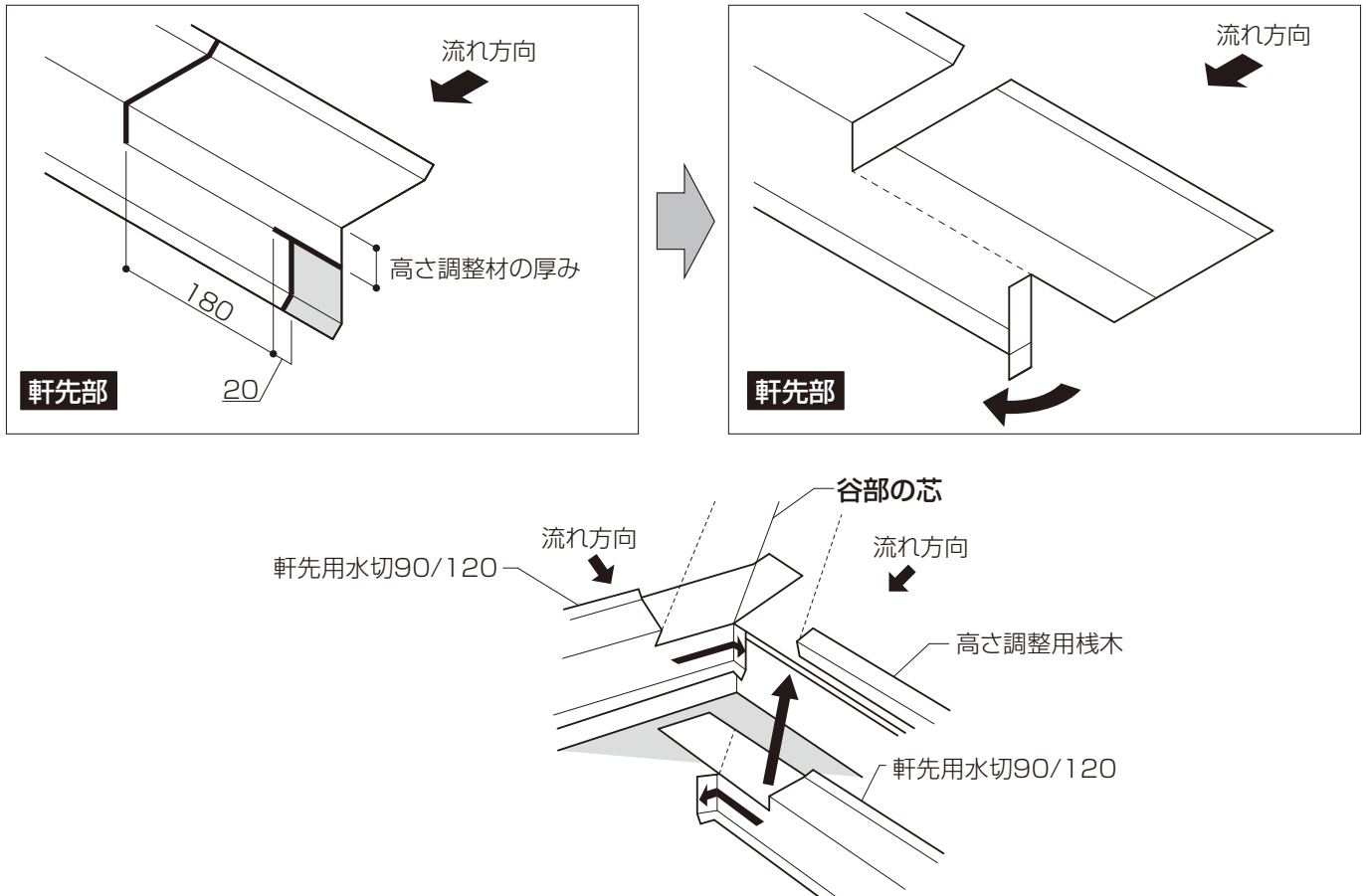
▲ 注意

- 使用する栈木は樹脂製又は防腐処理を施した栈木且つ水抜き加工されている物(軒先部のみ)をご使用ください。遵守しないと栈木が腐食して屋根材の強度を失うおそれがあります。

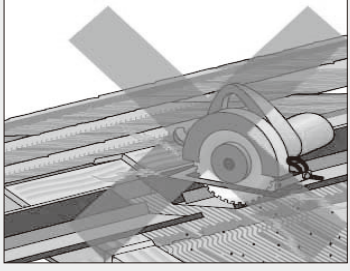
お願い

- 栈木を固定するビスの先端が破風下地や化粧破風板の取付に支障がないか確認してください。栈木を固定したビス先端が後施工の破風板と干渉して設置できなくなるおそれがあります。

- ②軒先用水切90/120を高さ調整栈木の段差に合わせて加工して取付けてください。
 ※軒先用水切90/120の取付は24、25ページを参照



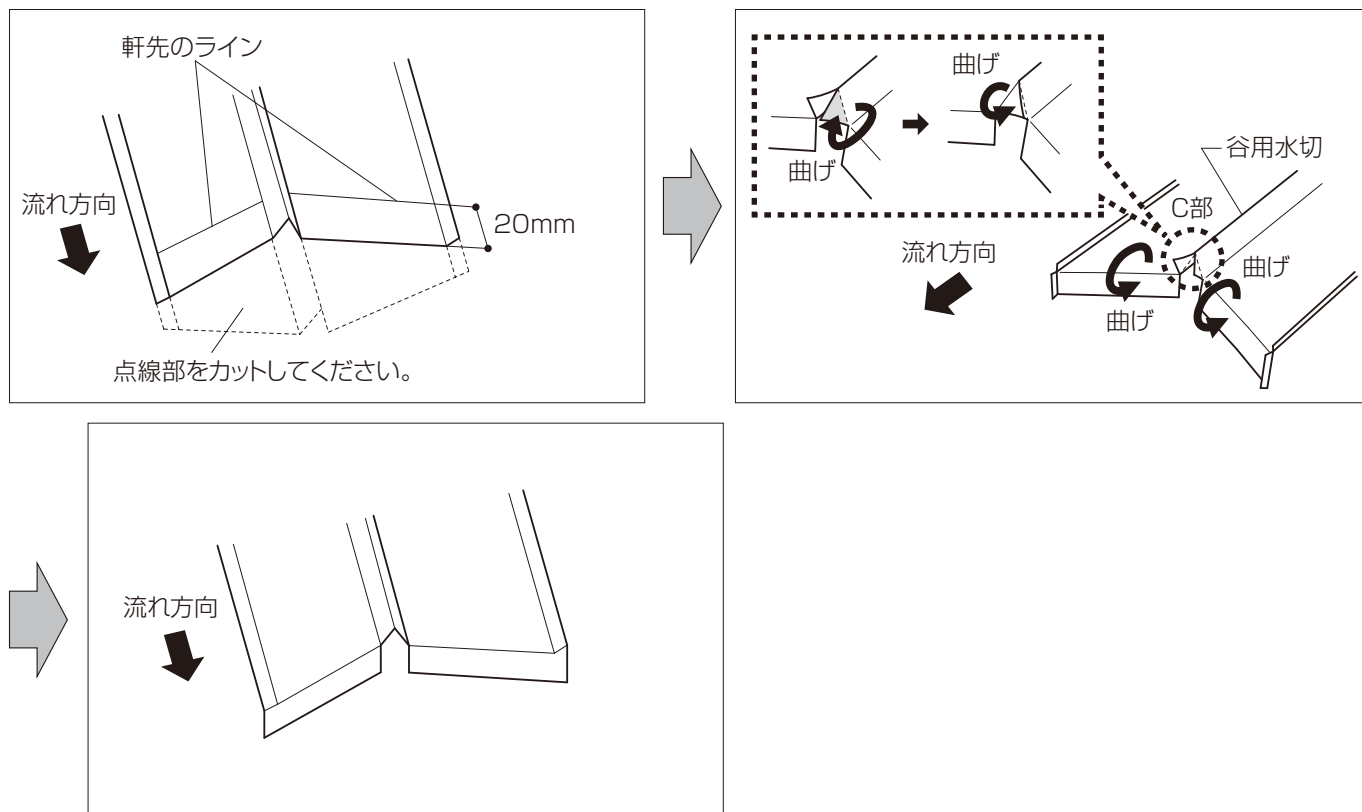
▲ 注意

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。
 - 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違っても使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
 - 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

8. その他の納まり

8-1. 谷部の納まり つづき

③谷用水切を軒先のラインに合わせて先端を金切ハサミとつかみで加工してください。

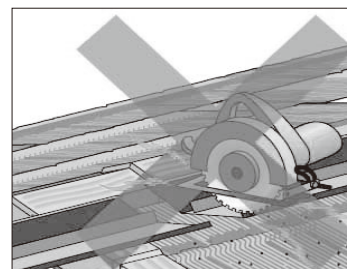


▲ 注意

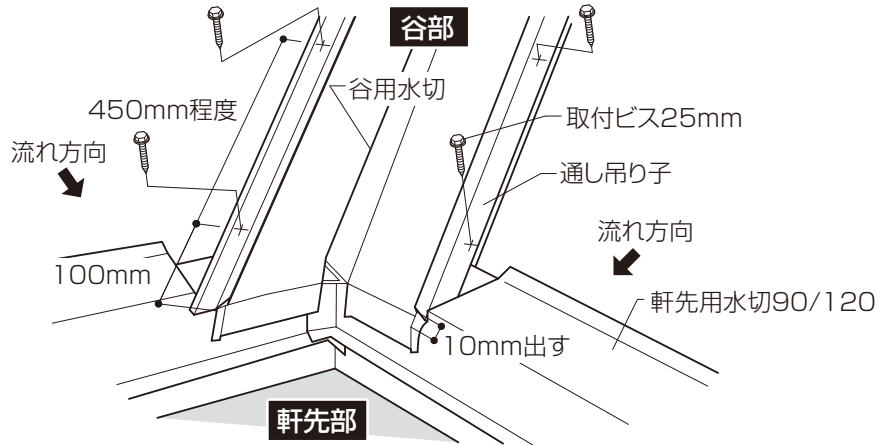
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

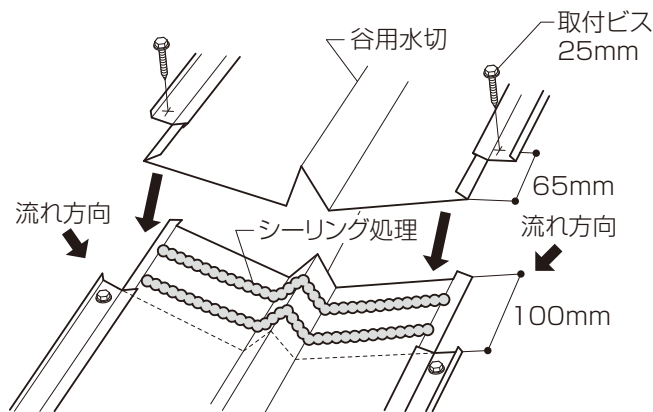
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



④谷用水切を軒先側に10mm出して取付ビス25mmで吊り子に対して450mm程度の間隔で取付けてください。



⑤谷用水切のジョイント部は変成シリコンでシーリング処理をして100mm重ねてください。
重ねた後、谷用水切端部から65mm離れた位置に吊り子に対して取付ビス25mmで取付けてください。



▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りにつながるおそれがあります。

8. その他の納まり

8-1. 谷部の納まり つづき

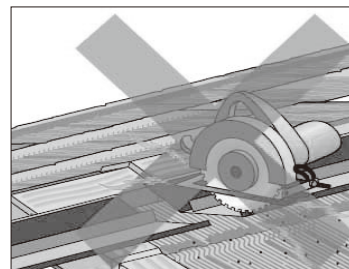
⑥屋根本体の取付は31～36ページと同様の手順で取付けてください。

▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違っていると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

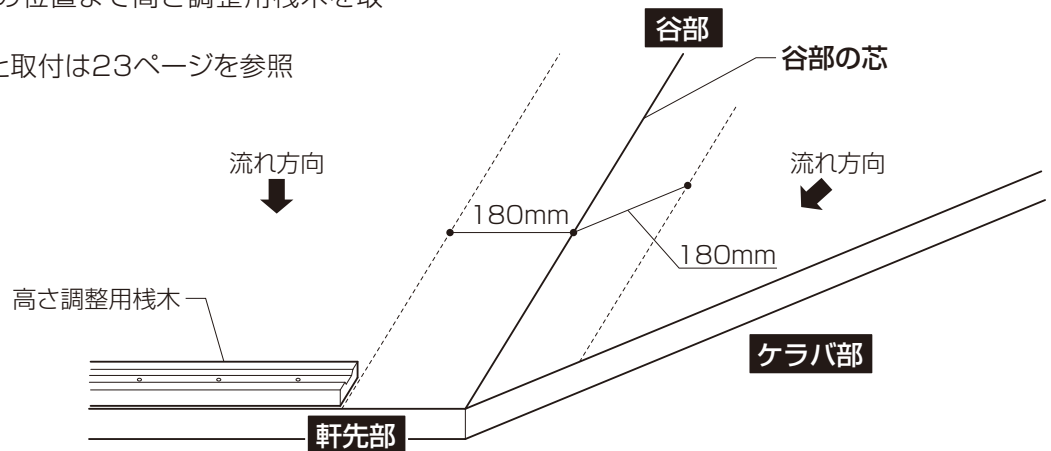
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。



8-2. 谷部とケラバ部の納まり

①谷部の芯から180mmの位置まで高さ調整用栈木を取付けてください。

※高さ調整栈木の仕様と取付は23ページを参照



▲ 注意

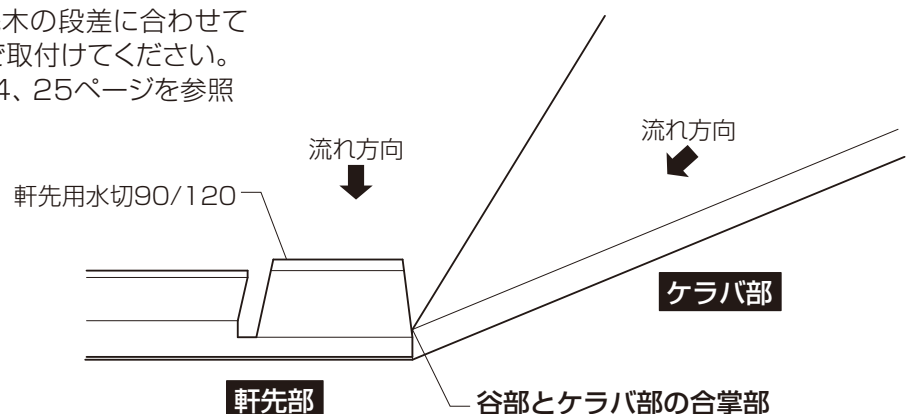
- 使用する栈木は樹脂製又は防腐処理を施した栈木且つ水抜き加工されている物(軒先部のみ)をご使用ください。遵守しないと栈木が腐食して屋根材の強度を失うおそれがあります。

お願い

- 栈木を固定するビスの先端が破風下地や化粧破風板の取付に支障がないか確認してください。栈木を固定したビス先端が後施工の破風板と干渉して設置できなくなるおそれがあります。

②軒先用水切90/120を高さ調整栈木の段差に合わせて谷部とケラバ部の合掌部の位置まで取付けてください。

※軒先用水切90/120の取付は24、25ページを参照



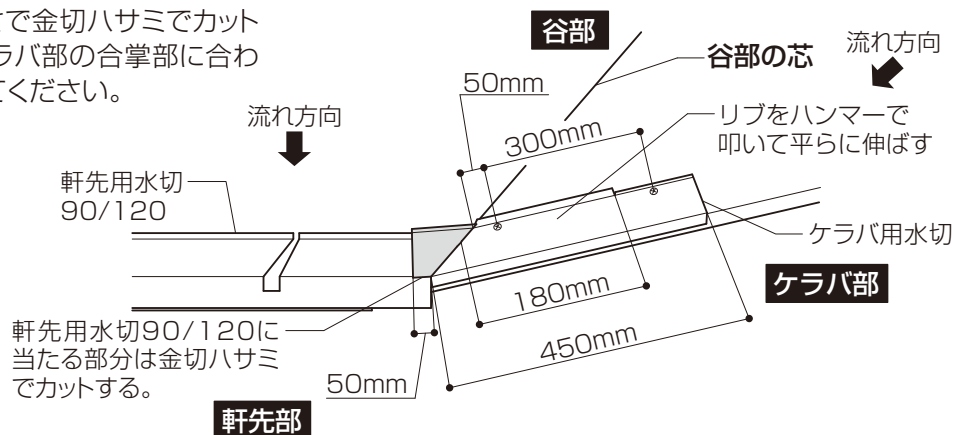
▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違っていると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

8. その他の納まり

8-2. 谷部とケラバ部の納まり つづき

③ケラバ用水切を500mmの長さで金切ハサミでカットして下記の図のように谷部とケラバ部の合掌部に合わせて取付ビス25mmで取付けてください。

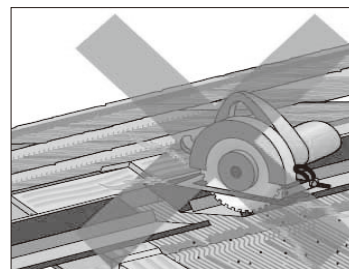


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違ってお使いすると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

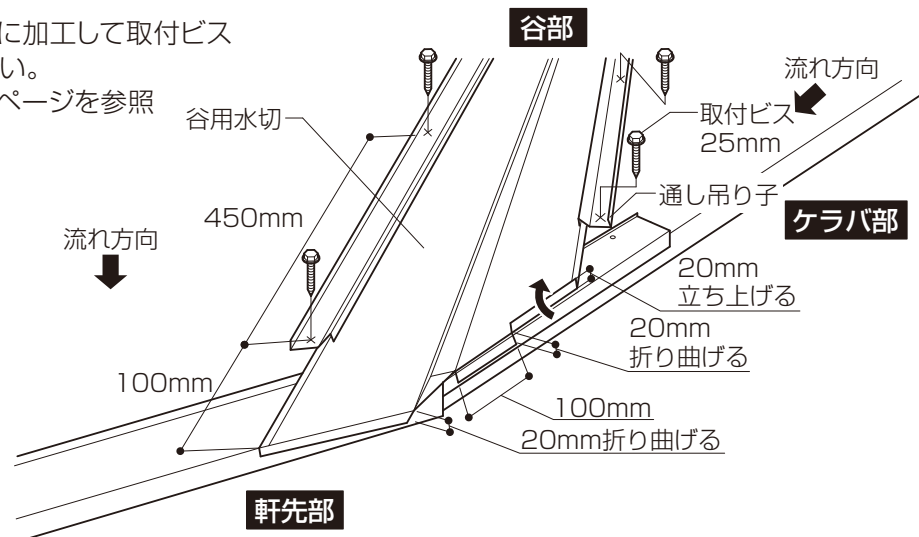
お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



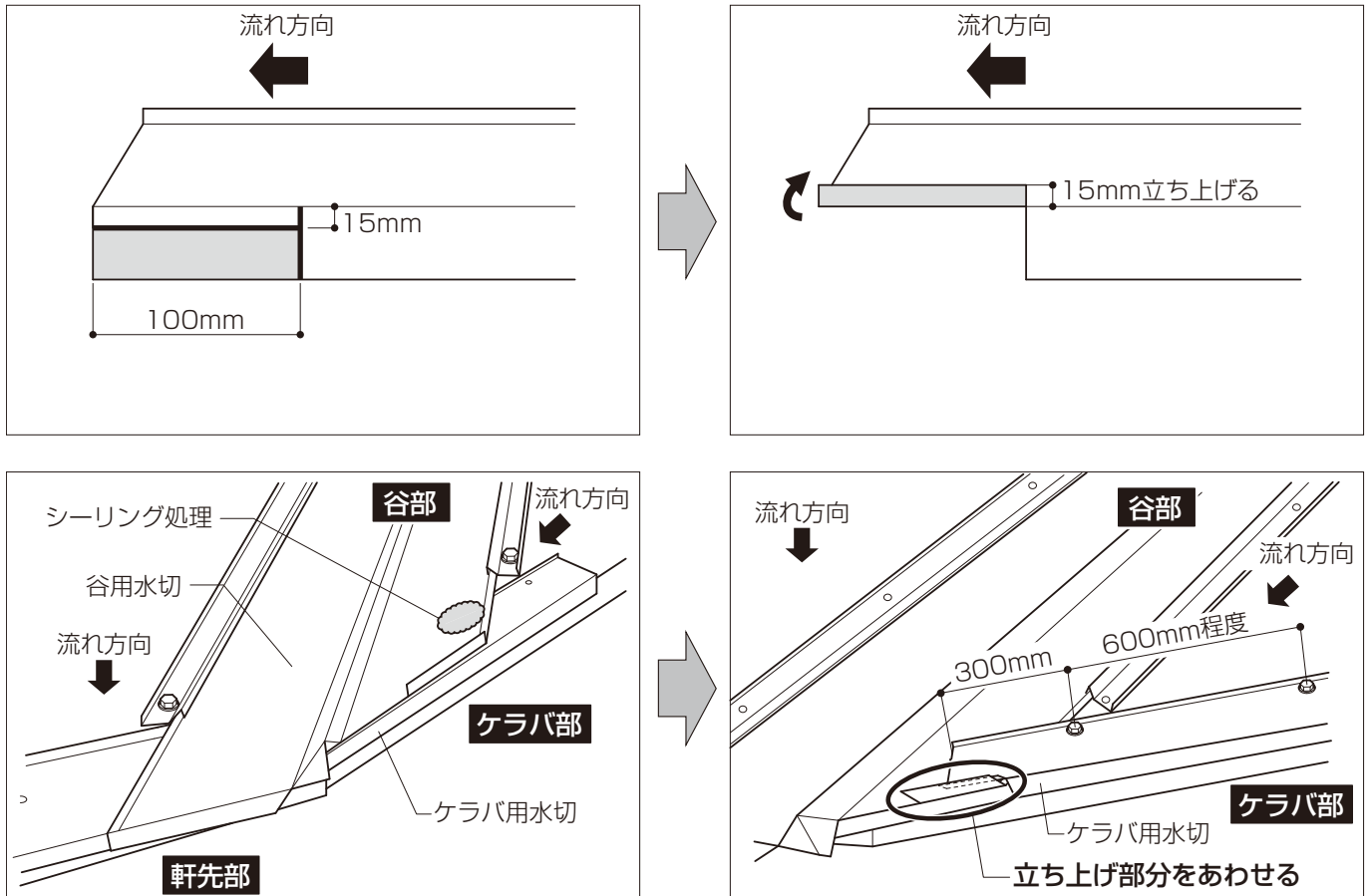
④谷用水切の先端を下記の図のように加工して取付ビス25mmで吊り子で取付けてください。

※谷用水切の取付は105～107ページを参照



⑤ケラバ用水切の先端を下記の図のように金切ハサミで加工してください。

谷用水切平部に変成シリコンでシーリング処理をして加工したケラバ用水切を重ねて取付ビス25mmで取付けてください。



▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。
- 水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りにつながるおそれがあります。
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違えて使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

8. その他の納まり

8-2. 谷部とケラバ部の納まり つづき

⑥屋根本体を屋根形状に合わせて取付けてください。

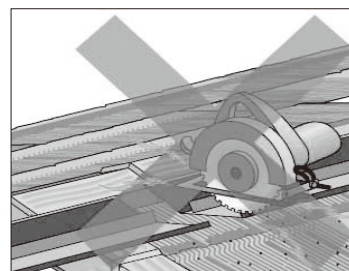
※屋根本体の取付は31～36ページと同様の手順で取付けてください。

▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態ですら強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。



8-3. 肘棟部の納まり

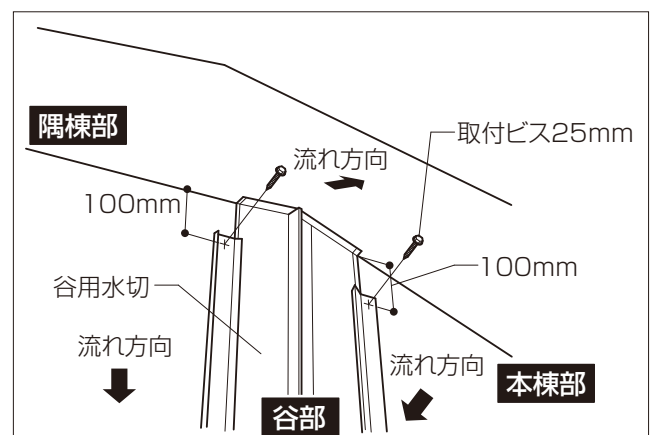
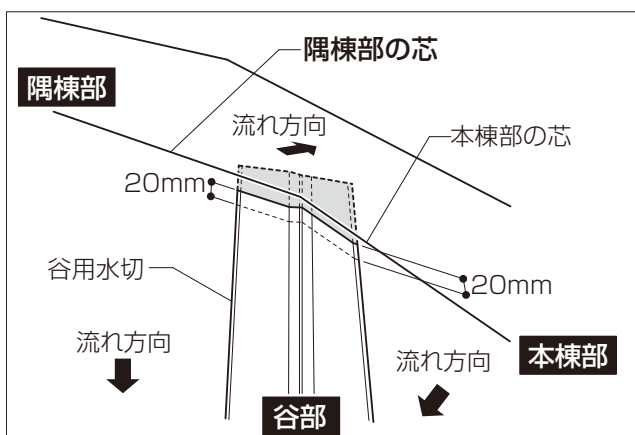
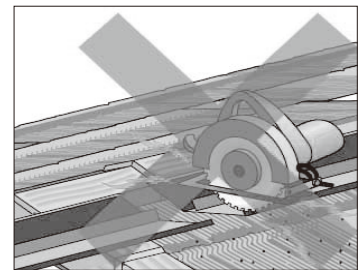
- ①谷用水切を肘棟部に合わせて金切ハサミとつかみで20mm立上げ加工してください。
加工後、谷用水切を取付ビス25mmで取付けてください。
谷用水切の取付は105～107ページを参照。

▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。
- 水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りにつながるおそれがあります。
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違ってしまうと屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。

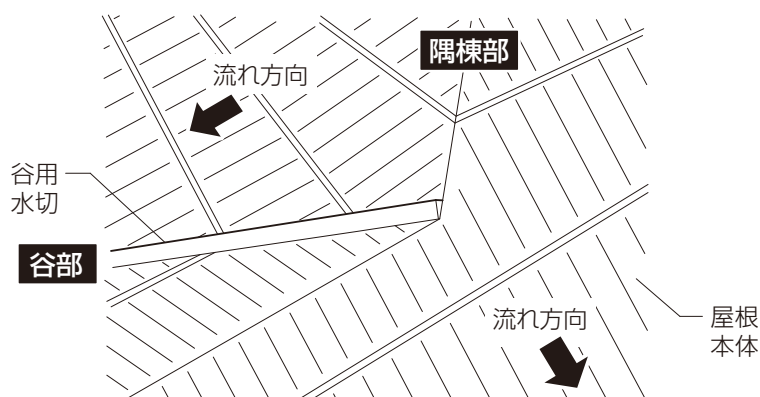


8. その他の納まり

8-3. 肘棟部の納まり つづき

②屋根本体を屋根形状に合わせて取付けてください。

※屋根本体の取付は31～36ページと同様の手順で取付けてください。

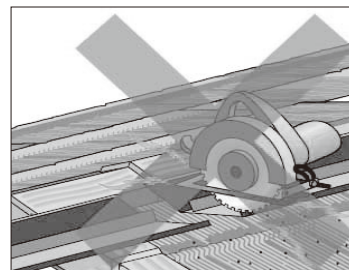


▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

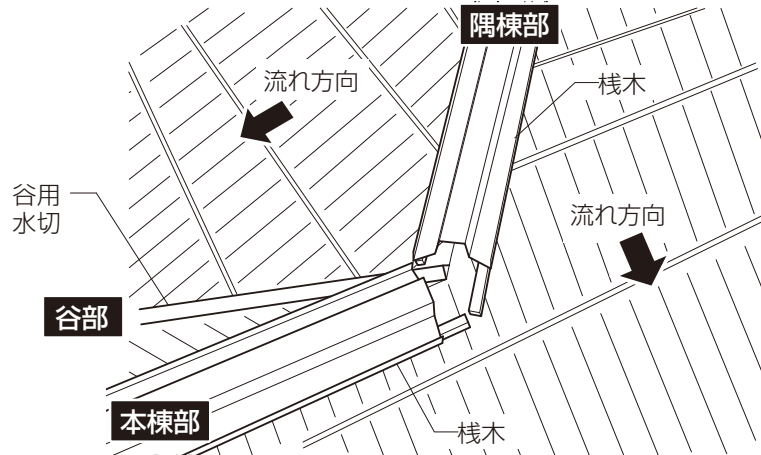
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。



③通し棟包みを取付ける為の通し棟用水切を取付けてください。

※通し棟用水切の取付は本棟部は42ページ、隅棟部は58～60ページを参照

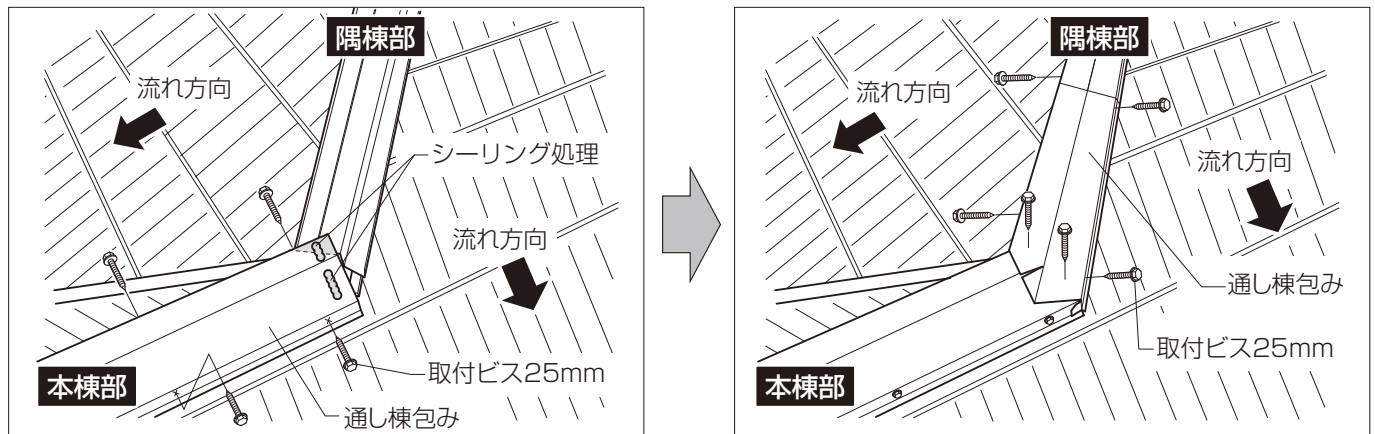
※角型ケラバ／棟包みで納める場合は棟用水切を使用して同様に納めてください。



④通し棟包みを本棟部と隅棟部の合掌部に合わせて加工して取付ビス25mmで取付けてください。

通し棟包み同士の重なり部には変成シリコンでシーリング処理をしてください。

※通し棟包みの取付は本棟部は42、43ページ、隅棟部は58～60ページを参照



8. その他の納まり

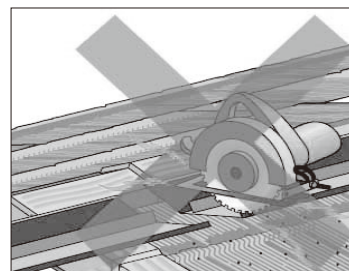
8-3. 肘棟部の納まり つづき

▲ 注意

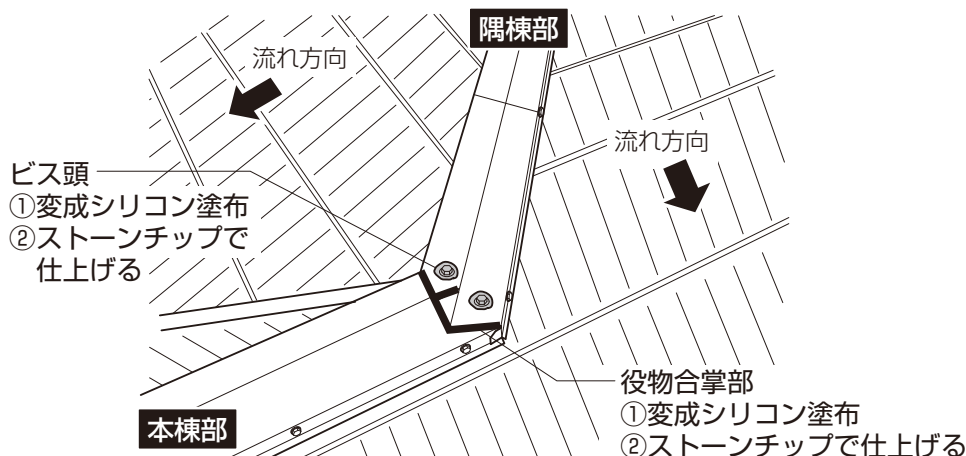
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違ってしまうと屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



⑤ 通し棟包み同士の合掌部とビス頭を变成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)で化粧処理をしてください。



▲ 注意

- 補修材を塗布した後、完全に乾くまでは手足で触れないようにしてください。屋根材やその他の部位を汚してしまうおそれがあります。

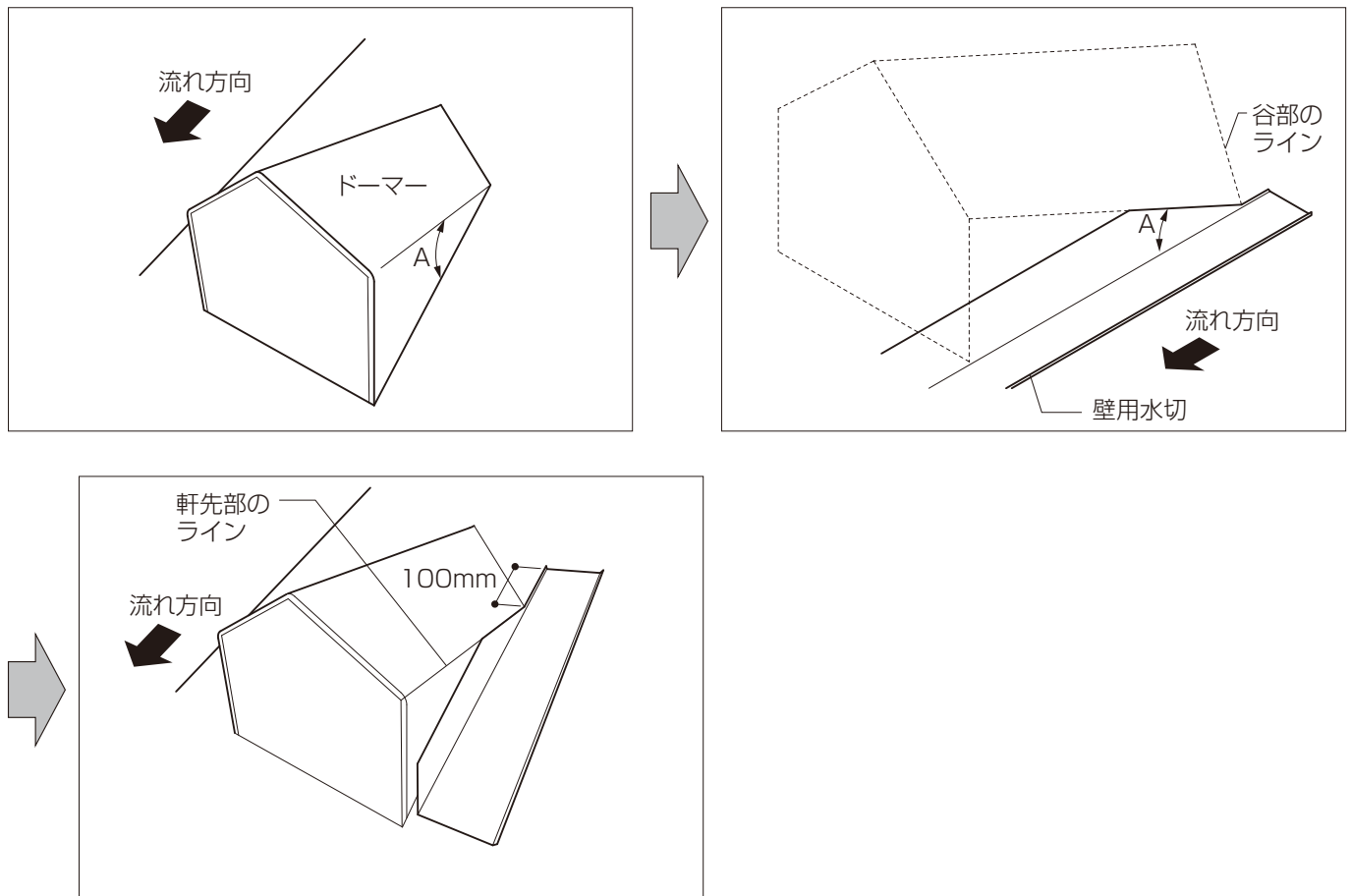
お願い

- 補修キットのベースコートの使用環境温度は5℃以上でご使用ください。ベースコートの成分が分離してしまうおそれがあります。

8-4. ドーマー部の納まり

①ドーマー部の壁流れ部に取り付ける壁用水切の水上部先端を加工してください。

※水下側の壁用水切の加工は壁出隅部と同様なので95ページを参照

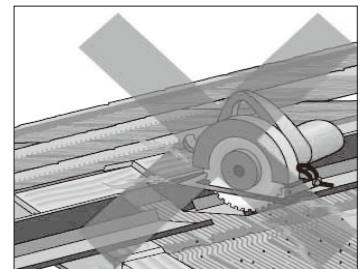


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

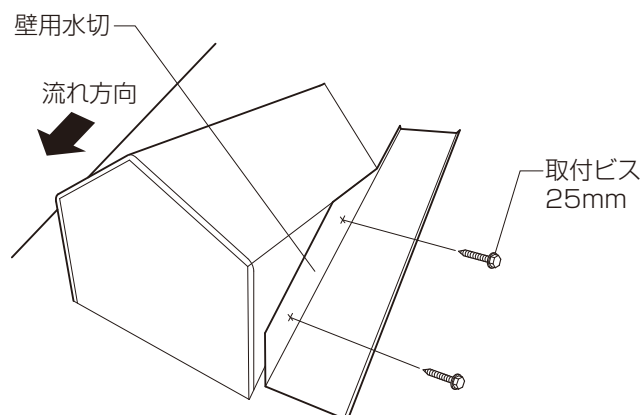
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



8. その他の納まり

8-4. ドーマー部の納まり つづき

②加工後、壁用水切を取付ビス25mmで取付けてください。

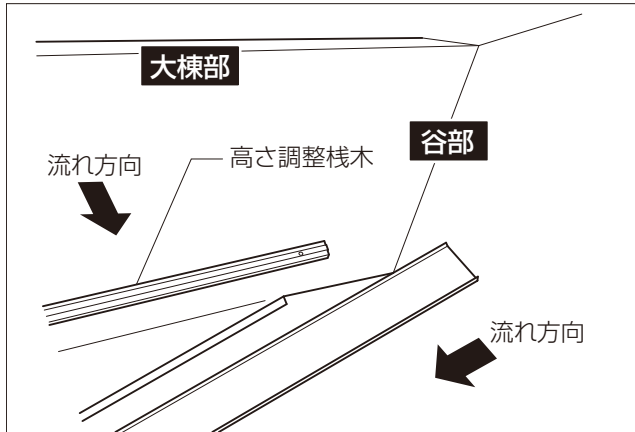


▲ 注意

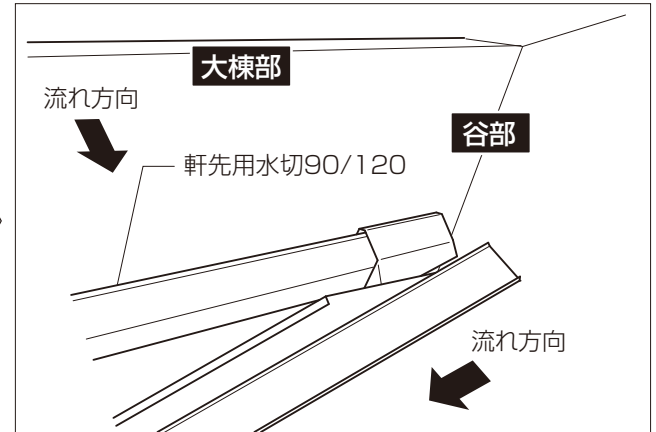
- 水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りにつながるおそれがあります。
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

- ③ドーマー部の軒先部に高さ調整用栈木と軒先用水切90/120加工してそれぞれ順番に取付けてください。
 ※高さ調整用栈木及び軒先用水切90/120の加工と取付は104、105ページを参照

高さ調整栈木の取付



軒先用水切90/120の取付

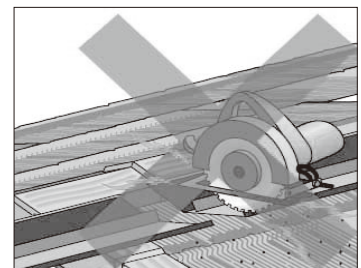


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違っていると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

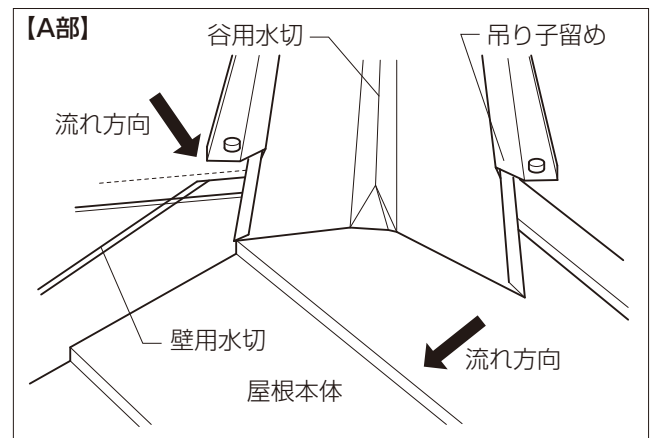
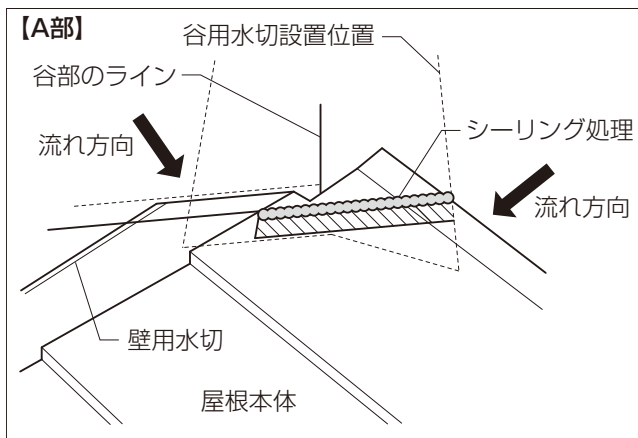
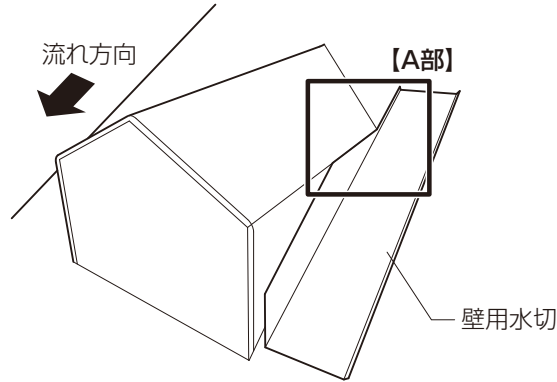
- 栈木を固定するビスの先端が破風下地や化粧破風板の取付に支障がないか確認してください。栈木を固定したビス先端が後施工の破風板と干渉して設置できなくなるおそれがあります。
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



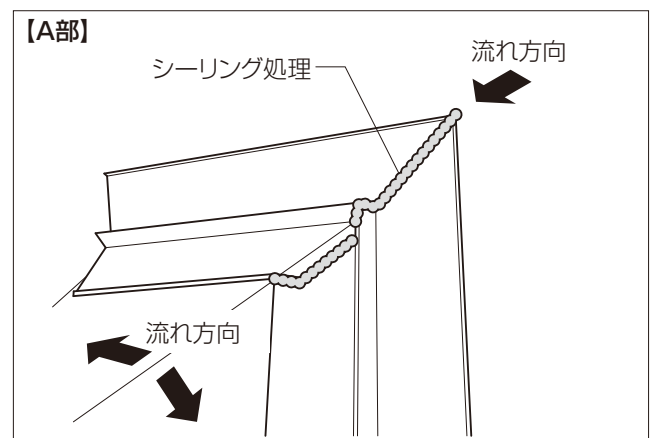
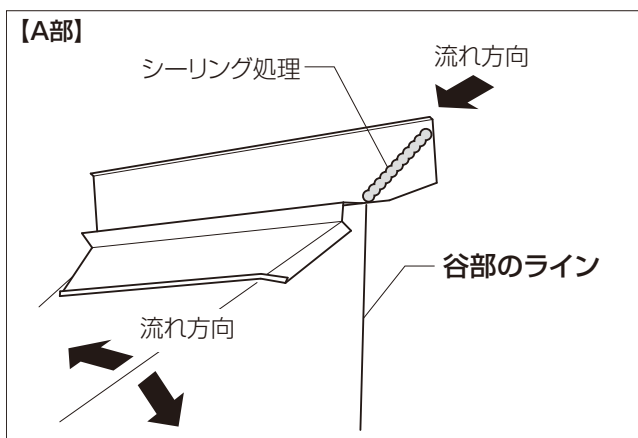
8. その他の納まり

8-4. ドーマー部の納まり つづき

- ④ドーマー部の谷部付近まで屋根本体を取付けて谷用水切を取付けてください。
 屋根本体と谷用水切が接する箇所に変成シリコンでシーリング処理をしてください。
 ※屋根本体の取付は31～36ページと同様の手順で取付けてください。谷用水切の取付は106～107ページを参照



- ⑤ドーマー部の谷用水切同士が合掌する部分は屋根形状に合わせて先端を加工して取付ビス25mmで取付けてください。
 ※谷用水切の取付は106～107ページを参照

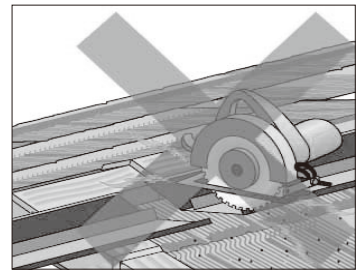


▲ 注意

- 水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りにつながるおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違ってしまうと屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

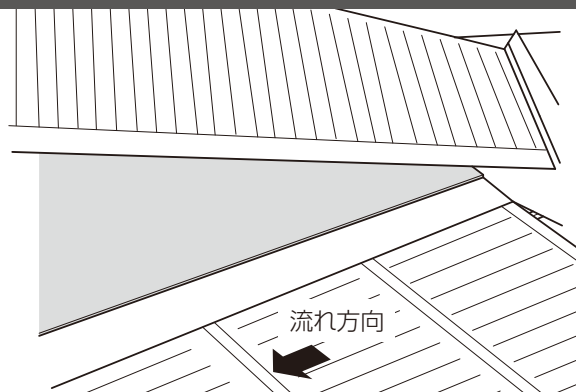
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



8. その他の納まり

8-4. ドーマー部の納まり つづき

- ⑥屋根本体とその他役物を仕上げてください。
 ※屋根本体の取付は31～36ページと同様の手順で取付けてください。

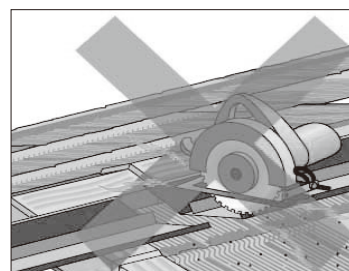


▲ 注意

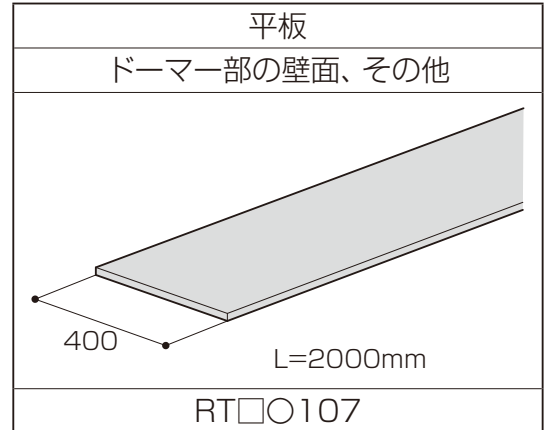
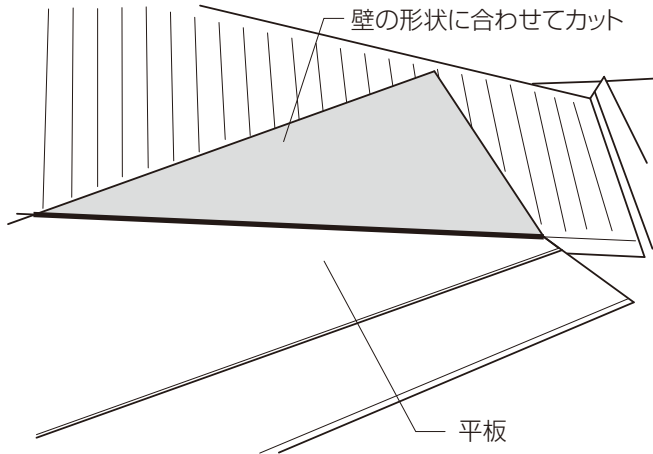
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。



【ドーマー部の壁面を平板で納める場合】



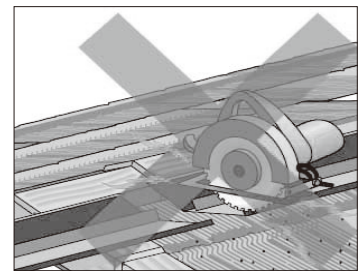
※壁面の仕上げはビルダー様と打ち合わせしてください。

▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違えて使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。

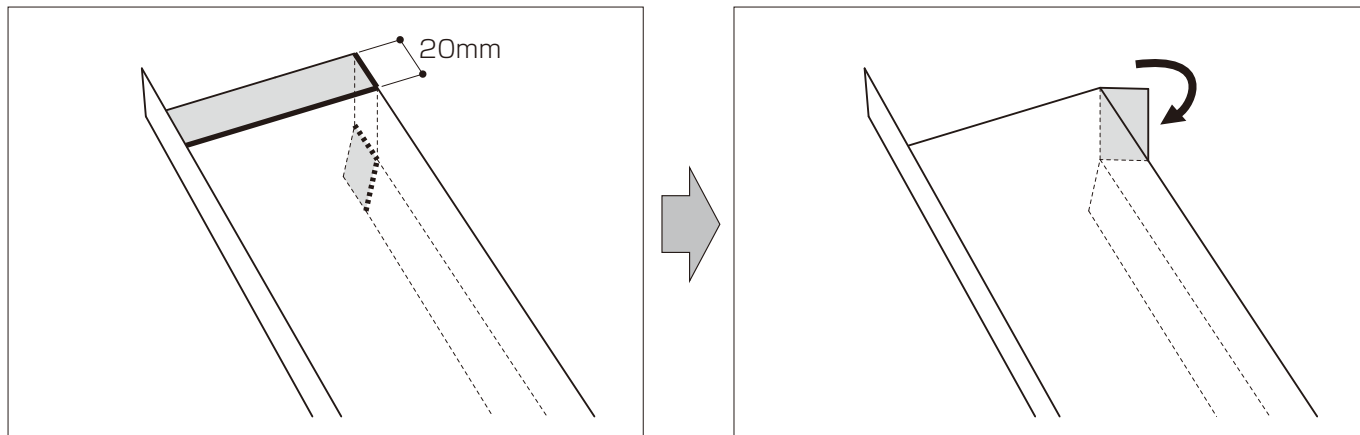


8. その他の納まり

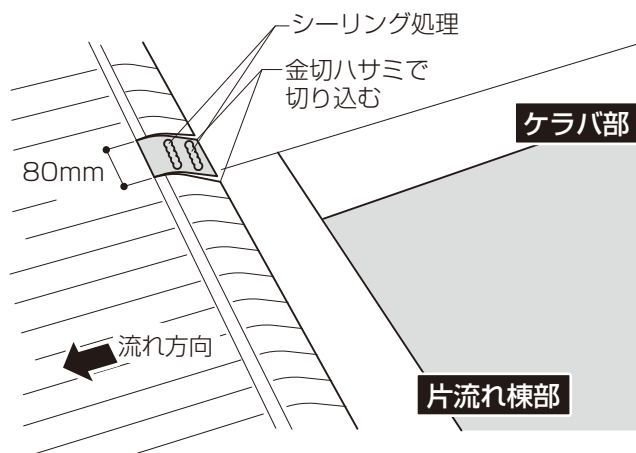
8-5. 棟欠け部の納まり

①棟欠け部付近まで屋根本体を取付けて片流れ棟部に取り付けるケラバ用水切の端部は20mm折り返しの加工をしてください。

※屋根本体の取付は31～36ページと同様の手順で取付けてください。



②片流れ棟部の最上段から1段手前の屋根本体表面にケラバ用水切が露出できるように屋根本体の立上げ部を加工し、加工部に変成シリコンでシーリング処理をしてください。

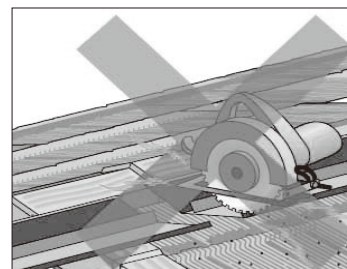


▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違っていると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態ですら強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。



8. その他の納まり

8-5. 棟欠け部の納まり つづき

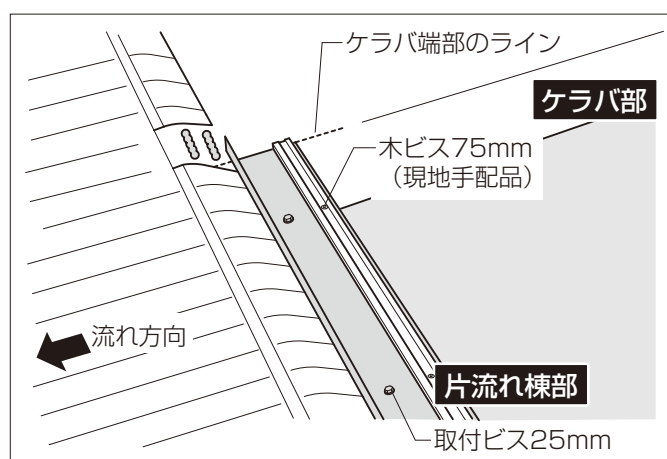
③①で加工したケラバ用水切は片流れ棟部とケラバ部の合掌部に合わせて、取付ビス25mmで取付けてください。また、ケラバ用水切の上に高さ調整用栈木を木ビス75mm(現地手配品)で取付けてください。

▲ 注意

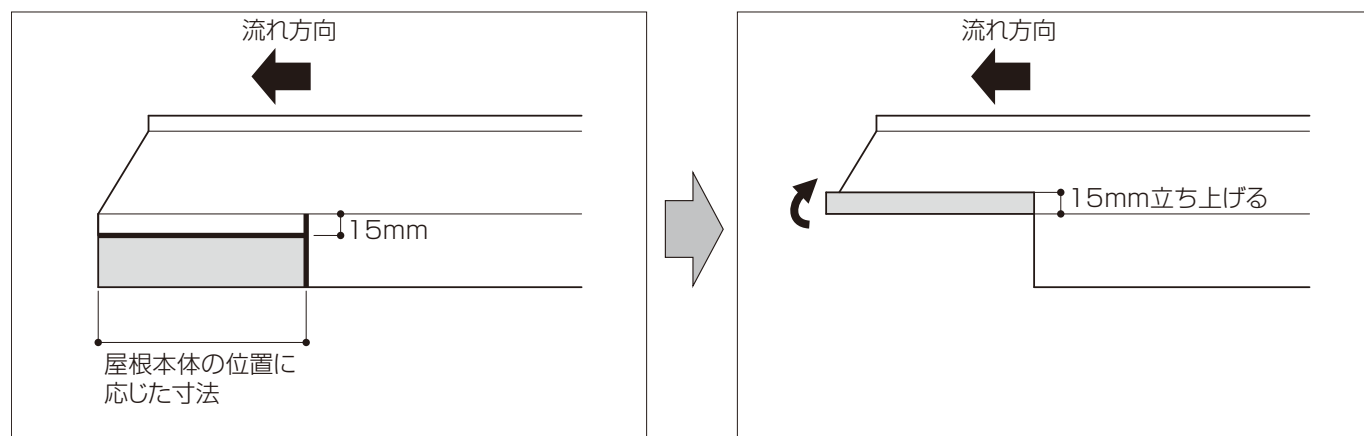
- 使用する栈木は樹脂製又は防腐処理を施した栈木且つ水抜き加工されている物(軒先部のみ)をご使用ください。遵守しないと栈木が腐食して屋根材の強度を失うおそれがあります。

お願い

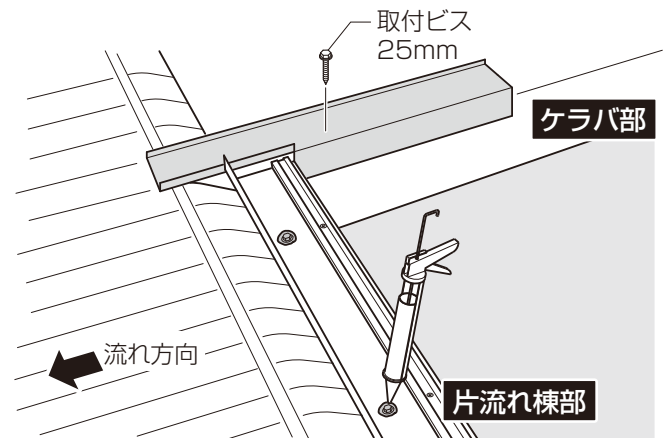
- 栈木を固定するビスの先端が破風下地や化粧破風板の取付に支障がないか確認してください。栈木を固定したビス先端が後施工の破風板と干渉して設置できなくなるおそれがあります。



④加工した屋根本体表面にケラバ用水切平部が100mm程度、露出するように水切先端を下記の図のように加工してください。



- ⑤加工したケラバ用水切を片流れ棟部とケラバ部の合掌部に当てて取付ビス25mmで取付けてください。
※ケラバ用水切の取付は26～29ページを参照

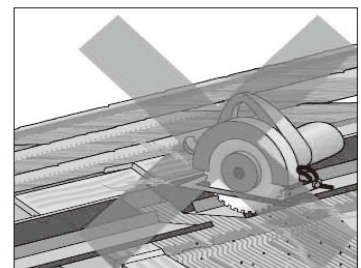


▲ 注意

- 水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りにつながるおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違っていると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



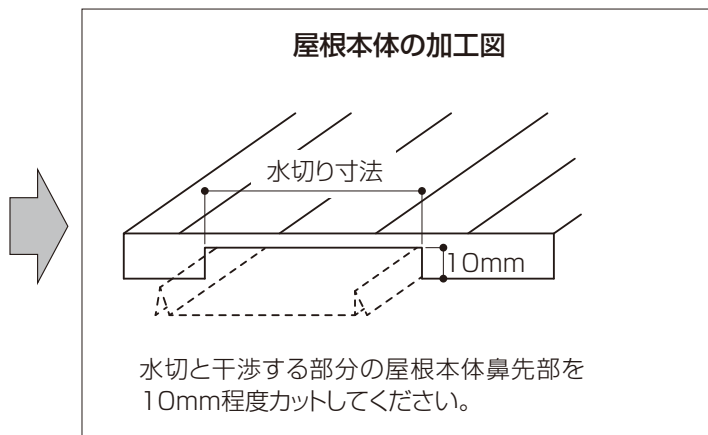
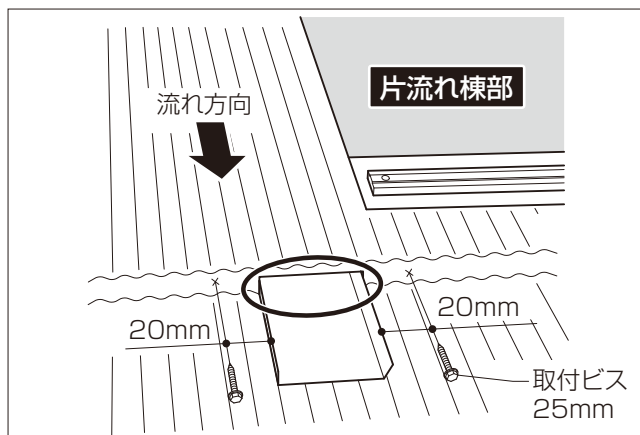
8. その他の納まり

8-5. 棟欠け部の納まり つづき

⑥片流れ棟部の最上段目の屋根本体を含めて取付ビス25mmで取付けてください。

ケラバ用水切が露出する箇所の屋根本体は鼻先部をケラバ用水切平部の形状に合わせて加工して取付けてください。

※屋根本体の取付は31～36ページと同様の手順で取付けてください。

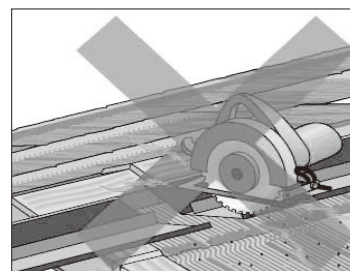


▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

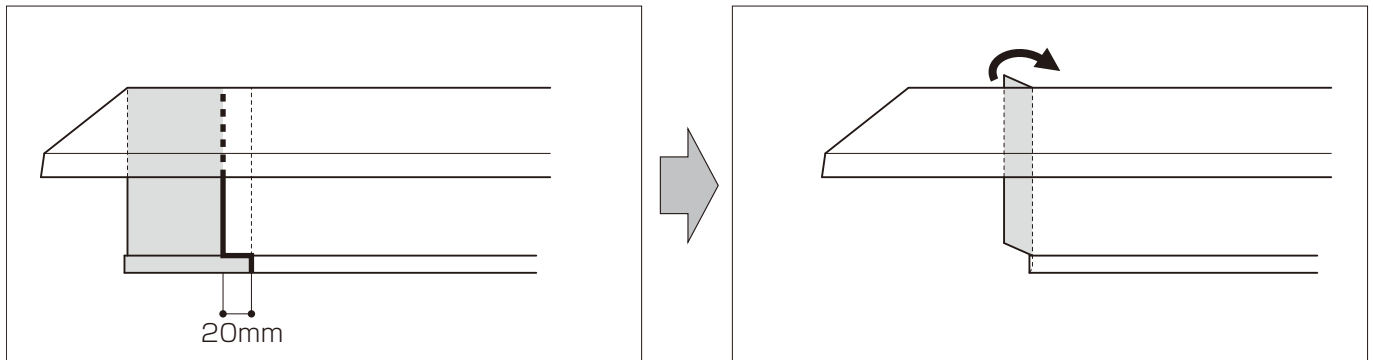
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。



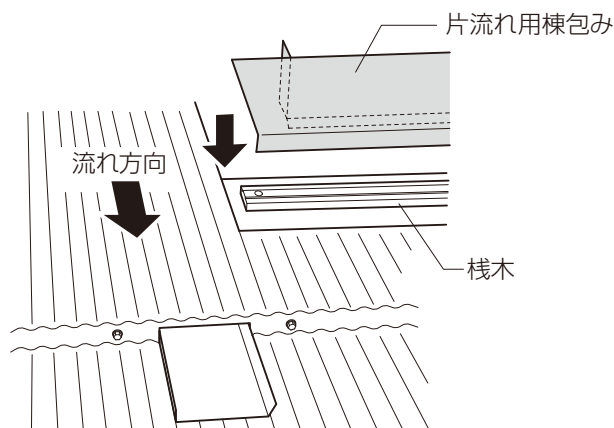
①片流れ棟部の片流れ用棟包みは46～49ページ、ケラバ部の通しケラバ包みは37～39ページを参照して取付ビス25mmで取付けてください。

片流れ棟部とケラバ部の合掌部は下記の図のように加工して納めてください。

【片流れ用棟包みの加工図】



【片流れ用棟包みの取付】

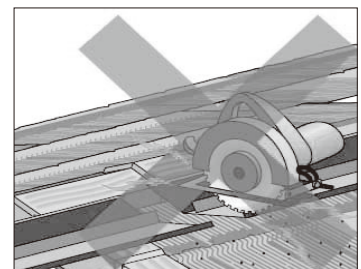


▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

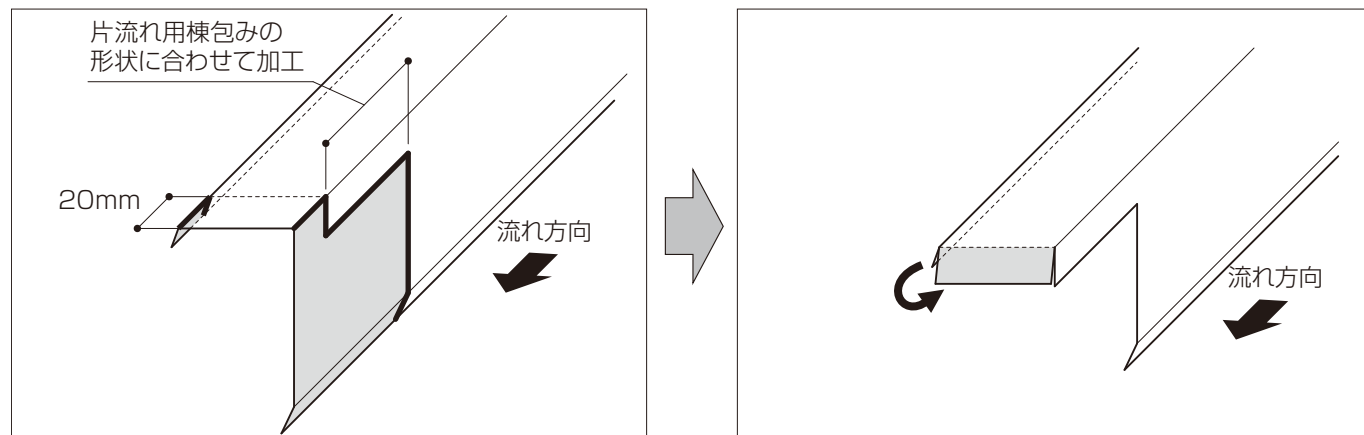
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



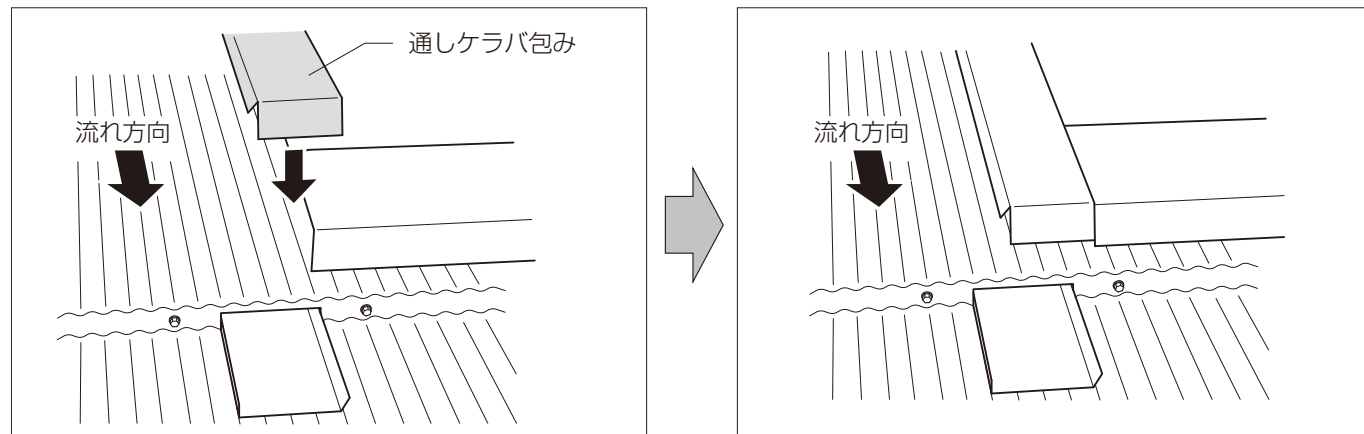
8. その他の納まり

8-5. 棟欠け部の納まり つづき

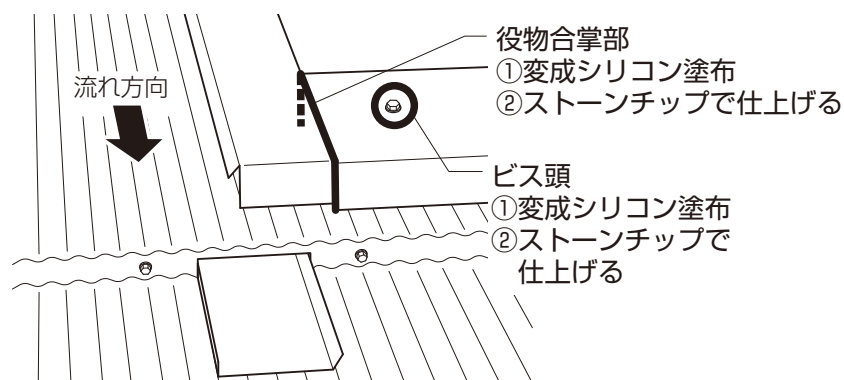
通しケラバ包みの加工図



通しケラバ包みの取付け



⑧通しケラバ包みと片流れ用棟包みの合掌部と固定したビス頭を变成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)で化粧処理をしてください。



▲ 注意

- 補修材を塗布した後、完全に乾くまでは手足で触れないようにしてください。屋根材やその他の部位を汚してしまうおそれがあります。

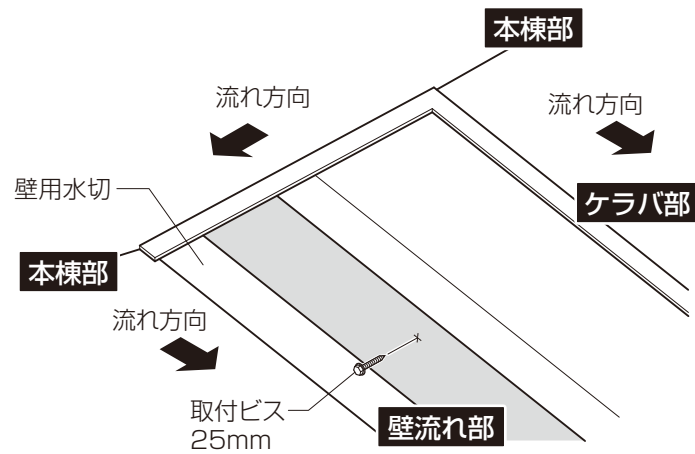
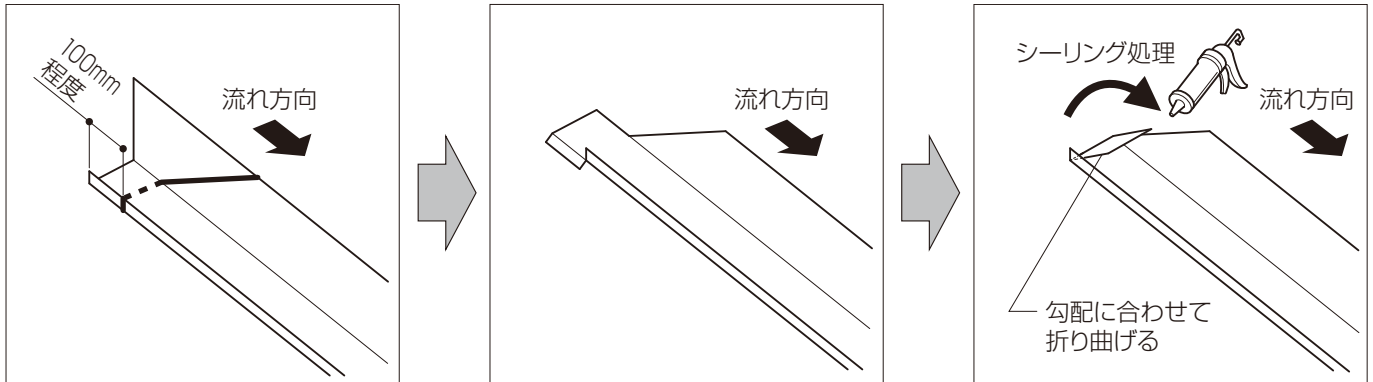
お願い

- 補修キットのベースコートの使用環境温度は5℃以上でご使用ください。ベースコートの成分が分離してしまうおそれがあります。

8-6. 棟違い部の納まり

①棟違い妻側の壁面に合わせて壁用水切を加工して取付ビス25mmで取付けてください。

【壁用水切の加工図】



8. その他の納まり

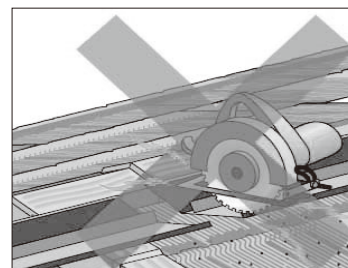
8-6. 棟違い部の納まり つづき

▲ 注意

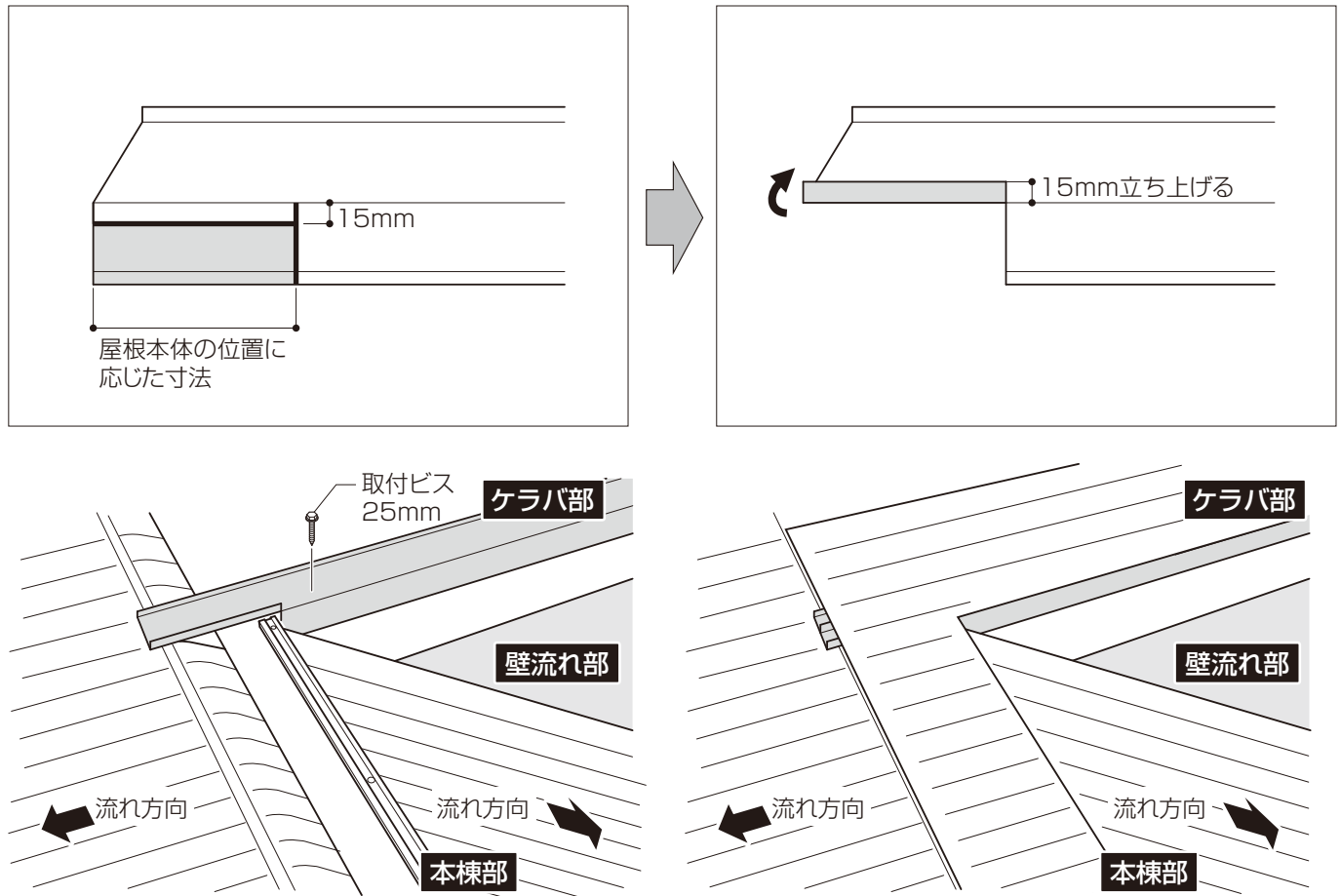
- 水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りにつながるおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違っていると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



②屋根勾配に合わせてケラバ用水切を加工して屋根本体とともに取付ビス25mmで取付けてください。
ケラバ用水切の加工と取付は26～29ページを参照



▲ 注意

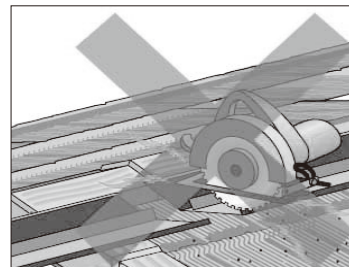
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

8. その他の納まり

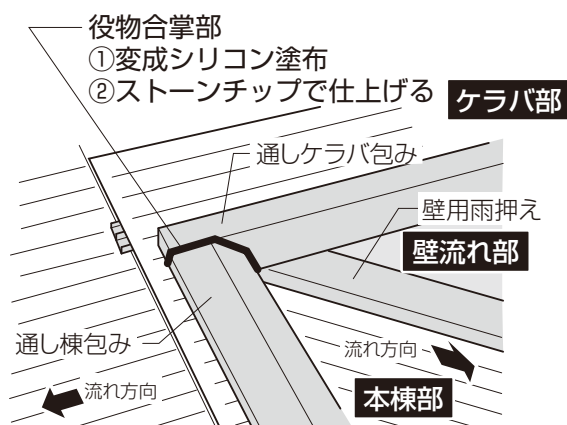
8-6. 棟違い部の納まり つづき

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。



- ③壁用雨押え、通し棟包み、通しケラバ包みを屋根勾配や各合掌部に合わせて加工して取付ビス25mmで取付けてください。
取付け後、各合掌部は変成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)で化粧処理をしてください。



▲ 注意

- 補修材を塗布した後、完全に乾くまでは手足で触れないようにしてください。屋根材やその他の部位を汚してしまうおそれがあります。

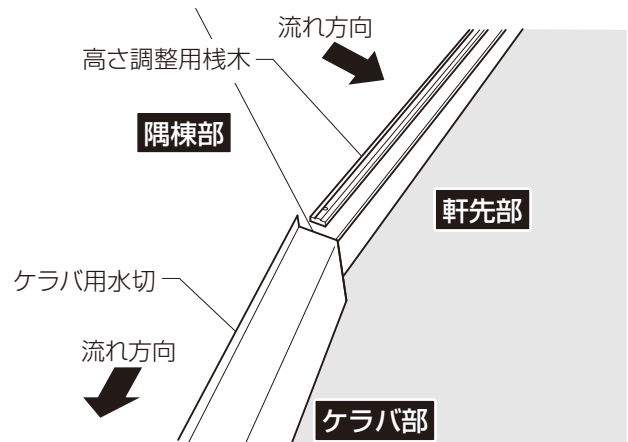
お願い

- 補修キットのベースコートの使用環境温度は5℃以上でご使用ください。ベースコートの成分が分離してしまうおそれがあります。

8-7. 隅棟部とケラバ部と軒先部の合掌部の納まり

①ケラバ部にケラバ用水切、軒先部に高さ調整栈木を取付けてください。

※ケラバ用水切の取付は26ページ、高さ調整用栈木の取付は51ページを参照。

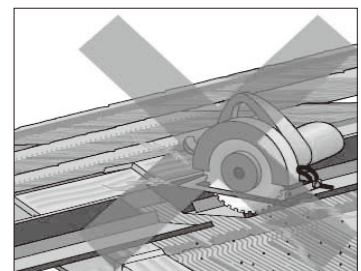


▲ 注意

- 使用する栈木は樹脂製又は防腐処理を施した栈木且つ水抜き加工されている物(軒先部のみ)をご使用ください。遵守しないと栈木が腐食して屋根材の強度を失うおそれがあります。
- 水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りにつながるおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違ってしまうと屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

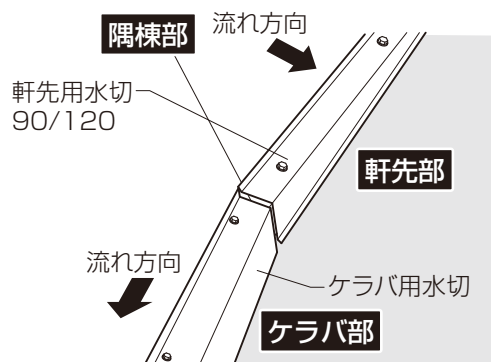
- 栈木を固定するビスの先端が破風下地や化粧破風板の取付に支障がないか確認してください。栈木を固定したビス先端が後施工の破風板と干渉して設置できなくなるおそれがあります。
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



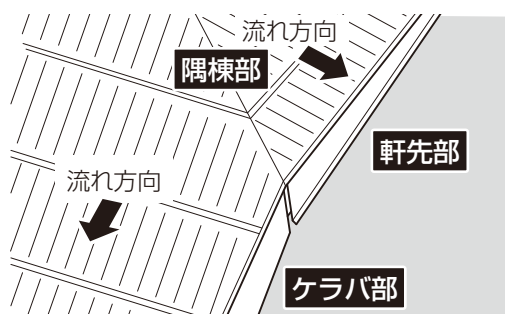
8. その他の納まり

8-7. 隅棟部とケラバ部と軒先部の合掌部の納まり つづき

- ②軒先部に軒先用水切90/120を取付けてください。
 ※軒先用水切90/120の取付は24、25ページを参照。



- ③各屋根面の屋根本体を取付ビス25mmで取付けてください。
 ※屋根本体の取付は31～36ページと同様の手順で取付けてください。

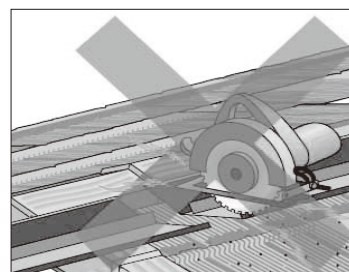


▲ 注意

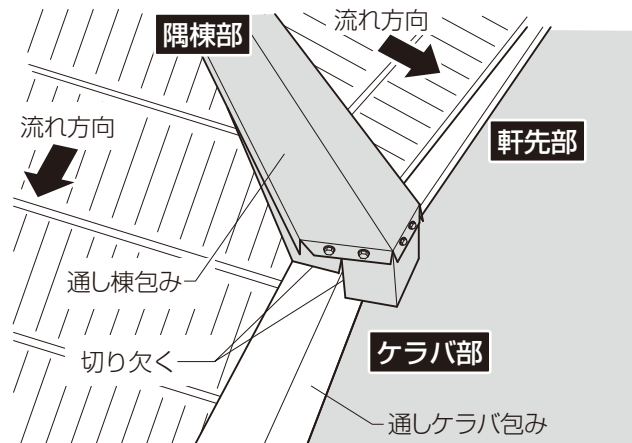
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違えて使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、すれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。



- ④ケラバ部に通しケラバ包み、隅棟部に通し棟包みを取付けてください。
 ケラバ部と隅棟部の合掌部は屋根形状に合わせて、各部材を金切ハサミで加工して取付けてください。
 ※通しケラバ包みの取付は37～38ページ、通し棟包みの取付は58～60ページを参照。
 ※角型ケラバ／棟包みで納める場合も同様に加工してから取付けてください。

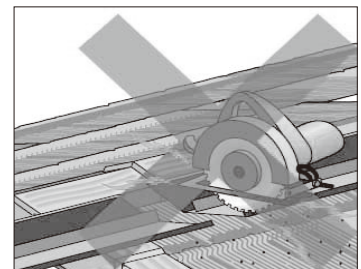


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違えて使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

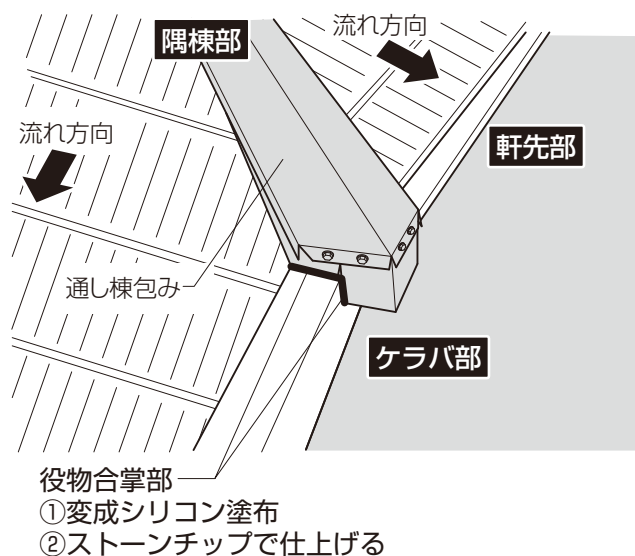
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



8. その他の納まり

8-7. 隅棟部とケラバ部と軒先部の合掌部の納まり つづき

⑤ 通しケラバ包みと通し棟包みの合掌部は変成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)で化粧処理をしてください。



▲ 注意

- 補修材を塗布した後、完全に乾くまでは手足で触れないようにしてください。屋根材やその他の部位を汚してしまうおそれがあります。

お願い

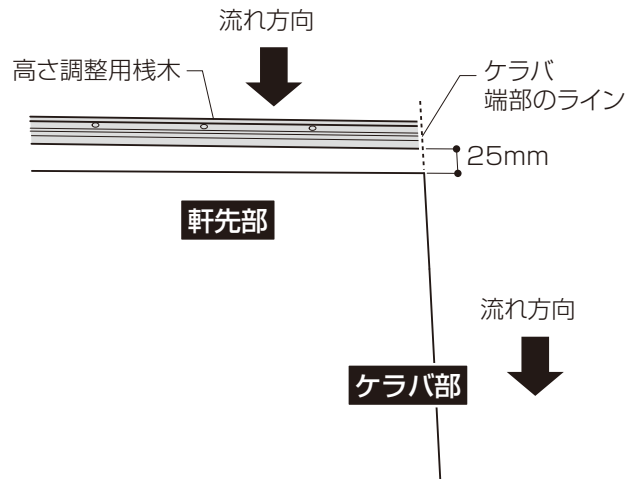
- 補修キットのベースコートの使用環境温度は5℃以上でご使用ください。ベースコートの成分が分離してしまうおそれがあります。

8-8. 軒欠け部の納まり

①軒先部に高さ調整用棧木を木ビス38mm(現地手配品)で取付けてください。

※高さ調整用棧木はケラバ端部のラインに合わせてください。

※軒欠け部の軒先の通りのみ、屋根本体の高さ調整が必要です。



▲ 注意

- 使用する棧木は樹脂製又は防腐処理を施した棧木且つ水抜き加工されている物(軒先部のみ)をご使用ください。遵守しないと棧木が腐食して屋根材の強度を失うおそれがあります。

お願い

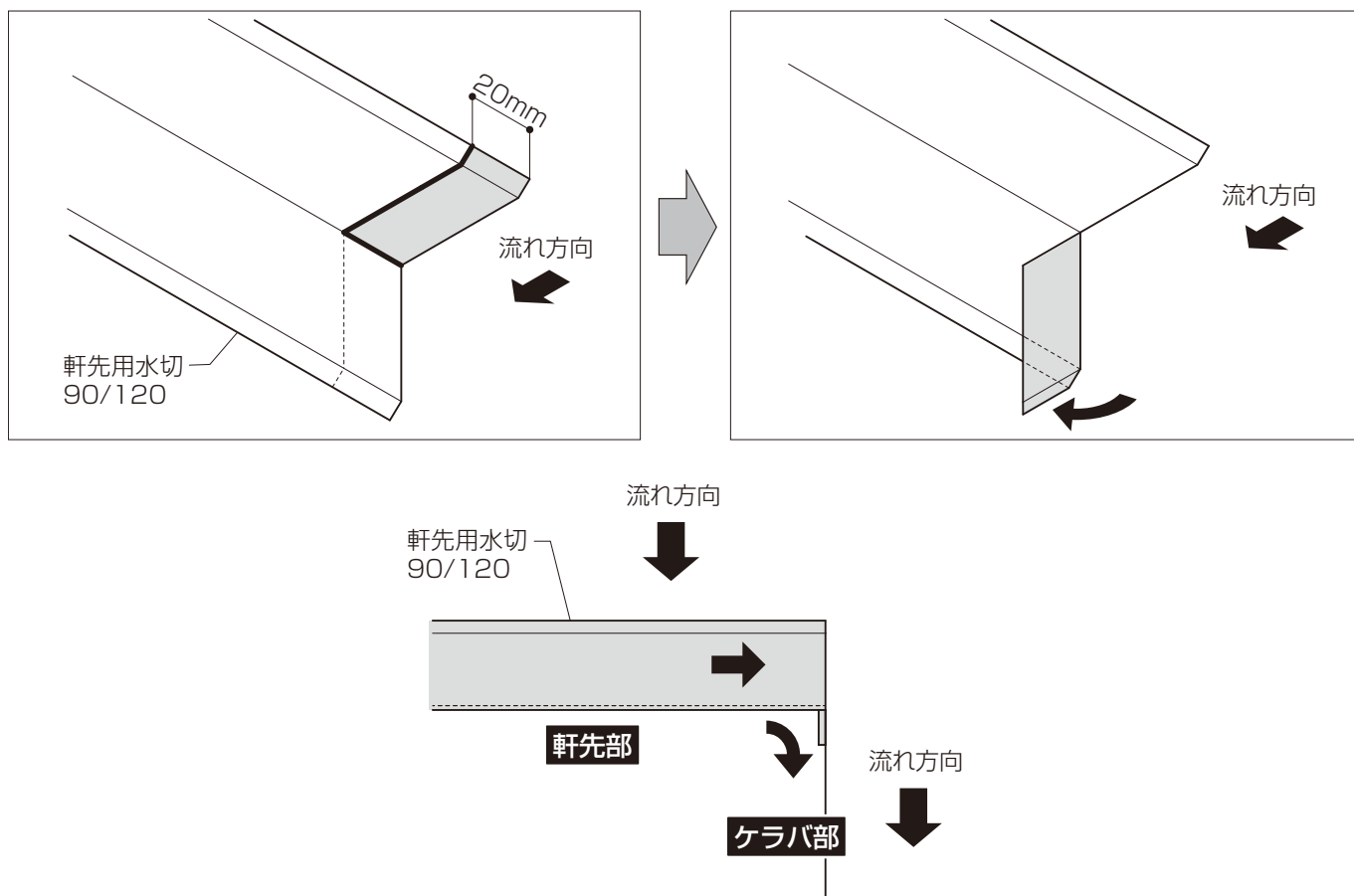
- 棧木を固定するビスの先端が破風下地や化粧破風板の取付に支障がないか確認してください。棧木を固定したビス先端が後施工の破風板と干渉して設置できなくなるおそれがあります。

8. その他の納まり

8-8. 軒欠け部の納まり つづき

②軒先部に軒先用水切90/120を下記の図のように加工して取付けてください。

【軒先用水切90/120の加工】

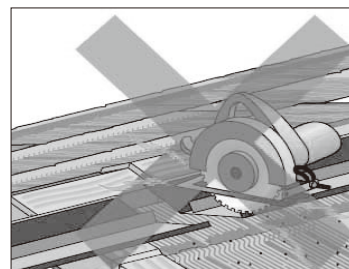


▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

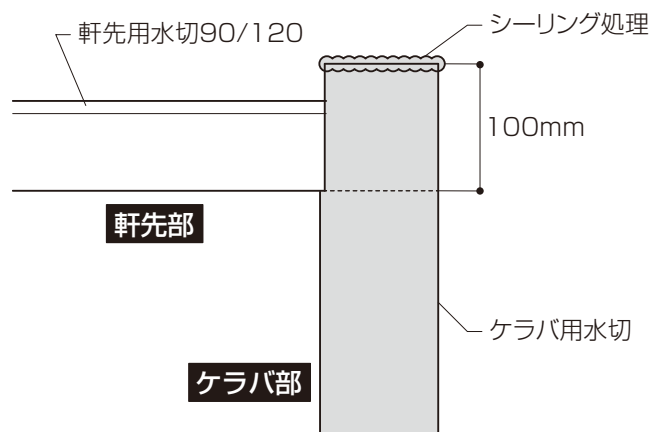
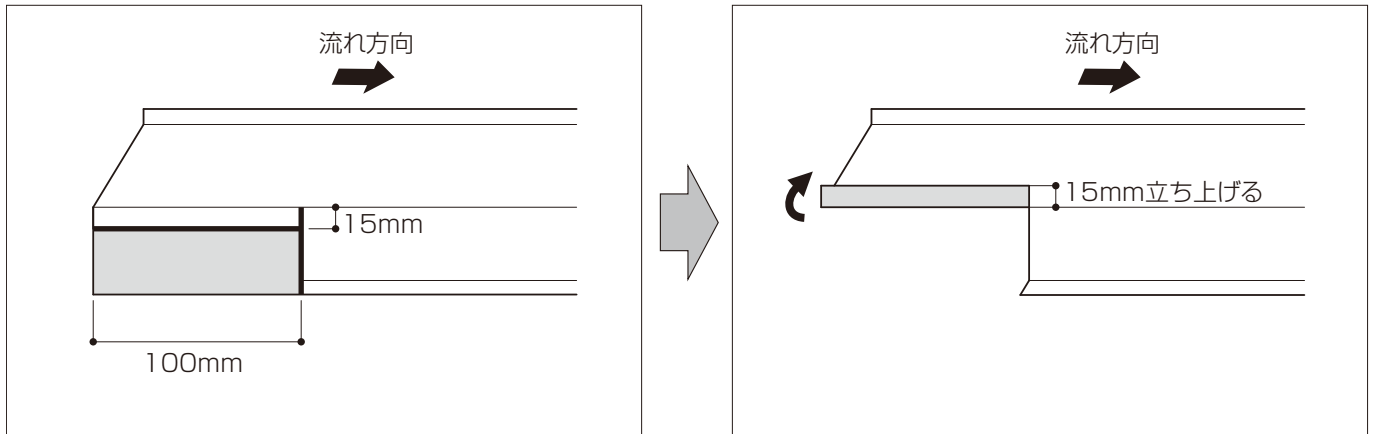
お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



- ③ケラバ部にケラバ用水切を下記の図のように加工して取付けてください。
取付後、ケラバ用水切上端部に変成シリコンでシーリング処理をしてください。

【ケラバ用水切の加工】



8. その他の納まり

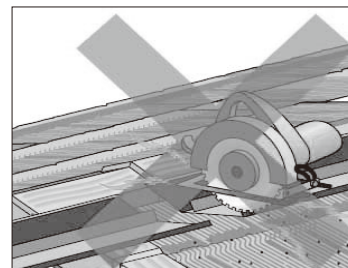
8-8. 軒欠け部の納まり つづき

▲ 注意

- 水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りにつながるおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違えて使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。

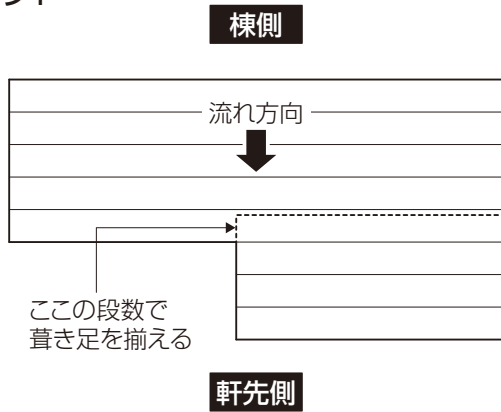


④屋根本体を取付けてください。

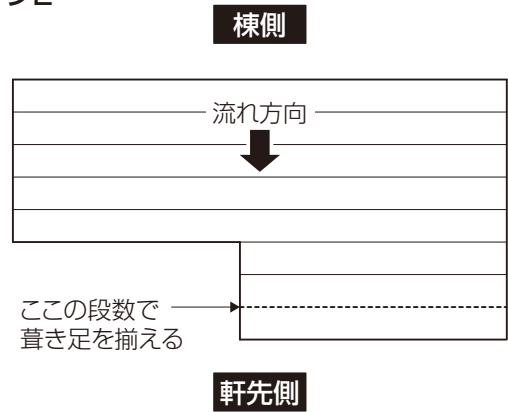
屋根本体の葺き足を揃える為に下記のいずれかの方法で調整してください。

※屋根本体の取付は31～36ページと同様の手順で取付けてください。

パターン1



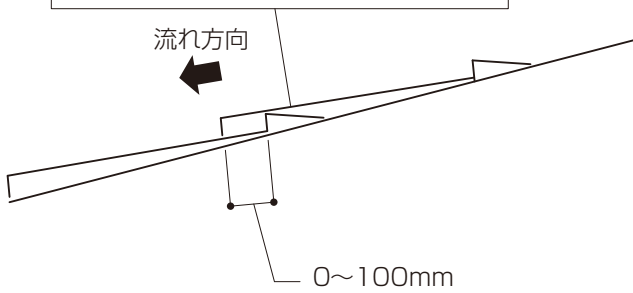
パターン2



屋根本体の重なりによってビスの取付方法が異なりますので下記に従って屋根本体を納めてください。

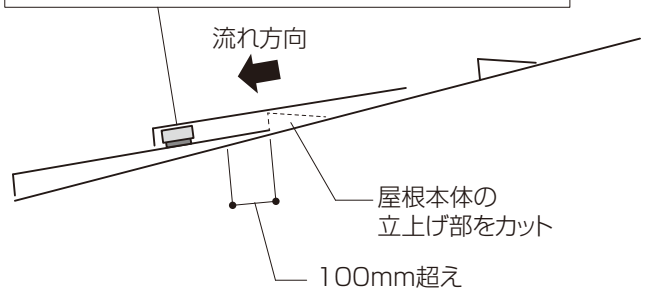
パターン1

屋根本体流れ方向の重なり部に対して
 脳天から取付ビス25mmで取付
 ※ビスの間隔は構造用合板の場合は
 426mm、OSB合板の場合は256mm
 です。



パターン2

栈木(厚み18mm以内)の裏面にシールテープ10
 を貼り付けて屋根本体の脳天から取付ビス25mm
 で取付
 ※ビスの間隔は構造用合板の場合は426mm、OSB
 合板の場合は256mmです。



8. その他の納まり

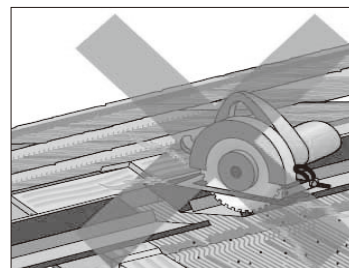
8-8. 軒欠け部の納まり つづき

▲ 注意

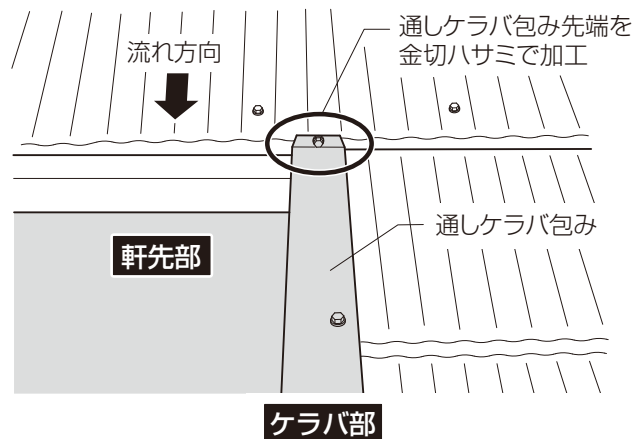
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違っていると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になるおそれがあります。



⑤ 通しケラバ包みを屋根勾配と屋根本体の形状に合わせて金切ハサミで加工して取付ビス25mmで取付けてください。

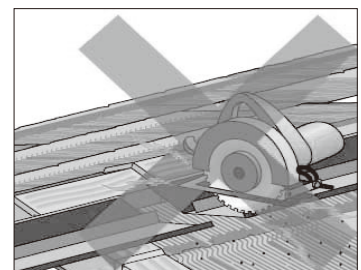


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違ってお使いすると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

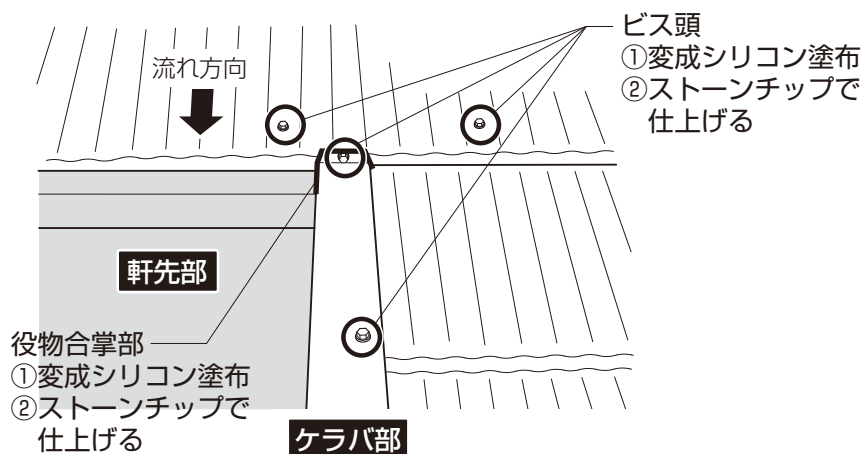
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



8. その他の納まり

8-8. 軒欠け部の納まり つづき

⑥通しケラバ包みと屋根本体の合掌部と葺き足調整した屋根本体の脳天から打った取付ビス25mmの頭を変成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)で化粧処理をしてください。



▲ 注意

- 補修材を塗布した後、完全に乾くまでは手足で触れないようにしてください。屋根材やその他の部位を汚してしまうおそれがあります。

お願い

- 補修キットのベースコートの使用環境温度は5℃以上でご使用ください。ベースコートの成分が分離してしまうおそれがあります。

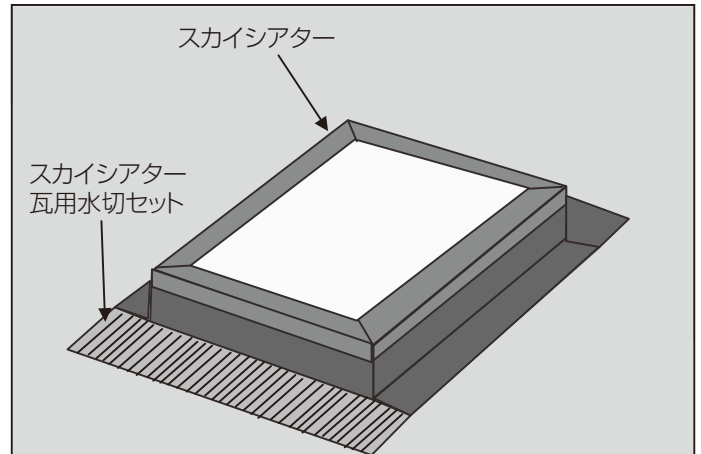
8-9. トップライトの納まり

標準地域でのLIXIL製 スカイシアターで納める場合

※トップライト廻りの納まりは、メーカーによって仕様が変わるため、表記している手順はあくまでも参考納まりとなります。
トップライトの施工標準書に従って屋根材を施工してください。

1. 下葺き材の敷き込み

- ①下葺き材をスカイシアター本体上部まで立ち上げてください。
- ②スカイシアター本体を設置して、スカイシアター瓦用水切セットを取付けてください。
※トップライトメーカー指定の水切セットを使用してください。

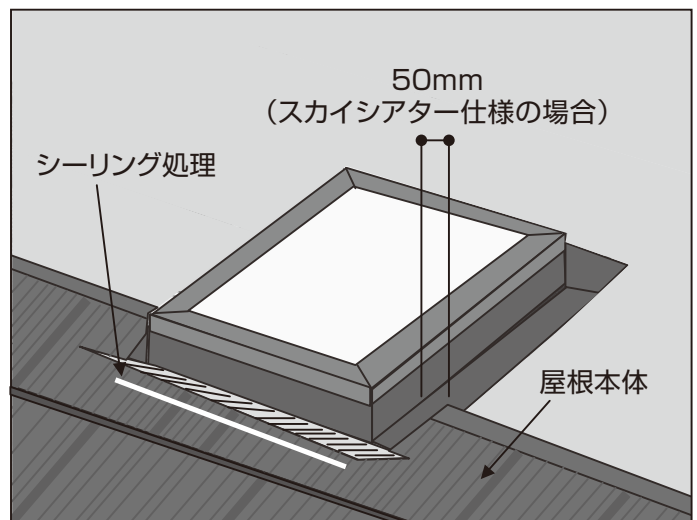
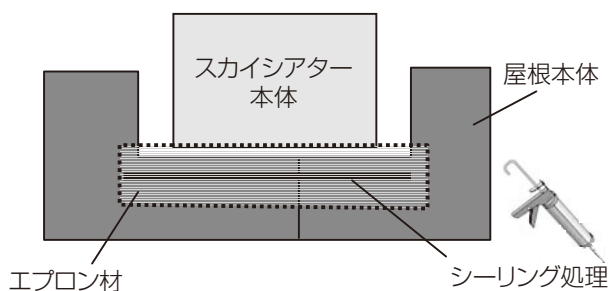


▲ 注意

●ルーフィング面は傷つけないように注意してください。雨漏りの原因となります。

2. 屋根本体の取付

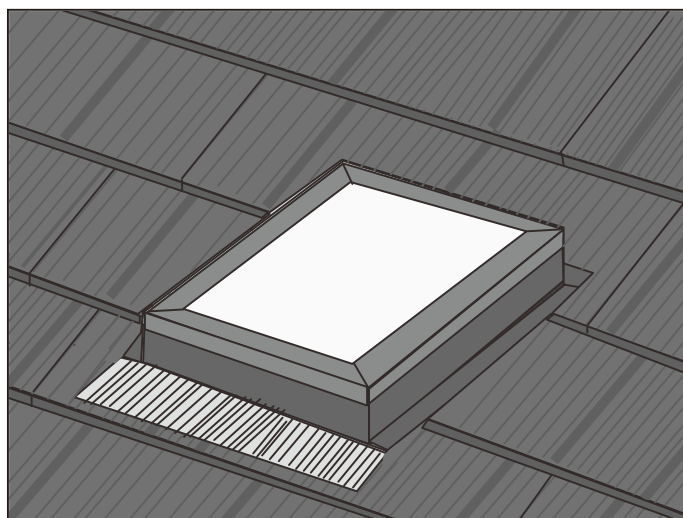
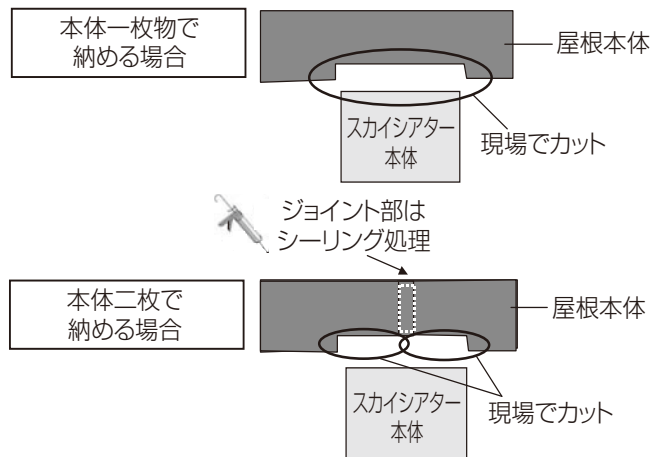
- ①スカイシアター本体に合わせて屋根本体を切断加工して、エプロン材と重なる部位に変成シリコンでシーリング処理をしてください。



8. その他の納まり

8-9. トップライトの納まり つづき

②水上部本体の加工は、トップライト寸法に合わせてカットして取付けてください。

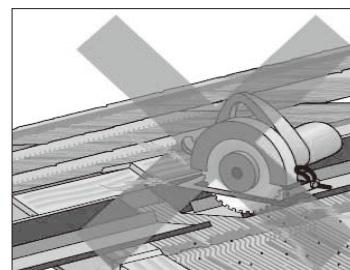


▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

お願い

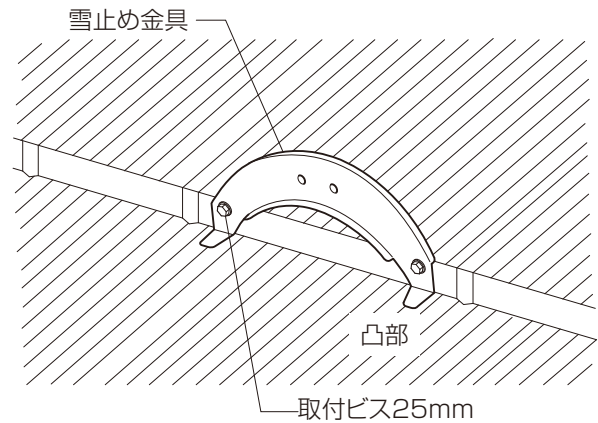
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



8-10. 雪止め金具の納まり

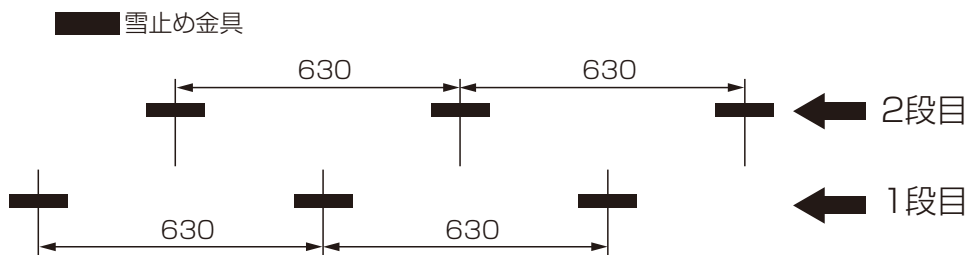
1. 雪止め金具の取付

- ①雪止め金具の脚部を屋根本体表面にのせて、取付ビス25mm2本で下図のように屋根本体鼻先部に対して取付けてください。
- ②取付は、1列630mm間隔で2段千鳥になるように取付けてください。



注意

雪止め金具を取付けても、気象条件などによっては、落雪する可能性があります。



▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違えて使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

8. その他の納まり

8-10. 雪止め金具の納まり つづき

【参考】雪止め金具の取付基準

- ・多雪地域の場合、行政指導に従って雪止め金具を取付ける場合があります。
- ・積雪量、勾配、流れ長さにより下表を参考に取付け段数を決定し、特に積雪が多い地域は施工店様の判断にて段数を増やす等の措置を行ってください。

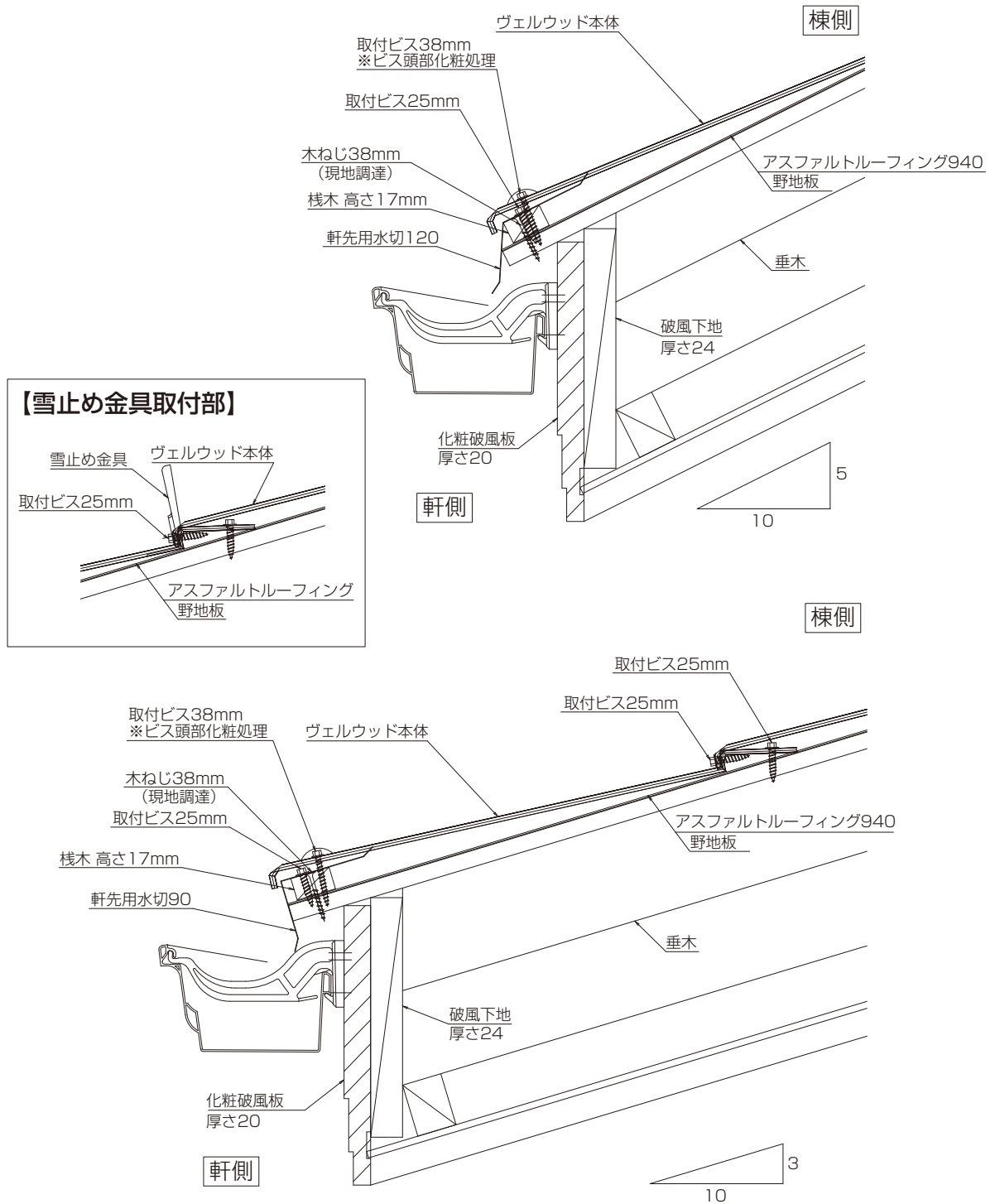
積雪量	勾配	流れ長さ(m)							
		4	5	6	7	8	9	10	
50cm 未満	3								
	4		屋根本体の 1段目と2段目に設置						
	5						屋根本体の3段目と 4段目にも増設		
	6								

積雪量	勾配	流れ長さ(m)						
		1	2	3	4	5	6	7
100cm 未満	3							
	4		屋根本体の 1段目と2段目に設置					
	5						屋根本体の3段目と 4段目にも増設	
	6							

9. 参考納まり図

9-1. 軒先部

新築の場合

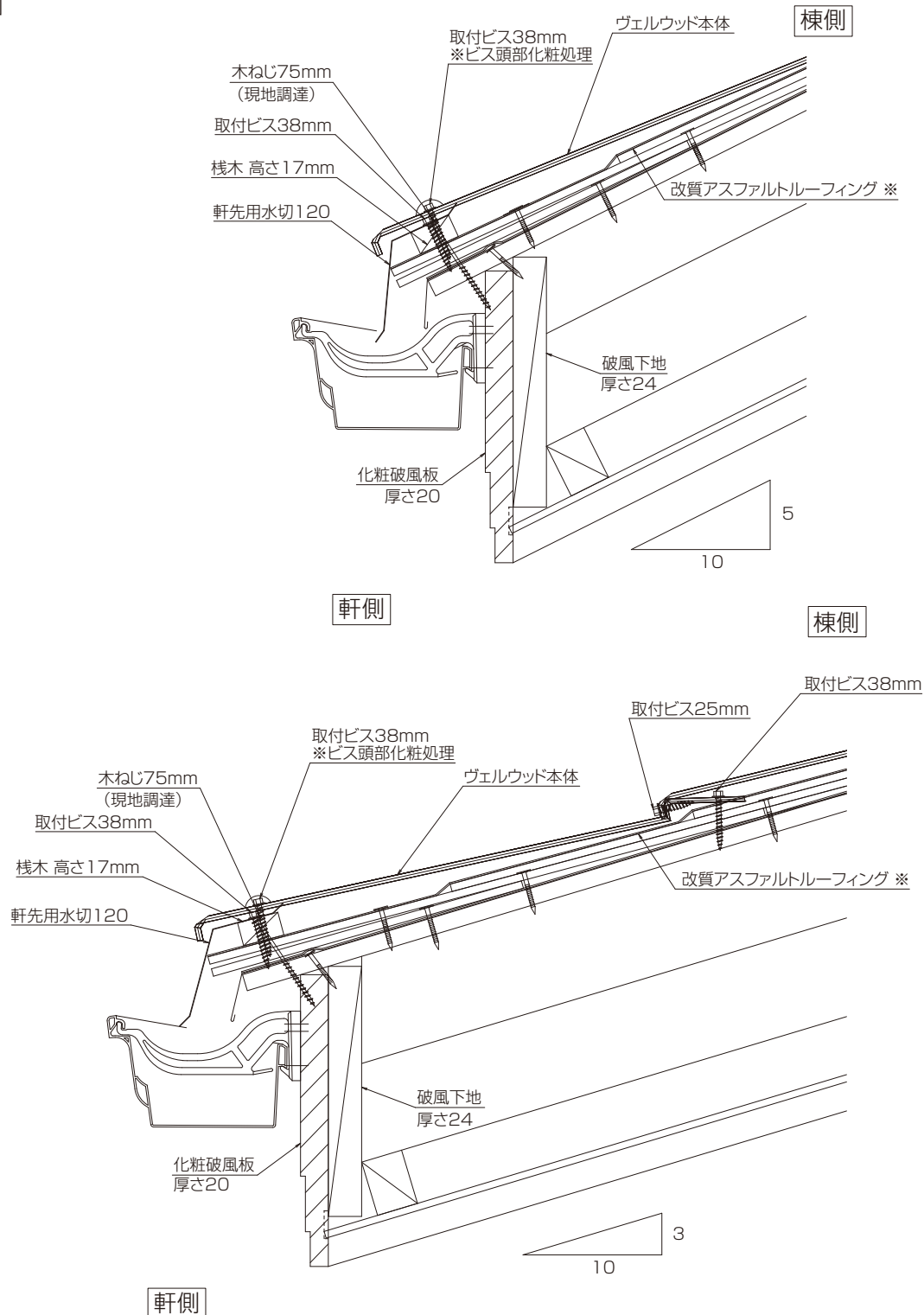


- ・化粧破風板、破風下地の仕様・厚さは現場によって異なります。
- ・栈木や軒先用水切を化粧破風板より先に取付けると、栈木・軒先用水切を固定したねじと化粧破風板が干渉する場合がありますので注意してください。
- ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB 11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので 施工マニュアルを確認の上取付けてください。

9. 参考納まり図

9-1. 軒先部 つづき

カバー工法の場合



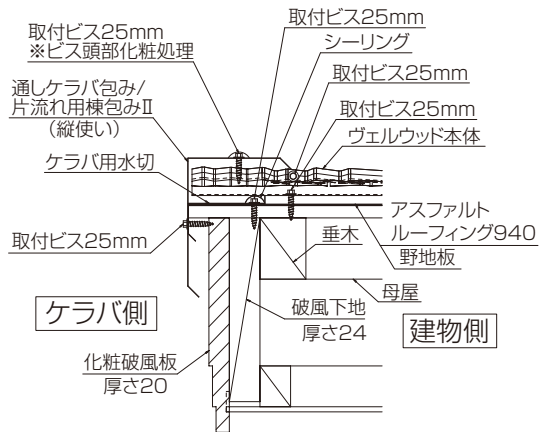
- ・小屋裏換気がされており、野地板・垂木に結露や漏水によるシミや腐り膨れ等が無いこと。外から屋根上を歩いてみて沈み込み等が無いこと。
- ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上であることを確認してください。
- ※改質アスファルトルーフィング[®]（古いスレート材の飛散防止として粘着付改質アスファルトルーフィング[®]）を推奨します。

9-2. ケラバ部(通しケラバ包み／片流れ用棟包み仕様)

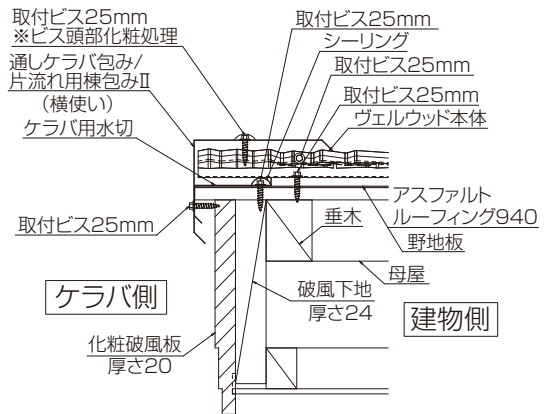
新築の場合

<通しケラバ包み／片流れ用棟包みⅡ仕様>

<縦使い>

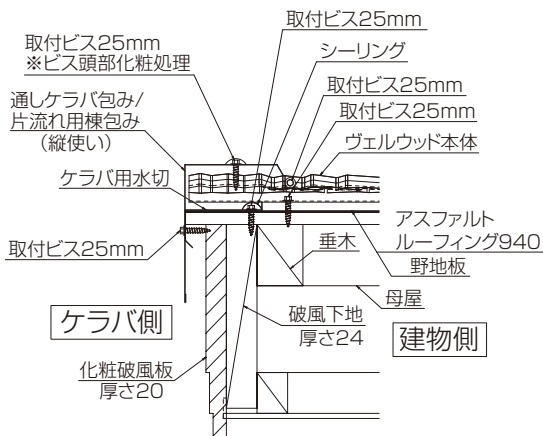


<横使い>

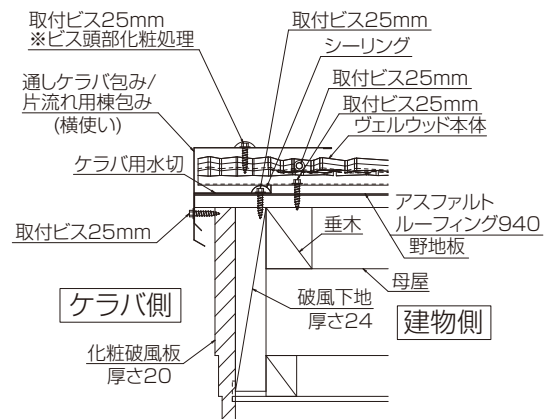


<通しケラバ包み／片流れ用棟包み仕様>

<縦使い>



<横使い>



- ・化粧破風板、破風下地の仕様・厚さは現場によって異なります。
- ・ケラバ用水切と通しケラバ包み/片流れ用棟包みを化粧破風板より先に取付けると、ケラバ用水切を固定するねじと化粧破風板が干渉する場合がありますので注意してください。
- ・野地板は構造用合板12mm上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので施工マニュアルを確認の上取付けしてください。

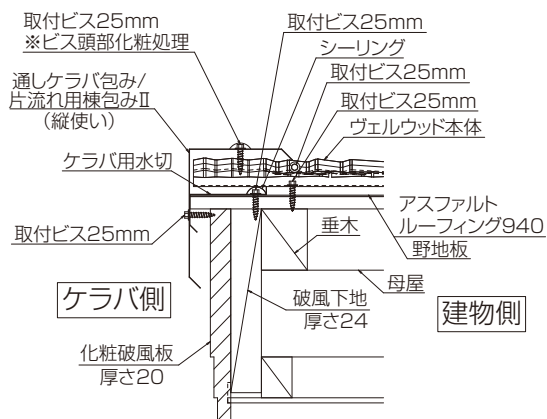
9. 参考納まり図

9-2. ケラバ部(通しケラバ包み／片流れ用棟包み仕様) つづき

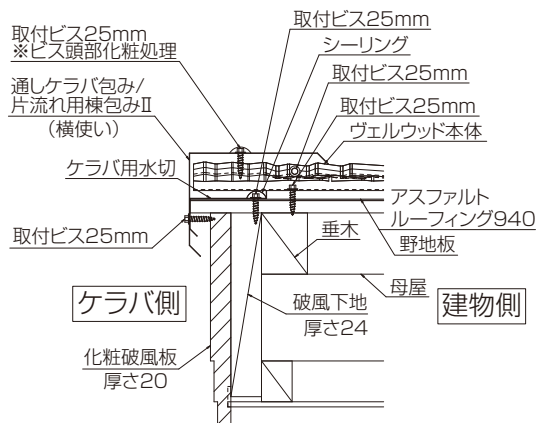
カバー工法の場合

<通しケラバ包み／片流れ用棟包みⅡ仕様>

<縦使い>

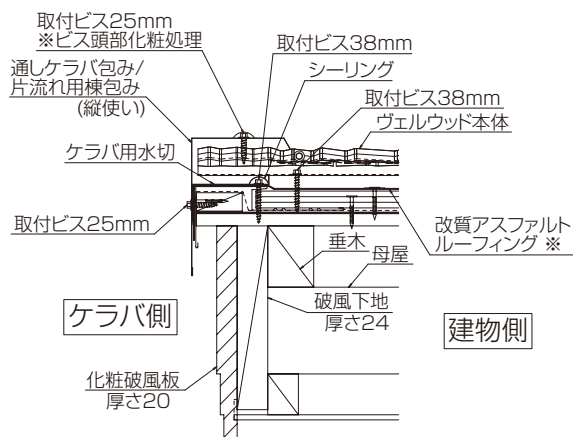


<横使い>

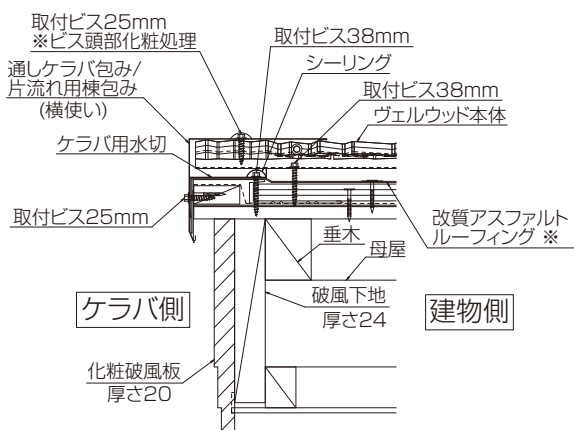


<通しケラバ包み／片流れ用棟包み仕様>

<縦使い>



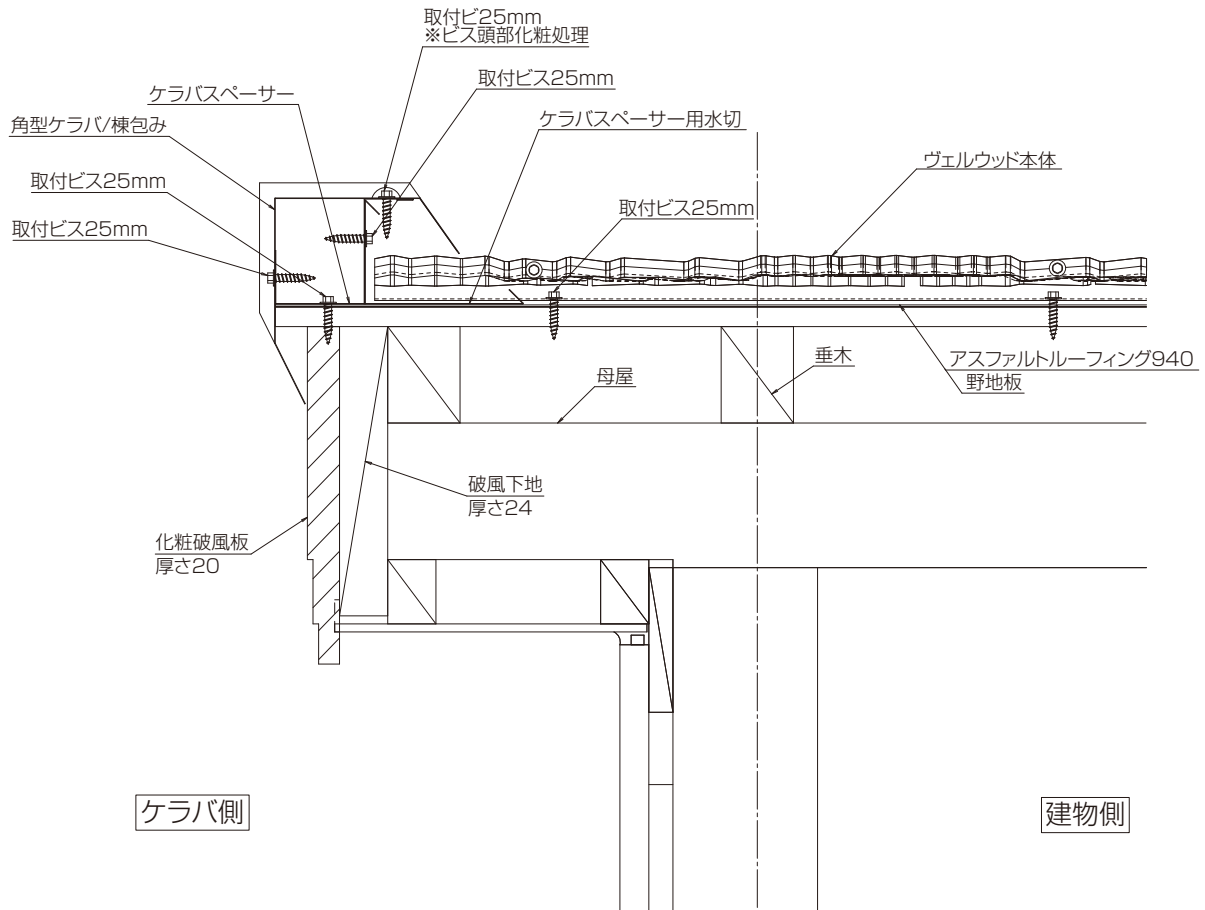
<横使い>



- ・小屋裏換気がされており、野地板・垂木に結露や漏水によるシミや腐り膨れ等が無いこと。外から屋根上を歩いてみて沈み込み等が無いこと。
- ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上であることを確認してください。
- ※改質アスファルトルーフィング(古いスレート材の飛散防止として粘着付改質アスファルトルーフィング)を推奨します。

9-2. ケラバ部(角型ケラバ包み／棟包み仕様)

新築の場合

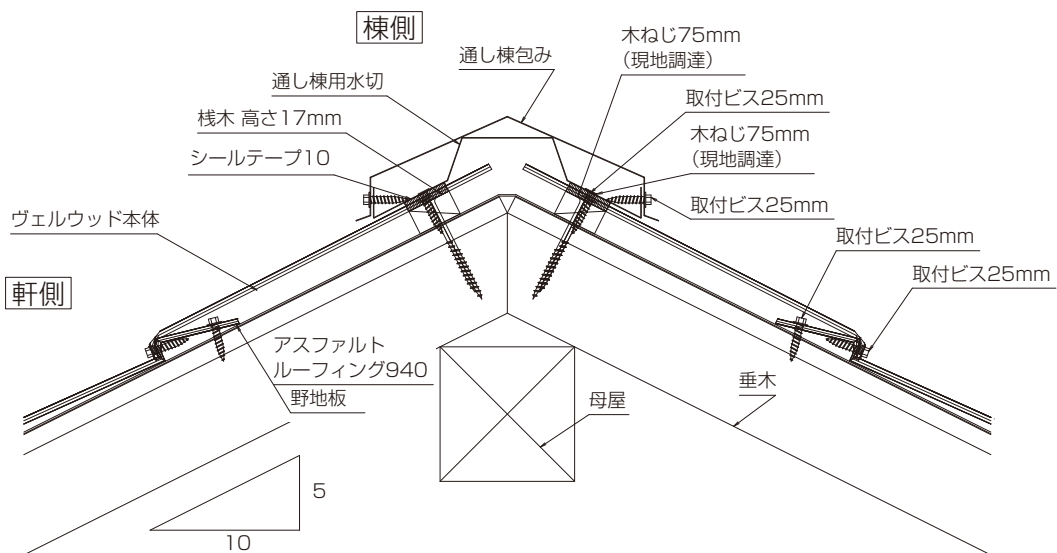
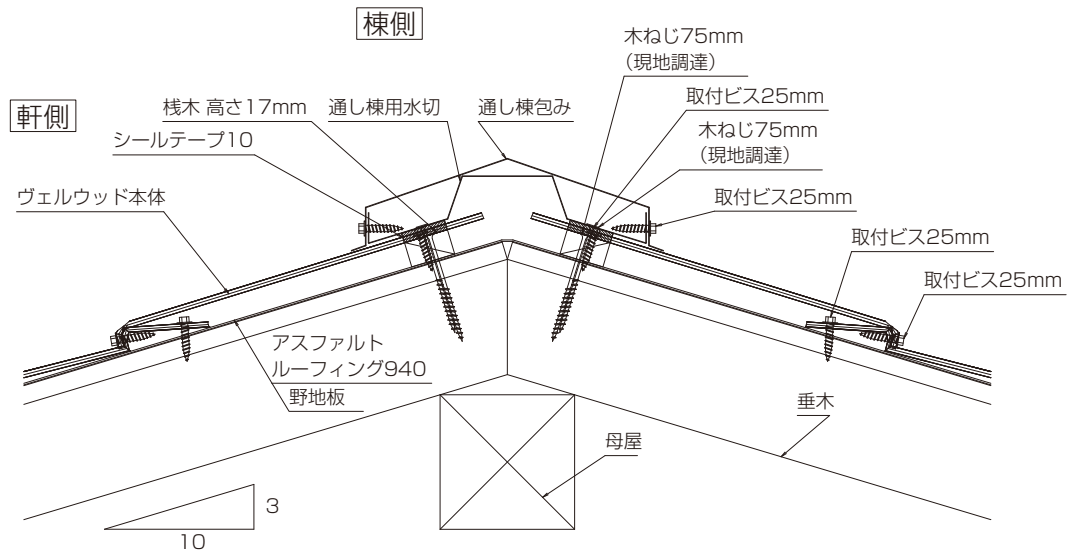


- ・化粧破風板、破風下地の仕様・厚さは現場によって異なります。
- ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので 施工マニュアルを確認の上取付けしてください。

9. 参考納まり図

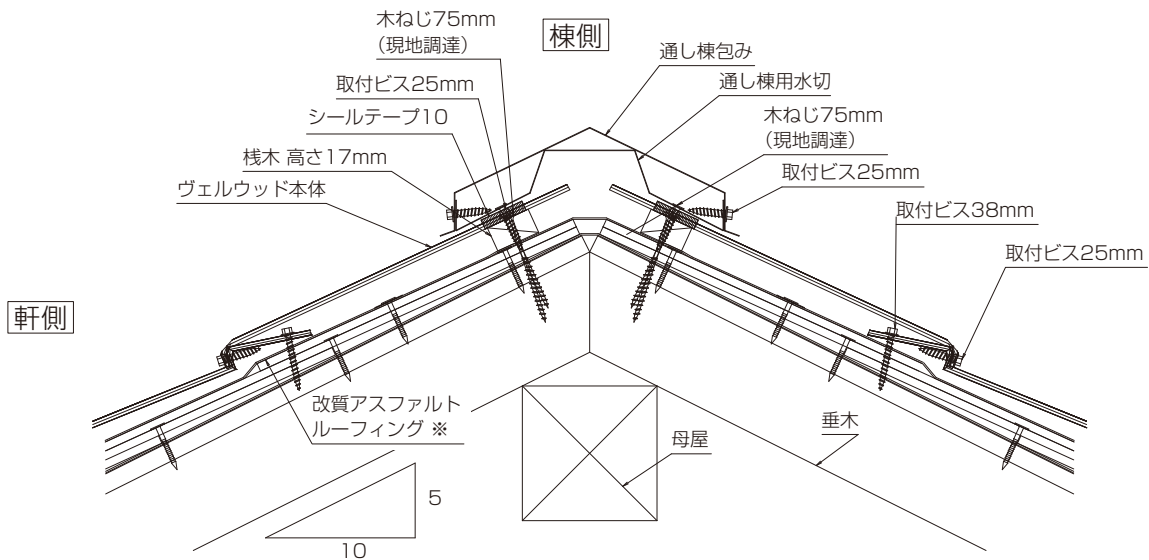
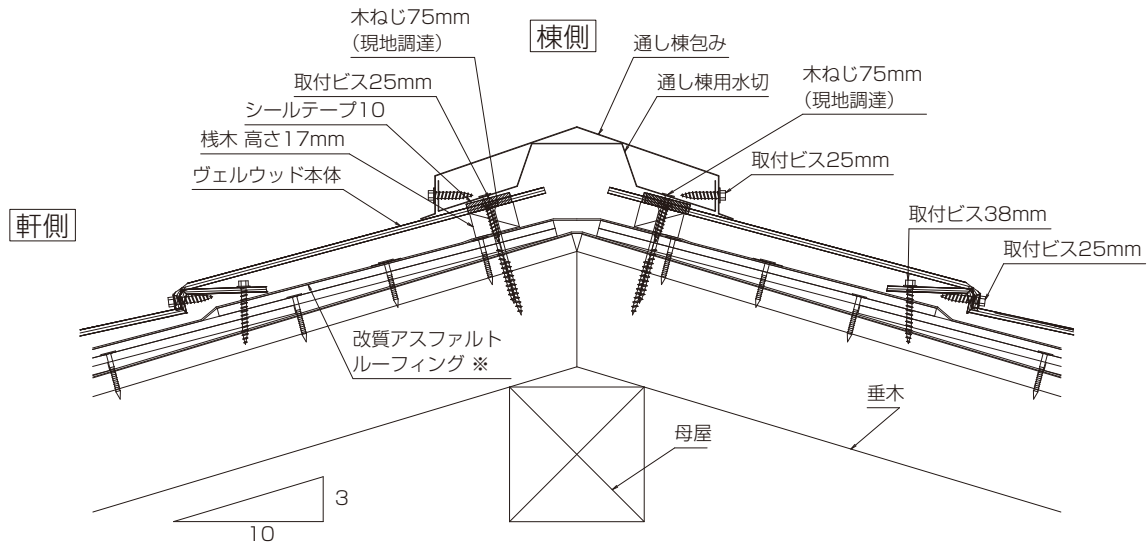
9-3. 本棟部(通し棟包み仕様)

新築の場合



- ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので施工マニュアルを確認の上取付けしてください。
- ・棟換気を取付ける場合の役物は棟換気カバーを使用してください。

カバー工法の場合

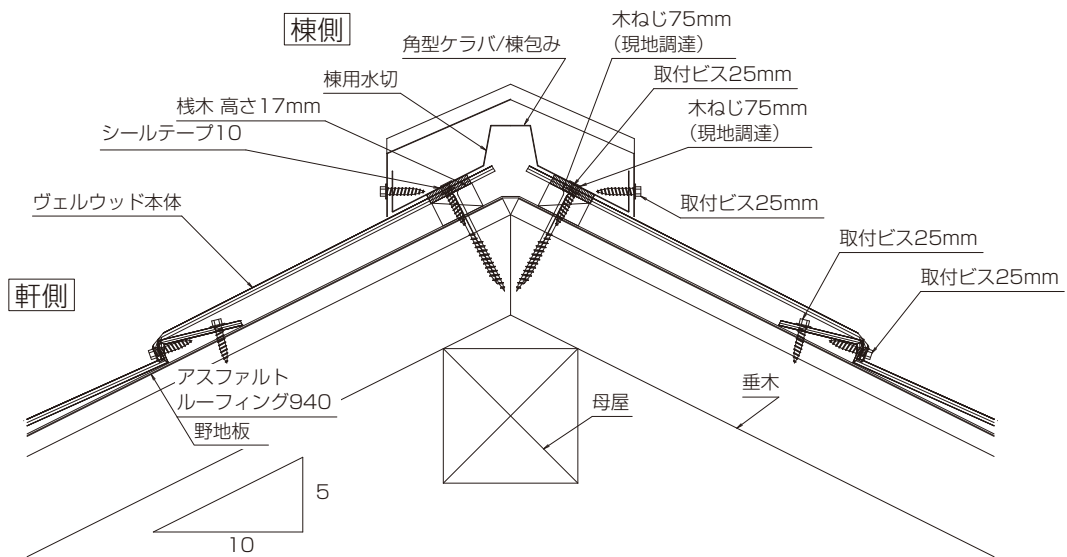
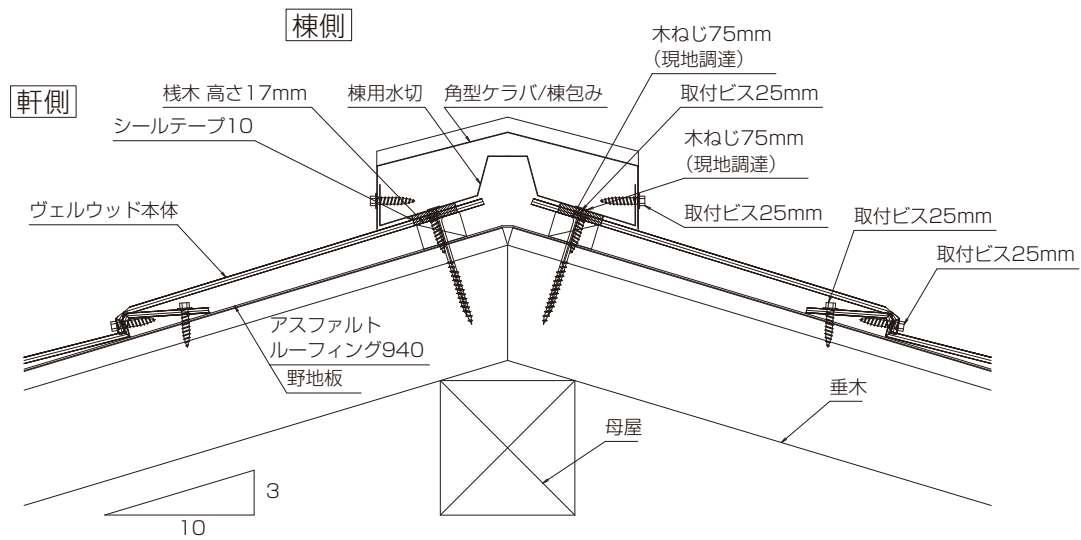


- ・小屋裏換気がされており、野地板・垂木に結露や漏水によるシミや腐り膨れ等が無いこと。外から屋根上を歩いてみて沈み込み等が無いこと。
 - ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上であることを確認してください。
 - ・棟換気を取付ける場合の役物は棟換気カバーを使用してください。
- ※改質アスファルトルーフィング（古いスレート材の飛散防止として粘着付改質アスファルトルーフィング）を推奨します。

9. 参考納まり図

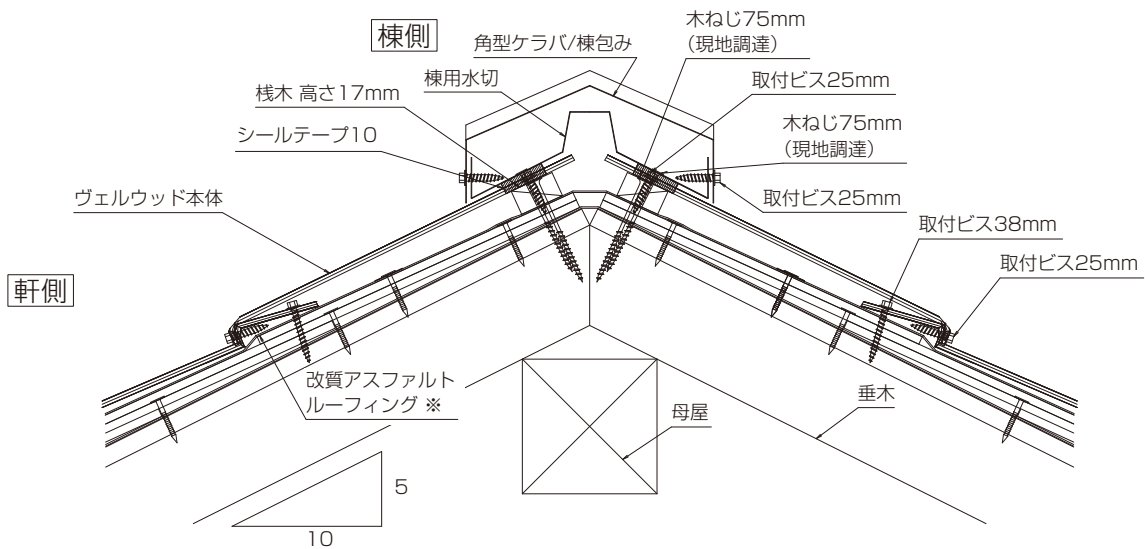
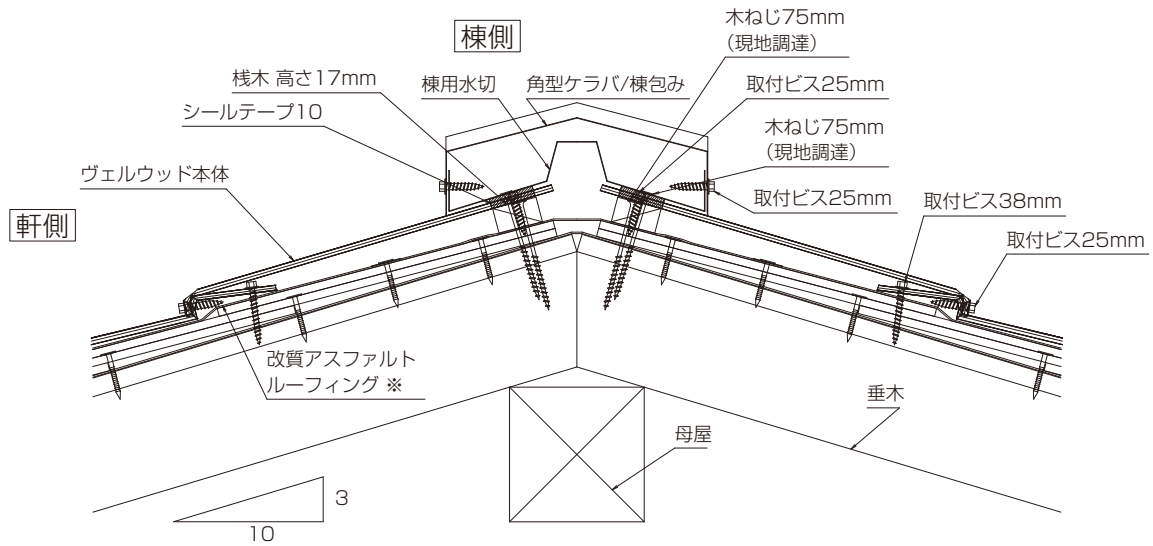
9-3. 本棟部(角型ケラバ／棟包み仕様)

新築の場合



- ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので施工マニュアルを確認の上取付けしてください。
- ・棟換気を取付ける場合の役物は角型ケラバ/棟包み用棟換気カバーを使用してください。

カバー工法の場合

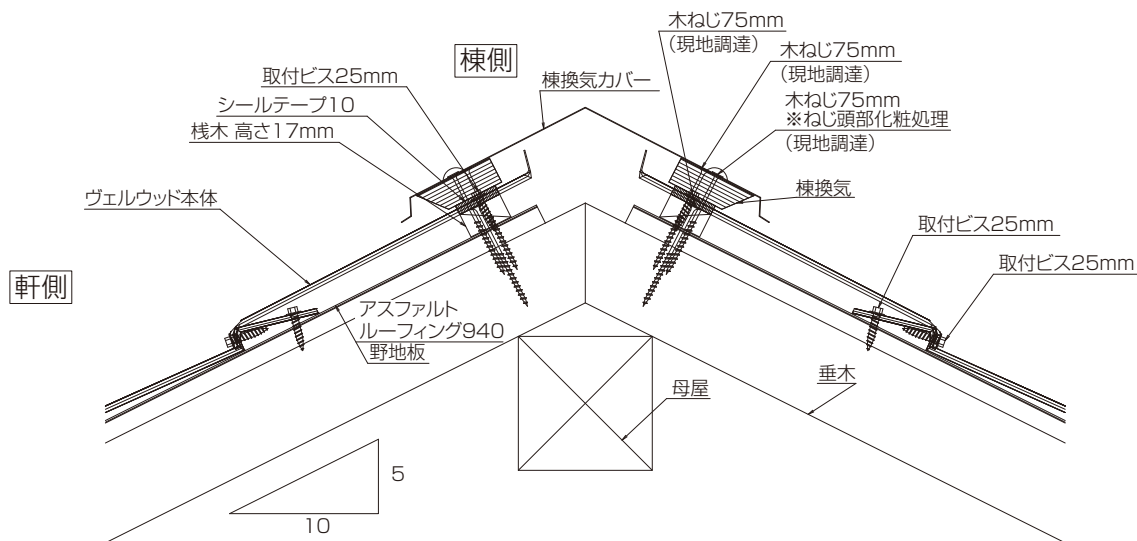
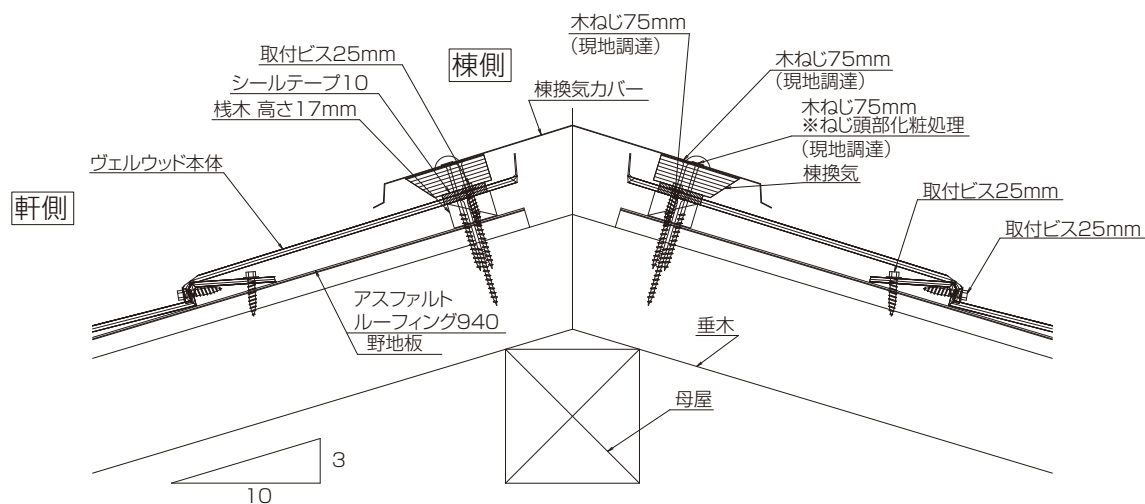


- ・ 小屋裏換気がされており、野地板・垂木に結露や漏水によるシミや腐り膨れ等が無いこと。外から屋根上を歩いてみて沈み込み等が無いこと。
- ・ 野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上であることを確認してください。
- ・ 棟換気を取付ける場合の役物は角型ケラバ/棟包み用棟換気カバーを使用してください。
- ※改質アスファルトルーフィング（古いスレート材の飛散防止として粘着付改質アスファルトルーフィング）を推奨します。

9. 参考納まり図

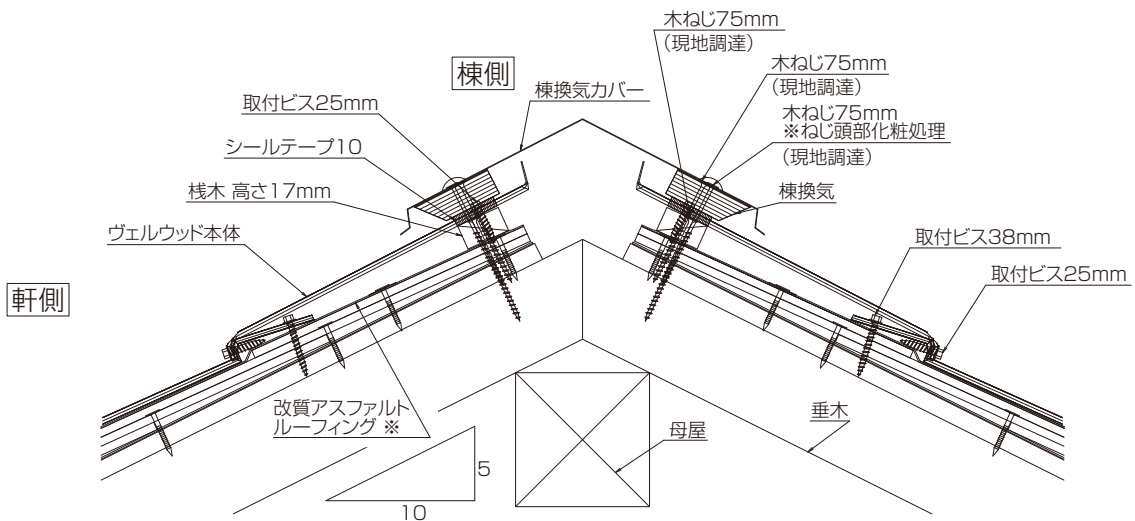
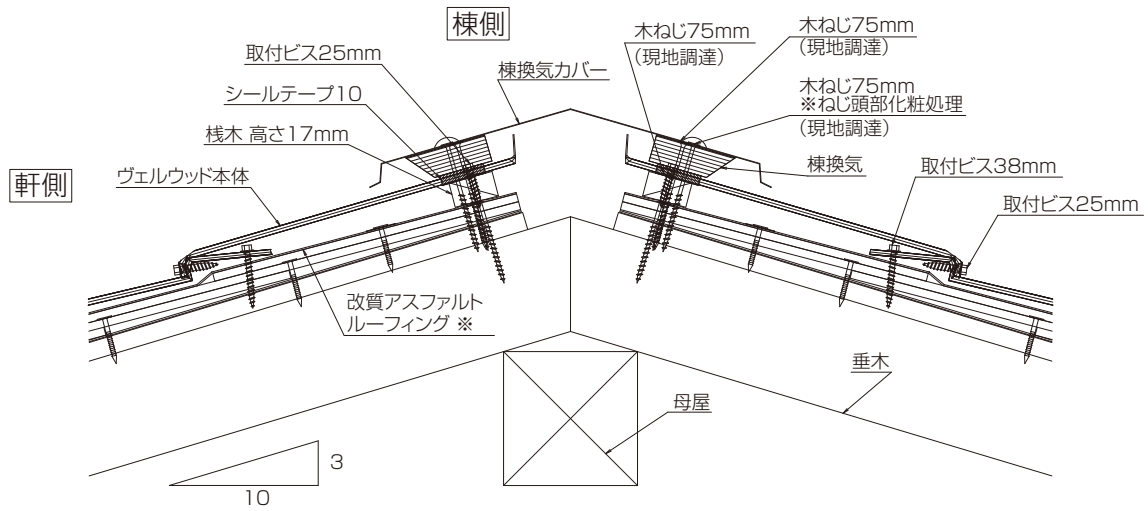
9-4. 棟換気部(通し棟包み仕様)

新築の場合



・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので施工マニュアルを確認の上取付けしてください。

カバー工法の場合

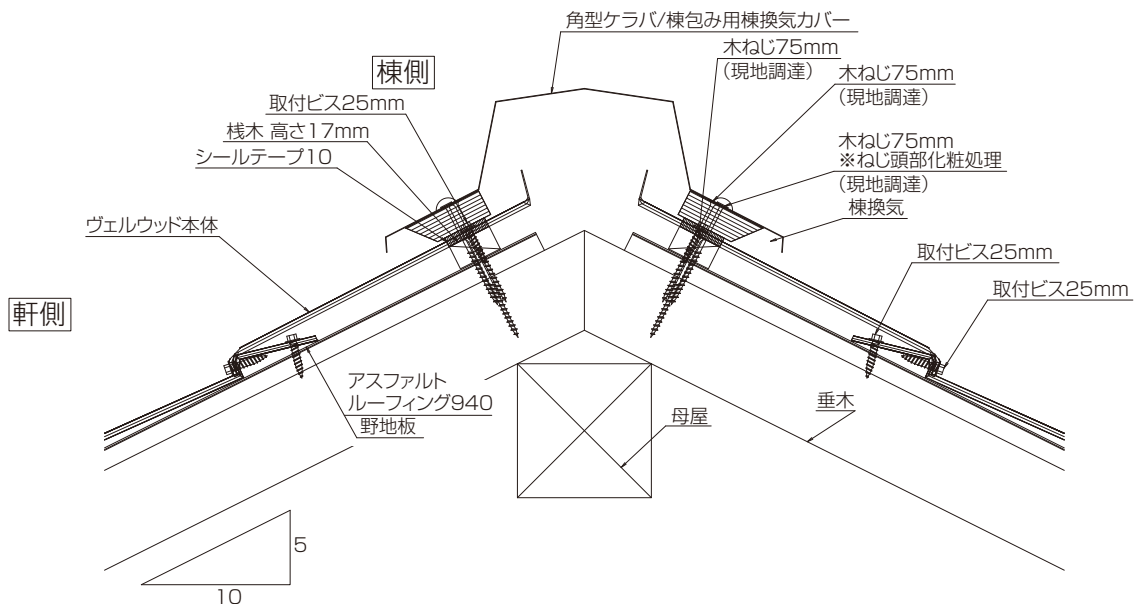
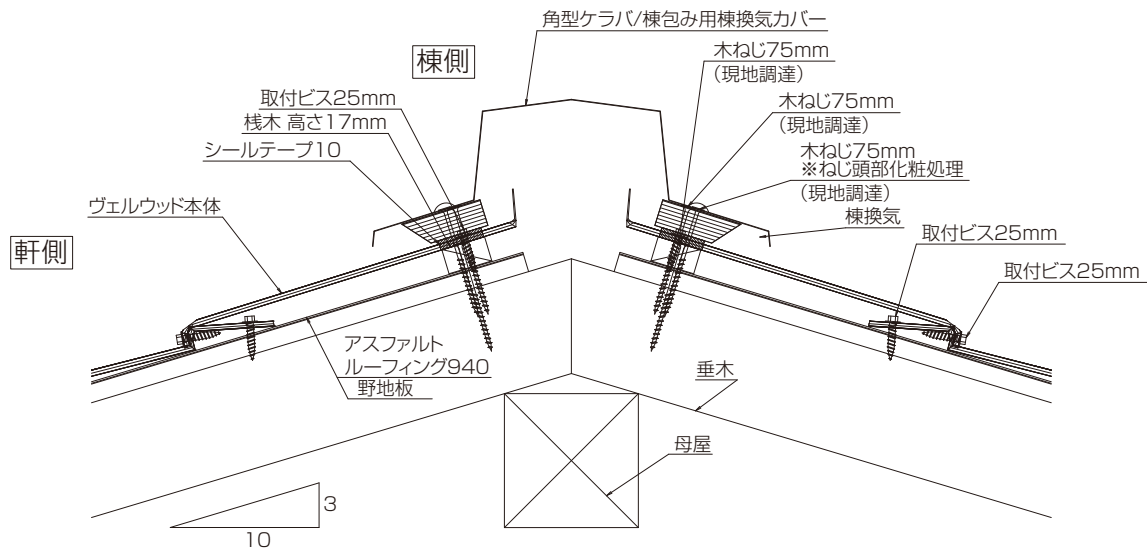


- ・小屋裏換気がされており、野地板・垂木に結露や漏水によるシミや腐り膨れ等が無いこと。外から屋根上を歩いてみて沈み込み等が無いこと。
- ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上であることを確認してください。
- ※改質アスファルトルーフィング（古いスレート材の飛散防止として粘着付改質アスファルトルーフィング）を推奨します。

9. 参考納まり図

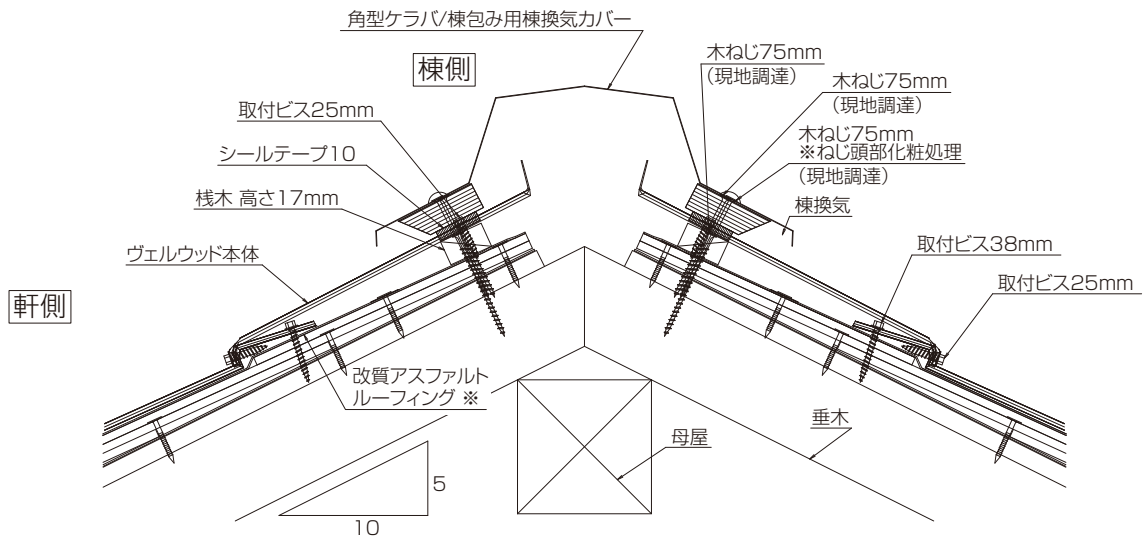
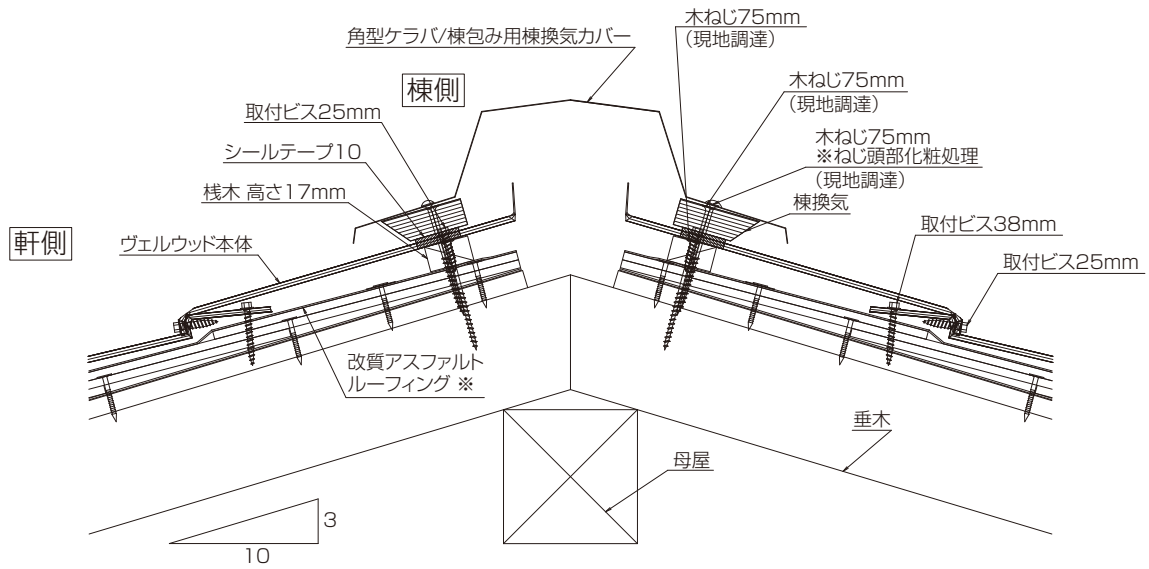
9-4. 棟換気部(角型ケラバ／棟包み仕様)

新築の場合



・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので施工マニュアルを確認の上取付けしてください。

カバー工法の場合



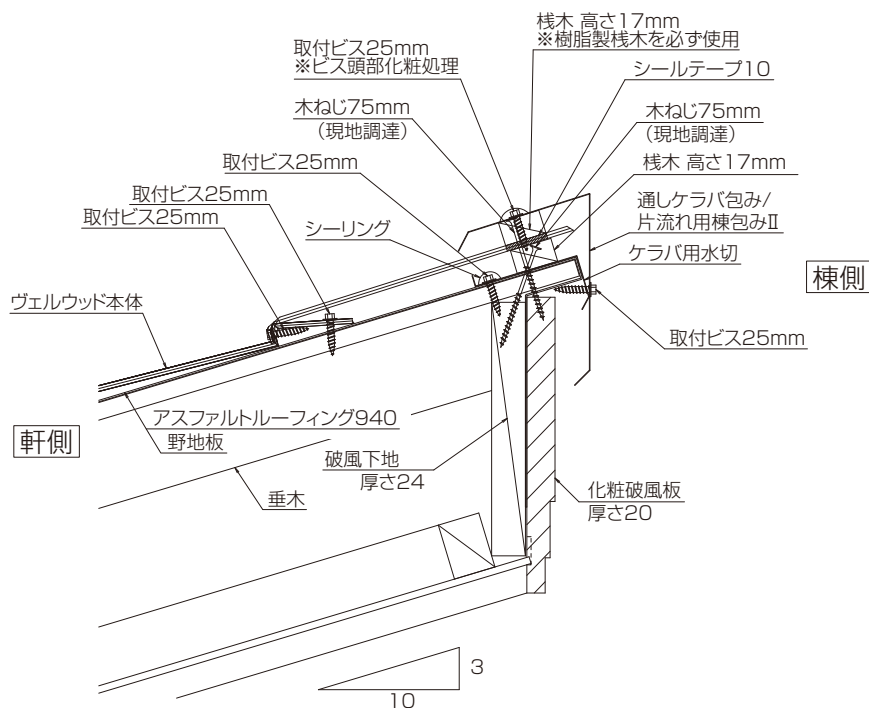
- ・小屋裏換気がされており、野地板・垂木に結露や漏水によるシミや腐り膨れ等が無いこと。外から屋根上を歩いてみて沈み込み等が無いこと。
- ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上であることを確認してください。
- ※改質アスファルトルーフィング（古いスレート材の飛散防止として粘着付改質アスファルトルーフィング）を推奨します。

9. 参考納まり図

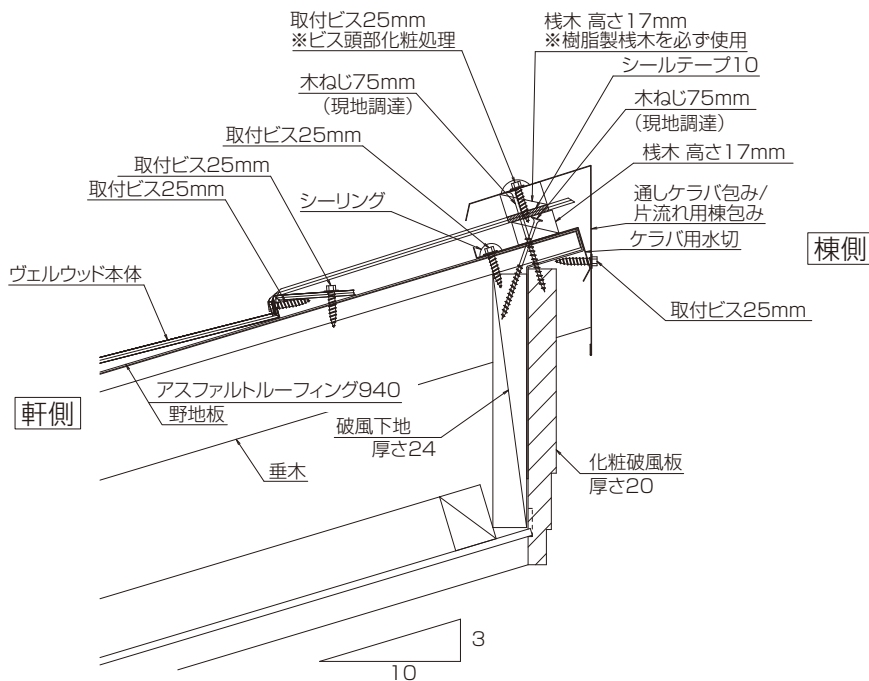
9-5. 片流れ棟部(通しケラバ包み／片流れ用棟包み仕様)

新築の場合

<通しケラバ包み／片流れ用棟包みⅡ仕様>



<通しケラバ包み／片流れ用棟包み仕様>

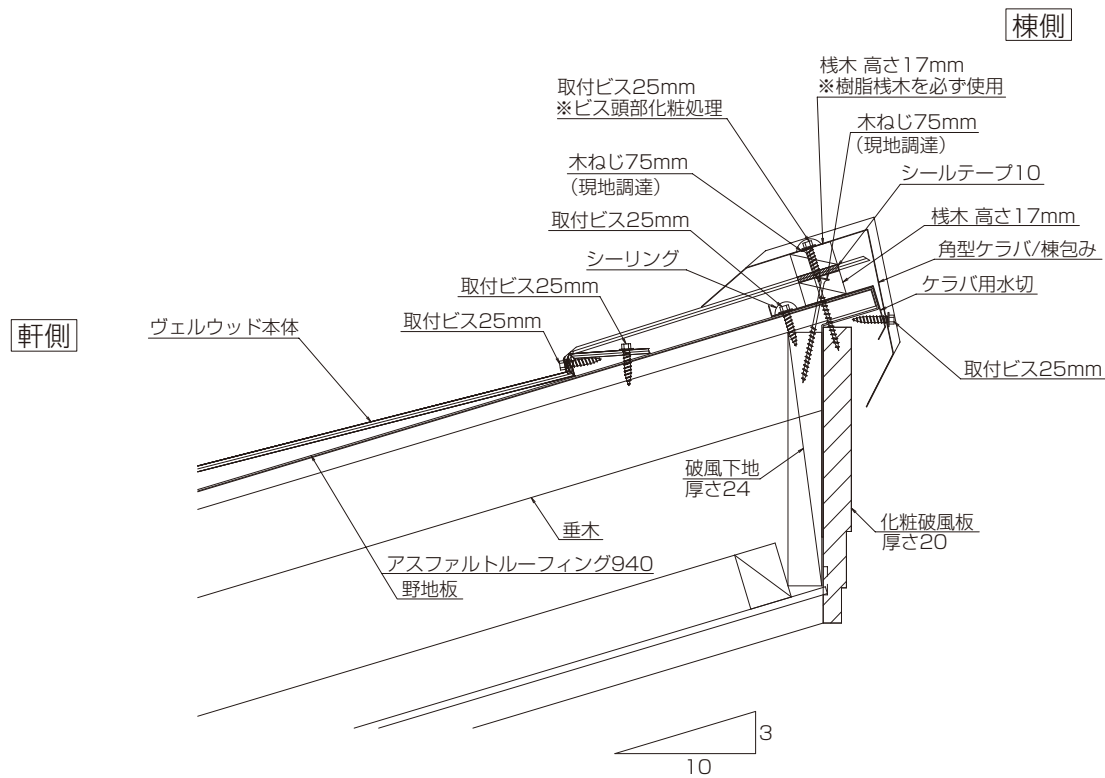


- ・化粧破風板、破風下地の仕様・厚さは現場によって異なります。
- ・通しケラバ包み/片流れ用棟包みを化粧破風板より先に取付けると、棧木・ケラバ用水切固定ねじと干渉する場合がありますので注意してください。
- ・棟側のルーフィングは破風下地と化粧破風板で挟んで納めてください。
- ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので施工マニュアルを確認の上取付けしてください。

9. 参考納まり図

9-5. 片流れ棟部(角型ケラバ／棟包み仕様)

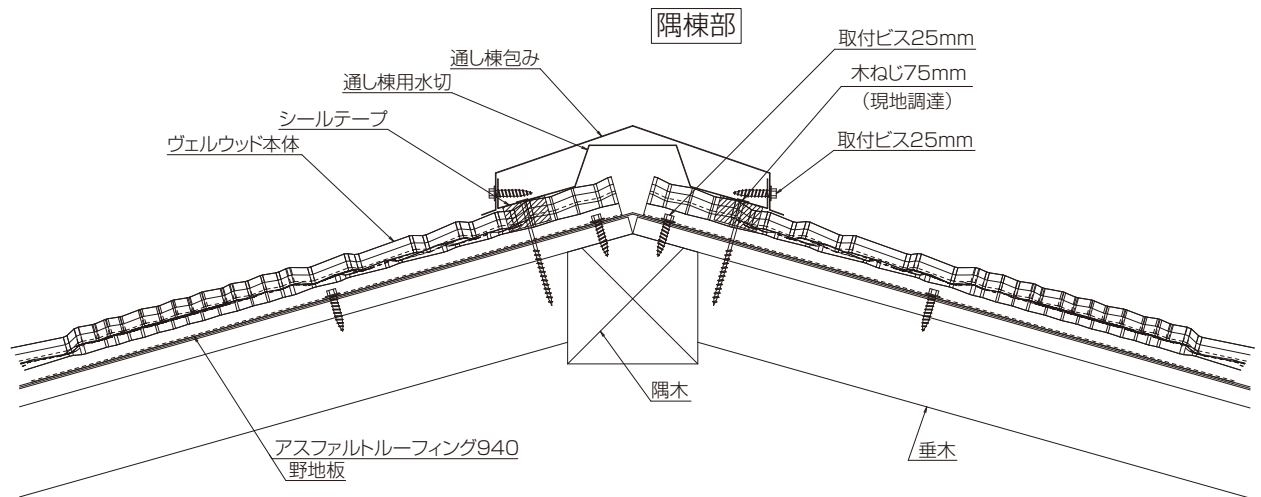
新築の場合



- ・化粧破風板、破風下地の仕様・厚さは現場によって異なります。
- ・角型ケラバ/棟包みを化粧破風板より先に取付けすると、栈木・ケラバ用水切固定ねじと干渉する場合がありますので注意してください。
- ・棟側のルーフィングは破風下地と化粧破風板で挟んで納めてください。
- ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので施工マニュアルを確認の上取付けしてください。

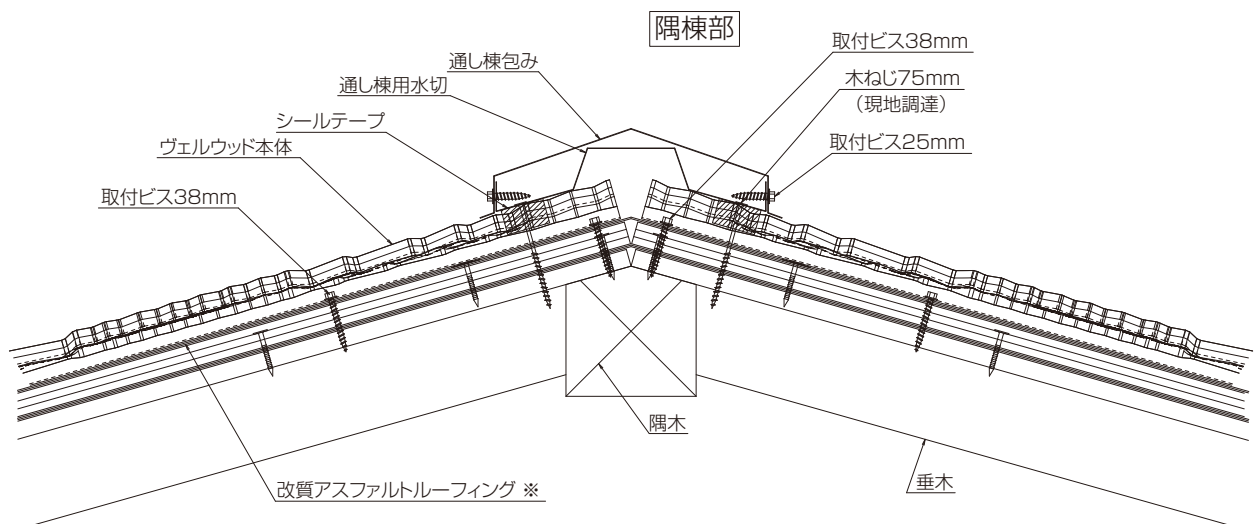
9-6. 隅棟部(通し棟用水切仕様)

新築の場合



- ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので 施工マニュアルを確認の上取付けしてください。

カバー工法の場合

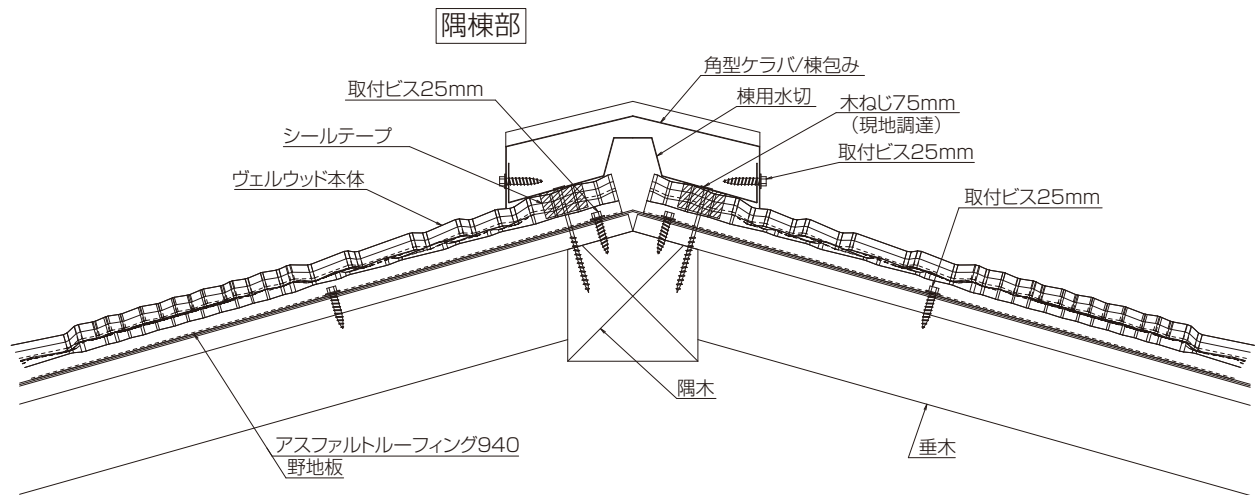


- ・小屋裏換気がされており、野地板・垂木に結露や漏水によるシミや腐り膨れ等が無いこと。外から屋根上を歩いてみて沈み込み等が無いこと。
- ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上であることを確認してください。
- ※改質アスファルトルーフィング* (古いスレート材の飛散防止として粘着付改質アスファルトルーフィング*) を推奨します。

9. 参考納まり図

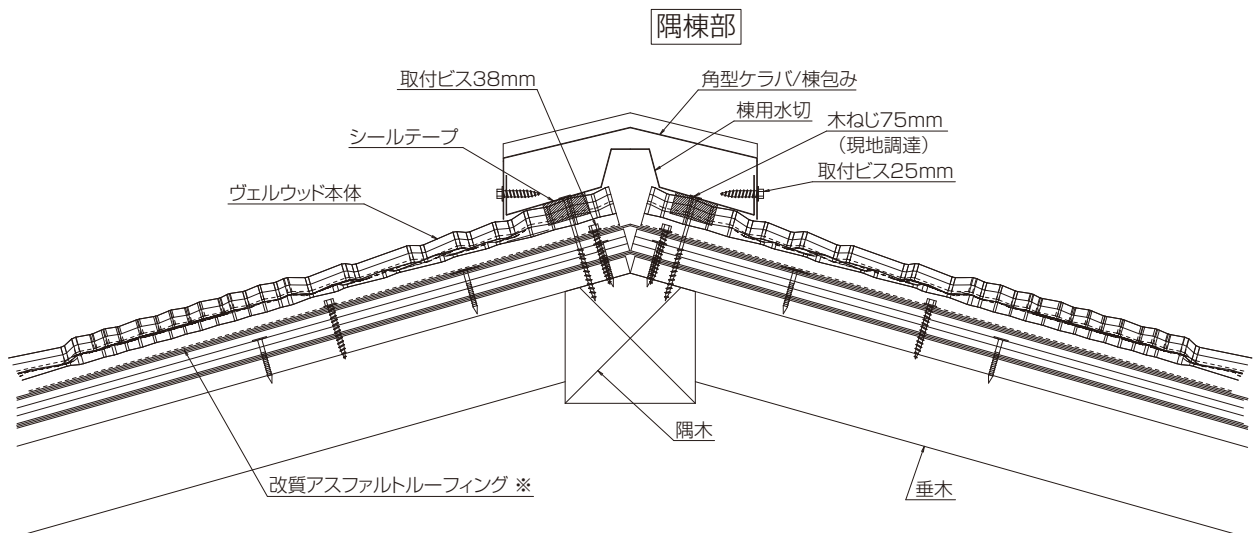
9-6. 隅棟部(棟用水切仕様)

新築の場合



・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので 施工マニュアルを確認の上取付けしてください。

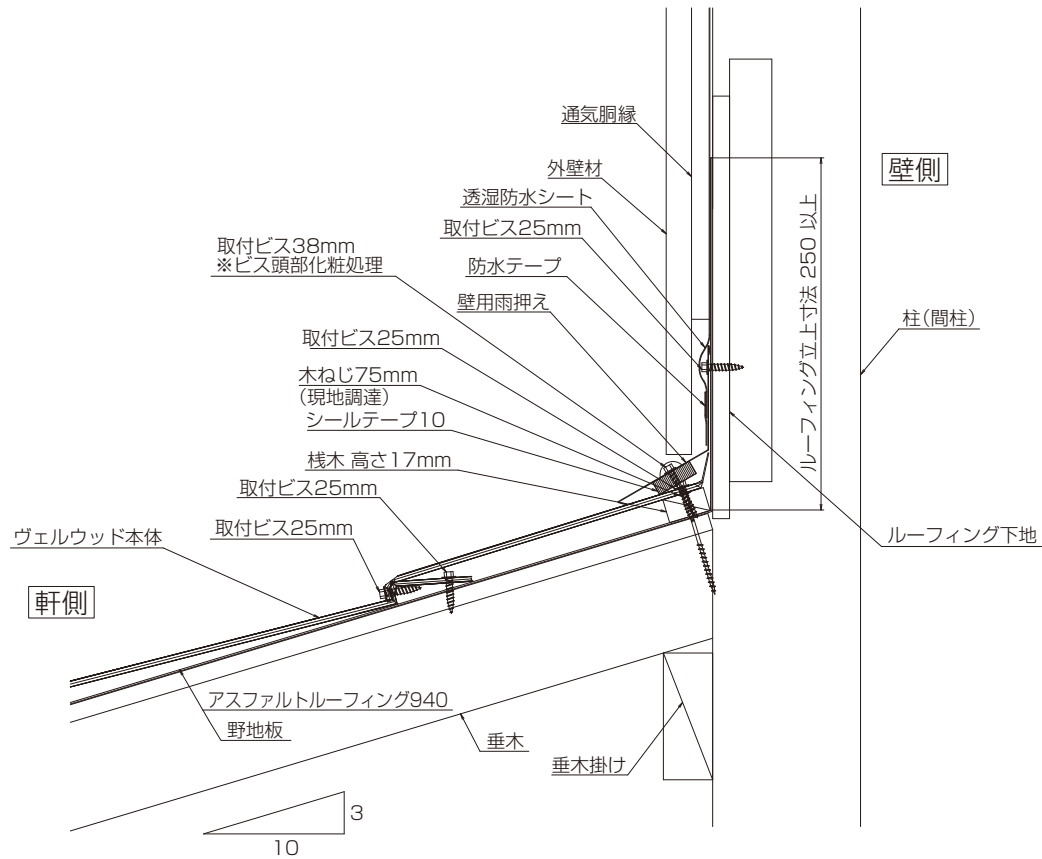
カバー工法の場合



・小屋裏換気がされており、野地板・垂木に結露や漏水によるシミや腐り膨れ等が無いこと。外から屋根上を歩いてみて沈み込み等が無いこと。
 ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上であることを確認してください。
 ※改質アスファルトルーフィング* (古いスレート材の飛散防止として粘着付改質アスファルトルーフィング*) を推奨します。

9-7. 壁桁部

新築の場合

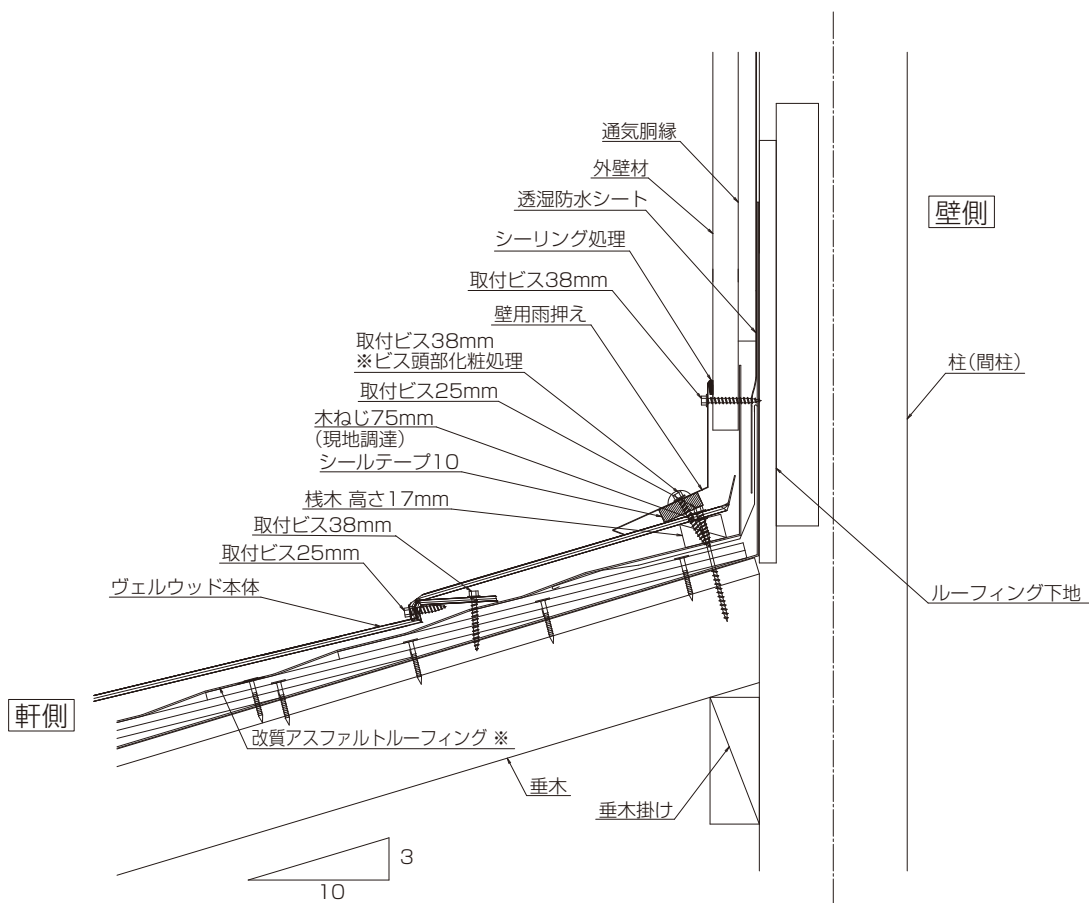


- ・外壁材、下地材の仕様、厚さは現場によって異なります。
- ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので施工マニュアルを確認の上取付けしてください。

9. 参考納まり図

9-7. 壁桁部 つづき

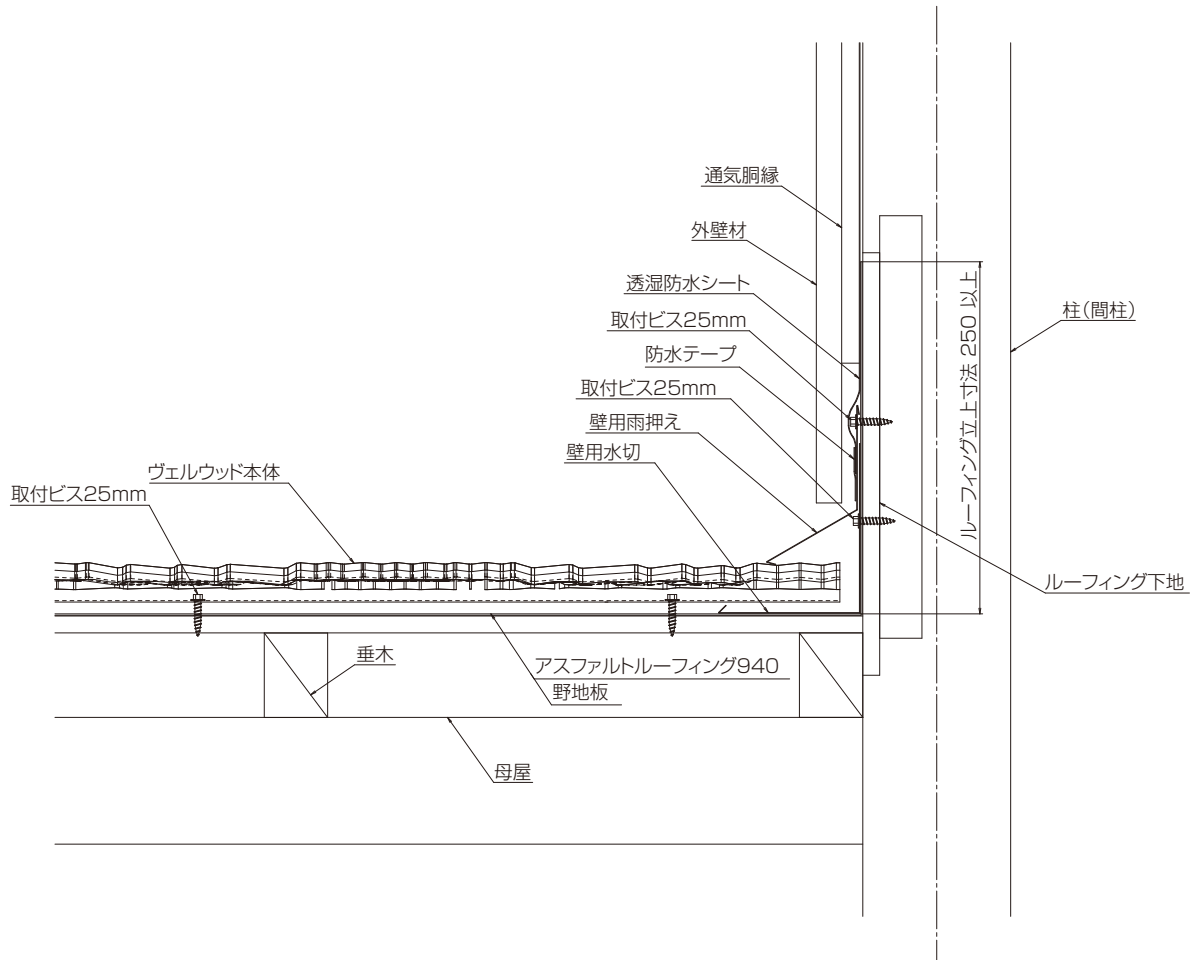
カバー工法の場合



- ・ 小屋裏換気がされており、野地板・垂木に結露や漏水によるシミや腐り膨れ等が無いこと。外から屋根上を歩いてみて沈み込み等が無いこと。
- ・ 野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上であることを確認してください。
- ※改質アスファルトルーフィング（古いスレート材の飛散防止として粘着付改質アスファルトルーフィング）を推奨します。

9-8. 壁流れ部

新築の場合

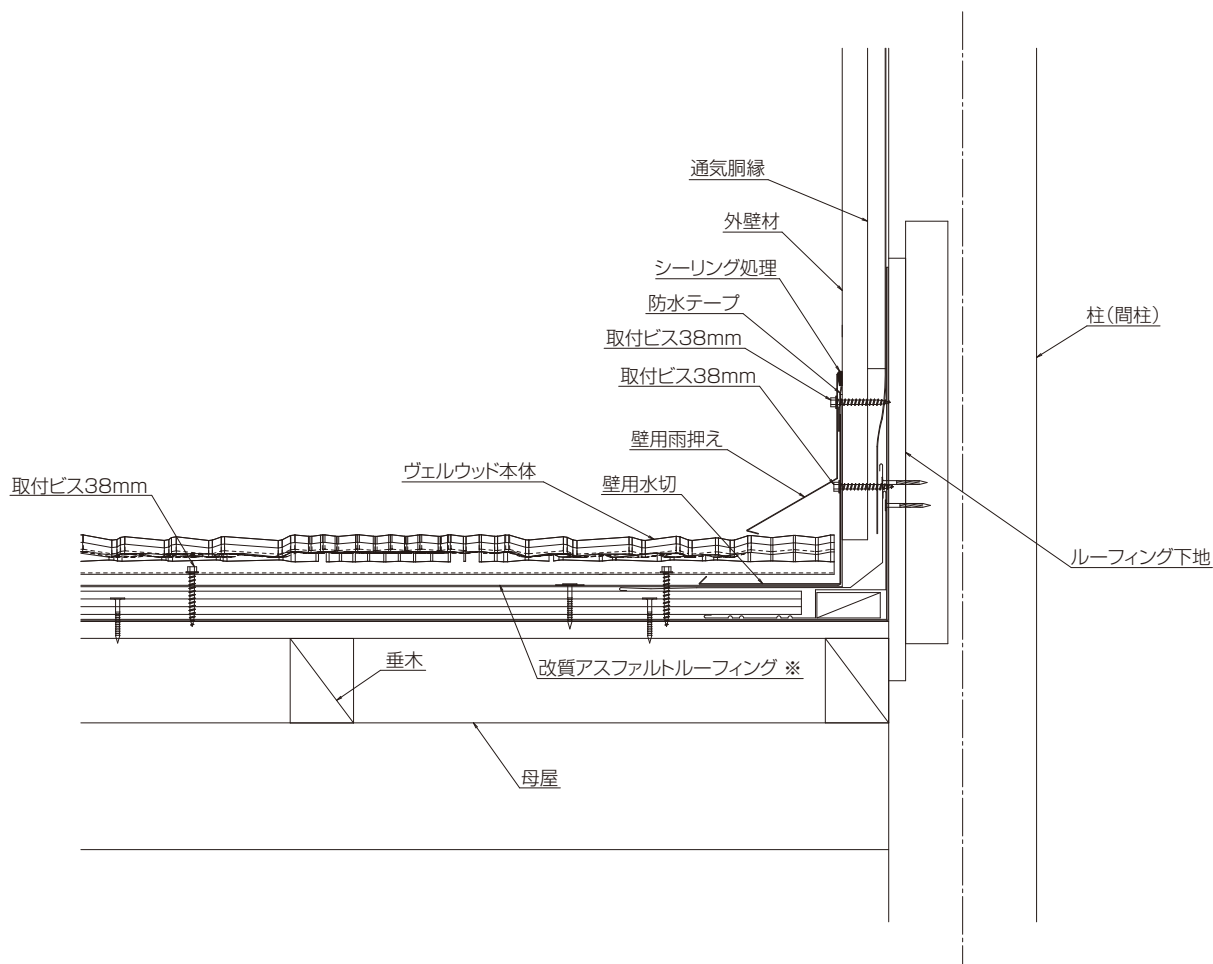


- ・外壁材、下地材の仕様、寸法は現場によって異なります。
- ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので 施工マニュアルを確認の上取付にしてください。

9. 参考納まり図

9-8. 壁流れ部 つづき

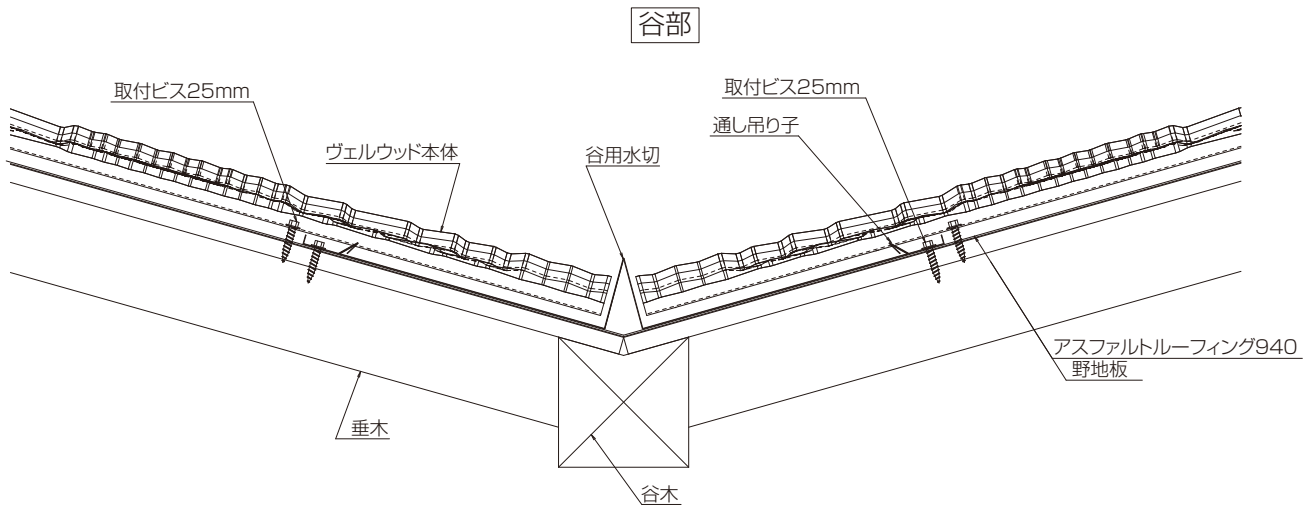
カバー工法の場合



- ・小屋裏換気がされており、野地板・垂木に結露や漏水によるシミや腐り膨れ等が無いこと。外から屋根上を歩いてみて沈み込み等が無いこと。
- ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上であることを確認してください。
- ※改質アスファルトルーフィング[®]（古いスレート材の飛散防止として粘着付改質アスファルトルーフィング[®]）を推奨します。

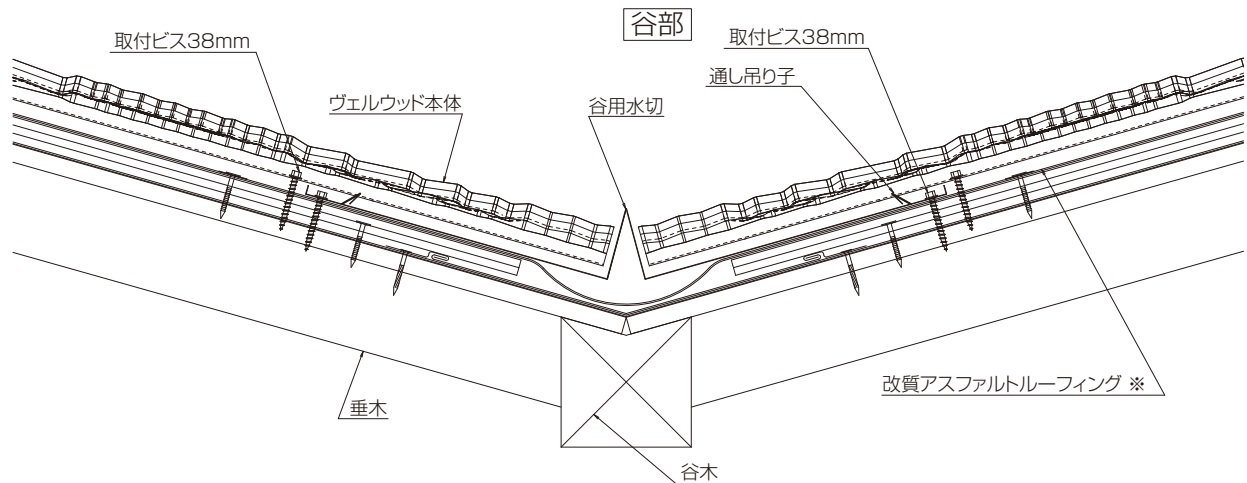
9-9. 谷部

新築の場合



・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので 施工マニュアルを確認の上取付けしてください。

カバー工法の場合



・小屋裏換気がされており、野地板・垂木に結露や漏水によるシミや腐り膨れ等が無いこと。外から屋根上を歩いてみて沈み込み等が無いこと。
 ・野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上であることを確認してください。
 ※改質アスファルトルーフィング* (古いスレート材の飛散防止として粘着付改質アスファルトルーフィング*) を推奨します。

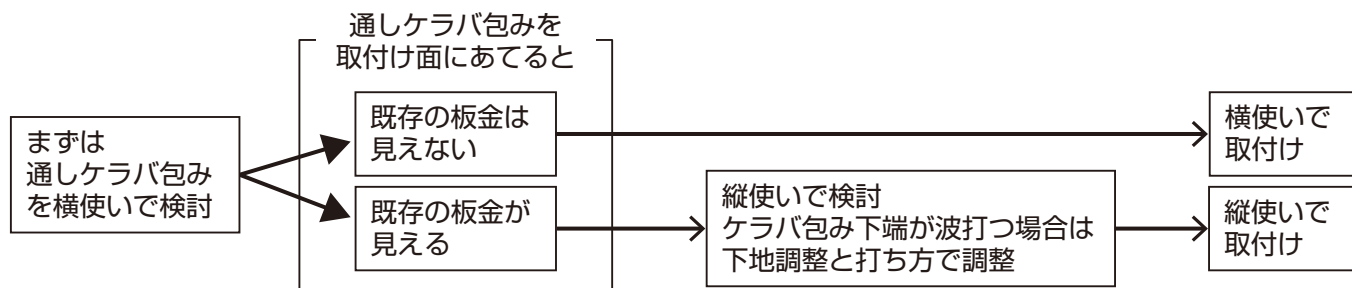
■ カバー工法 施工時の注意

ケラバ部 既存板金のはみ出しと端部の波打ちに注意してください

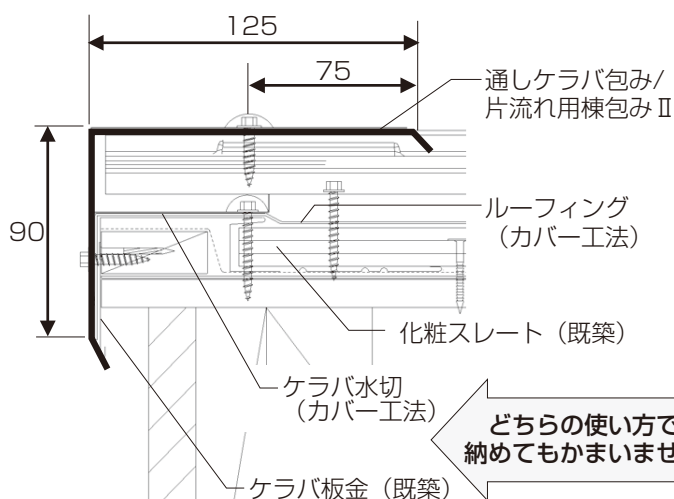
※通しケラバ包み/片流れ用棟包みⅡで説明しますが、通しケラバ包み/片流れ用棟包みも同様の手順となります。

1. 通しケラバ包みの縦使い・横使いの検討

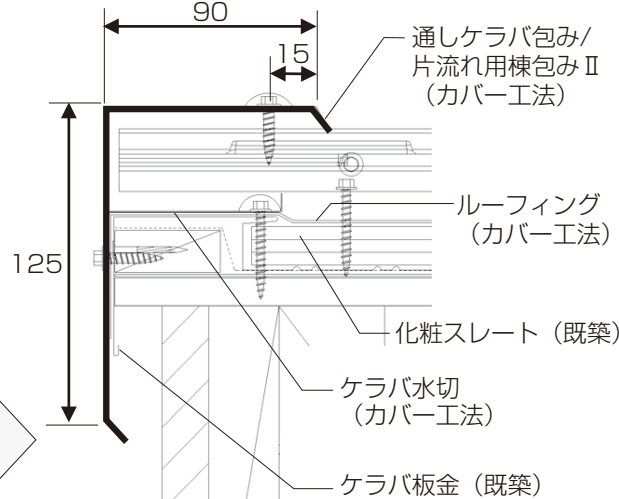
下図のように通しケラバ包みとして縦使い、横使いどちらで納めるのが良いか現場の状況を確認して決めます。



<通しケラバ包み 横使い>



<通しケラバ包み 縦使い>

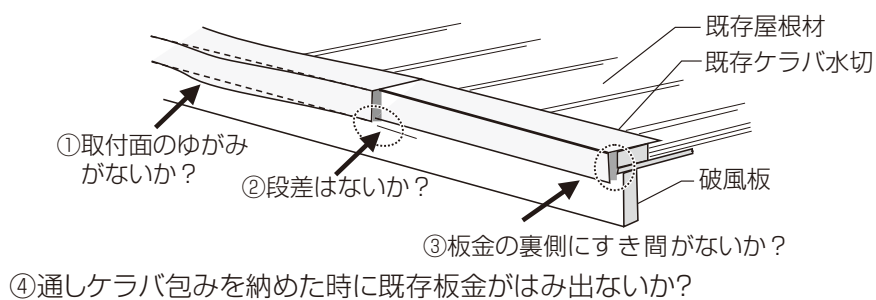


どちらの使い方で納めてもかまいません

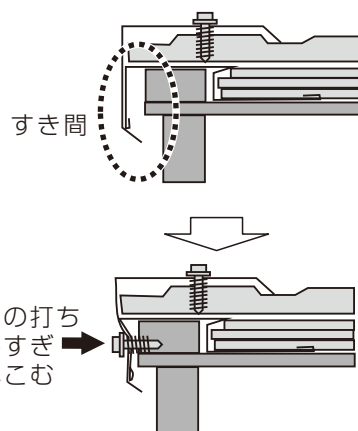
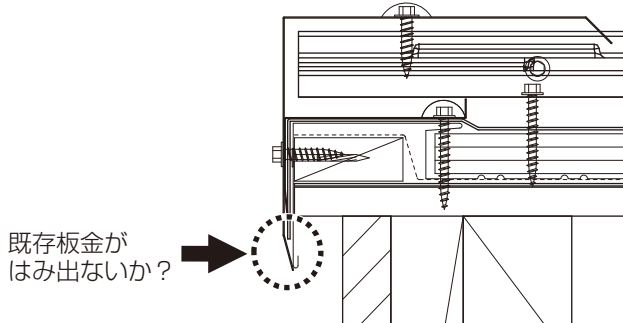
<ポイント>

1. 通しケラバ包みの下端に既存板金のはみ出しがないか取付前に確認して取付ける。
2. ケラバ包み下端に波打ちが出ないか取付前に確認して取付ける。

<説明図> 取付け前に既存の屋根の状態を確認する。

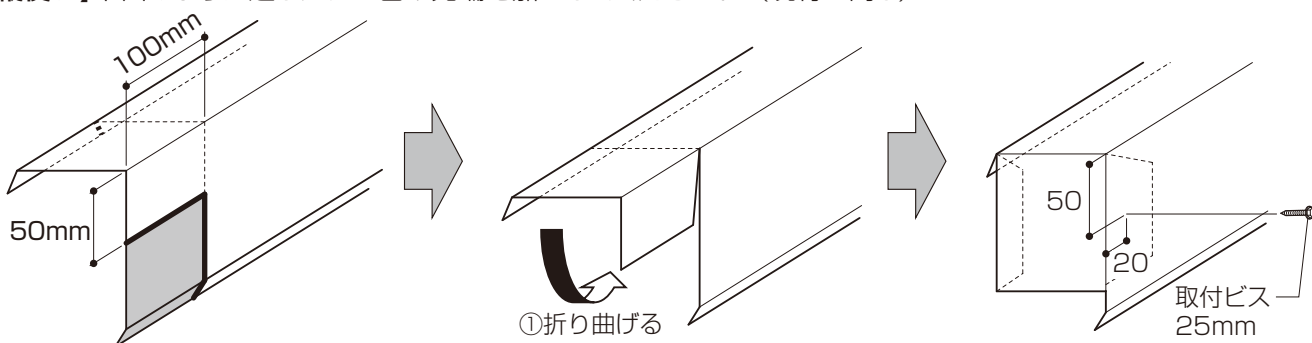


4. 通しケラバ包みを納めた時に既存板金のはみ出ないか?

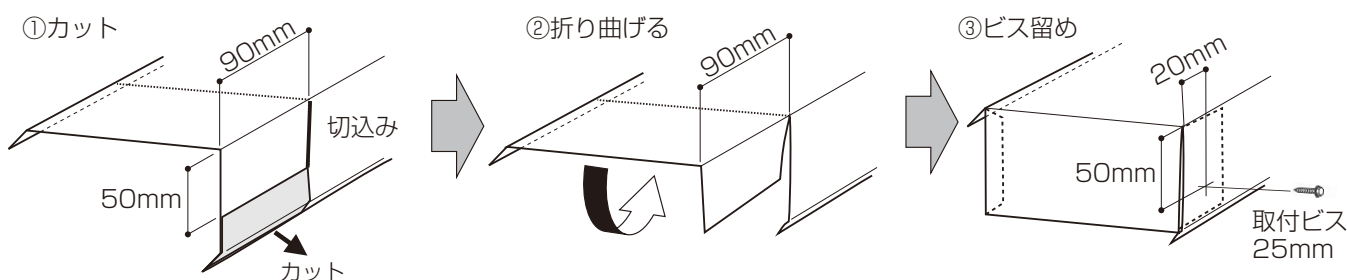


2. 通しケラバ包みの先端加工

【縦使い】下図のように通しケラバ包み先端を加工してください。（現行と同じ）



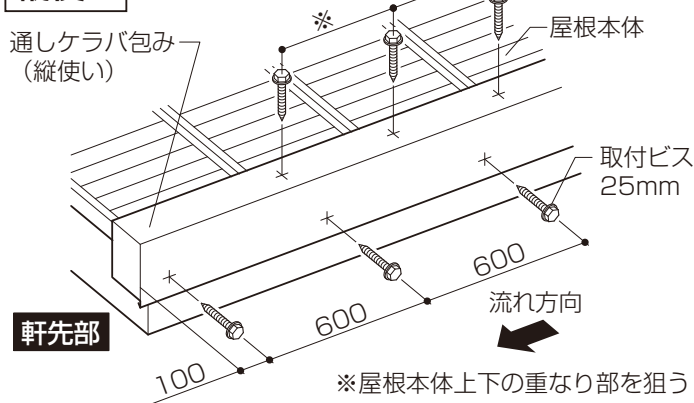
【横使い】下図のように通しケラバ包み先端を加工してください。



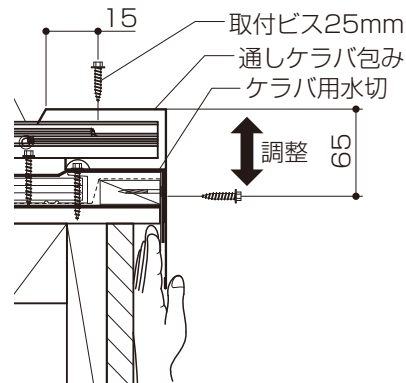
3. 通しケラバ包みの取付

①通しケラバ包みを取付ビス25mmで下記の断面図を参照して側面は600mm程度で固定し、脳天は屋根本体上下の重なり部を狙って固定してください。

縦使い

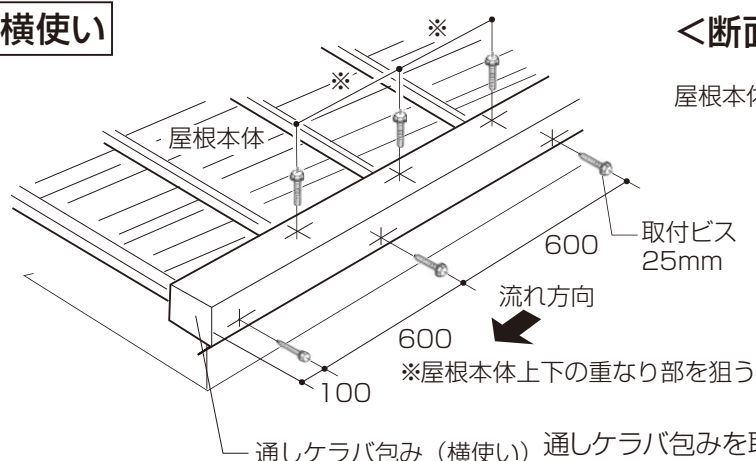


<断面図>

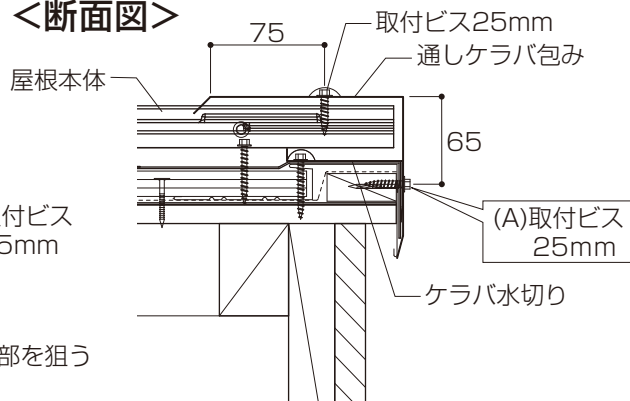


通しケラバ包みを取付ける側面の取付ビスは、通しケラバ包みが歪まないように、また水平を保つように手で押さえて取付けしてください。

横使い



<断面図>



通しケラバ包みを取付ける側面の取付ビスは、通しケラバ包みが歪まないように、また水平を保つように手で押さえて取付けしてください。

株式会社 LIXIL



地球環境のためにLIXILは
業界トップランナーとして
先進的な取組をしています。

会社や商品についての情報のご確認は、LIXIL オフィシャルサイトまで

<https://www.lixil.co.jp/>

※ショールームの所在地、カタログの閲覧・請求、図面・CAD データなどの各種情報は、上記オフィシャルサイトから
ご確認ください。

商品についてのお問い合わせ・部品のご購入は、お客さま相談センターまで

受付時間/月～金 9:00～18:00 土・日・祝日 9:00～17:00 (ゴールデンウィーク、夏期休暇、年末年始等を除く)

TEL. ☎ 0120-185-460

0403L25

業務用 | RT5300

